

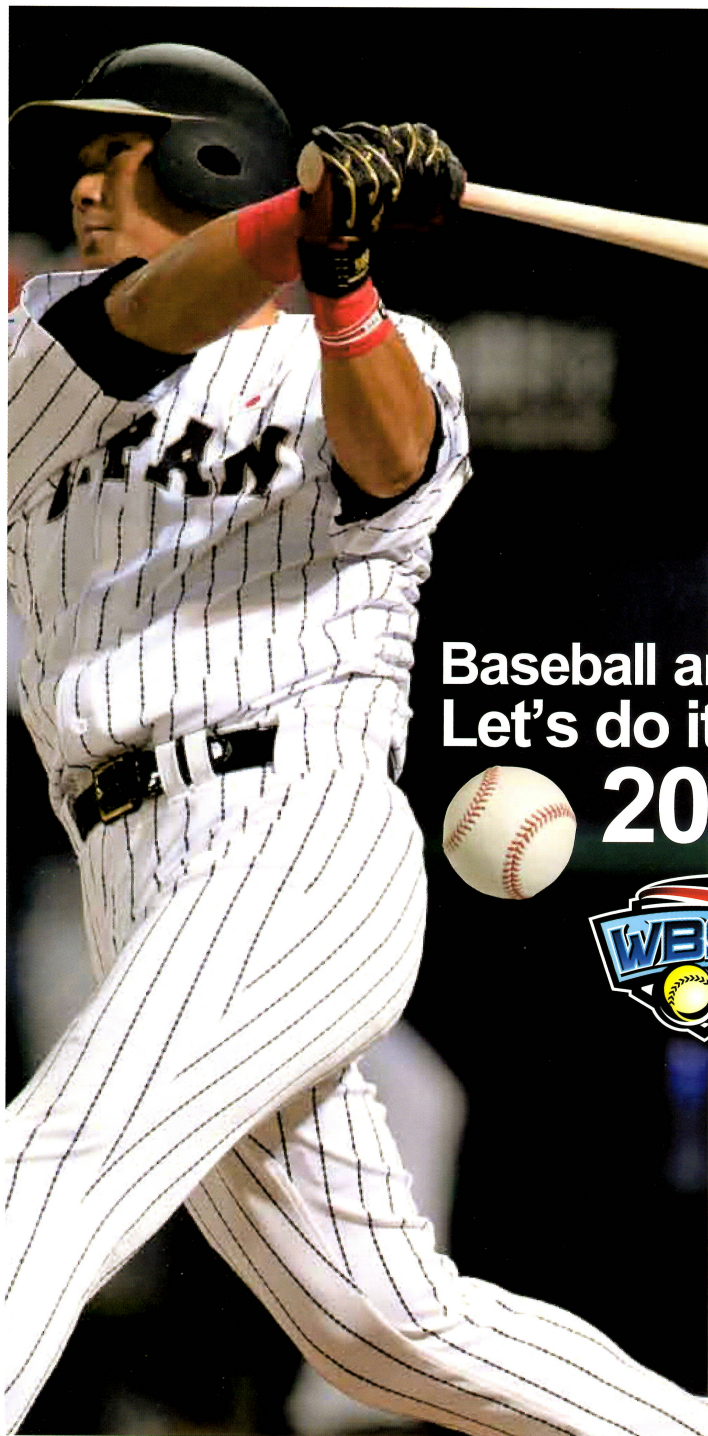
全日本大学ソフトボール連盟機関誌

ウインドミル

第 18 号



全日本大学ソフトボール連盟



Baseball and Softball
Let's do it together



2020



野球・ソフトボール 2020年復帰を!



WBSC加盟国

世界野球ソフトボール連盟
WORLD BASEBALL SOFTBALL CONFEDERATION



全日本大学ソフトボール連盟

ごあいさつ



全日本大学ソフトボール連盟会長

一 谷 宣 宏

全日本大学ソフトボール連盟が、平成二十六年度の諸活動を滞りなく終え、ここに学連機関誌「ウインドミル」第18号を発行することができ、こうして皆様のお手元にお届けできることを大変嬉しく思っています。一年間の学連の動きとその成果、そしてこれからの学生ソフトボールへの展望が豊富に収録された機関誌「ウインドミル」をどうかご精読いただき、大学ソフトボールのそして日本の大学スポーツの存在意義を十分に認識いただきますことを望んでおります。お楽しみいただければ幸いです。

さて、二十六年度も、皆様のご協力のもと各種の事業が展開されましたが、中でも、8月に開催された第49回全日本大学ソフトボール選手権大会が、平成23年3月11日に発生した東日本大震災から3年半を迎え、復興途上の岩手県花巻市において開催されました。東北の地において壮大な会場で、男女の試合が一斉に展開されたことは、大きな喜びであり、思い出に残る大会となりました。ソフトボールを通じて大学人としての経験値を高め、社会に貢献する人間の育成をめざす全日本大学ソフトボール連盟にとって、このうえもない勇気を与えました。改めて、関係各位に感謝申し上げます。

さて、本機関誌は、唯単にゲームの記録を残すのみではなく、ソフトボールに関する貴重な論文・技術論を掲載し、皆様のお役に立てばの願いから創刊されました。どうかこのことを十分に意識していただき、機関誌「ウインドミル」から得られる情報・研究成果をご熟読下さい。

最後になりましたが、第18号の発刊にあたり、原稿や貴重な情報をお寄せいただきました皆さまと広報記録部会をはじめとする、関係各位に敬意を表しご挨拶といたします。

【巻頭言】

東京オリンピックの思い出と期待

副会長 小 嶋 高 良（八戸工業大学）

私の中学1年生時の記憶の中で、いまだに鮮明な思い出として残っているものに、1964年東京オリンピックがある。

当時の私は、父の転勤によって八戸市の中学校から青森市の中学校へ転校してきて間もない頃で、友人もまだあまりいなく、部活動へ入部しようとしたが途中入部の疎外感を感じていた頃で、また学習面においても前の学校と教科書が違い進捗度においても違いがあり、特に初めて学習する英語においては非常に戸惑いを感じていた頃であった。そのような時に、東京オリンピックが開催されたのである。また、1940年大会の開催返上した日本がアジア地域で初めて開催したオリンピックで、第二次世界大戦で敗戦し急速な復活を遂げている日本が国際社会に復帰するシンボリックな意義があるものだった。

開会式が行われた10月10日は、中学校も休校となり、「自宅に帰って、世紀の祭典をテレビ観賞しなさい。」とのことであった。私は、閉会式が行われた10月24日まで、学校から帰ってきてオリンピックのテレビ放映がある時間帯には、テレビにかじりつきっ切りで見たものである。

私はこの歴史的な祭典を私なりの記録に残したいと思い、毎日新聞に掲載されている記事・写真の切り抜きとテレビ・ラジオで流れるコメントを含むさまざまな情報を記録し始めたのである。それをスクラップするとともに、模造紙に張り付け壁新聞的なものを作成したのである。ところが、その当時の私の部屋は妹と二人の和室の部屋であった。私は父親に頼んで、物置部屋を整理して、部屋一面の壁にそれらを貼り付け、机を運び入れ切り抜き、壁新聞・スクラップ作りの台とし、大いにオリンピックを楽しんだものである。

今でも鮮明に残っている思い出の幾つかを紹介したいと思う。

まずは、開会式だろう。整然と整列し行進する日本選手団の姿は、正に日本だ、日本人だという開催国の国民として誇りに思い、自慢に感じたものである。そして聖火点火。聖火台までの階段を力強く駆け上がる坂井義則最終走者を羨ましく眺めていたものである。

聖火は日本全国を隈なく回った。青森市内を回った時には道路沿いに国旗を持った国民が勢揃いの形で声援を送ったものである。実際に学校単位で動員が掛けられていたと思う。走者は20人くらいの副の走者を従えたもので壮観なものであった。

競技から紹介すると、まずは体操競技であろうか。男子の部では小野喬選手に憧れた秋田県出身の遠藤幸雄選手が団体金メダルとともに個人総合も金メダルを獲得したことが挙げられる。体操日本である。内村航平選手に脈々と受け継がれてきたものではないだろうか。女子の部では「オリンピックの名花」と讃えられたチェコスロバキア・プラハ出身のベラ・チャスラフスカの個人総合金メダルだろう。実に華麗の極みであった。

次はバレーボール競技であろうか。女子金メダル、男子銅メダルを獲得。特に、女子は「東洋の魔女」と例えられ、回転レシーブが冴えわたったプレイの強烈な印象は未だに消えることはない。鬼の大松監督の指導は凄まじいものであったらしい。私はサウスポーアタッカー宮本選手の大ファンであった。先日テレビで現在のお姿を拝見した。

さらには柔道競技を上げなければならないだろう。柔道発祥国日本、軽中重量級金メダルの中、無差別級・神永昭夫選手がオランダのアントン・ヘーシंकに敗れたのである。

挙げればいくらでも次々に思い出されて来る。50年前の記憶がいまだに鮮明なのである。

今、2020年に再び、「東京オリンピック」開催が決定した。私の人生の中で2回のオリンピックを自国で観戦できるのである。私のこの喜びは計り知れないものであるが、私よりも、50年前の私と同年代の青少年少女たちの皆さんに、私が感動した気持ち、そして未だに強い鮮烈な記憶として残るような感動を感じてほしいと願っている。

本年7月下旬に開催されるI O C総会（クアラルンプール）において、野球・ソフトボール競技が北京オリンピック以来の復活の可能性が出てきた。心から本連盟の仲間とそれを願わずにはいられなし、その後も継続開催されるよう期待したい。

【事業報告】 平成26年度の事業報告と今後の活動方針

理事長 高 橋 伸 次（高崎経済大学）

本連盟の主催事業である「文部科学大臣杯第49回全日本大学ソフトボール選手権大会」は、岩手県協会のご協力のもと、花巻市・石鳥谷ふれあい運動公園で開催されました。

当会場は、東日本大震災復興支援事業として、昨年一昨年の2回にわたり東日本大学選手権大会が開催された会場です。広大な面積に8面をまとめて設営することができ、男女併せて64チームが一堂に会する賑やかな大会となりました。天候にも恵まれ、全国各地よりたくさんの観戦者も駆けつけてくれました。同時進行で展開される男女の試合を楽しんでいただけたのではないのでしょうか。そのため、審判員・記録員をはじめ多くの競技役員にはフル稼働してもらうこととなりました。また競技補助員として盛岡大学、富士大学の学生や地元高校のソフトボール部員のみなさんにもご協力いただきました。本大会を支えていただいたすべての関係者のみなさまに心よりお礼申し上げます。

男子は早稲田大学がみごと3連覇を果たしました。2連覇を牽引したエースの卒業で今回は苦しいのではないかと思われましたが、チームバランスの良さは今回も抜きん出ていました。準優勝には環太平洋大学、第3位は関西大学と神戸学院大学でした。なお男子では8強のうち6チームが、また4強のうち3チームが西日本地区からの代表で占められ、西高東低の様相を示すこととなりました。

いっぽう女子では関東・東京地区の3チーム

が4強に進出し、男子とは逆に東高西低の様相の中で東京国際大学がみごと初優勝を飾りました。創部わずか5年目にして日本体育大学や園田学園女子大学といった名門チームを撃破しての快挙に衝撃が走りました。準優勝には日本体育大学、第3位は東京富士大学と園田学園女子大学でした。

なお、今大会においても内藤一貴学生委員長（東京学芸大学）を中心とする「インカレPRチーム」による結果速報やFacebookなどによる広報活動を展開しました。また（公財）日本ソフトボール協会による動画配信も行われ、現地に足を運ぶことができない多くのファンはネットを通じてインカレを楽しんでいただけたのではないかと思います。

今大会の反省点としては、学連と主管協会との連絡不徹底により練習会場の手配が十分ではなかったことが挙げられました。64チームが参加する大きな大会となり試合会場を確保するだけでも大変になっている中、さらに練習会場を準備することは容易ではありませんが、今後もより一層、全国大会にふさわしい環境づくりを念頭におきながら準備していきたいと考えています。来年は三重県志摩市（男子）・伊勢市（女子）での開催が予定されています。

また今大会の試合風景の中でとくに感じたことですが、ピッチャーがセットに入ってからベンチやコーチャーボックスから不必要と思われる言動等が見られ、投球の妨げになっている

のではないかとのことでした。プレイを混乱させたり、また球種やコースを伝達するような言動はフェアプレイ精神に反する行為としてだけでなく、ソフトボール愛好者を遠ざけることにもつながります。2020年東京五輪への復帰の可能性が大きくなっている今、あらためてフェアプレイ（スポーツマンシップ・マナー）について周知・指導していかなければならないのではないかと考えています。

共催している東日本・西日本大学選手権大会は、それぞれ東京都八王子市と山口県宇部市で開催されました。東日本では日本体育大学が男女アベック優勝、西日本では環太平洋大学（男子）と園田学園女子大学（女子）が頂点に立ちました。

また後援大会については、大学ソフトボール界全体の底辺の拡大およびレベルアップの意図のもとに、関東・北信越・東海・近畿・四国の5地区で11大会が開催されました。来年度からは、以前より沖縄県で実施されてきた「チューバーリーグ」を新たな後援大会とする予定です。なお近年、登録チーム数および選手数の減少傾向が止まらなくなっています。より多くの仲間が参加しやすい大会運営を工夫していただきたいと思っています。

国際関係では、大学女子代表チームが、中国・順徳で開催された「第3回東アジアカップ」に日本代表として出場しました。オープニングゲームの台湾戦こそ落としたものの、それ以降は硬さもとれ次の韓国そして中国も破って2位で予選リーグを終えました。台湾との再戦となった決勝トーナメントでは上り調子の日本が危なげなく台湾を退け中国との決勝戦に駒を進めました。プレイボール直前の豪雨のためノーゲームとなり、予選リーグの対戦結果による日

本チームの優勝が決まりました。高温多湿の厳しい気候条件の中、また食事の衛生管理にも神経を使わなければならない大会でしたが、チームスタッフによるきめ細かい生活指導のおかげでコンディションを落とす選手が誰ひとり出なかったことが最大の勝因であったと思います。

来年度より、日本協会は五輪復帰をにらんだ強化策の一環としてU23カテゴリーを新設します。これまで、東アジアカップは大学カテゴリー強化のコンテンツとして組み込まれていましたが、これからは実業団・クラブの選手もその対象になっていくことになります。そのため、今後よりいっそう日本協会強化本部との連携を高めていくことが必要になりますし、また実業団・クラブとの連携をこれからどう図っていくのかも重要な課題になっていきます。

最後になりましたが、本連盟の主催・共催・後援大会の開催にあたりご尽力賜りました(公財)日本ソフトボール協会、また各地の主管協会をはじめ多くの関係者に厚くお礼申し上げます。来る平成27年度の事業においても、今年度の反省を踏まえて、大学連盟はもとより日本ソフトボール界全体の発展のために全力で取り組む所存であります。今後とも、関係者の皆さまの絶大なるご支援・ご協力を衷心よりお願い申し上げます。



【総説】

アイシングの実際

(公財) 日本ソフトボール協会医事委員長 山下 義 則

スポーツ現場ではアイシングが必要なことが多いのですが、理論や実際の方法は十分理解されているとは思えないことがあります。ケガしたときに必要なのは、RICE処置です。今回まず、ケガをしたときに必要なアイシングの行い方を説明し、次回なぜアイシングをしなければならないかをお話します。

＜アイシングの方法について＞

ケガしたときは、すぐにRICE処置が必要ですが、以下に最も多い足関節捻挫について説明します。他の部位の捻挫や肉離れなどの損傷における急性期の治療方法は同じです。十分に理解して行って下さい。アイシングは特に有用であり、決して難しいものではありませんので、選手や運動に携わる全員が十分に理解しておく必要があります。不適切な方法で行うと、凍傷を起こし、選手にとって好ましい結果とならないことも考えられますので、十分な注意が必要です。

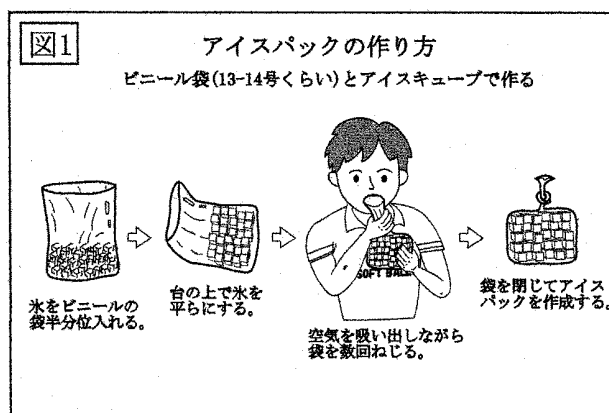
(1) 捻挫や肉離れの応急処置はICEです。

I=Ice (氷で冷やすこと)、C=Compression (患部を圧迫すること)、E=Elevation (患部を高く保つこと) の略です。

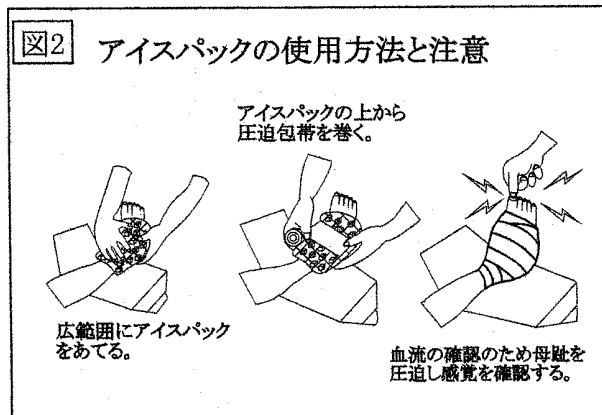
ICEは通常アイ・シー・イーと読みます。捻挫や肉離れなどに対する応急処置としては単に氷で冷やすだけでなく、この3つをセットにして同時に行います。冷やすこと、圧迫すること、高く保つことで、患部の炎症を抑え、腫れを防ぎます。そのなかでも特に大切なのがアイシング、つまり冷やすことです。できることなら、安静 (Rest) と固定 (Stabilization) を行う方がより効果的です。ICEにこれらの1文字もしくは2文字を加えてRICEまたはRICES処置とも呼ばれます。通はRICE処置と呼ぶことが多いようです。

(2) アイスパックの準備及び損傷部位への使用。

アイシング専用の袋 (Soft ICE Bag等) の用意があればいいですが、ない場合はビニール袋 (13-14号位) に氷を半分くらい入れ、氷を広げできるだけ平らにします。その後、口で空気を抜きながら袋を捻り、袋を閉じます。(図1) 通常、冷凍庫から出した氷は、必ず少し水を入れます。

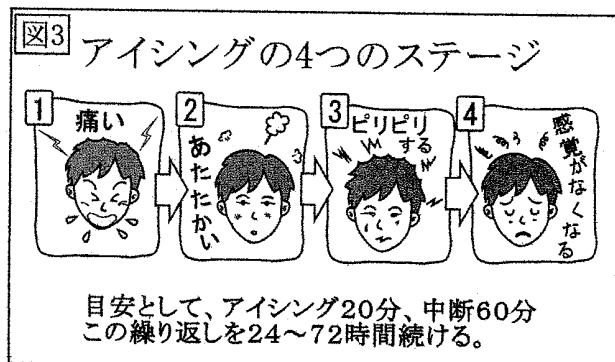


次に損傷した場所を中心に、広い範囲でアイスパックを当てます。アイスパックの上から圧迫包帯を巻き十分に圧迫されたかどうか確認します。足関節の場合足首が腫れてきて圧迫が強くなりすぎることがありますので、足趾は巻かずに出しておき、血行及び感覚に異常ないかを必ず確認してください。(図2)



(3) アイシングには4つの状態(ステージ)があります。

1回のアイシングにどれくらいの時間をかけるかは個人差がありますが、だいたい20分くらいでしょう。ただし、これはあくまで目安であり、氷に対する感じ方はそれぞれです。以下の「4つの状態(ステージ)」を理解した上で各個人の時間を決める必要があります。通常次のように4つの状態(感覚の変化)に変化します。(図3)



- ①痛い(ジーンとくる痛み)
- ②暖かい(短い間だが、ポーとする感じ)
- ③ピリピリする感じ(針で突つかれるような感じ)
- ④感覚がなくなる

選手によってそれぞれの段階に達する時間は異なりますが、①～④の順番はまず変わりません。④で感覚がなくなれば、冷却による麻酔が効いた状態ですので、いったん冷やすのを中断します。そして、再び痛みが戻ってきたら、またアイシングを行います。中断している時間のおおよその目安は、約40分から60分です。通常アイシングを行った時間の2倍以上の休息時間をとります。冷やしすぎないために、持続的にアイシングをしないようにして下さい。このようにして、アイシングと中断の繰り返しを48時間から72時間続けます。(図3)

小・中学生や女性など筋肉量・脂肪量が少ない場合には大人の男性に比べれば同じ量の氷でも冷却効果はより大きいので、個体差考えて冷やしすぎないような安全な時間を決め

る必要があります。

足関節捻挫の場合、アイシングして圧迫包帯を使用しますが、足趾の血行障害に気をつけなければなりません。数分ごとに母趾を圧迫し、知覚障害(さわった感じがわからない)があるとか、圧迫しても痛くない状態になったらアイシングと圧迫を一時中止します。その後の圧迫は中止しなくてもいいですが、知覚障害のため、圧迫力を必ず弱くして下さい。

(4) 帰宅中および帰宅してからの注意。

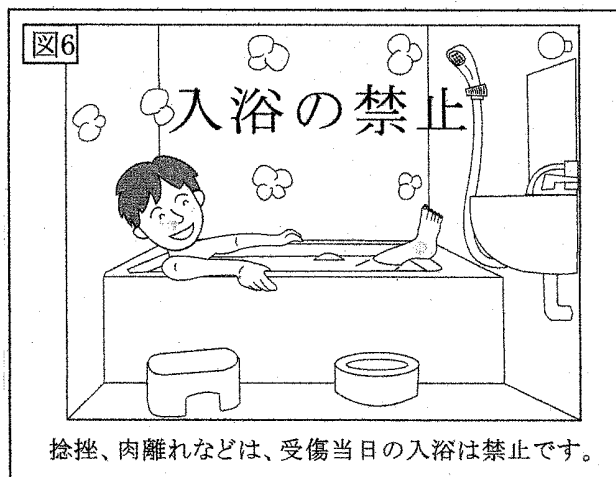
家に帰るまでもアイシングが好ましいですが困難なことが多いです。しかし、圧迫包帯による固定は必ず行ってください。できれば電車やバスの中でも足を少しでも高くして下さい。家に帰ってからは、患部を安静に保ち、家の氷を使用してアイシングを間歇的に行ってください。(図4)



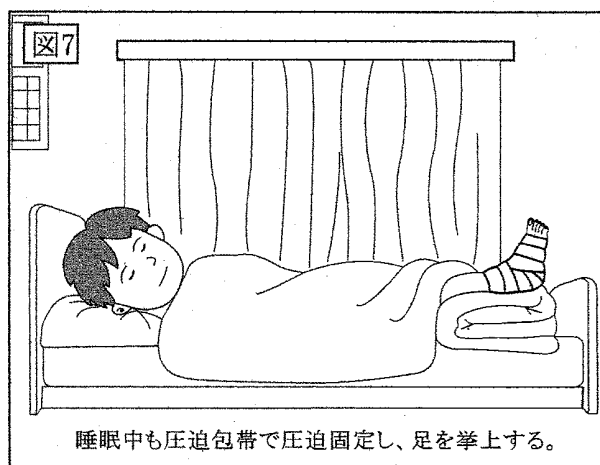
帰宅後自宅での飲酒(図5)や入浴(図6)は患部の血行をよくするのでよくありません。



どうしても入浴したければ、アイスパックをしたままでシャワーをして下さい。この場合、体温があまり上昇しない程度にしてください。体がほてっている間は、必ずアイシングをしていて下さい。



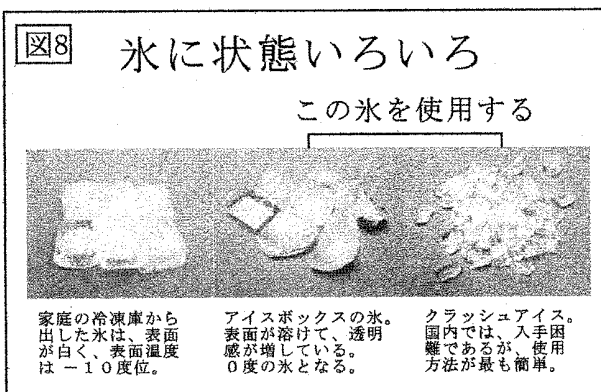
眠っている間のアイシングは無理なので、できれば患部を圧迫し少し高く保てる状態にしておきます。(図7) 長い時間、連続して冷やし続ければ効果的だというわけではありません。むやみにアイシングを行うことで凍傷になる危険性もあります。



(5) アイスパックの使用法の注意。

競技施設に備えつけの製氷機の氷や、クーラーボックスに入れて持参した氷は、表面がうっすら溶けている状態で、ほぼ0℃の温度です。このまま使用しても心配ありませんが、家庭にある冷凍冷蔵庫の氷を出してきて使う場合に注意が必要です。通常、冷凍冷蔵庫の

中は-10℃前後に設定されていることが多く、氷もその温度でカチカチに凍っています。表面が白くなったカチカチの氷は、そのままつかむと手にくっついてしまいます。こういう氷をアイスパックにし、直接皮膚に乗せると、凍傷を起こす危険性があります。(図8) 冷凍庫の氷を使う場合、凍傷に対する予防策として水を少し混ぜて使ってください。そのまま使用の場合は、皮膚の上に薄手のタオルか布を置いて、その上にアイスパックを乗せれば、冷却効果は半減しますが、凍傷の心配は少なくなります。



(6) アイシングには氷がもっともよい。

アイシングには氷が最も適しています。コールドパックや柔軟性のあるジェル状のものもありますが、体から奪う熱量が違います。0℃の氷の融解熱は1gあたり約80calにもなります。また、マイナス温度の氷は1℃上げるのには約0.5calです。保存された-1℃の氷と-17℃のコールドパックが奪う熱量は、氷が良く、約4倍の差があります。-17℃のコールドパックでは、特に凍傷に注意が必要です。つまり、0℃の氷を使用するのが最も効率がよいといえます。決して冷たければ冷たいほどよく冷えるわけではありません。冷やすのは、表面でなく深部を冷やすことが重要です。

外国では、クラッシュアイスがすぐに手に入りますが、国内では入手しにくいので通常はキューブアイスを使用します。(図8)

(7) アイスパックの代用について。

捻挫に湿布をすることがありますが、多くの市販の湿布は血行改善作用を有しており、アイシングと逆効果となる場合があります、アイシングの代わりにはなりません。さらに冷感湿布は表面温度が2～3℃しか下がらず、深部温度はほとんど変化ありません。皮下出血を認めている場合は、初期治療としては禁忌と考えて下さい。

また、コールドスプレーの使用は、表面だけの冷却となり、深部は冷えず使用しすぎると凍傷をきたしますので代用にはなりません。

(8) アイシング後の注意点。

アイシングは、あくまで損傷の治療ではなく、二次的外傷性損傷をくい止めるための手段であり、応急処置だということです。アイシングによって時に損傷が治ったような気持ちになることがあります。しかし単なる捻挫と思っても、靱帯損傷の軽度なものから重度のものまであります。捻挫と思っていて、実は骨折していて手術が必要な場合もあります。

アイシングの応急処置のあとは、原則としてスポーツドクターの診察を受けてください。診察の結果、レントゲン検査が必要な場合も多いことも事実です。すぐ運動をしていいのか、また何日くらい休むべきか、運動を再開するうえでの注意点などをアドバイスしてもらうことも重要です。アイシングなどの応急処置は病院にかかるまで続けて下さい。

(9) アイシング後は十分な治療をすること。

アイシングによって時に損傷が治ったような感じになることも多くあります。しかしアイシング中に痛みが引いたからといって、すぐに練習や試合に戻ろうとするのも危険です。安静にするべき大事なときに無理することで、損傷を悪化させ、長引かせてしまうことになります。

また、練習を休んだあとに再開するときも、完全に治っていない状態で無理して行くと、

さらに損傷を悪化させたりすることがあります。焦らずにきちんと休みをとって完治させることが、結局は最良の方法であり、近道だといえます。必ず主治医のスポーツドクターと相談して下さい。

(10) アイシングを行ってはいけない場合。

スポーツ選手以外の場合は特に注意する事があります。寒冷刺激に対して強い不快感がある人（冷感アレルギーのある人）や感覚脱失・末梢循環障害のある人（レイノー病およびレイノー現象のある人）などはアイシングを行えません。この場合は、圧迫包帯で対応します。また、心臓・呼吸器疾患がある場合は広い面積を冷却してはいけません。

以上、アイシングの実際を述べましたが、その他の部位についても急性期の損傷は同様にRICE処置が必要です。その中でもアイシングが特に重要ですので、十分に理解して行って下さい。

参考文献

スポーツ医学Q&A 金原出版

スポーツ外傷と障害 文光堂

アイシング ブックハウス・エイティディ

スポーツアイシング 大修館書店

battlewin NEWS ニチバン

Cryotherapy in Sport Injury Management
Haman Kinetics

【特集1】 2014全日本大学男子代表チームニュージーランド遠征

●日程：2014年2月9日(日)～21日(金)

9日 成田空港→オークランドへ
 10日 オークランド→クライストチャーチ
 11日 練習・親善試合
 12日 練習・親善試合
 13～15日 NFC2014 Pool Playに参加
 16日 NFC2014 Playoff 7～8位決定戦
 17日 クライストチャーチ近郊観察
 18日 オークランドへ、市内観光 ホームステイ
 19日 Roosters VS Ranmbers試合観戦
 20日 市内自由行動
 21日 オークランド→成田空港

●派遣選手

No.	守備氏名	所属	UN	年
1	投手 佐野 浩平	同志社大学	11	2
2	投手 大嶋 翼	早稲田大学	19	2
3	投手 尾矢 祥嗣	中京学院大学	16	3
4	投手 永野 壘	神戸学院大学	15	2
5	投手 楠岡 侑也	神戸学院大学	21	2
6	捕手 西里 博樹	中京学院大学	2	2
7	捕手 森 大祐	神戸学院大学	25	1
8	二塁手 横山 嵩洋	日本体育大学	4	3
9	二塁手 中原 滉生	同志社大学	5	3
10	二塁手 溝口 聖	早稲田大学	1	2
11	一塁手 杉山 貴久	立命館大学	6	3
12	三塁手 二宮 正地	福岡大学	8	3
13	遊撃手 西森 圭祐	国士舘大学	7	3
14	遊撃手 吉田 亨平	早稲田大学	10	3
15	外野手 湯浅 拓人	日本体育大学	14	2
16	外野手 平岩 裕基	中京大学	22	3
17	外野手 大柿 廣明	関西大学	3	2
18	外野手 谷本 卓哉	日本体育大学	9	2

●スタッフ

団 長：中野 元 (熊本学園大学)
 監 督：高橋 流星 (日本体育大学)
 コーチ：吉田 智行 (神戸学院大学)
 コーチ総務：吉末 和也 (関西大学)

●練習試合

・2月11日

Papanui 1 1 2 0 2 1 3 : 10
 Japan 0 1 0 2 1 2 1 : 7

[J]●楠岡、永野、佐野、尾矢、湯浅一森

(本)谷本

【戦評】

日本の先発は楠岡(神戸学院)。先頭打者を平凡なレフトフライに抑えるも西森(国士舘)が落球。いきなりランナーの出塁を許してしまった。その後、送りバント、三振を奪い、2アウトにしたが、5番打者に痛烈なセンター前ヒットを打たれ、簡単に先制された。2回もサード：二宮(福岡大)のミス、ファースト：杉山(立命館)のミスで失点。3回表、永野(神戸学院)が先頭を四球で出塁させ、ライト：谷本(日体大)が捕球ミス。2点を追加された。

日本の攻撃は、2回裏、谷本(日体大)が出塁し、杉山(立命館)のレフト前タイムリーヒットで1点返し、4回からは毎回得点をするものの、肝心な守りの乱れが多くあり、6失策、四死球5の内容で、自分たちのミスで敗北した形となった。

・2月12日

Japan 1 :
 Papanui :

1回の表攻撃中に、雨が降り出し雨天中止

●National Fastpitch Championship2014

本大会はNZ各州の代表チームが優勝を争う大会で州の代表7チームと大学JAPANの8チームで総当たりの試合が行われた。順位は予選リーグ4位以上のチームによるページシステムで1～3位を、その4位と予選5・6位チームによるプレイオフで4～6位を、予選7・8位のプレイオフで最終順位の7・8位を決定する。(註：以下の報告は高橋流星監督による。)

◆2/13(大会第1日)予選リーグ第1試合

J A P A N 0 0 1 1 0 0 2 : 4
 Southern Priden 0 0 0 0 1 0 2 : 3

[J]○楠岡、永野一森(三)吉田(二)平岩、杉山

【戦評】 日本の初戦は、Southern Pride。南島

の代表チームである。日本は、楠岡(神戸学院)を先発に起用。0-0で迎えた3回表、日本はこの回先頭の8番センター：平岩(中京)がレフト前に落ちるツーベースヒットを放ち出塁すると、9番ファースト：杉山(立命館)が犠打で送り、1番ライト：溝口のセカンド内安打で先制。試合の主導権を握ると、4回表にも、追加点。

先発の楠岡(神戸学院)は、5回を1HR、2安打に抑え、安定したピッチングを見せた。

7回表の攻撃は、ツーアウトから平岩(中京)、杉山(立命館)、溝口(早稲田)の3連打で2点を追加した。

6回から継投した永野(神戸学院)は、7回裏ツーアウトから四球とサードのエラーが重なり、レフト前に2点タイムリーヒットを打たれるものの、打った打者を二塁でアウトにしゲームセット。初戦を白星で飾った。

◆2/13(大会第1日) 予選リーグ第2試合

J A P A N 0 0 0 1 0 0 0 : 1
North Harbour 0 5 0 0 0 0 x : 7

[J]●湯浅、佐野、尾矢石一森

【戦評】先発の湯浅(日体大)は2回につかまり、連続ヒットとサードの2度にわたるエラー、四死球3が重なり一挙に5失点。日本のミスから試合の主導権を奪われた。4回表日本が反撃を開始するが、ノーアウト満塁から1得点しかできず試合最大のチャンスを生かすことができなかった。相手もJrNZ代表選手であり、6回からは、留学している松田光選手(平林金属)がクローザーとして登板。2イニングで5三振を奪われ、格の違いを見せつけられた。1勝1敗で一日目を終えた。

◆2/14(大会第2日) 予選リーグ第3試合

J A P A N 0 0 0 0 0 0 2 : 2
Wellington 0 0 2 0 0 0 1x : 3

[J]●永野・佐野、湯浅一森 (二)二宮

【戦評】2日目の第1戦目は、外野フェンスのない会場でWellingtonと対戦。NZ代表選手も多数在籍するチームである。日本の先発は、永野(神戸学院)。Wellingtonの1番打者(NZ代表)に確実にとも思えるHRを打たれるも、極端なシフトをとっていたため(定位置よりも20m以上後方)、ライトフライに

抑えた。外野フェンスのない利点をうまく使ったアウトのとりかたであった。

3回裏、1アウトからレフト前ヒットで出塁されるとすかさず盗塁で二塁へ。またもや三塁へ盗塁された際に捕手が悪送球。ミスで失点してしまった。また、1番、3番のヒットで失点しこの回2失点。

しかし、7回の表、日本の攻撃は、この回先頭の二宮(福岡大)がライト前にポテンヒットで一挙に二塁へ、杉山(立命館)の送りバント後、平岩(中京)のショートゴロがイレギュラーし幸運にも得点、続く中原(同志社)もセンター前ヒットを放ち同点に追いついた。しかし7回表、この回から登板した湯浅がツーアウトまでとるが、2番：テラー・ビショップ(NZ代表)にレフト前に打たれ、サヨナラで敗れた。

◆2/14(大会第2日) 予選リーグ第4試合

J A P A N 0 0 0 0 0 1 0 : 1
Canterbury 0 1 2 0 0 1 x : 4

[J]●楠岡、湯浅一森 (本)溝口

【戦評】

第4戦目は優勝候補のCanterbury。日本の先発は、初戦に好投した楠岡(神戸学院)を起用した。2回の裏先頭を四球で歩かすと、8番打者にライト前ヒットを放たれ先制された。3回裏には3連続ヒットと犠牲フライで2失点。

6回表、1番ライト：溝口(早稲田)が右中間を大きく破るランニングホームラン(フェンスなし)で得点するも、相手左投手に散発5安打13三振に抑え込まれ、敗北した。

◆2/14(大会第2日) 予選リーグ第5試合

Auckland 0 1 0 0 2 0 0 : 3
J A P A N 0 1 1 0 0 0 0 : 2

[J]●楠岡一森

【戦評】

この日の3試合目は、Auckland。このチームもNZ代表選手が多く在籍し、優勝候補である。疲労困憊で迎えた試合は、幸いにもフェンスのないグラウンドで行われた。日本チームは、頭を使い相手打者の特性や打球方向を計算し、極端なシフトをとる体制で試合に臨んだ。

連投の楠岡(神戸学院)は、2回表、2連続ヒットから9番打者にタイムリーヒットを打たれ1点を奪われた。一方日本は2回裏、杉山(立命館)、中原(同志社)の連続ヒットでチャンスを作ると、ツーアウトから森(神戸学院)がライト前ヒットを放ち、同点に追いついた。なおも3回裏、1番ライト：溝口(早稲田)から横山(日体)、吉田(早稲田)の3連続ヒットで逆転に成功。

しかし5回、相手打線につかまり、1番：ベン・エノカー(NZ代表)のタイムリーで同点、続く、2番：ネイサン・ヌクヌク(NZ代表)のセンターへの打球を平岩(中京大)が落球し、逆転。その後、一塁、三塁となり相手チームがダブルスチールを仕掛けてきたが、堅実なプレイで、一塁走者を二塁でアウトにし、三塁走者もホームでアウトにするスーパープレイでピンチを潜り抜けた。

5回からは、ヘンリー・シャノン(NZ代表)が登板し、日本の打線は、14奪三振に抑え込まれ、勝利することはできなかった。

◆2/15(大会第3日) 予選リーグ第6試合

J A P A N 0 0 1 0 0 0 0 : 1
Counties M/Waikato 1 0 1 0 0 1 x : 3

[J]●永野一森 (二)吉田、谷本

【戦評】大会3日目。疲労困憊で迎えた予選リーグ第6戦目は、Counties M/Waikatoと対戦。試合前にNZ伝統の「ハッカ」を見せつけられ、選手たちはその気迫により一層緊張感が高まった。

1回裏、先発の永野(神戸学院)は、ツーアウトをとるものの、3番：ヘビアン・マケアにセンター前に打たれ、すぐさまDRが盗塁。4番にセンター前タイムリーヒットを打たれあっさりと失点してしまった。この試合も相手を追う展開となった。

3回表、日本の攻撃は、7番：谷本(日体)の三塁線を破るツーベースヒットでチャンスを作ると、1番：溝口(早稲田)がセンター前タイムリーで同点に追いついた。

しかし、3回裏にツーアウトまでとるが、ファースト：杉山(立命館)のミスからピンチを招くと、3番：ヘビアン・マケアに再びレフト前タイム

を打たれ、尚且つ、レフト：西森がホームへ暴投。ミスの連続で失点をした。6回裏にも一塁、三塁のピンチからダブルスチールを防ぐことができず、相手の思うように失点を許してしまった。

日本の打線は、散発4安打に抑え込まれ、13三振を奪われて、ホームが遠く得点をする事ができなかった。

◆2/15(大会第3日) 予選リーグ第7試合

J A P A N 0 0 0 0 0 2 0 : 2
Hutt Valley 3 0 1 0 0 0 x : 4

[J]●楠岡、佐野、尾矢一森

【戦評】1回裏に四球とエラー、野選などから3失点、3回にもタイムリーで、4点を追う形となった。

6回表、森(神戸学院)がセーフティーバントで出塁し、二死後、一塁走者・森の変わりにDR：大柿(関西)が二盗を試み、相手守備の乱れを誘って三進すると、ワイルドピッチの間に生還。まずは1点を返すと、四球と敵失で一死一・二塁のチャンスを迎えると平岩(中京)がタイムリーを放ち、2-4に。

しかし、その後、追加点を奪うことが出来ず・・・日本は通算1勝6敗で予選リーグを終え、7位決定戦に臨まなければならなくなった。

◆2/16(大会第4日) 7位～8位決定戦

Southern Pride 0 0 0 0 1 0 1 : 2
J A P A N 3 2 0 0 0 0 x : 5

[J]○永野、佐野、尾矢、楠岡一森 (二)吉田

【戦評】後攻の日本は初回、1番：溝口(早稲田)が四球を選ぶと横山(日体)がセーフティーバントで続き、敵失で2点を先制すると、湯浅(日体)がタイムリーを放ち、3-0とリードを奪う。続く2回裏、四球で出塁した中原(同志社)が二盗を成功させ、ゴロの間に三進すると、ワイルドピッチので1得点。さらに、二死一塁から吉田(早稲田)がタイムリーツーベースを放ち、5-0と大きくリードを広げた。守っては先発の永野(神戸学院)が6回を1失点で抑え、日本は5-2で7位決定戦に勝利。今大会を7位という成績で終えた。

第 6 回 ニュージーランド 遠 征

団長 中野 元（副会長・熊本学園大学）

2014年2月9日から21日まで、全日本大学男子選抜チームはニュージーランドに遠征しました。最初はクライストチャーチでNFC TOURNAMENTに参加し、その後オークランドに移動しホームスティ（国際的文化体験・交流活動）を行いました。まず、この貴重なプロジェクトに支援していただいた日本ソフトボール協会に感謝いたしたいと思います。同時に、スタッフや選手の派遣などに快諾しご協力いただいた大学関係者の皆様にも、心からお礼を申し上げます。学生たちは、この海外遠征で、多くのことを学び貴重な経験を積むことができた、と確信しています。

ただ今回は、ニュージーランドのこの大会に入る以前に、さまざまなトラブルに見舞われました。まず、参加予定選手にけがや病気が発生したこと、出発当日には大雪のため飛行機の出発に大混乱が生じたこと、翌日に出発する私の航空便が欠航になり2日遅れての別ルート便になったことなどでした。万全とはほど遠い状態のまま、大会に入ることになりました。さらに、ホテルでの朝晩の食事をスタッフ・選手で協力し合いながら準備したことなど貴重な海外体験もすることができました。そうした中で、大会期間中、病人やけが人を出すことなく無事日程を消化することができました。結果は7位ではありましたが、全員かけがえのない体験ができたものと実感しています。高橋監督

をはじめ吉田コーチの昼夜を分かたぬ奮闘と、さらに選手たちのいろんな事態に対する協力があつたればこそその結果と、改めて思い巡らせています。オークランドに移動してからは、予定していた親善試合が現地のリーグ戦の都合で中止になりました。ただ、吉末さんの配慮もあり、学生のホームスティについては順調に進めることができました。2日間の実施後、ホームスティ先の各家庭からは予想以上の好評も得ることができました。学生たちのニュージーランドでの家庭生活や文化を積極的に吸収しようとする態度・姿勢が、好感を持たれたように思います。遠征期間が長くなり学生たちの振る舞いやたくましくなった姿を見るにつけ、この遠征を実施してよかったと実感しました。

最後に課題として、今後の体制のあり方の再検討と2年後のニュージーランド選抜チーム（日本の大学生にほぼ相当する年齢構成チーム）の来日・試合方式の検討、この2点をあげたいと思います。前者については、別に改めて検討をお願いします。特に後者については、ニュージーランド協会は好意的でした。今後、さらに具体的に詰めてほしいと思います。特に、この企画は大学連盟50周年記念事業の取り組みの一環として十分に意義があります。国際的な交流事業の新たな一歩として、検討をお願いする次第です。

N Z 遠 征 を 振 り 返 っ て

監督 高橋 流星（日本体育大学）

今回、NZ遠征に初めて監督として参加させていただき、全日本大学ソフトボール連盟をはじめ、この企画を準備していただきました先生方、関係者の方々、そして、我々大学チームを大会に参加

させていただきましたNZソフトボール協会の皆様、カンタベリーソフトボール協会の皆様、通訳をしていただきましたカーティスさんに心より感謝申し上げます。

大会結果は、力及ばず8チーム中7位でした。NZの選手のパワフルなスイングとハイスピード、かつキレ味鋭いボールとコントロールは、大学男子日本代表を苦しめました。また、私が以前実感してきたソフトボールスタイルも異なっており、パワーとスピードだけでなく、堅実な守備や送りバント、果敢な走塁やエンドランなどNZのソフトボールスタイルも変わってきており、本来日本がしなければならない緻密かつ正確な攻撃や守備を行うようになってきていました。

僅差の試合は何試合もありましたが、内容的には8試合で96三振(1試合平均12三振)も奪われ、出塁することさえできない選手も多くいました。そういった中でなんとか試合に勝つために、方法を見出すことをチーム全員で考えましたが、実行することは非常に困難でした。

この経験は、学生たちにとっても、我々スタッフにとっても非常に良い経験となりました。相手選手の情報収集および大会運営の仕方、強化体制、あるいは大学生達のソフトボール競技に対する取り組み意識や現状等を把握出来た事は非常に良か

ったと思います。今後の課題として、強化合宿や現地での練習時間も少ない中、選手個々の能力把握と相手選手の特徴や能力などを瞬時に把握し、その情報源を基に短期間で力を100%発揮する能力と発揮させる能力が必要不可欠であると同時に、チーム全体での方向性や試合プランを意思統一しなければ、試合に勝つことは困難だと感じました。また、今後それらの能力を身に着けなければならぬと感じました。

今回の遠征でも、カーティスさんが通訳やホームステイの準備などを手配していただき、学生たちにとっては、かけがえのない体験になったと思います。心より感謝申し上げます。

最後に、今後もこのような企画を行って頂きたいと心より願っておりますが、海外で学ぶべき事よりも、最低限、日本で行わなければならないこと、学んでおくべきことがあると確信しました。今回、学び得た事を今後の人生に生かしていきたいと思っております。本当に有り難うございました。

2014全日本大学男子代表NZ遠征を終えて

コーチ 吉田 智行(神戸学院大学)

まずはじめに、6度目となりました今回の全日本大学選抜NZ遠征におかれまして、いろいろな準備やご支援をいただきました高橋伸次理事長をはじめ、連盟の皆様、関係者の皆様に深く御礼申し上げます。世界一のNZと日本の大学生が交流できる機会は大変貴重なことであると感じておりますので、今後もこの遠征が更に発展し継続して行われることを大いに期待しております。

今回、私はコーチとして帯同させていただきました。第2回のNZ遠征に選手として参加させていただき、今回12年ぶりに立場を変えて参加させていただけるということで大変感慨深い思いがありました。私自身も学生時代のNZ遠征での経験

がその後の人生に大きく影響しており、今回遠征に参加する学生にもそのような経験をしてもらいたいと思っておりました。ソフトボールのみならず、国際交流や他大学の選手と共に生活することは本当に良い経験となったはずです。

更には、今回チームの監督として帯同された日本体育大学の高橋流星監督は国際経験も豊富であり日本代表としての心得や学生スポーツのあり方等を選手に熱く伝えていただき、選手のみならず我々指導者にとっても大変貴重な経験をすることができたと思います。

2月9日の出発当日は前日からの降雪の影響で交通機関が乱れ大幅に遅延するというアクシデン

トがありましたが、NZに入ってから大きなトラブルやアクシデントもなく全員が無事に帰国することができました。今回、団長として帯同していただきました中野元先生、コーチ兼総務の吉末和也先生、通訳のカーティスさんが現地でいろいろな役割を担っていただけたことが本当に大きかったと思いますので、素晴らしいスタッフの方々といっしょに遠征できたことも個人的には感謝の気持ちでいっぱいであります。

このNZ遠征を経験した選手達は、ほとんどの

メンバーが各大学の主将や主力選手です。遠征で様々な経験をし、刺激を受け視野も広まったのではないかと感じています。大切なことはこの経験を今後の人生にどう生かせるかであると思うので、各大学に良い変化が生まれることを大いに期待しています。近年、マナーの悪さや服装の乱れ等が叫ばれていますので、今後の大学男子ソフトボールの発展のためにも私自身も更に視野を広めて全力で力を注ぎたいと考えております。

アオテアロアに魅かれて24年

コーチ兼総務 吉末 和也（関西大学）

アオテアロア(Aotearoa)とは、ニュージーランド（以下「NZ」という。）のマオリ語名でNZのことを指します。アオテアロアは、「白く長い雲のたなびく地」という意味があります。NZの美しい雲が球場や山々と重なる表情を見た瞬間に、この国に戻ったことが実感できます。

24年前、私が学生時代に全日本大学ソフトボール連盟の一谷会長と出会い、「海外でソフトボールがしたいならNZに行ってみてはどうか？」とご紹介して頂いたことがきっかけで、NZに短期留学し、その縁で大学を卒業して2年後に一谷会長の下でオセアニア地域との国際交流事業に携わることになりました。そこからNZ女子クラブチームの受け入れ、関西学生女子選抜チームのNZ遠征、関西大学単独チームのNZ遠征、そして、大学男子学生に国際試合と国際交流の機会を提供しようということでこのNZ遠征企画がスタートし、今回で6回目を迎えました。

現地協会との交渉、旅行会社との交渉、オリエンテーションの実施、遠征中の総務業務など、毎回心がめげそうになることもあります。が、「ソフトボールというスポーツに出会い、ソフトボールを通じて学び、ソフトボールを通して良き出会いがあり、今の自分がある。」ことを考えると、私

には、ソフトボールを通じて人を育み、ソフトボールの発展に少しでもお役に立てるように努める使命があると思うのです。この海外遠征も学生には、日常生活では体験できない機会を提供し、そこでの経験が自分の視野を広め、何かを変えるきっかけになって欲しいと期待しています。

この大学連盟のNZ遠征を初回から橋渡ししてくれたNZソフトボール協会の故Lester Baldwinさんが私に掛けてくれた言葉があります。「Kazzy（私のニックネーム）！試合に負けてもナースになるなよ！少しずつチェンジしていく積み重ねが大切なんだよ。君もNZに来ている以上、まずは、君がエンジョイしないと！」今回の遠征でも色んなことがありましたが、Lesterさんの教えを貫くことで遠征の目的を達成するプロセスをコーディネートできたのではないかと思います。

中野団長、高橋監督、吉田コーチには何かとご負担をおかけしてしまいましたが、今回の反省も踏まえて、カタチを変えてNZとの交流を末永く続けていけたら嬉しいです。

全日本大学ソフトボール連盟の加盟大学の皆様、連盟役員の皆様、そして、この遠征を現地で支えてくれたKurtis Tomkinsさん、学生を受け入れてくれたホストファミリーの皆様、NZソフトボー

ル協会の皆様をはじめ、この遠征で我々をサポートして頂いたすべての方に心から感謝申し上げます。

す。

ニュージーランド遠征に参加して

大学日本代表主将 **吉田 享平**(早稲田大学)

12日間のニュージーランド遠征を通じて、日本のソフトボールは「正確性」と「再現性」という日本の特性を生かせば世界に十分通用するということを学びました。私は今回の遠征が初めての外国人との対戦でした。最初の練習試合では相手選手の体格の大きさや、日本とは異なったストライクゾーンなどに戸惑いました。しかし試合を進めていくにつれ、どこでやっても同じソフトボールであり、自分たちが培ってきた技術は通用すると体感しました。NFCトーナメントでは2勝6敗で7位という結果で大きく負け越してしまいましたが、大会を通じて体格で劣る日本チームだからこそ「個」ではなくチームで戦うことの重要性を感じました。

また、ソフトボール以外にも観光やホームステイなどで異文化に触れとてもいい経験になりました。日本にいた時のように不自由なく生活できるわけではなく、その中で生活したことは人間力向上に繋がったと思います。

今回の遠征に参加した選手17名、スタッフを含めた21名はこの経験を生かして各大学に還元してくれると思います。私は今回のチームのキャプテンとして、少しでも大学ソフトボール界に良い影響を与えられるように努めてまいりました。自分たちが卒業してから、「ソフトボールをやっていました。」と胸を張って誇りを持って言えるように、大学ソフトボールという社会的地位も得られていない競技を成長させられるように努力していきたいと思います。17名の選手たちが代表に選ばれた自覚を持って、今後大学ソフトボール界を牽引してくれると思います。

最後に、遠征を企画、マネジメントして下さったスタッフの皆さま、添乗員としてNZのソフト

ボール、文化を教えてくれたKurtis、楽しい時間を過ごしてくれたホストファミリーの皆さま、資金的援助などをして下さった各選手の家族など、多くの人々に支えられてこの遠征は成立できました。最高の時間を作っていただき本当にありがとうございました。

大学日本代表副主将 **横山 嵩洋**(日本体育大学)

私は、ニュージーランド遠征を通じて、多くのことを学びました。その中でも、一番鍛えられた部分といえば、やはり忍耐力だと思います。日本と違い様々な部分が多く違います。食事や、試合の流れ等です。日本食に慣れている私は、ニュージーランドの食事が合っていませんでした。試合の流れであっても試合前にグラウンドの整備をしない、集合の挨拶無く試合が始まるという日本とは違う試合の始まり方でした。また、英語がはっきりと話せない私にとっては、我慢をしなければならない13日間でした。文句が沢山ありましたが、みんなと条件は一緒なので、口に出してはいけなと自問自答しました。こういった気持ちが、少なからずとも試合の内容や結果に繋がると思います。

ニュージーランドのソフトボールは、やはりレベルが高いと改めて感じました。ピッチャーは球が速く、常時115キロは出ており、ライズやドロップのキレも日本のピッチャーに比べると凄かったです。バッティングにおいても日本のピッチャーの変化球に対応していました。しかし、守備においては日本の方がレベルが高いと思いました。世界大会で日本が、世界のチームに勝つには、緻密なプレーが絶対条件だと感じました。バッティング面では、私達のチームは相手チームのピッチャーに対応できておらず、三振が多くて打線に繋

がりがありませんでした。打線の繋がりをよくするためには、まずは早めの対応、そしてバントやセフティー、スラップなどの相手が嫌がることをしなければならぬと思いました。守備面では、エラー1つで得点に繋がってしまうので、まずは確実にアウトを取ることが大切です。ピッチャーはコースがとても広いので、そのコースにきっちりボールを投げることです。力で勝負しても世界には絶対に通用しないので、コントロールや緩急で勝負をすることが大切です。試合の全てにおいて世界の大会で、良いプレーをするには日頃の緊張感ある練習をしなければならぬと感じました。

ホームステイ先では、日本人に優しく接して頂いてもらい、とても生活しやすかったです。ここでも文化の違いを感じました。よい社会勉強になりました。今後も日本人が、好かれるためにも海外の文化を早く知りその生活に対応する必要があります。また、感謝の気持ちを常に忘れることなく謙虚に生活することも大切です。

大学日本代表副主将 **西森 圭祐**(国士舘大学)

今回の遠征で、普段体験できない貴重な経験をすることができました。それもこれも、このような機会を与えてくださったソフトボール協会、学校、スタッフ、旅行会社の方々にまず、感謝いたします。

ニュージーランド出発前日に大雪が降り、当日は公共機関の乱れや出発時間が大幅に遅れるなど出だしから海外遠征の厳しさを痛感することとなりました。ニュージーランドに到着してからも、予定の時刻より遅れたため、観光することや試合会場の視察ができないまま終わってしまったのは非常に残念でした。また、自分たちが宿泊するホテル周辺の状況がいまいち把握することができず、どこになにがあるのかわかりませんでした。チームマネジメントの吉末さんの到着が遅れ、朝・夜の調理など不安な点が多くありましたが、高橋監督、吉田コーチの賢明な活動により負担を感じることなく試合に臨むことができました。

NFCトーナメントに参加して、ニュージーラン

ドのソフトボールのレベルを知ることができ世界一に輝いた投手や打者との対戦・観戦が自分を大きく成長させる糧となり、また、自分のこれまでの取り組みや考え方は甘く、世界では全く通じないということもわかり悔しい気持ちもある反面、今一度ソフトボールという競技と向かい合っただけからどうしていけばよいのか見つめ直すきっかけにもなりました。

大学日本代表チームとして、チームワークとしては抜群のものがありませんでした。初対面の人が多い中でも、ソフトボールが本当に好きな人たちが集まっているだけに仲良くなりやすかったです。しかし、プレイでいえばもう少し練習の時間が必要なものに思えます。世界選手権でないため勝ち負けどうのこうのというものではないですが、プレイヤーとして試合に出場する以上、勝敗・1点にこだわってやりたいという気持ちがあります。それを考えれば、急造チームだからこそもう少し練習したい気持ちがありました。試合を重ねるごとにチームらしくなっていくからこそ心残りがあります。

最後にこのニュージーランド遠征で得た経験を自分のチームに持ち帰り、大学ソフトボール界を更に盛り上げられる存在にしたいと思います。

投手 **永野 壘**(神戸学院大学)

自分の人生において最高の遠征になりました。最初は即席チーム、初海外、ホームステイと不安要素しかありませんでした。しかし、同じ場所で共同生活していくことですぐに打ち解けあうことが出来たのではないかと思います。NFCトーナメントの結果は7位といい成績を残すことはできませんでしたが、海外の選手相手に劣らない力で戦えたとおもいます。スピードで勝負をしても打たれるのは分かっていたので、緩急とコントロールを徹底して投球しました。野手の皆さんにも助けてもらえたのもあり、自分の力を十分に発揮することが出来ました。今回の遠征でチェンジアップの精度などの日本へ帰っての課題や試したいことも多々見つかったのでもいい収穫があったと思います。

NFCトーナメントには日本を代表するピッチャーでもある松田選手も参加していて、体格のいい海外選手相手への投球を目の前で体感して改めて尊敬しましたし、お会いできたことも貴重な体験でした。

大会以外ではホームステイが思い出に残っています。言葉が通じない自分に対して温かく接してくれて、一緒に過ごした時間はとても短かったけれど本当の家族のような気持ちになりました。ホストファミリーと会話が全然できなかったのはとても残念でした。会話ができていればさらに楽しいホームステイに間違いなくなっていたでしょう。22時には寝始めたり、お風呂に入るのが朝だったり日本との文化の違いには驚きました。ホームステイの経験なんてこの遠征に参加していなければ二度となかったかもしれません。いくつになっても忘れることはないと思います。

NZ遠征に参加したメンバーにしかできない体験、また参加していなければ一生味わえなかった体験をたくさんさせてもらいました。自分のチームに戻ってみんなに伝えたいし、何か変わったな、成長したな感じてもらいたいです。そして、刺激を与え、よりよいチームへと変化させられる選手になりたいと思います。最高のチームメイト、スタッフ、携わっていただいた方への感謝を忘れることなく、選手としても人間的にも成長していきたいと思います。

投手 佐野 浩平(同志社大学)

遠征を終えて。今回は遠征の始めから流星^{すばる}さんが仰っていた「全員が同じ方向を向く」ということをとても意識した遠征でした。初めの練習中のノックにおいて、私がバックホームの送球をミスしたときに、「日本代表」と言われた時は、鳥肌が立ったと共に、自分への劣等感と言いますか、無力感と言いますか、いろいろなものが頭の中、体中を駆け巡りました。

私の中で“一体感”というものはとてつもなく厄介なものです。一回気づかれると、今度は他のものを受け入れなくなる。そんな風に“一体感”というものを自分の中で解釈していたからです。“一体

感”を今までたかが20年間ですが生きてきて、感じた瞬間と言え、部活の紅白戦或いは今回の遠征、小学生の時の運動会など、誰かを応援したり、自分がされたりするときであった。接戦になったとき、死に物狂いで選手を応援したり、インカレなど大舞台をチームメイト全員と戦い抜きいい成績を残しフィニッシュできたとき。これに関しては両親やいろいろななかわりのある方が応援に来てくれていたのならば、それもまた大きな“一体感”を得ることができる。後は、誰かを支援している瞬間。相手が弱い人でも強い人でも。誰かの為に、というのはすごい得るものがある。そして頑張ったことを皆で伝え合う瞬間。このように人生においては、多くの瞬間で“一体感”が生まれているのだなと感じました。その裏側には、多大な練習があり、支援があり、応援があり。感謝するにはしきれないものです。そして一瞬一瞬にその成果を発揮できるようにしたり、見せたり、戦ったりと様々な思いとなり、“一体感”が生まれているように感じました。その場しのぎで、当日だけ。というのでは絶対に“一体感”は生まれない。その前に準備をしていたからこそ、自分がどこに集中し、何を全うすればいいのかが分かる。失敗したことがあったとしても、成長を見せようと当日に精一杯のプレイを見せることができる。応援してくれる人々がいるからこそ、最大限の力を発揮できる。ライバルがいるから「絶対負けない」と底力を出せる。頑張る人を見て「俺だって」と自分自身を奮い立たせ頑張ることができる。当日だからこそできることもあるだろうけど、発揮する場があり、それまでにいかに準備をするかというほうがかなり重要である。

在学中の大学では、とてもなあなあで怠慢な部活動をしていると感じる。上で書いたように、当日のその場しのぎでやってきたように感じる。だから、今回の遠征の初日の練習ではまったく体が動かなくて、とても焦ったし、自分自身に「大丈夫なのか？」と心の中で問いかけてしまうほどでした。小中高となあなあではありませんが、緩い環境の中でソフトボールをやってきました。環境のせいにするのはよくないと思います。気づくの

が遅いとも思います。今からじゃどうにも遅いのでは？という人もいます。同志社は変わらないだろう。と思う人もいます。ですが、逆に、まだ遅くない。同志社ならできる。と言ってくれる方々もいるでしょう。そんな支援、応援をしてくれる人々と共に、“一体感”を共有しつつ自分なりにこれから変わって行くし、周りも巻き込み、変えて行く。こんなことを感じた今回のNZ遠征でした。

このたびは本当にありがとうございました。かけがえのないものになりました。

投手 大嶋 翼(早稲田大学)

私は、この大学日本代表ニュージーランド遠征および、NFCに参加させていただきましたが、まずはこの遠征に携わっていただいた、中野団長をはじめ高橋監督、吉田コーチ、吉末コーチ、カーティスさん、その他大学ソフトボール連盟の方々に感謝の気持ちを伝えたいと思います。ありがとうございました。

私はこの遠征の出発日の一週間程前に練習で右腕を骨折してしまいました。最初は、今までこの遠征に向けて調整してきたものが全て水の泡になってしまったと思い、遠征を辞退しようと考えていました。しかし、周りの人々の支えや、高橋監督、吉田コーチ、大学連盟の方々のご理解とご協力があり参加させていただくことができました。

ニュージーランドに着いてからは、自分がプレイできない悔しさから試合を見ているも辛い時はありました。ですが、ニュージーランドの選手のプレイスタイルや日本代表の他大学の選手のプレイを見ていくにつれて、少しずつ自分がグラウンドの内からではなく、外から見ることとても大切だと感じました。ニュージーランドの選手の体格、パワー、迫力、球のスピード、ストライクゾーンの違いなど挙げたらきりが無いが、プレイができない分他の選手より冷静に向き合えたと思います。私のポジションである投手では、ニュージーランドの投手は全員のレベルが高く、素晴らしい教科書でした。彼らは、自分の特徴を熟知しておりそれを競技に還元している。そんな風に思い

ました。

今回の遠征は私のソフトボール人生のターニングポイントになると確信しています。諦める前に、遠征の帯同を志願したのが本当に良かったと思っています。

これからは、このニュージーランド遠征での経験を自分のソフトボールまたは、早稲田大学ソフトボール部に還元していきたいと思います。そして大学ソフトボール界をより良いものにしていきます。そして、いずれは日本代表の一員として世界のソフトボーラーと勝負したいです。本当にありがとうございました。

投手 楠岡 侑也(神戸学院大学)

今回のNZ遠征は自分の人生においてとても貴重な体験になりました。

初めは即席チームということでうまく連携などが取れるか不安な部分がたくさんありました。しかし一緒にの宿舎で一緒に過ごしてコミュニケーションをとっていくうちにそんな不安はなくなり、最後にはもっとこのチームでプレイをしたいと思うようになっていました。

自分は初めてニュージーランドの選手と対戦しましたが球速で押していても通用しないことはわかっていたのでコントロールと緩急を一番に意識して投げました。日本とはストライクゾーンが違い戸惑いましたが、NZはアウトコースが広がったのでそこをいかに有効に使うかを意識して投げました。

NFCトーナメントでは2勝6敗という成績でしたが日本特有の足を生かした細かい攻撃で点を取ったりして海外の一流の選手相手に互角に戦うことができたのではないかと自分は思いました。また、この遠征で自分自身の課題もたくさん見つかりました。自分は全体的にボールが高めに浮いてしまいがちなのでそこを改善していくのがこれからの課題です。また自分はチェンジアップがあまり上手くないのですがこれ以上のレベルを目指すならばもっとチェンジアップの精度を磨かなくてはならないと感じました。NFCトーナメントには日本代表の松田光選手もNZのチームに入ってプ

レイしていましたが、松田選手はピッチングで無駄なボールがほとんどなく全てのボールが意味のあるボールだったのでそこが日本代表のピッチャーと自分との違いだと感じました。

そして、人生で初めてのホームステイも今回の遠征で経験させて頂くことができました。自分は英語が喋れないのですが自分にもわかるように簡単な英語でゆっくりと話してもらえたのでとても有難かったです。二日間と短い間しか一緒に過ごすことはできなかったのですがとても密度の濃い時間を過ごすことが出来ました。

今回のNZ遠征は一生のかけがえのない財産となりました。今回培った経験をしっかりとチームに還元し、そして自分自身も努力を忘れず技術的にも人間的にもより成長していけるように頑張ります。ありがとうございました。

投手 尾矢 祥嗣(中京学院大学)

今回の遠征でソフトボールを通して良い経験ができ、たくさんの思い出ができました。

ニュージーランドの環境は日本とは真逆の季節で、ソフトボールをプレイするのに最高の条件でした。JAPANチームの試合の結果は7位でしたが、国際大会で得た経験は今後の自身の技術向上や大学の部活仲間にも良い刺激を与えたいし、自分の地元のソフトボール環境を盛り上げたい。そして将来、日本のソフトボールを盛り上げる選手になりたいと強く思いました。

遠征中夜はほぼ毎日仲間たちと集まって、試合に勝つためにどうしたらいいのか、チームの雰囲気良くしようとか、チームで勝つということで語ったり、後輩たちの一発芸や、みんなで楽しく集まって笑いあったりしてものすごく良い思い出です。

ホームステイでは、家族みんなと一緒にBBQをごちそうになったり、写真撮ったりしました。その中で、言葉はなかなか通じませんが、ジェスチャーなどを交えて心の会話を積極的に行うことにより一生懸命コミュニケーションをとって信頼関係を持ち、「また遊びにきてね」と言われるほどの信頼関係ができました。

カーティスの家でチームのみんながお世話になった各ホームステイ先の家族やJAPANのスタッフ、カーティスのチームの方々、JAPANのみんなでホームパーティーをしてたくさんの人たちと交流し、ソフトの話などをしてお酒を飲んでみんなで盛り上がっていて、ものすごく楽しかったです。

様々な大学から限られた人を選抜し、その中の18名の1人に選ばれたことをJAPANのスタッフや日本ソフトボール協会、応援してくれている大学の先生や監督、仲間たち、高校の監督、ソフトボールに関わった人たち、両親、友人に感謝し、今回の経験をこれからの人生に生かし、頑張っていきます。

捕手 森 大祐(神戸学院大学)

ニュージーランド遠征を終えて私は、人間的にもプレイヤーとしても短期間ではあったが、成長したと実感している。

まず、私がこの“大学JAPAN”を受けようと思った理由があります。それは、高校時代、休みもなく厳しい練習にも耐えてきたのにもかかわらず、最後のインターハイ予選で負けてしまいました。その時から私は、「大学に行きインカレを制覇したい」と考えるようになりました。いざ大学に入ると理想とは異なり、内容のない練習が私自身多くなっていました。そのときにこの話を聞き、変わるチャンスだと思ったのがきっかけです。

私がこの遠征で一番に大事だと思ったことは、コミュニケーションです。チーム全員と十分にコミュニケーションをとれたのがニュージーランドについてからでした。試合まで時間が無かったので休憩時間に積極的に声を掛けていきました。そして、だんだんとコミュニケーションが取れていくにつれて試合での声掛けやチームプレイにも良い傾向として出てきました。そのため、ニュージーランドの選手たちとは力で負けていても、これらのことでカバーしていくことにより格上であるニュージーランドのチームと良い試合ができたと思います。やはりコミュニケーション能力は代表選手として一人の人間として、不可欠なことなので伸ばしていきたいと思っています。

初めて対戦する選手を瞬時に分析しそれに応じて対応していかななくてはなりません。私自身、キャッチャーとしてこの部分が足りないと思っていました。やはり、ニュージーランドの選手と対戦すると、はっきりと結果として出てきました。試合は毎日あったので、自分なりに優先順位を付けていき、自分にできることを見つけていくのが大変でした。こういう判断力はリーグ戦やインカレで勝っていくには必要になってくるので継続していきたいと思います。

今回の遠征で得たものは人生の財産になるに違いないと思います。この遠征に関わって下さった方々に感謝をしたいと思います。あと、最高のチームメイトに巡り逢えたことも感謝します。

一塁手 杉山 貴久(立命館大学)

私はこの度、全日本大学ソフトボール連盟主催の第6回全日本大学選抜ニュージーランド遠征に参加させていただいた。ニュージーランドでは、NFCトーナメントという日本の国民体育大会のような大会に参加させていただき、ニュージーランド代表であるBlack SOXに選ばれている選手も多数おり、世界の男子ソフトボールのトップレベルを肌で感じ体験することができた。私が高校3年生時にはU-19日本代表としてインドで開催されたアジア選手権に参加させていただき、海外への旅行は今回で2回目であったが、日本はもちろん、インドとはまた違った国柄や人柄、文化やソフトボール環境があり、異国の地で多少のハプニングはあったが、とても充実したニュージーランド遠征であった。試合の結果は2勝しかすることができなかったが、接戦の試合も多く小柄な日本人でも世界と戦えるという感触はあった。しかし、高橋監督がしきりに私たちに指導してくださったように、力と力の真っ向勝負では絶対に日本人は勝つことができない。精度や機動力、組織力という日本人らしさを出していかなければ世界の太柄な選手たちには勝てる要素がなく、そのためには相手がしてくれた小さなミスを見逃すことなく攻め、また私たちは相手に攻め込まれる隙を絶対に見せてはならないということを実感することが

できた。大会終了後は、観光やホームステイというソフトボール以外での貴重な体験もできた。ニュージーランドでソフトボールを頑張っている日本人の方との出会いや、日本を代表する投手の松田さんとお話をすることができ、ソフトボールについて勉強をさせていただいたと同時に、人生観的な勉強もさせていただき、非常に実りある時間であった。

最後になりましたが、このような企画・運営をしてくださった関係者に深く御礼申し上げます。この経験が決して無駄にならないよう還元し、関西リーグ全体の底上げに努めていきたい。ありがとうございました。

二塁手 中原 滉生(同志社大学)

今回のニュージーランド遠征で日本では学べない多くのことを学ぶことができ、自分自身も大きく成長したと感じている。出発日では、大雪の影響で飛行機の出発が大幅に遅れるというアクシデントや、到着後、時差や突然変わる気温や天気に対応することができず体調が優れなかった。大会では、ニュージーランド特有のストライクゾーンの広さや日本にとって不利なジャッジに苦しめられ、初日の試合において個々の能力を存分に発揮できたとは言い難かった。その中で、全選手が代表であるという自覚とプライドを持ち、チームでどう貢献し、勝利につなげていけるかということを一人心算で考えていく動きが見られた。その結果、二日目からは次第に結果に繋がり、初めはバラバラだったチームが一つにまとまった。最終的に良い結果ではなかったが、日本特有の緻密なチームプレイや大学日本代表のチームワークを本場ニュージーランドで実践することができ、日本が世界で通用すると実感した。同時にレベルの高さや国際大会特有の雰囲気や本場ニュージーランドから学び、これから高いレベルでプレイしていくために必要不可欠なものを得ることができた。

また、今回の遠征の目的の一つである国際交流においては、ホームステイを受け入れてくださった家庭にお世話になり、2日間寝食を共にした。私は日本の文化や歴史を伝え、ニュージーランド

のことについても教わり、楽しい時間を過ごした。そこでは国や言葉が違っても人は分かり合えるということを学び、ホストファミリーの方と強い絆で結ばれた。

この遠征に参加したからこそ経験できたことであり、自分自身の大きな財産となった。この遠征のためにご尽力いただいた多くの方々、団長、監督、コーチの方々、チームの仲間、全ての人に感謝してこれからソフトボールに真摯に向き合い、努力していきたいと思う。

三塁手 二宮 正地(福岡大学)

私は、2月9日～21日までの間、大学日本代表の選手としてニュージーランドに行きました。私の人生でとても良い経験になったと同時に、人として成長できた貴重なひとときでした。初めは、みんなが言っていたように寄せ集めのチームで、私としても知り合いやチームメートもおらず、どのようなチームなのか、どのようなチームになっていくか不安がありました。会話も少なく、やはり他大学としてインカレなどで戦うわけで、ライバルであり、先輩後輩などの関係からこれで大丈夫かなと思うこともありました。しかし、キャプテンを中心に時間が経つごとにみんなが打ちとけられるようになり、スタッフの方々の配慮や練習で一緒に汗を流すことによりだんだんJAPANというチームができあがってきました。

試合においては、日本というチームの特色を活かして一試合一試合を戦っていきました。やはり、ソフトボールの本場であるニュージーランドは全てにおいて日本のチームを上回っているといっても過言ではありませんでした。全ての試合を通じて個人的には心身ともにいい刺激を受けることができました。

せっかく選ばれていい体験をさせて頂いたので、これを日本の大学ソフトボールに共有するのが選ばれた私たちの役目だと感じます。大学ソフトボールの質を高め、ステータスを上げ、更に日本のソフトボールをもっと活気づけることにより、世界に日本のソフトボールを誇示できるようになると思います。

私としては、今大会でいろんな方にご迷惑をおかけしました。今、私がソフトボールができていくことにさらに感謝しなければいけないと痛感することができました。ソフトボールも一人ではできません。大会もチームがあるだけではできません。今、生きて体があり、応援してくれる人がいて、ソフトボールができていくことは当たり前ではない。それを十分に感じ、感謝してこれからのプレイをしていきます。

投手兼外野手 湯浅 拓人(日本体育大学)

私は、今回ニュージーランド遠征に参加させて頂いて、大変貴重な経験をたくさんすることができ、世界のソフトボールを肌で改めて感じる事が出来ました。なかなか出来ない経験をする事が出来たのは自分のこれからの成長材料になりました。ニュージーランドに到着してからは、他国で慣れない環境で食文化も日本とは違い、初めはみんなが戸惑いを隠せない様子も見られた部分があり、分からないことだらけで不安がありましたが、協力し合いながらやることでチームワークが生まれ日を追うごとによくなって行きました。最初は、即席チームだけあって、初対面の人が多くコミュニケーションが難しいところもありました。しかし一緒にごはんを食べ、協力して夕ご飯を作るなどして自然とひとつになり始めました。

大会に入り、初戦サウザンプライドと試合をしました。日本らしさがでて、4-3で初戦を勝利で飾ることが出来ました。だが、そのあとは、ニュージーランドの力を見せられ、なかなか勝利を手に出れませんでした。試合を追うごとに、海外特有のドロップの変化、ライズのキレ、なんといってもスピードに目も慣れてきて、後半の試合では対応していい試合を展開することが出来たと思います。私自身としては成長も見られ、また、たくさんの課題が見つかりとても濃い日々を過ごせました。

オークランドに移動してからは、ホームステイがありました。初日は緊張と、英語の分からなさで悪戦苦闘の1日でしたが、身振り手振りを使い、必死に話すように心掛けしました。最終日は少し

慣れ、色々なことを話すこともでき、またカーティスの家でパーティも開いて頂いてたくさんの思い出が作れました。

安全にニュージーランド遠征を出来たことは、たくさんの人のご協力を始め自分の親の理解と応援があったからこそ出来たことで、感謝の気持ちでいっぱいです。

外野手 溝口 聖(早稲田大学)

今回、大学選抜の一員として約2週間のニュージーランド遠征に参加させてもらい多くの学びを得ることができた。日本の大学生とは体格も実力もはるかに上のニュージーランドの選手と試合をすることでプレイスタイルの違いを実感した。日本人は外国人選手のように本塁打を量産できる打者は少ない。そのため、緻密で正確なプレイを続け、打線のつながりで点を取りにいかねばならない。そして点を与えない。これはおそらく当然の考え方であるが、これまで大学でソフトボールをしてきて完璧な試合をしなければ勝てないと感じたのは初めてであった。緻密なプレイをすることを改めて意識する良いきっかけとなった。

またプレイ以外の面でもチームの雰囲気、まとまりがいかにか結果を左右するかということに関して即席チームであったからこそより大きく感じた。同じチームであってもお互いのことをほぼ知らずに初めて臨んだニュージーランドでの練習試合はミスが多く、打線がつながらない。このチームで勝てるのかという不安もあった。しかし大会に入り、共に過ごす時間が増え、試合を重ねていくにつれまとまりがでてきて、本当のチームらしくなっていたと思う。結果的には勝利につながらなかったが、本当に良い試合が多かったと思う。

大会終了後は観光をしたり、ホームステイをしたりと大会期間中の緊張感のあるハードな生活と変わり、非常にリラックスして楽しむことができた。特にホームステイは言葉があまり分からない中での生活であったが家族の優しさのおかげで楽しむことができたし、普段とは違う刺激を受け良い経験となった。

最後にチームスタッフをはじめ、このニュージー

ランド遠征のために多大なご尽力いただいた多くの皆様には本当に感謝します。この経験をいかして大学ソフトボール、男子ソフトボールをより良いものとしていく活動にも取り組みたいと思う。

外野手 大柿 廣明(関西大学)

私は小学校から高校まで野球をしていて、大学からソフトボールを始めました。たった2年しかソフトボールをしていない自分にとって、今回のニュージーランド遠征は世界のレベルを感じられるだけでなく、日本の大学ソフトボールのトップレベルを身近に感じることができ、またその中で自分がどれぐらいやっていけるのかという期待を持って参加をしました。

ニュージーランドのレベルは予想以上に驚くべきものでした。パワー、スピードともに日本では見られないレベルの高さでした。私は主にDRとして出場し、DRとしての役割を果たすため、日本でプレイしているときよりも離塁のタイミングや先の塁を狙う走塁を意識しました。NFC Tournamentは2勝6敗で7位という結果でしたが、ほとんどが僅差の試合で日本の緻密で正確なソフトボールが世界でも通用するのだと実感しました。私自身は今大会で3盗塁を決め、盗塁ランキングトップ5に入ることができ、自分の強みに自信を持つことができました。

ソフトボールだけでなくホームステイもとても貴重な体験になりました。日本とは違う文化や価値観、英語でのコミュニケーションに戸惑いながらも、関わっていくうちに互いに理解しあうことができ、ホストファミリーとの思い出はかけがえない大切なものとなりました。

今回のニュージーランド遠征を振り返ってまず、今回の遠征に携わった大学連盟をはじめ多くのスタッフの方々、現地のサポートに対して感謝します。そしていま自分がソフトボールをできているのは、多くの人に支えられてできているのだと再確認することができました。ニュージーランドで得たことを、自らの経験として将来の大きな糧とするとともに、自分が所属するチームに還元し、これからの日本のソフトボールの普及と発展に役

立てたいと思います。

外野手 谷本 卓哉(日本体育大学)

今回、自分自身、世界大会に出場することは人生で初めての経験でした。大学の日本代表としてニュージーランドの高いレベルのソフトボールを経験できる喜びと代表選手であるという責任感、自分のソフトボールが通用するのかわからない不安などさまざまな気持ちがありました。現地に着くとすごく暖かくてソフトボールをするのに最適な環境でした。早く自分の実力を試したいという気持ちになりました。2日間の練習を終えて、大会が始まりました。ニュージーランドの選手は体格がとても大きく、ピッチャーの球はスピードが速いことに加えて変化球の変化量も多かったです。バッターはスイングのスピードも早く、パワーヒッターが多かったです。そういう相手に対して自分たち日本は、セフティーバント、スチール、エンドランなど足を絡めた緻密なソフトボールに徹しました。連打で点を取ることが難しい状況でこのような日本らしい攻め方で得点でき、勝利できたことは自分自身の自信にもつながりました。日本が外国の強豪チームに勝つには、ミスをしないこと、1つのチャンスで必ず得点すること、正確性や緻密さが求められることが今回わかりました。自分自身も技術力が向上したと思いますし、学ぶことがとても多い大会でした。

また、今回の遠征でホームステイを体験させてもらいました。英語の勉強にもなりましたし、現地の人と交流ができてとても刺激になりました。このように自分たちがホームステイできたのも、大会に出られたことも、ニュージーランドに来られたことも、色々と準備してくれたスタッフの方々、現地でガイドしてくれたカーティス、旅費を出してくれた両親、多くの人のおかげで自分たちはこの遠征に参加することができ、楽しく、貴重な時間を過ごすことができました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。今回の遠征は自分の人生の宝物になりました。ありがとうございました。

外野手 平岩 裕基(中京大学)

出発の日、雪のためダイヤが大幅に遅れ、空港で5時間待ちというアクシデントが起きましたが、その間に初めて会う仲間たちとコミュニケーションを取ることができました。

クライストチャーチに到着し練習、練習試合を行いました。他の人のプレイを見るのが初めてだったので連係などうまくいかない部分もありましたが、声でカバーし合い、高橋監督のもと大会に向けて試合に挑む準備ができました。

大会では世界トップレベルのニュージーランドのソフトボールを目の当たりにして、こんなに速い球が打てるのか、こんなにパワーがある打者を抑えることができるのかという不安と同時に自分の力がどこまで通用するのか試したい、日本の力を見せつけたいという気持ちが湧いてきました。大会を終えてみると予選リーグで1勝6敗。7位決定戦で勝利し、7位という結果に終わりましたが、どの試合も僅差の試合で勝てたと思える試合もありました。あと少しのところで勝たせてもらえなかったのも、そこにニュージーランドとの力の差を感じましたが、機動力を使った攻撃や配球、緩急をうまく使ったピッチングで日本のsmall softballを少しは見せつけることができたのかなと思います。ニュージーランドのソフトボールはパワーで押してくると思っていましたが、バントをしたり、コントロールがよかったりと想像以上のスキルを持った選手が多く、日本が勝つためには、より緻密な精度を更に磨き上げていく必要があると思いました。

この遠征に関わったすべての人に感謝し、この経験を自分のチームに持ち帰り、更なる競技力の向上に努めインカレ優勝を目標に頑張っていけます。また、高橋監督や吉田コーチ、そしてニュージーランドのソフトボールや大学選抜のチームから学んだソフトボールに対する姿勢を忘れず、今後のソフトボール人生に活かしていき、将来的には男子ソフトボール界を引っ張っていく存在になり、男子ソフトボールを変えていきたいです。

【特集2】第3回東アジアカップ 大学日本代表 再び東アジアの頂点へ

ヘッドコーチ 清水 正〈山梨学院大学〉

◆派遣選手

No.	守備	氏名	所属	学年
1	投手	秋元 菜穂	東京女子体育	2年
2	投手	池田 美樹	園田学園女子	4年
3	投手	岡村 奈々	日本体育	2年
4	投手	海部 栞菜	環太平洋	4年
5	投手	酒井 彩好	山梨学院	4年
6	捕手	平川 穂波	中京	2年
7	捕手	森田紀代美	山梨学院	3年
8	内野手	榎本 千波	城西	2年
9	内野手	亀井 愛梨	園田学園女子	4年
10	内野手	古澤 春菜	園田学園女子	4年
11	内野手	松畑 美希	日本体育	4年
12	内野手	山根すずか	東京女子体育	2年
13	内野手	山本絵梨奈	東京女子体育	4年
14	外野手	鈴木 茜	山梨学院	4年
15	外野手	田中 瑠莉	園田学園女子	3年
16	外野手	塚本 智名	中京	4年
17	外野手	村上ほのか	山梨学院	4年

◆役員・コーチングスタッフ

団 長：高橋 伸次（全日本学連理事長）
ヘッドコーチ：清水 正（山梨学院大学）
コ ー チ：長澤 淑恵（城西大学）
コーチ兼総務：伊藤 幸子（トヨタ自／中京大）
トレーナー：末広 美保（月ノ浦整体院）
帯同審判員：千葉 敬徳（（公財）日ソ協）
通 訳：高 萍（（公財）日ソ協）

◆第1次国内強化合宿

6月4日（火）～7日（水）の4日間、山梨県甲府市にある山梨学院大学砂田ツインソフトボールパークにて強化合宿を実施し、大会に向けての最終調整を行った。しかし、4月に実施された選考会以後、コーチ陣および選出された17名の選手が集合するのも、ここが最初で最後、初顔合わせでも

あり、このまま本番を迎えることとなるのである。

この短い期間でチームになるのだろうか、ましてやこの急造チームで勝てるチームなどできるであろうかと、皆が不安を抱えていたのは言うまでもなかった。さらには、今年は世界選手権の開催年度ということもあり、各国ともに国を挙げての強化をしており、本大会参加国のうち日本以外はすべてナショナルチームという状況下において、ただでさえ日本代表としてプレーすることだけでも相当の重圧がかかるなか、今年は例年以上の重圧を感じているのが手に取るように伝わっていた。しかし、たとえ日本が大学代表による派遣とはいえ、我々には「ソフトボール世界の国」としての誇りがあり、絶対に負けるわけはいかないという気持ちが強かった、だからこそこのような時に優勝することに意義があるのだと伝え「絶対優勝」を目標に合宿がスタートしたのである。

まず、主将・副主将を選手たちに選出させ、結果主将に山梨学院の村上、副主将に園田学園女子の古澤が決定し、チームが発足した。チームのテーマは最後まで日本人らしく戦うことを掲げ「とにかく粘り強く、決して諦めない」ことを皆で誓った。

今合宿の成功は、山梨県ソフトボール協会とはもとより、山梨学院大学女子ソフトボール部員の皆様の全面的な協力なくしては成し得なかった。代表チームの受け入れからグラウンド準備や整備、練習のサポート、テストマッチでのサポート等、あらゆる面において献身的に協力して頂いたことに心から感謝したい。また、テストマッチにおいては日本リーグ2部のNECアクセステクニカ様と静岡様には、お忙しい中を遠方まで足を運んでいただき、最終調整に胸を貸していただいたことに深く感謝申し上げたい。

このように、多くの方々にご協力いただき合宿ができたこと、練習やテストマッチでの内容はと

もかく、4日間でチームらしくなり、勝利への方向性も見出すことができ、戦う公算が生まれチームの士気も高まり、強い気持ちで本番に臨める合宿となったのである。

◆ 7月8日(日) 大会前日会場練習

7日の夕刻に日本を出国し、中国へ入国後のバス移動の段取りが悪く、結局ホテルに到着したのも予定より大幅に遅れ、またホテルのチェックインにも相当の時間がかかり、結局各自が部屋に入れたのは夜中となってしまう、選手たちは長時間の移動と何度となくあった待機状態で疲労困憊となってしまう、この日はとにかく早く休むように指示し、8日の午前中は休養とした。

そして、8日の午後から会場にて調整練習を行った。天気というと、常に太陽の日差しはほとんどなく上空は一面どんよりとした曇り空、しかし、気温32度前後、湿度85%以上、何もしなくても汗が滝のように噴き出してくる状態であり、選手には相当きつい環境であったことに間違いない。しかしまずは、この高温多湿の気候に体を慣らし、そして試合会場の雰囲気やグラウンド状況にも慣れなければならない。ところが、会場には更衣室もなくトイレも劣悪な状況であり、とても国際大会を開催する施設とは思えなかった。グラウンドも内野のクレー部分は赤土でガタガタ、外野の芝(雑草?)は適正な長さに刈り込みがされていなく、外野手は相当足を取られてしまうほど深く、注意が必要であった。

しかし、そのような状況下においても選手たちはすぐに適応し、厳しい環境のなかでもマイナスな言動も一切なく、次の日から始まる試合に集中しながら淡々と練習を行い、環境にも慣れてくれたのである。

◆ 6月9日(月)大会初日

試合内容をお話する前に、中国開催によるものと思われる日本と台湾への対応についてお話しておきたい。この第1試合がなぜ8:30から行われ、そして第一試合後に開会式となっていたのか、それはこの試合後にはっきりしたのである。

それは、開会式に日本と台湾は参加させてもらえなかったのである。開会式のイベントおよびセレモニーには中国と韓国のみが参加し、チーム紹介から選手紹介までされ、日本と台湾は蚊帳の外に置かれた状況だったのである。ここまできてこのような仕打ちを受けたこと、そして海外で受けたこの疎外感は悔しくもあり、またその反面、間違いなく私の闘志に火を付けてくれた瞬間でもあった。

★予選リーグ第1戦(8:30~)

日本 1000000:1

台湾 201101x:5

[日] ●池田、海部、酒井-森田

【評】初戦の相手は、このところ実力を上げている台湾ナショナルチームとの対戦となった。先攻の日本は初回、1番の古澤が四球を選び出塁、その後2番の田中がきっちりバントで送り、3番の榎本がセンター前に抜けるヒットを放ち、二塁ランナーの古澤が生還し1点を先制する。予選リーグの初戦を何としても勝っておきたい我々は、池田に先発を託し、強力打線を封じ込める作戦に出た。1回裏、案の定1番2番打者をあっさり打ち取り2アウト。いい流れだと思った矢先、突然制球が乱れ、3番打者に死球、4番打者に四球、5番打者にも四球と2アウト満塁となってしまう、続く6番打者を追い込んだものの、ライト前にヒットを打たれ2者が還り、2点逆転されてしまう。まだ回も浅いため池田の立ち直りに期待したが、3回に1点、4回に1点を取られてしまい4失点、ここで池田を諦めることにした。5回から海部を投入したが、6回に8番打者にソロホームランを打たれ5点目の追加点を与えてしまう。その後、酒井を投入し後続をきっちり抑え、追加点を与えなかった。打線は相手投手に上手く打たれてしまい2回以降は逆転できるようなチャンスも作れず、初回に挙げた1点のみ、結局初戦を台湾に1-5で負けてしまったのである。

この敗戦はすべて私の采配ミスであり、特にこのチームのエース格でもある池田は、自身にとっては初めての国際大会、それも初戦ということも

私は考えず、期待しすぎたことにより固くなり実力を発揮できなかったのである。さらには、他の選手たちも守備にはミスはなかったものの、思わぬ展開により攻撃において気持ちばかりが焦り凡打していたにも関わらず、余裕を持たせられなかったことを私自身が反省し、選手には気持ちを切り替えさせ、次の韓国戦に備えた。

★予選リーグ第2戦（14：00～）

日本 0004010：5

韓国 0000000：0

〔日〕○秋元、岡村ー森田

（本）塚本 （三）塚本 （二）森田

【評】初戦の台湾戦を落とした日本であったが、この韓国戦を勝てばまだ優勝するチャンスはいくらでもあるということを確認し、気持ちを切り替えて臨んだ。先発を託したのは秋元、初回先頭打者にライト前にヒットを許し、いきなり0アウト一塁、次の打者に送られ1アウト二塁、台湾戦のこともあり立ち上がり嫌な感じではあったが、秋元が冷静に3番打者を三振、4番打者を三塁ゴロに打ち取り初回を無得点で抑えたのである。この瞬間、チームの雰囲気が一気に変わり、台湾戦のトラウマも一気に消え、この試合いける！とチームがまとまった瞬間でもあったのであった。この日、秋元の調子は決して良くはなかったが、要所要所をしっかりと押さえてくれて何とか4回を無失点で切り抜けてくれたのである。

5回からは、この世代では最も経験豊富であり、チーム一番の球速を有する岡村を抑えに投入した。岡村は5回6回7回9人を3つの三振を含め、他すべて内野ゴロに打ち取るという素晴らしいピッチングにより、韓国を無失点で抑えたのである。

攻撃は、3回まではチャンスは作るものの決定打が出ずに無得点であったが、4回相手のミスにも乗じて2アウト満塁を作ることができ、ここで1番塚本が初球をセンターオーバーの満塁ホームランを放ち一挙に4点を挙げる。その後も6回に2アウトから9番田中が内野安打で出塁すると、1番塚本がこの日2本目の長打・三塁打を右中間に放ち、一塁ランナーの田中が一気にホームイン

5点目を挙げ、この試合、投・打ともにかみ合い5－0で韓国に勝利することとなった。

◆6月10日(火)大会2日目

★予選リーグ第3戦（9：30～）

日本 0000010：1

中国 0000000：0

〔日〕秋元、○岡村ー森田

【評】今大会優勝候補の中国ナショナルチームとの対戦となった第3戦、お互い1勝1敗同士、この試合に勝利すれば予選2位通過となる大事な試合であり、中国もやはりエースを立ててきた。

こちらは、前日同様先発に秋元、抑えに岡村とし、ゲーム展開によっては中継ぎに海部または池田と考えていた。先攻の日本は初回、2つのエラーで1アウト二・三塁の絶好のチャンスを迎えるが、さすがは中国のエース、4番山根、5番村上が両者とも三振に打ち取られ得点することができなかった。そのように得点できない状況のなかでも、先発した秋元が強力打線の中国相手に4回にピンチを迎えたものの、その場面も0点に抑え、5回2安打無得点に抑える見事なピッチングであった。野手陣もその投手の力投に答えるように、集中しノーミスで守り切った。

お互い1点が遠く、0－0で迎えた6回表日本の攻撃、1アウトから4番山根が遊撃手のエラーで出塁、続く5番村上のピッチャーゴロがセカンドフォースアウトとなり2アウト一塁となってしまふ。この時に私はタイブレークを考え始めていた。とその時、投手のワイルドピッチの隙に、村上が二塁へ進み、2アウト二塁、村上の俊足なら1打得点のチャンスとなった。その打席には6番森田、2エンド2からの5球目をしぶとくレフト前に運び、村上が一挙ホームイン、待望の1点が入ったのである。勝ち越し後6回の裏から、勝利の方程式にもなりつつあった、抑えの岡村を投入し、岡村は見事にその期待に応え、6回7回を打者6人でビシッと抑え、中国ナショナルチームを1－0の完封で撃破したのである。

〈予選リーグ戦順位〉

1 位：台湾 3 勝 0 敗 2 位：日本 2 勝 1 敗
3 位：中国 1 勝 2 敗 4 位：韓国 0 勝 3 敗

★決勝トーナメント 1 回戦

日本 2 0 1 1 0 0 0 : 4

台湾 1 0 0 0 0 0 0 : 1

〔日〕池田、岡村ー森田

(本)塚本 (二)鈴木

【評】決勝トーナメント第 1 戦である台湾戦を迎えるにあたり選手たちに 3 つのことを伝えた。

「この試合勝てば必ず優勝できる！」

「この試合は池田のリベンジ戦だ！」

「この 1 戦を全員の力を結集して、死に物狂いで勝ちに行くぞ。なぜなら、この 1 戦を落とすと 3 位決定戦に回り、もう一度そこで中国を倒すのは面倒くさい、ましてや 3 位なんてありえない。この暑い中、明日 2 勝するのはきついから絶対この試合に勝って、明日楽して決勝で待っていようぜ！」

この言葉を選手たちがどのように受け止めたのかは聞いてはいないが、試合はまさにチーム一丸となつての戦いとなった。

日本の先攻で始まった初回、1 番塚本が 3 ボール 1 ストライクからの 5 球目をセンターオーバーのホームランでいきなり 1 点先制すると、1 アウト後 3 番古澤が内野安打で出塁、2 球目にスチールをかけたがセカンドでタッチアウトにより 2 アウト。4 番山根がレフト前ヒットで出塁、5 番村上がスラップによる内野安打で 2 アウトー・二塁とし、3 球目にダブルスチール成功、2 アウト二・三塁としたところで、6 番森田がレフト前にヒットを放ち山根が生還し、初回到 2 点を先制する。その裏、リベンジ戦と位置づけた池田であったが、いきなり先頭打者に 2 球目をホームランされ 1 点を返されてしまう。2 回も池田で行ったが先頭打者の 6 番にジャストミートされ外野に持っていかれたのを見て続投を断念、ちょっとタイミングは早い岡村を 2 回 1 アウト後に投入することとなった。この交代で野手陣に本気モードが伝わったのか、3 回表先頭打者の 3 番古澤がセンター前ヒットで出塁、初球にスチールが成功し 0 アウト二

塁、4 番山根が内野安打により 0 アウトー・三塁と絶好のチャンスを作り、続く 5 番村上の内野安打の間に古澤が返り得点するも、未だランナーは残っていたが後続を断たれ 1 点に留まってしまった。

続く 4 回の攻撃は、この日当たっている 9 番鈴木が前打席の二塁打に続き、この打席もセンター前ヒットで出塁しチャンスメイク、1 番塚本の内野安打で 1 アウトー・二塁となり、2 番田中のレフト前ヒットの間に鈴木がホームインし 4 点目を挙げる。

投げては岡村が 2 回以降台湾チームに隙を与えず得点を許すことはなかった。そして、開幕戦で負けた台湾に 4 - 1 で勝利し、予定通りファイナル 1 番乗りを決めたのである。

◆ 6 月 11 日 (火) 大会 3 日目

★決勝トーナメント決勝戦 (ページシステム)

日本 対 中国・・・雨天中止

《最終順位》

優勝：日本	2 位：中国
3 位：台湾	4 位：韓国

【評】予選では台湾に勢いがあつたが途中で息切れしてしまったのか、やはり実力に勝る中国が予想通りファイナルに進出してきた。我々は初戦に台湾に敗れたものの、その後の戦略は成功し見事ファイナル進出を決めることができた。

そして、お互い試合前のフィールディングが終了し、両者優勝を目指す戦いが今から始まるぞという時に、いきなりの豪雨と雷、やむ気配のない豪雨のなか待機が続き、1 時間半後に大会中止決定、日本が優勝とのアナウンスが入り、全員が万歳！その瞬間雨が止んだ。もちろんファイナル戦を中国と戦いたかったが、優勝できたかどうかは神のみぞ知ること。ファイナルを戦わずして優勝という結果を得ることができたのは、様々な力が働き、様々な思いによって優勝させてもらったような気がする。

とにかく、選手もスタッフも優勝できた嬉しさ

はもとより、日本代表としての責任を果たすことができた安心感でいっぱいであった。

【大会に参加して】

素晴らしいスタッフ、素晴らしい選手に恵まれて、最後には素晴らしいチームに成長することができた。これもこのチームを支えてくださった多くの方たちのお蔭であり、選手団全員のお蔭と感謝に堪えない。

中国という慣れない環境下での国際大会ということで、皆ナーバスになりがちで実力を発揮できないまま終わることもありがちななか、高橋団長も我々チームに余計なストレスを与えることなくすべてにおいて暖かく見守ってくださり、やりやすい環境を作ってくれたことに感謝している。

また、長澤コーチ・伊藤コーチ・末広トレーナー・高通訳の女性スタッフ陣が率先して健康管理、食事管理、生活指導、練習指導、給水管理等を行ってくれことで、ヘッダの私が試合に勝つことだけに集中することができたのが、今回優勝できた要因のひとつだと確信している。

選手たちは、日本代表に選ばれたものの、勝負に対しての重圧と不安に満ちており、戦いへの怖さがあったと私は感じていた。そのようななか、私はその怖さを取り除くのではなく、立ち向かわせる勇気を与えるために常に選手の背中を押すためのアドバイスを続けたのである。とにかく、自信をもって逃げずに立ち向かえと、選手をその気にし、やる気にさせることのみが私の役割であった気がする。

でもやはり、さすがに大学日本代表に選ばれるだけの選手たち。すぐに不安を勇気に変え、一戦一戦、伸び伸びと立ち向かう姿には、逆にこちらが勇気をもらい、これは絶対に優勝できるチームだと確信できたのであった。

【終わりに】

まずは、大学生にこの東アジアカップという国際大会を経験する機会を与えてくださっている(公財)日本ソフトボール協会に感謝を申し上げたい。そして、大学連盟はもとより、本選手団を陰で支

えてくださった多くの人たちにも感謝を申し上げたい。

さて、我々は単なる大学日本代表ではあるが、日の丸を背負う以上は、チーム作りから結果にこだわる戦いに至るまで、先人が築き上げた「ソフトボール世界一の日本」に誇りを持ち、ナショナルチームと同じ気持ちで戦ったつもりであり、大学生でも本気になればここまでできるということを証明したかった。

なぜなら、今まで当たり前のように行われてきているこのやり方。いわゆる、一度の選考会による選手選考、3日ほどの強化合宿、そしていきなりの本大会出場等々、ややもすると単年度による自身の思い出づくりのための大会参加にもなりかねないような現行のシステムは、ジュニアでもユースにおいても当てはまることであり、これが本当に我が国の強化と言えるのか、オリンピックを見据えたナショナルチームの強化に繋がっているのか疑問を感じるのである。

今大会も東アジア限定とはいえ、各国のナショナルチームと対戦できるのであれば、しっかりと強化事業として位置づける必要があるのではないだろうか。それには、日本ソフトボール協会と連携をとりながらも大学連盟独自の取り組みとして、大学生からナショナルチームに選手を派遣できるような強化組織を立ち上げ、強化システムを構築し、その上で強化選手を選出し、それを定期的に育成強化し、その中から東アジアカップ等の国際大会へ選手を派遣する。それをさらにはナショナルチームに繋げていけるのが本来の強化の一貫事業であり、そのような発想があってもよいのではないだろうか。

今回もそうだが、大学生のトップレベルの選手たちには多くの魅力と可能性があり、ナショナルチームに匹敵する能力を有する選手も多いのである。もちろん、現在の日本リーグ選手中心での強化で問題はないのであろうが、2020年に東京オリンピックを控えた現在、今まで以上に中学・高校・大学生のタレント発掘と強化に目を向けることが大切なのではないのだろうか。

※本稿は清水監督の報告書を転載させていただきました。

女子大学日本代表 各国の代表チームを撃破し、第3回東アジアカップを制す！

(公財)日本ソフトボール協会HPから転載

去る6月9日(月)～11日(水)の3日間、中国・広東省順徳で開催されていた「第3回東アジアカップ」に出場していた女子大学日本代表が、各国の「代表チーム」を次々と撃破。見事2年ぶり2度目の優勝を飾った。

この「東アジアカップ」は、国際的に見てもソフトボールが盛んで競技力の高い東アジア地域の4チーム(日本、中国、チャイニーズタイペイ(台湾)、韓国)が集まり、さらなるレベルアップを図るとともに、オリンピック、アジア競技大会等と同じように「総合競技大会」として開催されている「東アジア競技大会」でのソフトボール競技の実施をめざし、それを一つのステップとして、東アジアからオリンピック競技復帰へのムーブメントを起こしていこうとの趣旨のもと、2012年に創設された大会であり、第1回大会(韓国・大邱で開催)には、女子大学日本代表が出場し、記念すべき第1回大会で優勝を飾り、「初代チャンピオン」となっている。

昨年は日本がホスト国としてこの大会を開催し(岐阜県揖斐川町で開催)、女子日本代表とともに女子大学日本代表も参加し、特例的な参加で順位こそつかなかったが、女子日本代表には敗れたものの、中国、チャイニーズタイペイ(台湾)、韓国の「代表チーム」を次々と撃破。実質的には「準優勝」という成績を残している。

この第3回大会も、日本を除く3チームが「代表チーム」での参加。中国、チャイニーズタイペイ(台湾)は、8月15日(金)～24日(日)、オランダ・ハーレムで開催される「第14回世界女子選手権大会」へ向けた強化・調整も兼ね、「ベストメンバー」で大会へ臨み、「世界選手権の前哨戦」とこの大会を位置づけ、韓国も9月27日(土)～10

月2日(木)、「ホスト国」として「第17回アジア競技大会」を仁川で開催することが決まっており、そこに照準を絞り、強化を進めている。

それだけに過去2回の大会以上に、参加チームは「本番モード」「臨戦態勢」で大会に臨んでくることは間違いなく、「過去最高レベルの大会」となることが予想された。

大会は、参加全チームによるシングルラウンドロビン(1回戦総当たり)の予選リーグを行い、その順位によって、決勝トーナメントでの対戦相手を決定。ソフトボール独特のシステムであるペーページシステム(敗者復活戦を含むトーナメント)で最終順位を決定する試合方式で覇が競われた。

女子大学日本代表は、大会初日(6月9日/月)、まずチャイニーズタイペイ(台湾)と対戦。先攻の女子大学日本代表は初回、1番・古澤春菜(園田学園女子大)が四球を選び、出塁すると、2番・田中瑠莉(園田学園女子大)が確実に送り、得点圏に走者を進め、3番・榎本千波(城西大)のところでヒットエンドランを仕掛けると、ショートがサードベースカバーへと動いたこともあり、打球がその動きの逆についてセンターへと抜け、二塁走者が一気にホームイン。幸先よく先取点を挙げた。

しかし、「開幕投手」に指名された池田美樹(園田学園女子大)がその裏、開幕戦特有の緊張からか、二死を簡単に取った後、突然コントロールを乱し、3連続四死球で満塁のピンチを招くと、6番打者にライト前ヒットを浴び、二者が還り、あっさり逆転を許してしまった。女子大学日本代表は海部菜菜、酒井彩好を投入し、継投策で防戦に努めたが、長打3本を含む7安打を浴び、5失点と本来のピッチングができないまま、ズルズルと失点を重ねてしまった。

打線も初回の鮮やかな先制攻撃の後には、逆転を

許し、リードされて追いかける展開になったこともあり、焦りからか、「日本らしい」攻撃が見られず、つながりを欠いたまま、わずかに3安打に封じられ、大事な初戦を1－5で落とした。

この日はダブルヘッダーとなり、続いて韓国と対戦。初戦を落としたことで、この試合も立ち上がりから重苦しい試合展開となり、先発・秋元菜穂（東京女子体育大）が3回まで無失点に抑えながら、打線がそれを援護できない。初回、2番・古澤春菜（園田学園女子大）がレフト前ヒットを放ったものの後続なく、2回表にも、この回先頭の5番・森田紀代美（山梨学院大）が二塁打を放ち、次打者の送りバントで三塁まで走者を進めながら無得点。3回表も先頭打者が敵失で出塁し、送りバントを決め、得点圏に走者を進めながら、「あと一本」が出ず、どうしても得点することができない。

迎えた4回表、敵失と2つの四球で二死満塁の好機をつかみ、1番・塚本智名（中京大）が満塁本塁打を放ち、重苦しい雰囲気をも「一振り」で吹き飛ばし、一挙4点を先制した。

これで本来のリズムを取り戻した女子大学日本代表は、6回表にも、再び1番・塚本智名（中京大）がタイムリースリーベースを放ち、ダメ押しの1点を追加。

守っては、先発・秋元菜穂（東京女子体育大）が4回まで被安打3・無失点の力投で試合を作り、5回裏からは岡村奈々（日本体育大）を投入。すでに「U16日本代表」「U19日本代表」「日本代表」と各世代で「日本代表」として「世界の舞台」を経験してきた「実力派」が、貫禄のピッチングで韓国打線を抑え込み、3イニングをパーフェクトピッチング。韓国打線に最後まで得点を許さず、5－0の完封勝利を収め、今大会初勝利を挙げた。

大会2日目（6月10日／火）、女子大学日本代表は、予選リーグ最終戦で中国と対戦。試合は韓国戦に続き、先発に起用された秋元菜穂（東京女子体育大）が好投。中国打線をわずか1安打に抑

え、4回まで無失点に封じ、5回裏から岡村奈々（日本体育大）にバトンタッチ。女子大学日本代表の「勝利の方程式」で中国打線に得点を許さず、試合は終盤を迎えた。

女子大学日本代表は6回表、相手守備の乱れから二死二塁のチャンスをつかみ、6番・森田紀代美（山梨学院大）がレフト前にタイムリー。二塁走者を迎え入れ、待望の先取点を挙げた。

1点のリードをもらった岡村奈々（日本体育大）は、6回裏、7回裏を一人の走者も許さぬパーフェクトピッチングで締めくくり、最少得点差を守り抜き、1－0の完封勝利。予選リーグ2位通過を決めた。

この日もダブルヘッダーとなり、決勝トーナメントの初戦は、予選リーグで唯一敗れた予選1位のチャイニーズタイペイ（台湾）との対戦となり、先攻の女子大学日本代表が1番・塚本智名（中京大）の先頭打者本塁打で先手を取ると、二死後、4番・山根すずか（東京女子体育大）、5番・村上ほのか（山梨学院大）、6番・森田紀代美（山梨学院大）の3連打で1点を追加。鮮やかな先制攻撃でこの回2点を先制した。

女子大学日本代表の先発・池田美樹（園田学園女子大）は、その立ち上がり、いきなり先頭打者に本塁打を浴びると、清水正ヘッドコーチは、この大会での「勝利の方程式」「必勝パターン」となっている岡村奈々（日本体育大）の投入を早めに決断。2回途中での継投策に出ると、岡村奈々（日本体育大）は毎回のように走者は出すものの、「粘り」のピッチングで追加点を許さない。

この力投に打線も応え、3回表には3番・古澤春菜（園田学園女子大）、4番・山根すずか（東京女子体育大）、5番・村上ほのか（山梨学院大）の3連打で1点を追加。4回表には、9番・鈴木茜（山梨学院大）のセンター前ヒット、相手守備の乱れなどで一死一・二塁のチャンスをつかみ、2番・田中瑠莉（園田学園女子大）がレフト前にタイムリー。4点目を奪い、徐々にリードを広げた。

最後は、今大会「抑えの切り札」とした大活躍

の岡村奈々（日本体育大）がロングリリーフで最後を締め、4－1で勝利を収め、決勝進出を決めた。

大会最終日（6月11日／水）、まず女子大学日本代表に敗れ、敗者復活戦に回ったチャイニーズタイペイ（台湾）と、韓国を破り、勝ち上がってきた中国が対戦。中国が4－2で勝利を収め、決勝進出を決め、女子大学日本代表との対戦が決まった。

決勝を控え、女子大学日本代表が試合前のシートノックに入ると、豪雨に見舞われ、グラウンドコンディションが悪化。試合を行うことは不可能と判断され、決勝戦は中止。それまでの成績で女子大学日本代表の優勝が決定した。

清水正ヘッドコーチ（山梨学院大）は、「今大会でチームの指揮を執るにあたり、選手たちには言い続けてきたことは、どんな状況になっても、最後まで諦めず、戦おうということであった。選手たちは皆、大学を代表する選手たちであり、技術も力も十分に持っている。とにかく、最後まで諦めず、ひたむきに、粘り強く戦うことができれば、自ずと勝利をつかむことができると言い続けてきた。選手たちはそれを大会を通して実行に移し、一試合一試合力を残すことなく、全力で戦い抜いてくれた。それがこのチームの唯一無二の『テーマ』であり、直前合宿のときから、それを徹底し、やり抜き、やり遂げたことが、各国の代表チームを向こうに回しての優勝につながったと思う」と優勝の喜びを語った。また、「今回は天候が味方してくれる運もあった。大会直前の強化合宿は全国的な豪雨であったにもかかわらず、ウチ（山梨学院大）のグラウンドだけ雨が降らないという奇跡的な出来事からはじまり、今度はその雨が優勝を後押ししてくれた。合宿の時は、テストマッチの相手をしてくれたNECアクセステクニカも、静甲も、『この雨で試合ができるわけがない』といって、山梨へ来ることさえ拒んでいたのに、本当にウチの大学のグラウンドだけ雨が避け

て通り、ほぼ予定されたスケジュールを消化することができた。それでチームを仕上げることで、今度はその雨が私たちの優勝を後押ししてくれるなんて……何か運命的なものを感じます」と、不思議なほど天候を味方につけた『幸運』に感謝し、「もちろん試合をやっているだけでも勝つ自信はあった。初戦こそ落としたが、その試合を教訓にすぐに修正し、いろんな球種を見せ、使い、相手をおかわりしようとするような『逃げ』のピッチングではなく、通用する、使えると感じたボールを中心に『攻め』の配球に徹したことがよかったと思う。その結果、内野ゴロを打たせ、しっかりと守る日本の持ち味を生かす試合ができた。キャッチャーの森田紀代美（山梨学院大）が攻守に冴えていたし、若くして国際経験、代表経験豊富な岡村奈々（日本体育大）、3年連続でこの大会に出場している塚本智名（中京大）が投打の中心となり、チームを引っ張ってくれた。やはりそういう経験を積んでいる選手は違うな……と感じた。スタッフのチームワークもよく、いい雰囲気大会を戦うことができた。とにかく今はホッとしているし、支えてくださった多くの皆さんに感謝したい」と、優勝の喜びを語った。

決勝戦が行われないままの優勝は、少々「拍子抜け」の感もあったが、それでも各国の「代表チーム」を相手に、勝ち獲ったこの優勝は、価値あるものといえるだろう。「日本代表」に次ぐカテゴリーである「大学日本代表」が、これだけの力を持っているという「事実」は心強い限りであり、「未来」に大きな希望を与えるものである。

世界選手権でも上位に入る中国、チャイニーズタイペイ（台湾）を破ったということは、世界でもトップレベルの力を有していることを証明している。「世界最高レベル」といわれる日本リーグで活躍する選手たちとともに、大学勢が競い合い、切磋琢磨していくことで、日本のソフトボールのレベルはさらに上がっていくことだろう。

2020年東京オリンピック競技復帰へ向けた期待が膨らむ中、もしそれが実現すれば、その「主役」となるのは、今回の東アジアカップを制した

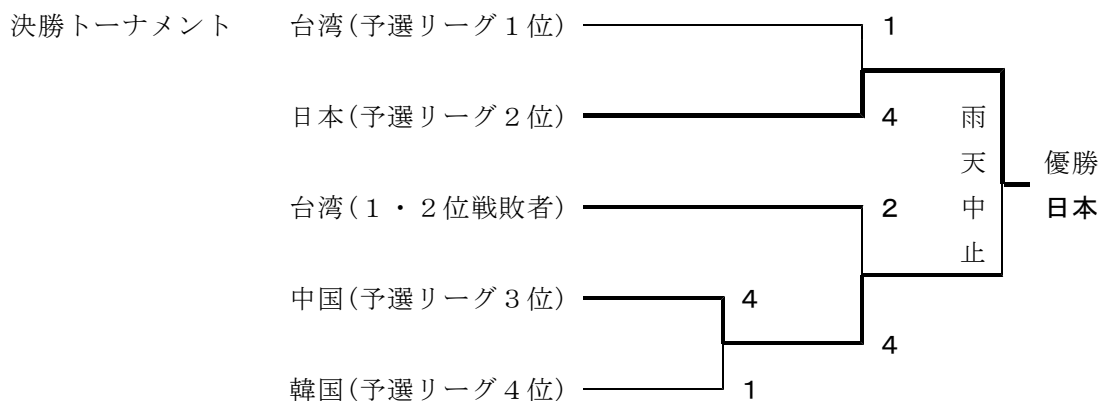
選手たちかもしれない……。

本大会の個人表彰（編集部註）

大会MVP：塚本智名選手（中京大学）

優秀投手賞：岡村奈々選手（日本体育大学）

予選	日 本	台 湾	中 国	韓 国	勝	敗	得点	失点	順 位
日本		● 5 - 1	○ 1 - 0	○ 5 - 0	2	1	11	1	2 位
台湾	○ 5 - 1		○ 7 - 0	○ 5 - 2	3	0	17	3	1 位
中国	● 0 - 1	● 0 - 7		○ 6 - 2	1	2	6	10	3 位
韓国	● 0 - 5	● 2 - 5	● 2 - 6		0	3	4	16	4 位



第3回東アジアカップに参加して

投手 秋元 菜穂（東京女子体育大学）

今回アジアカップは、私にとって初めての国際試合となりました。山梨学園での合宿は、実業団と練習試合を行いチームにとってとても良い調整が出来たと思います。また、私自身も良いイメージで本戦を迎えることが出来ました。技術面ではインコースを投げ込むことが苦手な私にとって、清水先生から指導して頂いた、アウトコースはボールを投げインコースで勝負する、という配球はとても難しく感じました。ですが、この大会を通じて、その苦手意識は技術面の問題ではなく気持ちの問題であることを実感し、ピッチングや配球に対する考え方がすごく変わりました。この合宿は、チームの結束力が強まり、とても意義のある

ものだったと思います。

大会では、韓国戦と中国戦の先発を任せてもらい、本当に良い経験をすることが出来ました。普段、日本で行う試合はどんな試合も緊張してしまうのですが、今大会は自分自身も驚く程緊張しませんでした。緊張せず楽に投げることが、今回の結果に繋がったのだと思います。環境が変わっても、この感覚を忘れず自チームで発揮していきたいです。

最後に一つ心残りがあります。それは決勝戦で投げられなかったことです。今大会で学んだことを全て出し切ろうと思っていたので、悔しい気持ちでいっぱいですが、この“投げたい”という気持ちが今後の私を大きく成長させてくれると信じて

います。

たくさんの方の支えがあつての優勝です。9日間大変お世話になりました。ありがとうございました。

投手 池田 美樹（園田学園女子大学）

私は、初めての代表選出、初めての国際試合で、環境の違いに最初は、緊張やいろいろな戸惑いがありました。しかし、3日間の国内強化合宿を経て、チームメイトや監督、コーチとの絆は深まり、短期間でのチーム結成ではありましたが、コミュニケーションを密に取りながら、十分な調整をして中国に乗り込むことができたと思います。

中国、順徳は6月の平均気温30度を超え、湿度も高く、日本の気候との違いをすごく感じました。また、食事面でも気を遣うことが多く、いかにベストな状態で試合に臨めるかが大切だと感じました。また、ゲームでは、日本人選手と外国人選手のパワーの違いやストライクゾーンの違いを感じ、国際試合では、このような気候や環境の変化に対応できる、順応性が必要だと思いました。

チームは試合を重ねるごとに、チームワークが増し、気持ちを一つにして戦うことができたと思います。限られた時間の中で、チームが一つになることは、そんなに簡単なことではないと思っていましたが、目標にしていた優勝をするためには、何をしなければならないのかを全員が考えられていたからこそ、支え合い、気持ちを一つにできたのだと思います。また、チーム内では、「最後まで諦めず、粘り強く戦い抜くこと」を国内合宿のときから取り組んでいました。決勝戦は雨天のため行われませんでしたが、この取り組みがあったからこそ全員で優勝をすることができたと思います。個人的には、チームの足を引っ張ってしまう結果となりましたが、登板したときの今までにない責任感や緊張感、充実感を味わうことができました。この経験は、東アジアカップだけで終わるものではなく、次につながる経験となりました。私が身をもって体験したことをチームに持ち帰り、どんどん伝えていきたいと思っていますし、ソフトボールがもっと沢山の人々に知られ、オリンピ

ック種目になることを願います。

また、この大会を通して、チームがスムーズに運営できるようにと協力して下さった、すべての皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。これから、感謝の気持ちを忘れずに、ソフトボールを通じて、沢山の人々と繋がっていったらと思います。短い期間ではありましたが、チームメイトやたくさんの方々を支えられて過ごした9日間は、私にとって大きな財産となり、誇りでもあります。応援して下さった皆様、本当にありがとうございました。

投手 岡村 奈々（日本体育大学）

6月9日から11日まで第3回アジアカップがありました。事前合宿も4日から三日間と短かったのですが、日が増すごとにまとまってとても居心地が良いチームだと感じました。慣れない海外の地でしたが、長澤先生や伊藤さん、ピンさんや末広さんなどスタッフの方々のお蔭で不自由なく、試合や練習に集中することが出来ました。本当に感謝しています。

9日から始まった予選から、私は試合に登板させてもらった際にはしっかり任せられたイニングを投げきることと、清水先生よりアウトコースはボールでもいいからインコースを投げるときはより集中して思いっきり投げるように指導して頂いていたのでそのことだけを意識して投げました。大会二試合目の韓国戦は私にとって初登板で、少し緊張しましたが落ち着いて投げる事が出来ました。二日目は一番意識してきた中国戦で今日この二試合を絶対に勝ち抜くことが優勝に一番近づける方法でした。

中国戦はピンチもありましたが1点を守り抜くことができ勝つことが出来ました。二試合目は、台湾で一試合目のリベンジ戦でした。私は2回の途中から登板させて頂き、7回まで0で抑え投げ抜くことが出来ました。野手の支えもあり、またバックやベンチからの声掛けも沢山聞こえてとても心強かったです。そして私自身この試合で感じたことは、「間の取り方・大切さ」です。自分のテンポを大切に、投げる前に一呼吸置いて気持ち

を落ち着かせ投げると自然と良い球がいきました。一打で点が入るようなピンチのときも、落ち着いて投げ込むことが出来ました。清水先生から試合中よく「集中・集中!」という声掛けがありました。が、バッターやキャッチャーミットに集中出来ていたと思います。

最終日の決勝戦では、中国が台湾を破り戦う予定でしたがシートノック中に大雨が降り出し試合が中止になってしまいました。予選で1位だったので日本が優勝になりましたが、最後試合ができなくてとても残念に思いました。ですが、優勝は優勝です。あの台湾との試合に負けていたら、この優勝はなかったかもしれません。

大会を終えて感じたことは、スタッフをはじめ色々な方々のサポートのお蔭で優勝することが出来たことです。感謝の気持ちでいっぱいです。そして、私はBEST PITCHER賞も頂くことが出来ました。本当に嬉しかったです。この経験が無駄にせず、これから繋げていきます。清水先生率いるこのチームに選んでもらって、優勝できて本当に最高の経験が出来ました。ありがとうございました。

投手 海部 栞菜 (環太平洋大学)

6月4日から12日までの大学日本代表として選考されたことにとても感謝しています。

4日から山梨学院大学で行われた事前合宿は毎日がとても有意義なものでした。山梨学院大学の選手の皆さんにはとても感謝の気持ちでいっぱい。いろいろなことに気を使っただき、本当に毎日が充実していました。初の代表選考だった私は、本当にはじめは不安と緊張でいっぱいでした。ですが、4年生の中に経験者が多いこともあり、その不安はすぐ薄れて行きました。集まった初日から実践練習だったのですが、慣れない中でのことだったので確認事項がとても多くありました。個々の能力が高い分、結束力良いと思いました。そして、5日、6日のテストマッチでは実業団さんの胸を借り、一生懸命にやらなければいけない課題に対して向かうことが出来ました。ピッチャーとしてインコースは強気に、アウトコース

はボールで良いという課題に対して実践して反省しての繰り返しではありましたが手応えはありました。実践の中で私の中で大切にしていたのはチームメイトとのコミュニケーションでした。顔見知りもいれば、何も知らない選手も居たりと人見知りの私には苦勞しました。ですが、コミュニケーションするように心掛けました。

中国へ旅立ち、現地に着いてからは苦勞ばかりでした。いろんなことに気を配り、何もかも分からないことだらけでした。衛生面については事前の話を聞いたりしていましたが、予想以上のものでした。8日の現地での初めての練習はグラウンドや気候に慣れるまでとても大変でした。ケース練習中もこまめに水分補給するなど体調管理が大変難しかったです。ですが、裏で動いてくださるスタッフの方々のおかげでスムーズに練習が出来ました。

東アジアカップ本番を迎えた9日は開会式を前に試合ということでとても朝は忙しいものでした。初戦の台湾戦は大学生らしいはつらつとしたプレーが出来なかったのは残念に思います。この試合で登板の機会をいただきましたが失点をしてしまい、点差を広げてしまう結果となりました。個人的にとっても残念な結果でした。日本としては2試合目の韓国戦は自分たちらしく元気に粘り強く試合が出来たと思いました。

大会2日目も1試合目ということで前日と同じ行動だったので、体は動きやすかったです。相手は中国ということで緊迫した試合でした。私はブルペンで準備だけでしたが、良い方の緊張感でいっぱいでした。この試合では代打で打席に立つことが出来て、後悔のない打席になりました。三振という結果でしたが、フルスイングが出来たので、私の中では納得でした。

投手 酒井 彩好 (山梨学院大学)

清水監督をはじめスタッフの方々には私たちがソフトボールをやりやすい雰囲気や環境を与えていただきありがとうございました。そして、事前合宿では山梨学院大学の選手の皆さんには練習から練習試合までお手伝いをしていただき感謝して

います。

この短期間で優勝という最高の結果を残せたのは私自身大きな経験になりました。大会に臨むまでの4日間の事前合宿でのチーム作りや優勝という目標に気持ちを一つにするということは短期間では厳しいと思っていました。ですが、選手間でコンビネーションプレーなどは一つ一つ気になる部分を全員で意見を交わし解消していきました。そこで感じたことはコミュニケーションを取り全員の気持ちを一つにすることは短期間でも可能だということが証明できました。

チーム作りは選手間だけでなくスタッフさんと選手とのコミュニケーションも取れていたのが相談やケアの事についても気軽に話させていただくことができました。大事な試合前のミーティングでは清水監督からお話がありそこでも気合いの入る言葉を頂き心に響きました。それはしっかりスタッフさんと選手の間でも信頼関係があったからこそ響くものがありチーム力も上がったと思います。絶対に落とせない中国戦や台湾戦ではしっかりと勝つことができました。勝つことができたのは清水監督の言葉が胸に響き感謝の気持ちを結果として残さないといけなかったからです。今回のチームは粘りのチームだとおっしゃっていました。自分たちのチームの特徴を個々が頭にインプットしプレイしていたので試合中の声掛けなどもそれに近い声掛けをしていました。どんなにピンチの場面でも落ち着いて日本らしい大学生らしいスタイルでプレイをすることができました。他国のチームは大学生ではなくナショナルチームでしたが各国の雰囲気にもみこまれず自分たちのソフトボールをすることができたので勝利に繋がったのだと思います。東アジアの各国の選手を見ると勝負の場面では気持ちをあらわにし気迫が伝わってきました。やはり気迫で相手を圧倒させるパワーを持っている選手は勝負を楽しんでいると感じました。

17人という限られた人数の中、大学ジャパンという自覚を持ちプレーしたからこそ優勝という結果が残せたのだと思います。スタッフのみなさん、中国まで応援に駆け付けてくれた保護者さん、お

手伝いしてくれた山梨学院大学のみなさんのおかげで優勝することができました。本当にありがとうございました。

捕手 平川 穂波（中京大学）

山梨合宿と中国遠征を通して、あのチームで優勝できて嬉しかったというのが率直な感想です。昨年のU19に引き続き、日の丸を背負って戦いましたが、2年連続で優勝出来たのは嬉しかったです。こんな経験は滅多にできないことだと思うので、今後に生かしていきたいと思っています。

具体的なことをいいますと、短期間でのチーム作りの中でみんなでまとまり、優勝という喜びをみんなで分かち合えたのにはすごく感動しました。短期間のチーム作りでは、自分の所属チームと比べないことや、普段の当たり前と短期チームの当たり前との相違点を理解し対応すること、そしてなによりコミュニケーションをたくさんとることが重要だと感じました。

また、二年生ながら選んでいただき、私なりにできることを探して行動するよう心がけました。チームのための自分を意識し、行動した結果が今回の結果です。

個人的な話になってしまいますが、岡村投手の個人賞受賞がとても嬉しかったです。ブルペンでたくさんの球を捕り、キャッチャー目線からのことを伝えたりしていたので、マウンドで結果を出してくれて本当にキャッチャーやってよかったと思いました。

正直、試合に出たかったという思いもありましたが、私自身の力不足です。今後は今までより努力し、また日の丸背負って世界と戦えるよう、先輩方から学んだことを忘れずに頑張っていきたいです。2年生で選ばれた以上来年以降も期待されると思うので、期待に応えられるよう、頑張ります。すごく楽しくて嬉しくて、少し悔しい、充実した9日間でした。

捕手 森田 紀代美（山梨学院大学）

東アジアカップを優勝という形で終わることができました。それはやはり、周りの人のサポート

があったからだと思っています。陰ながら、サポートしてくださった方々には、本当に感謝の気持ちで一杯です。

6月4日からの合宿がスタートしました。5日6日と練習試合をしてからの出発になりました。やはり、本番までの5日間でチームとしてまとまらなければいけないことはとても難しく感じました。私の中では、選手・スタッフとコミュニケーションを多く取ることを心がけました。その結果、お互いを知ることができたので、不安感なく試合に入ることができました。どんなに短期間であったとしても、全員がチームとしてまとまろうと思えば、一つになれることを実感しました。

チームの徹底としては、「粘り強く・諦めずに」という言葉をテーマに試合に臨みました。その結果、試合で弱気になることもなく、とにかく諦めずに強気で立ち向かうことができました。一人一人が場面に応じた役割を果たすことで、大きな連携ミスなどもなく試合を進めることができました。技術面をどうこうするよりも、自分自身もっている最大の力を出し切ることで、派手にやるのではなくいつも通りにプレーすることを意識して取り組みました。初戦の台湾戦では、堅苦しく、自分たちのペースで試合を運ぶことができませんでした。しかし、2試合目の韓国戦以降では、小技を中心に繋ぐバッティングや堅実な守備でチームカラーを出すことができました。

チームの目標は一つであり、誰一人違う方向を向く人はいなく、全員で同じ方向に向かって戦うことができました。選手17人・スタッフ6人でチームになれたからこそ取れた優勝だと思います。この、東アジアカップで学んだこと、経験したことを胸にこれからも頑張っていきたいと思っています。

内野手 榎本 千波（城西大学）

今回、大学日本代表に選ばれ東アジアカップに出場することが出来、沢山のことを学び、感じる事が出来ました。大会に入るにあたって、私は「優勝するために、自分を活かしチームにどんな形で貢献しよう」という気持ちでいました。昨年、世界ジュニア大会に出場し、国際大会の独特

な雰囲気や、国際ルールを経験し、また、各チームの主力が集まり短期間で一つのものを目指しチームを作るという、難しさも経験してきました。それを踏まえて、私は「優勝するために、自分を活かしチームにどんな形で貢献しよう」という気持ちでいました。

山梨学院での合宿から始まり、試合に活かしていけるような練習をしたり、リーグで戦うチームと試合をさせていただいたり、大会に臨むにあたりとても良い環境を作ってくださいました。そこでの練習や試合で私は『D P』という役割を与えられました。守備では私も圧倒される堅い守備を先輩方がしていて、尊敬しました。まずそこで、「もっと私も練習してこんな守備ができるようになりたい」という気持ちが生まれました。正直、私の技術はまだまだ叶わなくて悔しいなと思います。だからこそ、今回与えられた『D P』という役割で「100%の力をだす」と、気合を入れていました。しかし、緊張や雰囲気などで思った以上に自分のいつも通りのプレイができず、結果が残せなくて「ダメだな、悔しいな」と思いました。中国へ行って大会が始まってからも、私の結果は伸びずプレイで貢献することはほとんどできませんでした。本当に悔しくて、悔しくて、応援して下さる皆さんや、自分がでる代わりにベンチにいて大声で声をかけてくれていた仲間に申し訳ない、という気持ちでいっぱいでした。でも、それを受け止めてションボリしているようでは結果が残せていないどころか何も貢献出来ていない。と思い、ベンチにいる時間が長かったので中でプレイしている人が見えないところや、盛り上げるところで、とにかく声を出そうと思いました。結局、数字で残る記録としてはほとんど結果を残すことが出来ずに、大会が終わってしまったのですが、まさに「粘り強さ」と「チーム力」で優勝することができて、とても嬉しく思います。本当に周りの人の力と沢山の人の思いがなかったら絶対に優勝することは出来なかったと思います。

私は、今回の大会を自分が不甲斐ない結果で終わりましたがこの9日間という短い期間で、沢山のことを感じる事が出来ました。そして、新た

に目標も出来ました。それは、大学生活残りの2年間で2回大学代表に選ばれ、東アジアカップにスタメン出場し優勝することです。今回の悔しい思いと、良い経験を忘れず自分を奮い立たせて練習していきたいです。そして、私の最大の目標は2020年の東京オリンピックに出場することです。その目標へ向けて、今回の悔しい思いと、良い経験を忘れず自分を奮い立たせて練習していきたいです。また、自分のメンタルの弱さも思い知らされたので、心を強く挑戦していきたいです。

最後になりましたが、今大会に出場にするにあたり、高橋団長、清水ヘッドコーチをはじめ、スタッフの皆様、練習に全面的に協力してくださった山梨学院大学の皆さん、他にも遠くから声援を送って下さった方々、本当にありがとうございました。皆様の力なくしては、優勝という結果は得ることは出来なかったと思います。今後も、ソフトボールを続けていくうえで、沢山の方にお世話になると思います。絶対に感謝の心を忘れず、純粋な気持ちでソフトボールをしていきたいと思えます。ありがとうございました。

内野手 亀井 愛梨（園田学園女子大学）

今回、大学日本代表として東アジアカップを経験して、今までにない経験がたくさんありました。中国で開催されるということで、言葉も全く通じず困ったこともありました。試合を通して感じたことは、外国人の打球の速さは日本人と違いとても速く、守備側ではもっと今以上のスピードが必要だと思いました。打球が速くてバントの確率が低く、その分ゲッツーを多くとれたことは、とても有利な試合運びになっていったと思います。ストライクゾーンの広さには驚きました。日本の場合では、いつもボールとコールされる場所でも、今回はストライクと言われ、いろいろなことを考えてしまいバットが全く出ない状況になってしまいました。そこですぐに対応できるようなバッターにならなければ、上になればなるほど通用しないと思いました。試合展開の流れが遅く、リズムを作るのが難しかったように感じました。それに、今までに経験したことがないくらいのジメジメし

た暑さで、体力がすぐに奪われていくのがわかりました。

食事面では、食べれるものが少なく、初めの頃はどうかと思っていましたが、その中でいかに良いパフォーマンスをするためには、やっぱりしっかり食べなければいけないと思いました。自分自身でどう補っていくのか考える毎日でした。

チーム全体的に、最後まで諦めず粘り強く戦っていけば、自然に結果はついてくるととても思いました。日が経つにつれ、チームワークも深まり意見を言い合うなど、大学生らしい良いチームになることができました。これも支えて下さった監督、コーチ、トレーナー、通訳さん、保護者、現地の方々のおかげだと思います。

今こうしてソフトボールができて環境は、日本はとても恵まれていると感じました。球場で試合をすることができたり、練習会場が必ずあったり、いい道具が揃っていたりなど、他の国ではないことが日本ではあたりまえのようにできています。このようなことをあたりまえと思わず、感謝しながらソフトボールを楽しんでいきたいです。

この東アジアカップは唯一大学生が世界のレベルで挑戦できる貴重な大会です。このような大会を通してオリンピックに少しでも近づけていけたらいいなと思います。そして今回、この大会のために国内合宿で山梨学院大学の方々が、朝早くからグラウンド整備などソフトボールをしやすい環境を作ってくださり、しっかりと準備して大会に臨むことができたからこそ優勝することができたと思います。本当にありがとうございました。

この経験を生かし、これからももっともっと上を目指して頑張っていきたいです。

内野手 古澤 春菜（園田学園女子大学）

私自身も今回で3回目の東アジアカップとなった。優勝は難しいのでは、と危ぶまれるなかで結果的に優勝という形で終わられたこと大変嬉しく思う。悪天候で決勝戦は行われず予選での結果が優勝という形になったが、初代チャンピオンの意地を見せつけられた気がする。国内合宿の時も雨で、グラウンド整備などを同じ大学生達が何から

何まで行い、支えてくれた。そのお陰で、いいコンディションで大会を迎えることができた。いつもは敵でライバルの仲間達と9日間生活を共にし、何気ない会話やコミュニケーションをたくさんとることで少しずつチームワークができていった。又、大学生や実業団の方々を相手に国内合宿などで試合を重ねると共にチームが一つになり、選手同士だけでなくスタッフの方々と一体感が日を重ねることに増していった。日本人の私たちと海外の選手と比べて、打球の速さだったり、体のサイズ・パワーは全然違った。しかし今回のテーマである“ねばり強く、最後まで諦めず戦う”ということ全員で徹底して相手にぶつかり、どんなピンチや逆境があっても一人一人の活躍で乗り越えることができた。日本らしく、泥臭くソフトボールをすることが勝利に導いたのだと思う。自チームでも掲げているテーマでもあったので、自分らしく戦うことができた。この大会を通して、自分自身の未熟さが痛感でき数々の課題が見つかった。いつもはライバルである仲間達の良い所を吸収し、自チームに帰って磨き直し、さらなる進化を遂げたい。この経験を自分自身だけの経験にするのではなく、仲間達、後輩達と共有していきたいと考える。このメンバー、スタッフの方々に出逢えたこと、こんなにも良い経験が出来たことに感謝したい。また、2020年のオリンピック復活に向けての弾みになってほしい！！

内野手 松畑 美希（日本体育大学）

今回の東アジアカップは、私にとって2度目の挑戦でした。今年は最上級生というのもあり昨年より気持ちに余裕がありましたが、いざスタッフの方やチームメートと顔合わせをした時は全身に緊張感がはしり、選ばれた責任とともにこのチームで絶対優勝したいと思いました。短い期間での合宿となりましたがすぐにみんなうちとける事も出来たし、スタッフの方とも良い関係になることが出来、とてもいいチーム状況で中国に入れました。通訳の方や、トレーナーの方、スタッフの方のおかげでとても過ごしやすい生活を送ることが出来ました。一戦一戦気の抜けない試合展開が続

きましたが、清水監督からの粘り強くという言葉全員で繰り返し最後まで戦い抜けたと思います。決勝戦は雨で中止になってしまいこのチームで出来る試合数が減ってしまい残念でしたが、優勝という結果を残すことが出来て本当のよかったです。私自身ふがいない事ばかりで悔しい気持ちはありますが、今回の課題や素晴らしいプレイを頭にしっかりと残して、今後自チームに帰って活かしていきたいと思います。

高橋団長をはじめ、清水監督、長澤さん、伊藤さん、末広さん、ピンさん率いるこのチームでプレイすることが出来て優勝することができてとてもいい経験が出来ました。本当にありがとうございました。

内野手 山根 すずか（東京女子体育大学）

今回の東アジアカップでは日本での合宿から中国と本当にたくさんの方にお世話になりました。日本の合宿では山梨学院大学の選手にも練習のバックアップをしていただいてとてもいい環境で練習に取り組みました。各大学から集まっている選手なので個々の技術があってもそれをどのように生かすのか連携プレイが本当に難しかったです。バッティングではISFのバットで打つ練習をし、感覚をつかむようにしました。練習試合では個々のプレイよりもチームのプレイを大切にしました。次のプレイの声かけや誰がベースに入るのか、カットに入るのか細かい部分まで確かめながら試合ができてよかったです。雨の予報ではあったにもかかわらず練習試合ができたこと、雨が降っても雨天練習場でバッティング練習などができ、本当に環境がよく気持ちよく大会前の練習ができました。試合が近づくにつれて緊張もありましたが、各大学から集まったメンバーだとは思えないぐらいにミーティングでは意見が出てサインを全員で決めたりと充実した時間を過ごすことができました。

中国では環境も違うなかで食生活から気を遣い、ただプレイをすればいいわけではないと感じました。環境が違う中でもいつも通りにプレイができる選手がいい選手であり、強いチームになるんだ

と感じました。食べなければ体力は持たなく、体調管理は1番難しかったです。気候も日本とは違い、蒸し暑くただ外に立っているだけでも汗が出てきました。1日2試合とこの環境では本当に厳しかったのですが、1試合1試合こなすなかでチームがすごくまとまっているのが感じました。初戦は負けてしまったのですが、そこでチームがこれではいけない。自分達に何が足りないのかどうしたら自分達の力が出せるのかなど試合と試合の短い時間で話し合い次の試合に繋げていきました。この負けを次に生かしてどのようなチーム作りをしていくのかなど細かいところまで話すことができました。日本の選手が相手ではないことによってどんな選手がわからない部分から油断がでたり、自分達の中でもミスが出たりと悪いところもあったのですがそれ以上に全員が勝ちにこだわった気持ちで試合に取り組めたことがとても良かったと思います。決勝トーナメントでは1回の負けも許されない厳しい戦いとなりましたが、1試合1試合チームの団結力が目に見えてわかりこのチームだと負けることはないと感じました。結果として決勝戦は雨の為、中止になり試合ができずに終わってしまいましたが、このチームで優勝できたことは本当に嬉しく思います。この優勝もチームだけではなく、日本から応援してくださっている方々や、朝早くからおにぎりを作って下さったりと私たちにバックアップしてくれた方がいて優勝を勝ち取ることができたと思いました。

短期間だったのですが、自チームでは経験できないことがこのチームで経験できました。もうこのチームでは試合することはできませんが、自チームに帰りこの経験を生かして今後のソフトボールに繋げていきたいと思います。

内野手 山本 絵梨奈 (東京女子体育大学)

今回は3度目の東アジアカップ出場となりました。チームは例年と同様、短期結成でしたが、日に日にチームとして団結を感じられるようになり、最後はこのチームでもっと試合がしたいと感じるほど良いチームでした。今年のチームは良いチームというだけでなく、結果として優勝することが

できました。単に良いチームではなく勝てるチームになれたのは、清水先生をはじめとするスタッフの方々のおかげでした。本当に良い経験、良い想いをさせて頂きました。

個人的な結果としては、先生方の期待に応えられず大変申し訳ない気持ちと悔しい気持ちですが、今回の遠征で自分自身の課題を沢山見つけることが出来ました。この課題は自チームに戻り克服し、生かしていきます。そして、またこのような機会を頂けたときに力を発揮できるように日々精進していきたいと思います。

今回の遠征では海外遠征でしか味わうことのできないことや気付けないこと等、短期間でしたが全てが本当に良い経験になりました。また、厳しい環境の中での遠征でしたがソフトボールに集中できる環境に整えてくださったスタッフの方々への感謝の気持ちでいっぱいです。今後も周りの方々への感謝の気持ちを決して忘れず、ソフトボールを楽しみたいと思います。

そして、チームは解団してしまいましたが、ソフトボールを愛する仲間として今後とも切磋琢磨し、大学女子のソフトボール界を盛り上げていきたいと思います。9日間という短い間でしたが、本当にありがとうございました。

外野手 鈴木 茜 (山梨学院大学)

大学JAPANとしてのチームでソフトボールをやらせて頂いて本当に学ぶことばかりでとてもいい経験をさせて頂きました。短期間でも一人一人の意識や行動次第でチームは作り上げることができるということや、“勝ちたい”という気持ちを前面に出しその中で頭は冷静に一人一人の与えられた役割をしっかりと理解し、その場でのやるべきことを確実にすることで自然と勝利に繋がること。そしてチームワークとは作るものではなく一人一人が自分の役割や立ち位置を理解してこそできるものだと感じました。チームを作っていくうえで個々がどれだけ大切であり個々の存在が重要になっていくことが改めて思いました。

試合をしていく中で大学日本代表であるという自覚も強くなり、それがプライドとなりプレイに

繋がりました。そしてなにより攻撃では一人一人がチームバッティングを意識しチームとして繋がっているのがとてもわかりました。チーム全員でテーマであった粘りを果たしたことで優勝という結果を勝ち取ることができました。

試合でも雰囲気よく、楽しくプレイできたのも高橋団長をはじめ、清水ヘッドコーチ、長澤コーチ、伊藤コーチ、末広トレーナ、ピンさんが私たちのために全力でご指導やサポートをして下さったおかげです。全力でやって下さっていたのが本当に伝わっていたので私もその思いに全力で答えられるように貢献しようと思いました。

最後になりますが、このように私たちが何不自由なくプレイに集中できたこと、東アジアカップで優勝できたことは、様々な面で支えてくれた方々のおかげです。合宿では自チームの仲間が、お手伝いのために朝早くから授業の合間の少ない時間にグラウンドに足を運んでくださり、悪天候時のグラウンド整備と何から何まで支えて頂きました。本当にありがとうございました。

今回得た経験を一人一人が自チームで生かし活躍し勝負するのが楽しみです。私もこの経験を活かしチームに貢献していきます。

外野手 田中 瑠莉（園田学園女子大学）

6月4日からの代表合宿、7日から始まった第3回東アジアカップでたくさんのことを経験することができました。海外遠征から何をするのも初めてのことばかりで貴重な体験をすることができました。

代表合宿は山梨学院大学で行い、一日目は練習、二日目からは実業団の方と練習試合をしました。はじめは、チームの雰囲気に慣れずコミュニケーションもあまりとることができなかったが、ソフトボールを通じてだんだんとコミュニケーションもとることができました。天候が悪く試合ができるか不安のなか毎日授業の合間に山梨学院の学生がサポートをしてグラウンド整備などをしてくれて予定していた練習、練習試合もすることができました。この合宿ではいろいろな方の支援、サポートがあると感じ感謝することばかりでした。

7日の夜中から中国に行って、環境の違いに驚きました。中国はどのようなところは耳にしていたけど実際にいって体験するのと聞くのでは全然違いました。環境の違いで一番驚いたのは、トイレです。試合会場のトイレは扉が閉まらなかったです。また、トイレトペーパーが流せないことにも驚き何回も捨てそうになりました。食事は一言でいうと私は油って感じでした。だから見た目おいしそうな焼きそばを食べても油の味しかなかったです。一番おいしいと思ったのはカスタードパイでした。気温も6月なのに真夏のような暑さで立っているだけでも汗が垂れ落ちてくるくらいでした。そんな中ではじまった第3回東アジアカップでは海外遠征はもちろんのこと海外のチームと試合することもはじめてでした。開会式の前に試合があって国内では聞いたことのないことがあり驚きました。国際試合は国内でするのは違い日の丸をつけていると思うと今までとは違う緊張感でした。また、どの海外チームもパワーもあり打球のスピード、走塁の速さは全く違い勉強になることばかりでした。迫力が全く違い守っていて威圧感がありました。緊張した中でも自分の持っている力を十分にだしてプレイする難しさを改めてわかりました。試合は初戦の台湾戦は落としてしまったが、韓国、中国には勝ち決勝トーナメントで台湾を破り、中国との決勝で大雨が降り中止になり、結果、優勝することができました。決勝戦をして優勝したかったのですが、一戦の大切さもわかりました。中国に予選で勝っていなかったら、2位通過で優勝はなかったので中国戦をチーム一丸となって勝ててよかったです。またこのチームで優勝することができて本当によかったです。このチームを引率してくださった監督、コーチ、トレーナー、スタッフの方々、山梨学院の学生さんには本当に感謝しています。他にも、影で支えてくれた方々にも感謝です。日の丸をつける自覚も学ぶことができ貴重な体験ができました。この経験を生かして次につなげていけるようにこれからはがんばります。この日本代表チームに一員になれてうれしかったです。ありがとうございました。

外野手 塚本 智名（中京大学）

私は、東アジアカップに3年連続選んでいただき、国際舞台で経験を積むことができたことを大変嬉しく思っています。

国内合宿の時には、大学日本代表が世界のレベルにどのくらい通じるのだろうかと思っていました。今年は、足を使ったチームなので、少しでも貢献したいと思っていました。連携で不安な部分もありましたが、NECや静甲と試合をする中で、チーム力が少しずつ上がり、大会本番を迎えることができました。

今回は、中国開催の大会ともあって、日本とは違ったグラウンドや現地の暑さに驚きました。環境に慣れないまま迎えた台湾戦は、全体的に緊張した雰囲気があり、本来の力を発揮できないまま終わってしまい、とても悔しさを残した試合となってしまいました。私は、チームに何ができるか、それぞれが役割を考えてチーム一丸となれば、絶対に勝つことができると思いました。初戦の敗戦から、ミーティング等を重ね、話し合う中でチームに一体感が現れ、粘り強さとなつたつながりのあるチームになってきたように感じました。

中国、台湾、韓国、日本の四カ国の代表選手が出場する国際大会の中で、「勝利をめざし、ひたむきに努力を重ね、何事も全力でプレイする。そして、最後まで決して諦めない！」ことの大切を改めて感じる事ができました。また、『日本代表』として日の丸を背負い、戦うことの意味、重さを感じました。国際舞台という緊張感の中、各国と試合を行い、最後には優勝という結果を勝ち獲ることができて本当に良かったと思います。初戦は「負け」から始まったチームでしたが、そこから這い上がり「優勝」を勝ち取ることができて本当に嬉しかったです。勝利を目指して、粘り強く戦うひたむきな思いは、想像以上の強い力を生むと実感しました。

スポーツに向かう真摯な姿は、何よりも人々に感動や勇気を与えます。今後も大学日本代表として頑張ってきたことを糧として「責任ある行動」と「自覚」をもち、仲間とともに切磋琢磨していきたいと思っています。また、応援してくださる方々

への感謝の気持ちを忘れず常に全力でプレイし、日本を担う選手として国際舞台で活躍できるよう励んでいきたいです。ありがとうございました。

外野手 村上 ほのか（山梨学院大学）

日本代表として、合宿から東アジアカップを終えて感じたことは、各チームの代表選手とあの短い期間であれだけの良いチームを作れるということ、勝負する楽しさということを知りました。

私は、日本代表の経験がなく初めて背中に日の丸を背負い、チームのキャプテンとしてやらせて頂きました。自チームをまとめるのとは違う緊張感があり、最初はチームとしてまとめることに必死でしたが、コミュニケーションを重ねていけばいくほどチームのまとまりというのも強くなり、合宿を終えたころにはひとつのチームとして仕上がり、東アジアカップが行われた中国へ入っていました。

私が感じたことは、あのチーム、あの環境でしかあじわえない緊張感を肌で感じる事が出来たことが私にとっても大きな財産になりました。そして、何よりチームワークの良さや、チーム一人一人の役割があったからこそ東アジアカップを制覇することが出来たと思います。また、日本代表チームとして戦うときも一人一人が勝ちたいという気持ち、日本代表としてのプライドが前面にあったからこそあの短い期間の中でチームワークを築き、勝負する楽しさというのが結果として表れたのだと思います。

ヘッドコーチの清水先生を中心とし、チーム全体が目指していることを一人一人が理解をし、個々がやるべきことは何かを考えられたからこそチームとしての歯車が成り立っていたと思います。

また、私達がソフトボールのしやすい環境を作ってくださった日本代表スタッフをはじめ山梨学院大学の皆さんのサポートがあったからこそ東アジアカップに集中することができ、東アジアカップを制覇することができたことを心から感謝しています。

【研究報告】

学校体育におけるソフトボールについて 2

－投運動の指導事例－

研究調査部 岩間英明（松本大学）

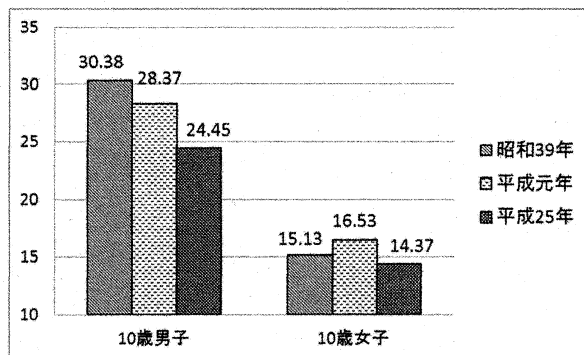
I. ソフトボール授業の課題

昨年、本誌において、ソフトボールの授業を展開するにあたっては、他のスポーツ種目以上に多くの課題が存在していることを指摘したが、その一つの要因に「投力」の低下があげられる。

ソフトボールは「走・攻・守」そのいずれもが、ゲームを成立させ、特性に触れるためには欠かせない技術である。そして、それらの技術を支える基礎的運動能力としての「投」・「打」・「捕」・「走」がある。その意味で投力の低下はソフトボール授業を展開する上で、非常に大きな意味を持っている。

これまで学校期の子どもの多くは入学段階または低学年の段階で、すでに基本的身体運動として「投」・「走」の技術は獲得されており、改めて体育授業等で指導するまでもないことであった。しかし、子どもの体力・運動能力の低下が続いている今、小学校低学年はおろか、中学生になってからも、こうした基礎的な運動を指導しなければならない状況にあるのが現実である。

本年11月に文部科学省から発表された「平成26年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果¹⁾」によれば、ボール投げ（小学生：ソフトボール投げ、中学生：ハンドボール投げ）の記録は、小学男子22.89m、小学女子13.89m、中学男子20.81m、中学女子12.81mと過去最低を記録している。



(図1) 三世代間における体力・運動能力の比較・分析(ボール投げ)

また、同省が10月に発表した「平成25年度体力・運動能力調査結果の概要及び報告書 三世代間にお

ける体力・運動能力の比較・分析²⁾」では、ボール投げの著しい低下が報告されている(図1)。

このように、子どもの体力・運動能力の低下が問題とされている中でも、特に投力は著しく低下している現状がみられるが、このような結果となった背景には、

「投」運動は単なる筋力や表象的な形で実施される運動ではなく、時間的・空間的・力動的経過に伴った身体全体の動きが「かたち」として認識されなければ、本当の意味での動き方がわからない。

いわば、体全体の動きをコントロールする高度な調整力を伴う技術が必要な動きである³⁾。

筋肉感覚・空間感覚・四肢の位置感覚・リズム感覚などの身体の深部感覚である「運動覚」に依拠する運動であり、繰り返し運動することで、ようやく身につけられる運動である³⁾。

ボール遊びやキャッチボールなど、幼児期からの運動遊びの中で、繰り返し行われながら、徐々に培われる運動であるが、近年は運動遊びの機会そのものが減少している。

運動遊びの減少に加え、これまでドッチボールや野球が中心であった子どものスポーツが、近年はサッカーを始めとして、スポーツの多様化が進み、投運動をする機会が少なくなり、投運動の基本的な動きが身につかないまま成長する子どもが多くなった。

が考えられる。

また、投運動を含む運動機会の減少は、「投―捕―投」の関係からソフトボールの「守」である捕球技術にも影響し、投力の低下はソフトボール技術全般の低下につながる。そのため、ソフトボール授業をする際は、これまであまり指導する必要のなかった投運動を入れ込むことが必要となったと考えなければならない。

II. 投運動指導の現状

子どもたちに投運動を指導するのは、一見すると易しいという印象を受けるが、

- 投運動の指導法は数多く存在する。しかし、投運動は誰もができて当然とされる基本的身体運動であるため、実際には体系的な指導方法が確立されているわけではない。
- 表象的な形だけでなく、身体の深部感覚に理解させることが必要な運動であるため、個人の感覚の違いに対応していく必要がある。それだけに、短時間でできるようにさせることが難しい。
- 幼児期から長い間の中で身につけてしまった悪い癖は、個人的技能としてすでに定着しているためなかなかプリント(再刷り込み)することができない。

といった理由から、実際はかなり難しい指導であると言えるのではないだろうか。そのため、授業において投運動を指導したとしても、一般的な共通的な動作の表層をなぞるだけの指導をして終わることが多い。また、学習の時間的な制約から、投運動の指導自体が省略されてしまうことも少なくない。

III. ソフトボール授業の実情

中学校学習指導要領ではソフトボール(ベースボール型)の学習のねらいを第1学年及び第2学年では、「攻撃を重視して、易しい投球を打ち返したり、定位置で守ったりする攻防を展開できるようにする。」とし、第3学年では「易しい投球に対する安定した打撃により出塁・進塁・得点する攻撃と仲間と連携した守備のバランスのとれた攻防を展開できるようにする。」としている⁴。すなわち、攻撃を重視しながらも、学習においては攻防を楽しむというソフトボール本来の特性に触れることを示しており、そうした授業展開をするためには、ある程度の守備力は最低条件となろう。

ソフトボールに限らず、一般に体育授業では「今持っている力で楽しむ」という段階から「技能を高め相手に応じた作戦を立て攻防を楽しむ」という発展性が重要視されているが、投運動の指導が十分なされないままソフトボールをすれば、ストライクが入らない、送球のミスばかりといった間延びしたゲームとなり内容の乏しい学習になりがちとなる⁵。

以前、教員を対象としたソフトボール授業の実態調査⁶でも、ソフトボールの必修化を受け、授業でソフトボールを扱っている学校は多くなったものの、半数近くの学校ではオフィシャルルールはもちろん、それに近いルールすら取り入れていない。もちろん、体育授業では学習の目的や過程、あるいは生徒の実態に即してルールを変更することは当然のこととして行われているのだが、ソフトボールの場合は正規のルールを取り入れたくても、取り入れられないというのが実情であり、その最大の理由が「個人差(技能差)が大きい」ということなのである。

その個人差については、一般には打撃力の方が大きいと見られている。しかし、打撃は「投手-打者」という個人で完結できるプレーであるのに対して、守備は複数のプレーヤーが関わるプレーであるため、実際の授業では打撃に関する個人差よりも、守備に関する個人差の方がゲームに大きく影響してくる。

以上のようなソフトボール授業の実情を鑑みたとき、投運動の指導は避けては通れないことは理解できよう。上述したとおり、投運動を体育授業で指導するのは内容や時間的な制約など難しい点が多いが、指導方法を工夫しながら生徒一人一人の投力を伸ばしていくことは、ソフトボールの授業を充実したものにしていくためには必要条件であると言えよう。

IV. 投運動の指導の実際

多様な指導方法があるが、それが体系化されていないため、投運動指導は内容や方法が指導者によって大きく変わってくる。それは、指導者によって運動結果が違ふということだけでなく、指導が対象者に合致しているか否かによって、練習効果があるかどうかが決定的なということでもある。

しかし一方で、投運動はどのような練習内容に取り組んだとしても、動作を身につけたり、投力を向上させたりするには、ドリル練習(繰返し練習)が必要であるということは共通している。

スポーツにおけるドリル練習は一般に単調でつまらない場合が多く、そうした練習を無理に強いることは、子どもたちから運動やスポーツに対する興味・関心を

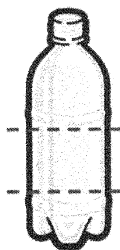
奪うことになり、長期的に見れば子どもを運動嫌いにしてしまう。

ただ、幸いにも投運動の“自分の力を使って物体が遠くに飛んでいく様子”は投運動の醍醐味であり、子どもにとって興味を持ちやすい内容であることから、投運動はそれほどつまらない運動ではない。「紙鉄砲」「紙飛行機投げ」「バトン投げ」など、これまでも遊びの要素を入れながら、子どもが楽しく投運動に取り組める練習方法は全国各地で実践され、それなりの成果も報告されてきた。しかし、これらの練習方法もそれぞれ以下のような特徴、並びに欠点がある。

紙鉄砲	投運動の後半部分である振り下ろし動作が中心の運動であり、体重を載せて振り下ろす感覚は身につく。音の大きさによって動きの善し悪しも判断しやすい。しかし、投運動の主要な肩関節の回旋運動が表れにくく、何よりも実際に「投げる」ことがない
紙飛行機	うまく投げれば遠くまで到達し、「投げる」醍醐味を味わうことができる反面、紙飛行機は強く投げるとかえって飛距離が出なかったり、リリース時の肘を高い位置に保つことが難しかったりと、動作の力感や運動形態の上で問題が残る。また、飛行機の耐久性も考慮する必要がある。
バトン投げ	ロープに通したバトンを投げるため、一杯投げることができ、テイクバックのトップからリリースまでの動きを練習できる。しかし、ロープにより距離やコースが制限されているため、遠くまで物体をとばす投運動の魅力が半減してしまう。

そのため、どの子どもにも共通的に取り組むことが可能で、＊投運動の醍醐味が感じられ、＊投運動の基本動作を含み、尚かつ、＊子どもの興味・関心を高められるような＊楽しい練習方法の実施が望まれる。

そこで、本稿では『ペットボトルジャイロ』を使った練習に着目してみる。ペットボトルジャイロは図2のようにペットボトルを切り、図3のように片側にビニールテープを7～9周巻いて作ったもの（ゼムクリップでも代用可能）である。



（図2）切り方

これは「Xジャイロ」という商品名で市販もされているが、子どもでも簡単に作成することができる。



（図3）テープの巻き方

握り方と投げ方は図4のように、テープを巻いてある方を前方にして、輪を投方向に向けて普段ボールを投げている投げ方をするだけの、極めて単純なものである。しかし、特別な投げ方が不要な簡単な投動作の割に、遠くまで投げるができる。



（図4）ペットボトルジャイロの握り方・投げ方

実際、筆者が地域の連携事業として、小・中学校で実施した体育指導では、小学生の女子でもうまく投げられた時は、20m～50mくらいは楽に投げることができた。継続的な指導ではなかったため、指導後の子どもたちの変容を知ることはできなかったが、昼休みなどに遊んでいる姿は見られるという学校からの報告は受けている。

V. 指導の効果

ペットボトルジャイロを使った指導が、どの程度投力の向上に効果があったのかという点について、大学生による簡易実験・観察の結果は以下の通りであった。

〈実験〉

期 日： 2014. 10. 16

被験者： 男子5名、女子5名、 計10名

方 法：

- ①学校体育ソフトボール用ボール3号球を使い、一人3球投げ遠投能力を測定し、最高値を記録とする。

②約1時間、ペットボトルジャイロを使って投運動を実施。

③①と同様の測定をする。

結果：以下の表の通りである。

被験者	性別	pre	post	結果
A	f	15.87	16.40	*
B	f	18.60	20.00	*
C	f	19.65	19.70	*
D	f	19.73	17.83	
E	f	19.65	20.23	*
F	m	19.40	23.70	*
G	m	21.72	24.64	*
H	m	24.77	23.30	
I	m	22.50	21.00	
J	m	15.50	16.90	*

n数が少ない上、簡易実験で比較条件も整備されておらず、他の要素の影響も考えられることから、あくまでも参考程度にしかならないが、10名中7名に記録の向上が見られたのは、ペットボトルジャイロを使った練習の可能性を示唆していると考えても良いのではないだろうか。

〈観察〉

期 日：2014.10.29 および 11.5

被験者

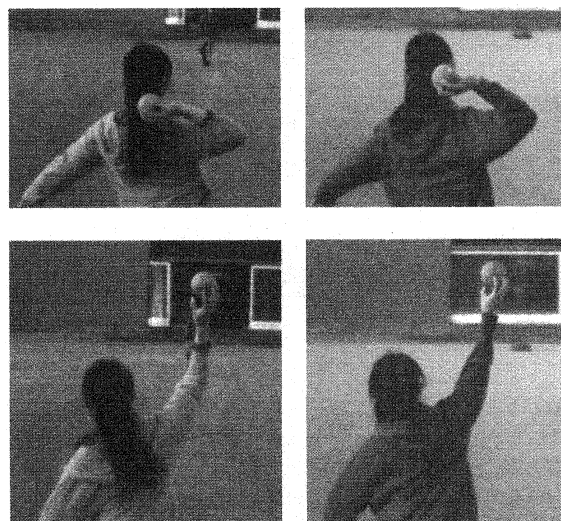
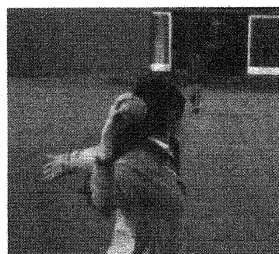
数名の被験者の中から、高校時代は器械体操を専門とし全国大会出場経験もあるが、球技に対しては極端に苦手意識を持っている女子学生1名を抽出した。

方法

- ①第1日目に学校体育ソフトボール用ボール3号球を使った投運動をVTR撮影し、その後ペットボトルジャイロを使った投運動を実施。
- ②第2日目までの1週間の中で、自由時間を利用してペットボトルジャイロでの投運動練習を実施した。練習時間は3日間、合計1時間程度である。
- ③第2日目に①同様のVTR撮影し、表象的な運動経過を肉眼による簡易観察した。

〈Pre〉

〈Post〉



(図5) 練習前後の投運動の様子

簡易観察のため確実な変化を述べることはできないが、ペットボトルジャイロの練習前後では、肘の高さおよび肩関節を中心とした円運動の大きさ、スナップの使い方などに変化が見られた。投力も約4mの向上が見られ、実験同様、効果の可能性が感じられた。

VI. まとめ

今回の実験・観察はいずれも簡易のもので、学術的に立証できたものではないが、いずれの結果も可能性を示唆せるものであった。さらに、練習後の感想も小・中・大学生のいずれもが『練習が楽しい』『もっとやりたい』というものであったことを考えあわせると、ペットボトルジャイロを使った練習は、投力向上が期待できる練習方法であると言えるのではないだろうか。

- 1 文部科学省「平成26年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果」
http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/kodomo/zencyo/1353812.htm
- 2 文部科学省「平成25年度体力・運動能力調査結果の概要及び報告書」
http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa04/tairyoku/kekka/k_detail/1352496.htm
- 3 マイネル(金子明友訳). スポーツ運動学. 大修館書店、(1981)
- 4 文部科学省. 中学校学習指導要領解説保健体育編. 東山書房、(2008)
- 5 杉山重利他. 中学校体育の授業. 大修館書店、p132-151 (2001)
- 6 高野響. ソフトボールの体育教材としての課題と可能性. 松本大学卒業論文、(2013)

文部科学大臣杯第49回全日本大学男子ソフトボール選手権大会

会期：平成26年8月29日(金)～9月1日(月)

会場：岩手県花巻市／石鳥谷ふれあい運動公園C・D・F・G球場

大会概要

早稲田大学 3連覇で4度目の優勝

大会記録長：関根 睦

本年度のインカレは女子大会と同時開催で、詩人で小説家の宮沢賢治ゆかりの岩手県花巻市石鳥谷ふれあい運動公園において、8月30日(土)～9月1日(月)の3日間で開催された。

第1回戦が行われた第1日目こそ小雨模様の中での開催であったが、グラウンドの状態は良く、地元岩手県ソフトボール協会、花巻市ソフトボール協会および全日本大学連盟の各関係者の尽力で予定通りの日程で本大会を開催することができた。

優勝したのは大会3連覇の早稲田大。歓喜の胴上げで吉村正監督が宙に舞った。

1回戦から決勝戦まで全31試合の総得点は323点で、勝利チームの1試合あたり平均得点は7.6点、敗戦チームの平均得点が2.8点であった。得点差が10点以上の試合は4試合であったが、1点差で決着がついた試合も6試合あった。

規定打席数12打席以上での首位打者は池田康平（早稲田大）の0.571。早稲田大は打撃10傑に4名が入る。全本塁打数は56本、うち満塁本塁打は吉田享平（早稲田大）の1本。最多本塁打は大嶋翼（早稲田大）の3本であった。

規定投球回数11回以上での防御率では、河野拓郎（日本体育大）と竹本流星（中京学院大）がともに1.24で同率首位。河野拓郎は奪三振でも33とトップに立った。

得点差によるコールドゲームは7試合で、また延長戦となったのは1試合だけである。平均試合時間は1時間55分、最短試合は1時間6分、最長試合は2時間38分、2時間を超す試合は12試合あった。なお、歴代新記録の更新はなかった。

大会講評

早稲田大学 圧巻の3連覇

北海道東北地区常任理事 大塚 健樹

岩手では初となる文部科学大臣杯全日本大学ソフトボール選手権大会は、8面の球場を備える花巻市石鳥谷ふれあい運動公園で開催された。大会は、男女が同一の会場で試合できる環境の中で白熱した試合が順調に展開され、大会運営にご協力をいただいた各位に、心より感謝申し上げます。

さて、試合結果になりますが大会は、2年連続優勝中の早稲田大学が安定した試合運びで優勝を飾り、3連覇を成し遂げた。特に決勝は、優勝候補の一角であった日本体育大学を準々決勝で破り、勢いに乗る環太平洋大学との打撃戦を制し、ワールド勝ちという圧巻の試合運びであった。

この2校以外のベスト4には、関西大学、神戸学院大学が入り、西が3チームという状況で、全体的には西が優位であったと思える大会となった。東北地区での大会開催であることから北海道・東北地区のチームの奮起が期待されたが、好試合ではあったが一回戦で全チームが敗退したことは誠に残念で、今後さらなる奮起を望みたい。

また、ここ数年の傾向で今大会も「打高投低」で打撃戦の試合が多かったことから、投手のレベルアップを図ることが急務であることが、浮き彫りになった大会であった。さらに、ベスト16に進出した広島大学、徳島大学に代表されるよう国公立大学の活躍も今大会の特徴であった。

最後に、男女同一会場での試合で、男子の豪快な打撃に歓声を上げる場面や、投手の速球に感嘆する声に数多く触れられた。多くの方から男子の迫力に驚いたとの声をかけていただき、男子ソフトのファンが増えることが期待される。

文部科学大臣杯第49回全日本大学男子ソフトボール選手権大会

	8月30日(土)	8月31(日)	9月1日(月)	
1. 国 士 館 大 学(49)	4	0		
2. 京 都 産 業 大 学(36)	2	2		
3. 日 本 体 育 大 学(49)	8	4		
4. 同 志 社 大 学(32)	0			
5. 大 阪 体 育 大 学(14)	2	7	11	
6. 環 太 平 洋 大 学(8)	6	3		
7. 東 海 大 学(40)	3	3		
8. 沖 縄 国 際 大 学(20)	8			環太平洋大学
9. 国 際 武 道 大 学(21)	6	6	6	
10. 岐 阜 聖 徳 学 園 大 学(10)	10	4		
11. 城 西 大 学(20)	6	8		
12. 神 戸 学 院 大 学(24)	7		6	神戸学院大学
13. 北 海 道 大 学(2)	0	14	3	
14. 広 島 大 学(14)	3	0		
15. 福 井 県 立 大 学(4)	12			
16. 香 川 大 学(13)	7			
17. 徳 島 大 学(7)	9	10		
18. 長 崎 国 際 大 学(初)	7	0		
19. 宮 城 教 育 大 学(2)	4	8		
20. 広 島 工 業 大 学(7)	9			
21. 早 稲 田 大 学(49)	14	7	5	
22. 京 都 大 学(20)	2	7		
23. 中 京 大 学(44)	7	0		
24. 九 州 産 業 大 学(11)	1			
25. 東 京 学 芸 大 学(6)	6	0		
26. 常 葉 大 学(17)	1	3		
27. 熊 本 学 園 大 学(27)	7	11		
28. 関 西 大 学(38)	8			
29. 千 葉 大 学(5)	0	4	0	関西大学
30. 中 京 学 院 大 学(11)	10	2		
31. 中 央 大 学(25)	3	0		
32. 立 命 館 大 学(32)	2			

早稲田大学
(3年連続4回目)

※ () 内は出場回数で、校名変更のあった大学は以前の名称での出場も含む。

試合結果

▼第1日（8月30日）1回戦

京都産業大学 0000200 : 2
国士舘大学 000301x : 4

[京] ●松岡涼介・新田哲也ー溝上郁英

[国] ○武井大樹ー畑 優也

【評】国士舘大学、集中打で初戦突破！

両チーム無得点で迎えた4回裏、国士舘大学は無死から四球から5番、6番の連続安打に暴投が絡み3点を先取。6回にも5番、6番の連続安打に犠打と犠飛で1点を追加し接戦を制した。

一方、京都産業大学は1回無死満塁の好機を得たが無得点。先行された5回表、4安打と犠打で2点を返すが要所を抑えられ敗れた。

日本体育大学 03401 : 8
同志社大学 00000 : 0

[日] ○河野拓郎、中坂 誠、齋藤将平、
吉田 光ー山内直人

(本)谷本卓哉 (三)谷本卓哉

(二)河村健佑

[同] ●佐復洋太、大濱 航ー茶畑佑介

(三)石川諒輔

【評】日本体育大学が圧勝で2回戦へ進出！

日本体育大学は2回表死球で走者が出ると、7番・河野、9番・中西の安打などで3点を先制。3回には1番・谷本の右中間本塁打などでさらに4点を加点。5回にも谷本の三塁打で1点を挙げ大差での勝利を収めた。

一方、同志社大学は、3回に8番・石川（諒）の右翼横を抜く三塁打が出るまで日体大先発・河野の好投に抑えられていたがいた。その後3人の継投により好機を得たが、後続を断たれ無得点での敗退となった。

大阪体育大学 2000000 : 2
環太平洋大学 130110x : 6

[大] ●三原広太郎、松田崇志ー中西卓也

(三)河井友希 (二)古川成児

[環] 児玉勝利、○丹生谷翔馬ー知土 志徳

(本)細川卓翁 (二)井上 知厚

【評】環太平洋大学が接戦を制し2回戦へ進出！

環太平洋大学は、1点を先制されて迎えた2回に無死満塁から犠飛で1点を返し同点とすると3番・井上の二塁打で2走者を返し逆転。その後4回に1点、5回には代打細川の中越本塁打で追加点を挙げ勝利した。

一方、大阪体育大学は、初回1番・古川が二塁打から足を絡めた攻撃で2点を先制。2回以降、好機を得るが後続を断たれ敗退した。

東海大学 0201000 : 3
沖縄国際大学 142010x : 8

[東] ●高橋宏允ー一圓悠希

(二)田中翔太、丸山友輔

[沖] ○島袋卓也ー仲本 匡

(本)大湾貴登、崎間大海、金城太樹

(三)城間勇人②、菊池 倫 (二)崎間大海

【評】沖縄国際、長打攻勢で東海大学を下す！

沖縄国際大学は、1回裏に2番・大湾が中越本塁打を放ち先制。その後も本塁打2本、三塁打3本、二塁打1本を放って合計8点を挙げ、東海大学を圧倒した。

東海大学は、9安打を放ったが、散發だったため3点を返すにとどまり敗退した。

国際武道大学 2120010 : 6
岐阜聖徳学園大学 520300x : 10

[国] ●滝口悠真ー大曾根教雄

(本)平山将規、滝口悠真、大曾根教雄

[岐] ○鈴木達也ー諏訪直哉

(三)諏訪直哉 (二)近藤潤一

【評】岐阜聖徳 逆転で勝利、2回戦へ進出！

2点を先制された1回裏、岐阜聖徳学園大学は安打に敵失を絡め一気に5点を挙げて逆転。2回、4回にも安打と敵失等で追加点を挙げて計10点とし勝利を収めた。

一方、国際武道大学は初回3番・平山の右越2点本塁打で先制。3回、6回にも滝口、大曾根の本塁打で加点するが、要所を鈴木投手に抑えられて追撃及ばず敗退した。

城西大学 0200013:6
神戸学院大学 2000302x:7

[城] 宮原 廉、沢勝也、●宮原 廉ー鳥山和也
(本)岡本直也、岡崎智樹、鳥山和也
(二)池田昭一朗

[神] ○永野 塁ー森 大祐
(本)岩田貴晶、上村岳大 (二)杉江 章

【評】神戸学院 逆転サヨナラで2回戦進出!

神戸学院大学は、1点をリードされた最終回5番・上村の中越本塁打で同点。2四球と安打で二死満塁とし、2番・土井の初球、再出場した投手の暴投でサヨナラ勝利した。

一方、城西大学は、7回表3番・鳥山の3点右越本塁打で逆転し、1点差で裏の守りにしたが、本塁打で同点とされた後、守りきれず敗れた。

北海道大学 0000000:0
広島大学 010002x:3

[北] ●木村 拓ー十良澤健二

[広] ○庄林 希ー久保光野
(本)荒木一真 (三)荒木一真

【評】広島大学、北海道大学を2安打に抑え完封で勝利し2回戦へ進出!

広島大学は、2回裏8番・荒木の三塁打と暴投で1点を先取。6回にも走者を一人置いて荒木の右中間越え本塁打で追加し勝利した。

一方、北海道大学は、相手投手・庄林に2安打、三振1と抑えられて敗れた。

香川大学 0005110:7
福井県立大学 070005x:12

[香] ●柳田諭志ー佐式亮将
(二)須田恭祥

[福] ○山口直樹、小野寺宏一ー八木 基
(三)後藤 涼、中村卓皓
(二)高橋和志、白鳥宗篤

【評】福井県立大学 7点差を追いつかれるも辛くも振り切り2回戦へ!

福井県立大学は2回裏、二死満塁から相手の守備の乱れに乗り2点を先制した後、4本の長短打を連ね、計7点を挙げ主導権を握った。一方、香

川大学は、4回表に四死球と安打で二死満塁とした後、安打、四球、二塁打で5点を挙げ2点差に迫り、6回に同点とした。追いつかれた福井県立大は、6回裏、四球とバント安打で無死一二塁とした後、犠打が敵失となり2点を挙げ、勝利を手にした。

徳島大学 3111012:9
長崎国際大学 2000005:7

[徳] ○勝本翔平ー狭山 俊
(本)坪田知也 (三)塩土亮平
(二)寺橋正晃 上田井真輝

[長] ●浦 達也ー升水大瑚
(本)分藤俊太

【評】徳島大学 乱打戦を制し初戦突破!

徳島大学は初回、4番坪田の本塁打で幸先よく3点を先制。長崎国際大学もすぐさま初回、6番久田の安打で2点を返した。徳島大学は2回、3回、4回と小刻みに1点ずつ追加点をあげ、点差を広げて7回にも上田井の安打で2点を追加し、試合を優位に進めた。7回裏、7点差を追う長崎国際大学は、失策と4番分藤の本塁打で5点を返し、2点差まで追い詰めたが、後続を絶たれ万事休す。徳島大学は、長崎国際大学の反撃をしのぎ何とか逃げ切った。

広島工業大学 0051120:9
宮城教育大学 0010300:4

[広] ○赤木翔一、平山 大一穴吹公紀、
赤木翔一
(三)江凌也 (二)上河翔平

[宮] ●佐藤 響、大槻佳生、佐藤 響ー
三塚昭太朗

【評】広島工業大学 9点奪い快勝!

広島工業大学は、3回に7番上河の二塁打と9番江尻の三塁打等で一举5点を先制する。宮城教育大学も、すぐ3回に3本の安打を集中し1点を返す。広島工業大学の6点リードで迎えた5回裏の宮城教育大学は、四球と死球を絡め3点を奪い点差を縮めるも、6回に広島工業大学が2点を追

加し、再び点差を広げる。広島工業大は、赤城・平山乃投手リレーで、粘る宮城教育大を振り切った。

早稲田大学 0000311 : 14
京 都 大 学 000110 : 2

[早] ○松木俊皓、吉田尚央ー沓澤 翔

(本)高橋希望、吉田享平 (三)水本将文

[京] ●角野慎一、湯井大貴、角野慎一
ー福部翔太

(本)湯井大貴

【評】早稲田大学、後半の猛攻で3連覇に向け初戦突破！

先制を許した早大は5回、6番高橋の3ランで逆転。続く6回には4番吉田の満塁本塁打で追加点を奪った後も手を緩めず計11点。一気に勝敗の行方を決した。

一方の京大は4回、湯井の先制本塁打で先行したが、6回に投手陣が相手打線に掴まり、点差を離されて悔しいコールド負けとなった。

九州産業大学 0010000 : 1
中 京 大 学 000340x : 7

[九] ●中村和也ー下釜 航

(本)須藤貴士 (二)中村和也

[中] ○花岡大輝、古橋和也ー水本健太

(本)佐野俊介、鈴木友也 (三)山口恭平

【評】中京大学 本塁打攻勢で逆転勝利！

1点を追う4回裏、中京大学は一死後連続安打で迎えた一三塁のチャンスに7番佐野(俊)が左越二本塁打を放ち逆転に成功。更に5回裏連続安打で迎えた好機に4番鈴木(友)が中越に本塁打を放ちだめ押しとなる3点を追加し勝負を決めた。

一方 九産大は3回、3番須藤(貴)が左越本塁打するもその後は追加点を奪えず敗れた。

東京学芸大学 1030011 : 6
常 葉 大 学 0000100 : 1

[東] ○藤井 峻ー池田岳史

(本)藤井 峻、菱沼竜也

(三)福岡 真司②

[常] ●田村幸也ー佐藤拳士

(本)兼井祐太 (二)田村幸也

【評】学芸大、4番藤井の一振りで2回戦進出！

1回 学芸大は2番福岡の三塁打を足掛かりに1点を先制、3回には4番藤井の3点本塁打で試合を優位に進め、後半も2点を加点し勝利した。

常葉大は5回裏、1番兼井の本塁打で1点を返したが及ばなかった。

熊本学園大学 01010113 : 7
関 西 大 学 1002104x : 8

[熊] ●江藤 紘ー八丁弘樹

(三)盛田英雄 (二)盛田英雄

[関] ○松田祐汰ー黒田裕太

(三)岡田知洋、松田祐汰

【評】関西大学 タイブレーカーを制し、逆転で2回戦へ！

関西大学は3点を追う8回裏、6番宮瀧の二遊間安打で1点を挙げ、その後一死二塁で9番松田の右中間三塁打で同点とし、次打者大柿の果敢な走塁がエラーを誘いサヨナラで勝利した。

一方熊本大学は3度追いつき、タイブレーカー後の8回に4安打で3点を挙げ勝利を手にすると思われたが、逆転を許し敗れた。

千 葉 大 学 0000 : 0
中京学院大学 406x : 10

[千] ●井上大地ー武藤晃史

[中] ○竹本流星ー西里博樹

(本)荒川侑介 高尾 健 (三)田中琢也

【評】中京学院 1安打完封でコールド勝ち！

中京学院大学は初回、1番田中の三塁打を足掛かりに5安打で4点を先取した。3回には8番荒川の2ランと3番高尾の3ラン等で6点を追加し、4回コールド勝ちした。竹本投手は、8奪三振1安打完封の好投で相手打線を寄せ付けなかった。

千葉大学は4回に初めての走者を出し、二死満塁と攻めたがあと1本が出ず敗退した。

立命館大学 2000000 : 2
中 央 大 学 0001002x : 3

〔立〕 ●中原隼生―三谷 舜
(本)田中雄大

〔中〕 ○川村卓未―井原奨之
(本)荒川侑介 高尾 健 (三)田中琢也

【評】中央 逆転サヨナラ勝ちで2回戦進出！

中央大学は、1対2で迎えた7回裏、遊撃手の失策と悪送球で同点とし、5番富士の二遊間を抜けるタイムリー安打でサヨナラ勝ちとなった。

立命館大学は初回、3番田中の右翼線を抜けるランニングホームランで2点を先制したが、その後は中央の川村投手に要所を締められ追加点を奪えず逆転を許し悔しい敗戦となった。

▼第2日（8月31日）2回戦

日本体育大学 0201010 : 4
国士舘大学 0000000 : 0

〔日〕 ○河野拓郎―山内直人

〔国〕 ●武井大樹―畑 優也

【評】日本体育大学 準々決勝進出！

優勝経験のある両校の戦いは投手戦と思われたが、守備が勝敗の分かれ目となった。日本体育大学は、相手チームの失策に乗り小刻みに点数を重ね勝利した。守っては、河野投手が毎回12奪三振で、クリーンナップをことごとく抑える素晴らしいピッチングを見せた。

一方、国士舘大学は、武井投手の好投に報えず、失策が全得点に結びつく残念な結果となった。

環太平洋大学 3120001 : 7
沖縄国際大学 1010100 : 3

〔環〕 ○児玉勝利、難波 諄、生谷 翔馬―
知土志徳、岩原史典
(本)仲敦也 (三)宇根良祐、尾本心平
(二)小幡瑛司

〔沖〕 ●島袋卓也、金城太樹―仲本 匡
(三)菊池 倫

【評】環太平洋大学 逃げ切りで準々決勝進出！

環太平洋大学は初回、1番・宇根の一二塁を抜く安打を足がかりに敵失と6番、7番の連打で3点を先制。2回に1点、3回には6番・仲森の右

越本塁打と小幡、宇根の長打で2点を追加。小刻みに得点を重ね逃げ切った。

一方、沖縄国際大学は1回、3回、5回と1点ずつを返すも好守に阻まれ、反撃及ばず敗退した。

岐阜聖徳学園大学 0300300 : 6
神戸学院大学 000080x : 8

〔岐〕 ●鈴木達也―諏訪直哉

(本)木下直人、渡邊康平、奥彰秀
(二)馬場一希、吉田賢嗣

〔神〕 楠岡侑也、○永野 塁―森 大祐
(三)杉江 章 (二)岩田貴晶、藤原和城

【評】神戸学院大学 逆転で準々決勝進出！

6点リードされた神戸学院大学は5回裏、二死から1番・近藤の安打を皮切りに三四球を挟み6連続安打で8点を挙げ試合を逆転。準々決勝進出を決めた。

一方、岐阜聖徳学院大学は2回表、4番・木下の本塁打など4安打を集中し3点を先制。5回にも渡邊、奥村の本塁打で3点を追加し試合を優位に進めたが、神戸の粘りに屈し敗れた。

広島大学 50405 : 9
福井県立大学 00000 : 14

〔広〕 庄林 希、○片岡真一―久保光野

(本)佐藤優介、東浦友樹、片岡真一
(三)庄林 希 (二)久保光野

〔福〕 ●山口直樹、小野寺宏一―八木 基

【評】広島大学 二桁安打・得点で圧勝！

広島大学は初回、連続四球を足掛かりに打者一巡の攻撃で5点を先制。その後、佐藤、東浦、片岡の本塁打等で追加点を挙げ、コールドでベスト8へ勝ち上がった。

一方、福井県立大学は、広島大・庄林一片岡のリレーの前に散発4安打に終わり、立ち上がりの大量失点を克服できず完封負けを喫した。

徳島大学 0006031 : 10
広島工業大学 0021014 : 8

〔徳〕 ○勝本翔平、池北尚人、勝本翔平―狭山俊
(本)吉良和真、(三)鈴江晃平、三谷優太②

(二) 鈴江晃平

[広] 平山 大、●赤木翔一ー赤木翔一、
穴吹公紀、田中元己

(本) 上河翔平 (二) 沖田信哉

【評】徳島大学 接戦を制し準々決勝へ進出！

徳島大学は2点先制されて迎えた3回、広島工業大学の2番手投手・赤木から2番吉良がセンター越えの本塁打などで6点を挙げ逆転。6回には9番三谷がこの試合2本目となる三塁打を放つと、1番鈴江の長打などで3点を追加。7回にも1点加え追いつくが広島工業大学を振り切り勝利した。

一方広島工業大学は、3回に7番上河の右中間越えの本塁打などで、逆転された後も得点を重ね、6点差で迎えた7回裏に4点を挙げるも力尽き敗退となった。

中 京 大 学 0 0 0 0 2 0 0 : 2
早 稲 田 大 学 2 1 0 2 2 0 x : 7

[中] ●古橋和也、花岡大輝ー水本健太

(二) 水本健太、佐野悠真

[早] ○松木俊皓、吉田尚央ー沓澤 翔

(本) 今村大樹 (三) 兼子修治

(二) 吉田享平

【評】早稲田大学 12安打の猛攻で、準々決勝進出を決める！

早稲田は1回、4番・吉田享平の二塁打などで2点を先制し試合の主導権を握ると、その後も長打と足を絡めた多彩な攻撃で加点し、中京大学を突き放し準々決勝に駒を進めた。

一方中京大は5回、中越え適時打で2点を返したが、相手の守備を崩すことが出来ず敗退した。

東 京 学 芸 大 学 0 0 0 0 : 0
関 西 大 学 4 2 5 x : 11

[東] ●藤井 峻、柳森大毅ー池田岳史

(二) 間弓義之

[関] ○野原拓哉ー黒田裕太

(本) 野原拓哉、大柿廣明

(三) 大柿廣明、宮瀧裕貴

【評】関西大学 猛打で圧勝！

関西大学は初回、無死二三塁の好機に3番・太田亮介のレフト前安打で1点を先制。その後、3回までに9番・野原拓哉と1番・大柿廣明の連続本塁打を含む13安打を放ち合計1得点を挙げ、4回コールド勝ちで準々決勝へ駒を進めた。

一方の東京学芸大学は、序盤にノーアウトで走者を出すものの後続なく、関西大学の野原拓哉投手に完封を許した。

中 央 大 学 0 0 0 0 0 0 0 : 0
中 京 学 院 大 学 2 0 0 2 0 0 x : 4

[央] ●川村卓未ー井原奨之

[京] ○竹本流星ー西里博樹、

(本) 山下 治 (三) 西里博樹

【評】中京学院大学 完封で準々決勝進出！

中京学院大学は1回裏、走者一人を置き4番・山下の左中間越えの本塁打で2点を先制。更に4回裏、走者一二塁で8番西里の右翼線を破る三塁打で2点を追加し試合を決めた。

一方、中央大は中京の竹本投手に12三振3安打と要所を抑えられ、悔しい敗戦となった。

▼第2日（8月31日）準々決勝戦

環 太 平 洋 大 学 0 0 0 0 0 3 0 : 3
日 本 体 育 大 学 0 1 0 1 0 0 0 : 2

[環] ○大原諒太郎ー知土志徳

(本) 谷本祥太

[日] ●河野拓郎ー山内直人

【評】環太平洋大学 大逆転で勝利！

伸びのある日本体育大学、河野の直球を打ちあぐね三振を重ねていた環太平洋大学は、6回連続安打で無死一二塁。後続が三振、三ゴロで走者が入れ替わり簡単に二死となった後、3番・谷本が4球目を強振。打球は右越3点本塁打となり逆転し、準決勝にコマを進めた。

一方、2点を先行して主導権を握っていた日体大、13三振を奪う好投の河野が6回に投げ急いだ1球は悔やまれる。

広 島 大 学 0 0 0 0 1 2 0 : 3
神 戸 学 院 大 学 0 1 0 0 3 0 x : 4

[広] ●庄林 希一久保光野

[神] ○楠岡侑也、永野 塁一森 大祐

(三)永田伸之 (二)上村岳大

【評】神戸学院大学 激戦を制し準決勝進出！

神戸学院大学は同点で迎えた5回裏、連打と死球で二死満塁とし、1番・永田の左越三塁打で3得点し勝ち越しに成功。接戦を制し逃げ切った。

一方、広島大学は6回に1点差まで詰め寄るも神戸の2番手投手・永野に要所を締められ惜しくも敗れた。

徳島大学 000000 : 0

早稲田大学 004021x : 7

[徳] ●勝本翔平一狭山 俊

[早] ○松木俊皓、豊田誉彦一沓澤 翔

(三)吉田享平

【評】早稲田大学、効率の良い得点で勝利！

早稲田大学は3回、一死満塁の好機に3番・溝口の内野ゴロで先制すると、4番・吉田の左中間三塁打で3点を追加し、試合を優位に進めた。5回にも溝口の適時打、吉田の犠飛で2点を追加。6回にも代打・大塚の中前適時打で7点目を挙げコールド勝ち。

徳島大学も走者を出すもの、早稲田大学の松本・豊田の両投手の好投に抑えられ得点を挙げる事ができず敗れた。

中京学院大学 0001100 : 2

関西大学 000210x : 3

[中] ●竹本流星一西里博樹

(本)荒川侑介

[関] ○松田祐汰一黒田裕太

(三)太田亮介

【評】関西大学、投手戦を制し準決勝進出！

関西大学は先制された直後の4回裏、3番・太田亮介が三塁打で反撃し逆転に成功。その直後に同点とされるも、1番・大柿廣明のタイムリーで勝ち越し、準決勝進出を決めた。

一方中京学院大学は4回、6番荒川侑介の本塁打で先制し、逆転された直後には4番・山下 治

のタイムリーで同点としたが、塁を賑わすものの好守に阻まれてあと一步届かなかった。

▼第3日(9月1日)準決勝戦

環太平洋大学 2012501 : 11

神戸学院大学 0500100 : 6

[環] 児玉勝利、丹生谷翔馬、○大原諒太郎一知土志徳

(本)宇根良祐、吉國将吾、井上知厚、

知土志徳 (三)大畑恵太、尾本心平

(二)知土志徳②、谷本祥太

[神] ●永野 塁、楠岡侑也一森 大祐

(本)上村岳大 (三)土井涼輔

(二)杉江 章

【評】環太平洋学、長打攻勢で4年ぶり決勝へ！

この準決勝戦は両チームの強力な打撃力を見せつけ、逆転、再逆転と男子らしい迫力のある試合となった。

環太平洋大は初回、一死一・二塁から4番・大畑恵太がライト線を抜く三塁打で2点を先制。神戸学院大も2回、6番・杉江章の右中間二塁打から始まり、5安打などで5点を挙げ逆転した。しかし、環太平洋大は3回、1番・宇根良祐のソロ本塁打、4回にも9番の代打・吉國将吾の2点本塁打で5対5の同点に追いついた。5回には3番・井上知厚が右中間本塁打で再逆転。さらに二死二・三塁として、7番・小幡瑛司のセンターへ抜ける適時打で2点を追加。8番・知土志徳がレフトオーバーの二塁打で続くと、9番に再出場した尾本心平がライト前への2点適時打を放ち、5点差として環太平洋大の勝利を決定づけた。

関西大学 0000000 : 0

早稲田大学 000050x : 5

[関] ●松田裕汰一黒田裕太

[早] ○松木俊皓、吉田尚央一沓澤 翔

(本)吉田享平、大嶋 翼

(二)今村大樹

【評】早稲田大学 3年連続決勝進出！

もう1試合の準決勝戦は、大阪・関西大と、東

京・早稲田大の東西両雄の対決となった。

試合中盤までは両チームとも得点を許さない投手戦であったが、早稲田大の2本の本塁打が勝負を決めた。

早稲田大は5回、8番・今村大樹と続く9番・沓澤翔の連続安打で出塁するも、2人が外野フライに打ち取られ二死、3番・溝口聖が死球で二死満塁となったところで、4番・主将の吉田享平のフルスイングが右中間への満塁本塁打。追いうちをかけるように、続く5番・大嶋翼がレフトオーバーの連続本塁打でこの回5点を挙げ、これまでの緊迫した試合に決着をつけた。

関西大は2回と4回に、二死二・三塁という絶好機を2度迎えたが、早稲田大先発の松木俊皓投手の投球がズバリとコーナーに決まり、いずれも見逃しの三振に打ち取られて得点できなかった。

▼第3日（9月1日）決勝戦

環太平洋大学 0 1 3 2 0 : 6
早稲田大学 3 3 1 6 x : 13

〔環〕●大原諒太郎、丹生谷翔馬一知土志徳、
岩原史典

(本)谷本祥太、大畑恵太

〔早〕○松木俊皓、吉田尚央一沓澤 翔

(本)金子祐也② 大嶋 翼②

【評】早稲田大学 3年連続4回目の優勝！！

決勝戦は、前回大会の覇者・早稲田大が環太平洋大の追撃を圧倒的な力で突き放し、3年連続4度目の優勝。岩手に「都の西北」が鳴り響いた。

早稲田大は初回、2番・金子祐也がセンターを越える2点本塁打で先制。5番・大嶋翼もレフトオーバーの本塁打で、計3点を挙げた。環太平洋大も2回、5番・谷本祥太がレフトの頭上に本塁打を放ち2点差とするが、早稲田大はその裏、金子祐也がこの試合2本目のセンターオーバーの3点本塁打で5点差と突き放した。追いかける環太平洋大は3回、3連続安打の後、二死から7番・小幡瑛司のレフト前適時打などで3点を挙げて2点差まで追った。その裏、早稲田大が大嶋翼の本塁打で1点を追加し引き離そうと図る。

粘る環太平洋大は4回表、4番・大畑恵太のセンターオーバー2点本塁打でようやく1点差とし、あと一步で強敵の早稲田大に追いつくかと思えた。しかし、昨年の優勝チームである早稲田大はその裏、4番・大嶋翼、5番・高橋希望、6番・池田康平の連続安打を含む6安打の猛攻で6点を挙げ、終わってみれば5回コールド勝ち。全国各ブロック予選を勝ち抜いてきた精鋭チームに対し、投打力ともさらに上をいき、3連覇を納得させる早稲田大のチーム力を見せつけられた決勝戦であった。

全日本大学(男子)選手権大会入賞校・入賞回数

大学名	優勝回数	2位回数	3位回数
日本体育大学	28	5	4
国士舘大学	4	7	6
早稲田大学	4	3	7
中京大学	3	6	7
東海大学	2	5	6
立命館大学	2	2	3
沖縄国際大学	2		2
京都産業大学	1	4	5
中京学院大学	1	1	1
環太平洋大学	1	1	
琉球大学	1		
福岡大学		4	7
高崎経済大学		3	1
同志社大学		3	1
学習院大学		1	2
神戸学院大学		1	6

大学名	優勝回数	2位回数	3位回数
関西大学		1	5
国際武道大学		1	1
都留文科大学		1	
広島修道大学			4
九州東海大学			2
茨城大学			1
愛媛大学			1
愛知大学			1
大阪体育大学			1
山梨学院大学			1
龍谷大学			1
九州産業大学			1
熊本学園大学			1
九州共立大学			1
高知工科大学			1

※49回連続出場校：日本体育大学・早稲田大学・国士舘大学

男子大会投手成績ベスト10（規定投球イニング数11以上）

順位	選手名	大学名	投球回数	打者数	打数	被安打	失点	自责点	被犠打	与四球	与死球	奪三振	被本塁打	暴投数	不正投	投球数	防御率	勝試合	負試合	試合数
1	河野 拓郎	日本体育	17	61	58	8	3	3	0	2	1	33	1	0	0	246	1.24	2	1	3
1	竹本 流星	中京学院	17	65	57	9	3	3	2	5	1	26	0	2	0	269	1.24	2	1	3
3	庄林 希	広島	15	65	57	13	4	4	1	6	1	18	0	1	0	250	1.87	1	1	3
4	武井 大樹	国士舘	14	63	57	16	6	4	3	3	0	18	0	0	0	233	2.00	1	1	2
5	松木 俊皓	早稲田	24	104	100	28	8	8	1	2	1	23	2	0	0	350	2.33	5	0	5
6	川村 卓未	中央大学	13	52	48	9	6	6	1	2	1	8	2	0	0	195	3.23	1	1	2
7	松田 裕汰	関西	21	101	93	28	14	11	3	2	3	16	3	1	0	330	3.67	2	1	3
8	勝本 翔平	徳島	19	93	78	24	18	12	3	6	6	8	2	0	0	225	4.42	2	1	3
9	大原涼太郎	環太平洋	15 2/3	73	67	20	16	12	1	3	2	6	5	1	0	223	5.36	2	1	3
10	永野 壘	神戸学院	18	86	82	28	18	14	0	4	0	15	8	0	0	323	5.44	2	1	4

男子大会打撃ベスト20（規定打席数12以上）

順位	位置	選手名	大学名	打席数	打数	安打	得点	打点	犠打	四球	死球	三振	盗塁	残塁	打妨害	出塁	本塁打	三塁打	二塁打	打撃率	試合数
1	7	池田 康平	早稲田	15	14	8	4	0	1	0	0	0	4	4	0	8	0	0	0	0.571	5
2	5	小幡 瑛司	環太平洋	17	16	9	2	5	1	0	0	2	0	5	0	9	0	0	1	0.563	5
2	7	杉江 章	神戸学院	14	11	6	3	3	2	1	0	1	1	3	0	7	0	1	2	0.545	4
4	5	大嶋 翼	早稲田	16	15	8	5	5	1	0	0	1	0	2	0	8	3	0	0	0.533	5
5	DP	上村 岳大	神戸学院	15	12	6	4	4	0	3	0	1	0	3	0	9	2	0	1	0.500	4
5	5	吉良 和真	徳島	12	8	4	3	3	1	3	0	1	0	3	0	7	1	0	0	0.500	3
5	8	鈴江 晃平	徳島	13	12	6	3	2	0	1	0	0	0	3	0	7	0	1	1	0.500	3
5	8	兼子 修治	早稲田	18	12	6	6	2	0	4	2	1	3	5	0	12	0	1	0	0.500	5
5	6	吉田 享平	早稲田	18	14	7	5	14	1	3	0	3	0	6	0	10	2	1	1	0.500	5
10	7	大畑 恵太	環太平洋	18	17	8	3	5	0	1	0	3	0	6	0	9	1	1	0	0.471	5
11	3	岩田 貴晶	神戸学院	16	13	6	3	6	0	3	0	1	0	7	0	9	1	0	1	0.462	4
11	8	大柿 廣明	関西	15	13	6	5	2	0	1	1	0	1	3	0	8	1	1	0	0.462	4
11	5	岡田 知洋	関西	13	13	6	2	5	0	0	0	2	1	3	0	6	0	1	0	0.462	4
14	3	宮瀧 裕貴	関西	13	12	5	2	1	1	0	0	1	0	2	0	5	0	1	0	0.417	4
15	8	尾本 心平	環太平洋	12	10	4	1	3	0	2	0	4	0	6	0	6	0	2	0	0.400	5
15	4	溝口 聖	早稲田	18	15	6	6	2	0	2	1	0	0	2	0	9	0	0	0	0.400	5
17	8	永田 伸之	神戸学院	17	13	5	3	3	0	3	1	3	0	4	0	9	0	1	0	0.385	4
18	9	井上 知厚	環太平洋	18	16	6	5	3	0	2	0	4	2	4	0	8	1	0	1	0.375	5
19	2	知土 志徳	環太平洋	13	11	4	3	1	0	2	0	4	0	1	0	6	1	0	2	0.364	5
20	5	土井 涼輔	神戸学院	16	14	5	4	1	0	2	0	5	0	4	0	7	0	1	0	0.357	4

早稲田50年目の夏

早稲田大学男子ソフトボール部主将 吉田 享平

我われ早稲田大学ソフトボール部は、第49回全日本大学選手権大会で優勝をし、三連覇を果たすことができました。この偉業を成し遂げることができました。とても嬉しく思い、またご支援、ご指導くださった多くの方々に感謝の気持ちでいっぱいです。また今年は我々がソフトボール部にとって記念すべき年でありました。同窓会時代を合わせて、創部50年を迎えました。そんな記念すべき年にインカレ優勝という最高の華を添えられたことも大変嬉しく思います。

今年のチームは「早稲田たれ」というスローガンのもと一年間活動してきました。部員一人ひとりが“早稲田”の一員であることを自覚し、早稲田大学ソフトボール部に在籍していることに喜びと誇りを持って行動するように努めさせました。

私自身高校まで野球をやっており、ソフトボール部に入部した当初はソフトボールとはなんとマイナーでつまらない競技なんだと思っていました。しかし今ではソフトボールに対し誰よりも愛着を持ち、ソフトボールの楽しさも十二分に把握しているつもりです。そんなソフトボールをやっていたことを、卒業した後にも胸を張って言えるような環境作りをしたいと思っていました。

特に男子ソフトボールの地位を上げ誇りの持てる競技にすることができるのは、知名度も高く、大学で二連覇している早稲田大学であると考えていました。他のどのチームより誠実にプレーをし、真摯にソフトボールに向き合ってきました。そんな早稲田が勝つことで、憧れられ、目指されるチームになることで男子ソフトボール界に良い風を吹かせられたらと努力してきました。

しかし今年一年は苦労の連続でした。新チームが始まってから一つのタイトルも取れず、東日本選手権大会においては五連覇という記録を途絶えさせることになってしまいました。四年ぶりに行

われた第19回アメリカ遠征ではNAFA World Seriesに参加させていただきました。とても多くのことを経験させていただきよい学びになりましたが、大会では準優勝という結果で満足のいくものではありませんでした。期待されながらも大会でひとつも結果を残すことができず、大きな不安を抱えてインカレを迎えました。

その不安も多くの皆様のご指導、ご声援のおかげで吹き飛ばされていきました。まずは吉村正監督。ソフトボール部を築き発展させ、私たちにソフトボールを通じて多くのことを学ばせてくださいました。どんな状況にも負けない強い「人間力」を鍛えてくださいました。

今年こそはと本気でアベック優勝を共に目指した女子部。負けてしまった悔しさもあっただろうに気持ちを切り替えて駆けつけてくれ、心強い仲間となってくれました。

主務の柏原祐太の声掛けにより来てくださった応援部。主将副将など豪華な布陣で校旗を引っ提げ駆けつけてくれました。

色々な角度からアドバイスくださったコーチの高杉さん、木村さん、今まで支えてくださった保護者の方々、ソフト部の歴史を作ってくれたOBの方々、また早稲田に関わるすべての人たちのおかげで、早稲田が一丸となって掴み取った優勝のような気がします。

皆さんに感謝の気持ちしかありません。ありがとうございました。

これからは吉村先生ご指導の下、溝口新主将を中心としたチームで新たな50年への素晴らしいスタートを切り、さらなる発展を遂げてくれることを期待しております。また、男子ソフトボール界がより素晴らしい競技になるために、ソフトボールの一ファンとして応援していきたいと思います。

文部科学大臣杯第49回全日本大学女子ソフトボール選手権大会

会期：平成26年8月29日(金)～9月1日(月)

会場：岩手県花巻市／石鳥谷ふれあい運動公園A・B・E・H球場

大会概要

東京国際大学（東京） 創部5年目で初優勝！！
大会記録長 伊藤 高行

本大会は、北上平野に位置する岩手県花巻市石鳥谷ふれあい運動公園ソフトボール場において各ブロック予選会を勝ち抜いた32チームの精鋭が全国から相集い開催された。

花巻市は、「早池峰の風薫る安らぎと活力にみちたイーハトーブはなまき」を将来都市像に定め豊かな自然環境と温泉をはじめとする豊かな観光資源を活用し、未来に向かって活力ある豊かな地域社会づくりを進めている魅力あるまちです。

今年の大会は、1日目に一時雨模様となったものの、以後は好天に恵まれ、絶好のグラウンドコンディションのもと大学の頂点を目指す熱き戦いが3日間にわたり繰り広げられた。

試合は、決勝戦を含む7試合が試合規定による点差コールドゲームとなるなどチーム間の実力差が感じられる試合があったものの、全体としては、あまり点差が開かない熱い試合が繰り広げられ、19回目の優勝を目指す日本体育大学、昨年の雪辱を期し7回目の優勝を目指す園田学園女子大学、創部5年目の東京国際大学、創部3年目の東京富士大学が準決勝に勝ち進んだ。

決勝戦は、東京国際大学が2回裏に1点を先制されるも、直後の3回表に準決勝戦サヨナラゲームの勢いをそのままに、2本の長打を含む3安打で2点を返し逆転すると、6回にも1番・碓の右中間を深々と破る満塁ランニング本塁打などで6点を加え、日本体育大学を6回コールドゲームで下し、三科真澄監督の指揮のもと、創部5年目で歓喜の初優勝を成し遂げた。

印象に残った選手

打者では、日本体育大学の捕手・澤井美佑は、打撃率5割7分1厘・打点6を記録するなどチームの要として活躍した。また、東京国際大学の碓は、決勝戦では本塁打と三塁打を記録するなど、打撃率5割を記録し、チーム優勝に大きく貢献した。また、投手では、東京国際大学の金井里奈が、伸びのある速球を主体にした力強い投球で5試合すべてを完投し、勝利数5勝、防御率0.58を記録し、チーム優勝に大きく貢献した。また園田学園女子大学の池田美樹も、粘り強い投球で防御率0.58を記録し、勝利数4勝を挙げた。なお、本大会においては歴代新記録の更新はなかった。

大会講評

新旧チームの激突で幕

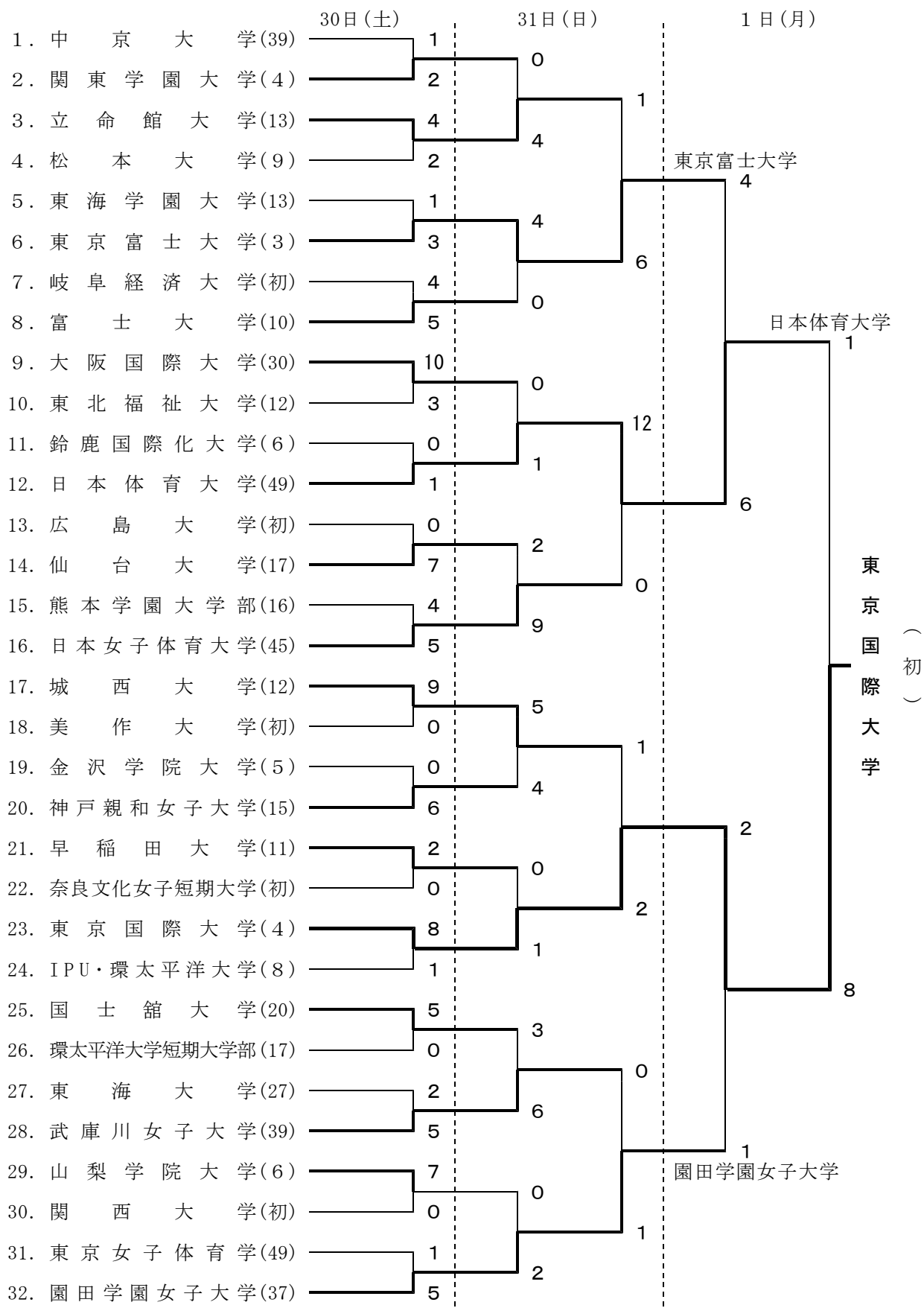
北海道東北地区常任理事 大塚 健樹

一回戦は、多少実力に差があるチームもあり、コールド試合も見られたが、大会全体としては、接戦の多い大会であった。

決勝は、大会屈指の好投手を池田を要し優勝候補の一角であった園田学園女子大学を延長戦の末下して勢いに乗る東京国際大学と、安定した試合運びで勝ち上がった日本体育大学の試合となった。結果は、試合終盤の6回に一举6点を挙げた三科監督率いる東京国際大学がコールド勝ちし、創部5年目での初優勝で幕を閉じた。

全体として、男子の大会も同じ会場で行われたこともあり、多くの観客が集まった、非常に活気のある大会となったと同時に、ベスト4に東京富士大学が入るなど、優勝した東京国際大学含め新興で近年力をつけてきているチームが勝ち進んだ、新旧チームの力の差が埋まってきたとの印象をもった大会でもあった。

文部科学大臣杯第49回全日本大学女子ソフトボール選手権大会



※ () 内は出場回数で、校名変更のあった大学は以前の名称での出場も含む。

試合結果

▼第1日（8月30日）1回戦

関東学園大学 0000200 : 2
中京大学 0010000 : 1

[関] ○猪井玲那ー柳尾美佳

(二)橋本 彩

[中] ●山本光莉、森あすかー平川穂波

【評】関東学園大学 前年度覇者を逆転で倒し2回戦進出！

1点を追う関東学園は5回裏、一死二、三塁で8番橋本彩が左中間を抜く二塁打を放ち、2得点し逆転に成功した。その後も守備では出塁を許しても要所で締め、前年度覇者に土をつけた。

一方、中京は3回裏、先制点を挙げるもの、逆転を許し、その後も攻撃が散発に終わり、連覇の夢は消えた。

立命館大学 0000022 : 4
松本大学 0000011 : 2

[立] ○加藤あずさー山澤 葵

[松] ●山下ひかり、山越栞奈、杉山恭香ー早川涼香

(本)水沢陽香 (三)水沢陽香

【評】立命館大学 逃げ切りで1回戦突破！

両チーム無得点のま迎えた6回、立命館大は、1番原愛実の安打を足掛かりに安打暴投四球で2得点を挙げ、続く7回にも2得点追加し2回戦へ駒を進めた。

一方、松本大学も、1番水沢陽香が本塁打と二塁打で奮起するもの、打線が続かず敗退した。

東海学園大学 0100000 : 1
東京富士大学 1020000 x : 3

[海] ●長瀬りえー石川千夏

(二)石川千夏

[京] ○江渡祐希ー深沢未花

(二)長谷川ゆりか、麓あずさ

【評】東京富士大学 接戦を制し2回戦へ！

東京富士大は1回裏、2番長谷川の二塁打と機動力を生かし1点先制、その後3回にも2安打1四球で2点を追加し試合を決めた。

一方、東海学園は2回表に1得点し同点に追いつくもすぐに突き離され、その後は突破口を見いだせず涙を飲んだ。

岐阜経済大学 0020200 : 4
富士大学 1020101x : 5

[岐] ●若林恵里奈ー大塚友紀

(三)大畑成美 (二)井上智尋

[富] ○草苺里菜ー須貝祥江

【評】富士大学が地元の意地を見せ接戦を制す！

富士大は、初回先頭打者内田千尋がいきなりセンター越えのホームランで先制点を挙げるも逆転された3回裏、根本実佳の適時二塁打で同点とし、連続安打で再度逆転した。同点で迎えた最終回、先頭打者が安打で出塁すると四球と犠打で三進し、7番加藤夏望の内野安打でサヨナラ勝ちした。

一方、初出場の岐阜経済大は、5番大畑成美の三塁打を始めとする10安打で富士大に迫ったが、一歩及ばず惜敗した。

東北福祉大学 10011 : 3
大阪国際大学 0235x : 10

[東] ●伊藤綾香、河口美久、遠藤あおいー

清水菜々子、佐々木菜緒、清水菜々子

[大] ○石田紗也佳ー岡村香織

(三)吉田愛純、(二)石丸美沙、井上真奈美

【評】大阪国際大学 コールドで初戦突破！

1点を追う大阪国際は、2回、6番吉田愛純の右翼超三塁打と7番岡村香織の右前適時打で同点とし、馬場春菜の適時打で逆転。続く3回には、一死満塁から3得点、4回には石丸、井上の二塁打を含め打者一巡で、5点を加えコールドで試合を決めた。

一方、東北福祉大は、1点を先制するも相手投手の緩急をつけた投球と好守備に阻まれ、3点にとどまり敗れた。

日本体育大学 0000100 : 1
鈴鹿国際大学 0000000 : 0

[日] ○岡村奈々ー宇野有加里、澤井美佑

[鈴] ●三木聡美、田畑結女ー松山裕衣

【評】日本体育大学 接戦を制し2回戦へ！

引き締まった良い試合だった。両投手の好投で無得点のま迎えた5回、日体大は2安打と四球で得た二死満塁の好機に、3番澤井美佑が四球を選び、押し出しの先制点を挙げた。その虎の子の1点を、岡村投手が4安打に抑え、三塁を踏ませない好投で守り切った。

一方、鈴鹿国際は、相手投手の力のある投球にもう1本が出ず、涙をのんだ。ファイトある攻守で挑む姿に好感が持たれた。

広島大学 000000 : 0

仙台大学 500101x : 7

[広] ●中村晴香ー中川京子

[仙] ○青山美沙紀ー小室由香里

(二)大久保かなえ

【評】仙台大学 コールドで2回戦進出！

仙台大は立ち上がりの初回、1番大久保かなえの二塁打を足掛かりに、四死球、野手選択を絡め、打者10人で一挙5点を先制した。その後、4回にと6回に3安打1得点を加点して、コールド勝ちを収めた。

一方、広島大は、相手投手の速球に押され、9三振無安打（ノーヒットノーラン6回参考記録）に封じられた。立ち上がりの失点が悔やまれる。

日本女子体育大学 3000002 : 5

熊本学園大学 1102000 : 4

[日] ○佐藤紫帆ー佐々木竜子

(二)佐々木竜子、角本 遥

[熊] 上田 藍、●末藤のぞみー東 淳美

(三)片岡里奈、九谷りこ (二)片岡里奈

【評】日本女子体育 最終回逆転で勝ち上がる！

最終回1点を追う日本女子体育大は、安打の走者を2連続のバント安打で還し同点とした。さらに、4番山田結美の中前安打で逆転し勝利した。

一方、熊本学園は初回の3失点を小刻みに還し4回に逆転したが、好投の2番手投手が、最後につかまり、涙をのんだ。

美作大学 00000 : 0

城西大学 1530x : 9

[美] ●玉田華苗、平佐みくに、玉田華苗ー

藪日香里

(二)藪日香里

[城] 田上沙也加、○金澤麻美、並木あかねー

綿貫奈緒

(三)榎本千波、對馬弥子 (二)對馬弥子

【評】城西大学コールドで2回戦へ進出！

城西大学は初回、二死満塁より6番對馬の適時打で1点先取。2回には長短打4本で打者10人を送り5点の追加点を挙げ、前半で試合を優位に進めコールド勝ちした。

一方、美作大学は3投手の継投に打ちあぐみ完封を許した。

金沢学院大学 0000000 : 0

神戸親和女子大学 203010x : 6

[金] ●木梨鈴子、古武家怜奈、木梨鈴子ー

上之浦成美

(二)長岡優花

[神] ○太田春香ー中尾 萌

【評】神戸親和女子大学 初戦を完封勝利！

神戸親和女子は初回、吉田樹那と山本彩加の二塁打で2点を先取。その後、3回、5回と長短打で追加点を挙げ試合を決めた。

一方、金沢学院は、3回4回と二塁まで走者を進めるも、相手投手の好投に阻まれ、無得点で敗退した。

早稲田大学 2000000 : 2

奈良文化女子短大 0000000 : 0

[早] ○常盤柴文ー山岡里奈

(二)大内佳那

[奈] ●豊田理沙、大塚巳那子、森本叶恵ー

上 麻未

【評】早稲田 常盤投手の好投で2回戦進出！

早稲田は初回、先頭打者大内の二塁打を含む3安打と2四球で2点を先取。その後、立ち直った相手投手陣に散発に抑えられたが、常盤投手の好投で逃げ切った。

一方、奈良文化は、2回4回7回に安打で走者を出すもの、一度も三塁を踏むことなく敗退した。

環太平洋大学 0 1 0 0 0 0 : 1
東京国際大学 5 0 1 0 0 2x : 8

〔環〕●豊永 優、竹原由菜ー宮本真緒

〔東〕○金井里奈ー降矢 香

(二)宇田川愛美、金井里奈、松本由佳

【評】東京国際大学がコールドで2回戦進出！

東京国際大は、初回二死から相手守備の乱れで出塁した走者を宇田川愛美・金井里奈の二塁打などで5点先制し、試合の主導権を握った。更に3回6回に得点を追加し試合を決めた。

一方、環太平洋大は、2回に犠飛で1点還すものの、その後は相手の堅守に阻まれ、追加点を挙げることができず敗退した。

環太平洋大学短大 0 0 0 0 0 0 0 : 0
国 士 館 大 学 1 0 0 0 1 3 x : 5

〔環〕●上長野芽衣ー宮尾由奈美

(二)渡辺春花、中島香澄

〔国〕○吉田千紘ー伊藤里香

(三)小坂紗季

【評】国士舘大学後半の攻撃で初戦突破！

国士舘大学は、初回到二死から四球を足掛りに連続安打で先制。その後、5回に1点、6回には打者8人で3得点を挙げ、勝利を決定づけた。

一方、環太平洋短大は、1回到渡辺春花、6回到中島香澄が、それぞれ二塁打で出塁するもの、後続を断たれ、無念の敗退となった。

武庫川女子大学 0 0 0 0 0 4 1 : 5
東 海 大 学 0 1 1 0 0 0 0 : 2

〔武〕田中明日香、阿部美南、○尾崎千裕ー横野丹音

(本)川口 藍 (三)川島怜那

〔東〕●菊地原悠ー露木智加

(二)土田三奈美

【評】武庫川女子大学 劇的な逆転勝利！

2点先行され、なかなか点が取れずに苦しんでいた武庫川女子大は、6回表二死満塁のチャンス

で、1番川口藍がセンター方向へ柵越えホームランを放ち、一気に逆転。7回裏にも7番川島怜那の三塁打で追加点を挙げ、試合を決めた。守っては、3番手尾崎投手が失点0の好投でリードを守り切った。

一方、東海大は、3番重原早紀の適時打で先制。試合の流れを掴んだかに見えたが、5回以降得点好機にあと1本が出ず、惜しくも初戦敗退となった。

山梨学院大学 3 0 1 3 0 : 7
関 西 大 学 0 0 0 0 0 : 0

〔山〕○清水琴乃ー森田紀代美

(三)根岸百合子 (二)根岸百合子②

〔関〕●宮原那奈、夏山愛絵、宮原那奈ー

守部きらら

(三)院去智子

【評】山梨学院大学 初戦コールドで飾る！

山梨学院は、初回バントと足を絡めた攻撃で満塁にすると、4番DP根岸百合子の三塁打で走者一掃の3得点を先取。その後も機動力を生かし追加点を挙げた。投手清水琴乃もコースを突く好投を見せ快勝する。

一方、 関西は、出塁するも得点につながらず敗退した。

園田学園女子大学 3 0 0 2 0 0 0 : 5
東京女子体育大学 0 0 0 0 1 0 0 : 1

〔園〕○池田美樹ー二宮はな

〔東〕●秋元菜穂ー仲村渠美寿々

(二)山田静佳、櫻岡春香、山本絵梨奈

【評】園田学園 投打かみ合い初戦逃げ切る！

園田学園女子大は初回、無死一、二塁で3番古澤春菜が中堅手の前へはじき返した打球を後ろへ逃がし二者生還、続く4番DP中川なおみが右前安打で3得点を挙げた。更に4回、先頭打者「二宮はな」の安打と犠打などで2点を加点し、試合を優位に進めて2回戦へ駒を進めた。

一方、東京女子大は、3本の二塁打を放つが1得点にとどまり敗退した。

▼第2日（8月31日）2回戦

関東学園大学 0000000 : 0
立命館大学 000004x : 4

〔関〕●猪井玲那、西里佳子ー柳尾美佳

〔立〕○加藤あずさー山澤葵

【評】立命館大学投手戦を制し準々決勝へ進出！
0対0で迎えた6回、立命館は一死満塁と攻め、4番澤井翠、5番森田歩の適時打で3点、更に6番土居文香の内野安打で1点。計4得点を挙げ勝利した。

一方、関東学園は加藤投手に散發2安打に抑えら、後が続かず敗戦した。

富士大学 0000000 : 0
東京富士大学 103000x : 4

〔富〕●草苺里菜ー須貝祥江

(二)須貝 由佳

〔東〕○江渡祐希、福原千尋ー深沢未花

(三)田口美佳

【評】東京富士、4番打者の活躍で準々決勝へ！
東京富士は初回、二死三塁で4番田口美佳のレフト前安打で1点を先制。3回にも一死一・二塁から4番田口美佳の三塁打で2点を追加し試合を決めた。

富士は5回に6番須貝由佳の二塁打で好機を作り7番加藤夏望の内野ゴロを野手がもたつく間に本塁を狙ったが憤死し、一歩及ばなかった。

大阪国際大学 0000000 : 0
日本体育大学 100000x : 1

〔大〕●石田紗也佳ー岡村香織

〔日〕○岡村奈々ー宇野有加里、澤井美佑、宇野有加里

(三)西藤優美

【評】日本体育大学、完封勝利！

日本体育大学は初回、3・4・5番の3連続安打で1点先制。この虎の子を守りきって完封勝利を収めた。

大阪国際大学は、日本体育大学の岡村投手の好投に1安打9三振、三塁を一度も踏むことなく抑えられて敗退した。

日本女子体育大学 100017 : 9
仙台大学 200000 : 4

〔日〕○佐藤紫帆ー佐々木竜子

(三)星美奈代、佐田栄美

(二)角本 遥、星美奈代、三浦 悠

〔仙〕●青山美沙紀ー小室由香里

(三)青山美沙紀

【評】日本女子体育大学、打線爆発で勝利する！

日本女子は角本の二塁打を皮切りに連続安打で1点を先制。その裏逆転されたが、5回に同点とし、6回には三浦の二塁打で好機を掴み、星と代打羽佐田の連続三塁打で猛攻を見せ、一挙7点を挙げ試合を決めた。

一方、仙台大学は、相手の動きを見ながら足を使った巧みな攻撃で逆転に成功したが、その後打線が振るわず、2回戦で敗退した。

神戸親和女子大学 2100001 : 4
城西大学 100310x : 5

〔神〕●太田春香、竹次史織ー中尾 萌

(三)吉田樹那

〔城〕田上沙也加、○金澤麻美ー綿貫奈緒

(三)蟹沢夏帆

【評】城西大学逆転で勝利、準々決勝進出

2点を追う城西大は4回裏、二死満塁のチャンスに、1番蟹沢の中越三塁打で一挙3得点し逆転に成功。続く5回裏にも四球で出塁の走者を3連打で進めて1点を加点し試合を決めた。

一方、神戸親和大は、初回到城西大田上投手の立ち上がりを攻め4安打で2点先制。その後2回にも加点したが、2番手金澤投手を攻略できず4回に逆転を許した。最後の踏ん張りでも7回に1点差に詰め寄るも相手好守備に阻まれ惜敗した。

早稲田大学 0000000 : 0
東京国際大学 0000001x : 1

〔早〕常盤柴文、●泉 花穂ー山岡里奈
福島早知子

〔東〕○金井里奈ー降矢 香

【評】東京国際大学、劇的サヨナラ打で勝利。準々決勝へ！

両者無得点のま迎えた最終回、後攻の東京国際大学は四球で出塁の走者を一塁に置き、続く打者の打球が走者と重なり、これを野手が後逸。故意四球もあり無死満塁で9番遠藤千夏が左中間へタイムリーを放ち、これが決勝打になり緊迫した試合に終止符を打った。

一方、早稲田大学はいくつかチャンスを掴みながら相手の好守備に阻まれ得点できなかった。一つの失策に泣いた試合だった。

国士館大学 0201000 : 3
武庫川女子大学 000042x : 6

[国] ●吉田千紘、鈴野由梨奈ー伊藤里香、
近藤美紀

(二)依田奏緒、林 怜美

[武] 田中明日香、阿部美南、○尾崎千裕ー
吉田美姫

(三)川口 藍 (二)明楽佳那子

【評】武庫川女子大学、逆転で準々決勝進出！

3点を先制された武庫川女子は、5回、9番村の四球を足がかりに1番川口の中越え三塁打を含む4安打を放ち、一挙4点を挙げ逆転に成功。6回にも一死二・三塁から3番明楽の2点二塁打で加点。そのまま逃げ切り、準々決勝へと駒を進めた。

一方、国士館は、2回に先制し、5回以降、得点圏に走者を出すも、あと1本が出ず敗退した。

山梨学院大学 0000000 : 0
園田学園女子大学 000101x : 2

[山] ●清水琴乃ー森田紀代美

(二)村上ほのか

[園] ○池田美樹ー二宮はな

(三)亀井愛梨 (二)古澤春菜

【評】園田学園、接戦を制し準々決勝へ！

園田学園女子大学は4回、2番亀井の右中間を破る三塁打で出塁し、3番古澤の適時打で先制。6回には、二死一塁で3番古澤が左中間を破る二塁打で加点、そのまま逃げ切った。

一方、山梨学院大学は5回、6回に得点圏に走

者を進めながらもあと一本が出ず、涙をのんだ。清水投手は7奪三振の力投をみせたが報いらなかった。

▼第2日（8月31日）準々決勝戦

東京富士大学 0200211 : 6
立命館大学 0000010 : 1

[東] ○江渡祐希ー深沢未花

(二)田口秀佳

[立] ●加藤あずさー山澤 葵

(本)山澤 葵

【評】東京富士、投打がかみ合い準決勝進出！

東京富士大学は2回に先制し、5回・6回と足を生かした攻撃で追加点を重ねる。投げては江渡投手が3安打に抑え、勝利をつかんだ。

立命館大学は6回山澤の本塁打で1点を還すも、好投江渡投手を打ち崩すことができず敗退した。

日本女子体育大学 0000 : 0
日本体育大学 471x : 12

[女] ●佐藤紫帆ー佐々木竜子

[体] ○岡村奈々、大村 茜、有馬 瞳ー
宇野有加里、澤井美佑

(三)槌谷史花、西藤優美 (二)田村ひかり、
西藤優美、澤井美佑②、松畑美希

【評】日本体育大学、毎回安打で準決勝進出！

日本体育大学は初回に一番の槌谷の三塁打を皮切りに連続安打で4点を挙げた。続く2回にも9安打で一挙7点を加え快勝した。連続48回出場の貫録をみせた試合だった。

一方、日本体育大学は、相手チームの3投手に抑えられ、持ち味を出せず終わり悔いの残る試合となった。

城西大学 00001000 : 1
東京国際大学 00000101x : 2

[城] 田上沙也加、●金澤麻美ー綿貫奈緒

[東] ○金井里奈ー降矢 香

【評】東京国際大学、タイブレーカーを制し準決勝戦へ進出！

同点で迎えた8回、東京国際大学は一死満塁と

し、5番宇田川がライトへ犠牲フライとなる決勝打を放ち、2試合連続のサヨナラ勝利を収めた。

一方、城西大学は5回に先制するも、あと1本が出ず、力投する田上・金澤両投手に華をそえることができず惜敗した。

武庫川女子大学 00000000 : 0

園田学園女子大学 00000001x : 1

[武] ●尾崎千裕ー吉田美姫

[園] 原 奈々、○池田美樹ー二宮はな

(三)中川なおみ

【評】園田学園女子大学、劇的サヨナラ勝ちで準決勝進出！

兵庫ダービーとなった対戦は、0ー0と息詰まる投手戦で、最終回裏を迎えた。園田学園はその裏二死から、4番中川が右翼越えの二塁打、四球の後、6番田井が中前に安打し、勝利を決める走者を迎え入れた。押され気味であった園田学園が劇的なサヨナラ勝ちを飾った。

一方、武庫川女子は4回に二死満塁の好機を生かすことができず惜敗した。完投した尾崎は、5回まで走者を出さず好投したが最後に力尽きた。

▼第3日（9月1日）準決勝戦

日本体育大学 00000000123 : 6

東京富士大学 00000000121 : 4

[日] ○岡村奈々、大村 茜ー宇野有加里

(本)松畑美希、宇野有加里 (二)西藤優美

[東] ●江渡祐希、福原千尋、小林 楓ー

深沢未花

(三)荻野みなみ

【評】日本体育大学は、延長を制し決勝戦進出！

日体大・岡村、東京富士大・江渡両投手の好投で息詰まる投手戦となり、両チーム無得点のまま、タイブレーカーに突入した。

8回に1点、9回に2点をそれぞれ取り合い、両チームの勝利への「執念」が感じられる試合になったが、日体大が10回表、4番・宇野の2点本塁打などで3点を勝ち越し、その裏、東京富士大も懸命の反撃を試みたが、リリーフした木村から1

点を返したものの、反撃はここまで。東京富士大は決勝進出はならなかったが、創部3年目で3位の好成績を残した。

園田学園女子大学 000001000 : 1

東京国際大学 0000000101x : 2

[園] ●池田美樹ー二宮はな

[東] ○金井里奈ー降矢 香

(三)大谷安奈 (二)石田美奈

【評】東京国際大学、延長を制し初の決勝進出！

東京国際大・金井、園田学園女子大・池田の白熱した投げ合いが5回まで続いた。

園田学園女子大は6回表、7番・亀井、8番・児嶋、9番・本岡の3連打で無死満塁の好機をつかみ、一死後、2番・堤の中犠飛で待望の先取点を挙げた。

1点を追う東京国際大は土壇場の7回裏、7番・大谷の右中間三塁打を足掛かりに、一死後、9番・遠藤の内野安打で大谷が還り、同点。延長に持ち込むと、9回裏一死満塁好機から、代打・原の中犠飛で三塁勝者が還り、劇的なサヨナラ。東京国際大が強豪・園田学園女子大を下し、決勝に勝ち進んだ。

▼第3日（9月1日）決勝戦

東京国際大学 002006 : 8

日本体育大学 010000 : 1

[東] ○金井里奈ー降矢 香

(本)碓 早希 (三)碓 早希、松本由佳

(二)宇田川 愛美

[日] ●岡村奈々、大村 茜ー宇野有加里、

澤井美佑

(二)宇野有加里②、西藤優美

【評】東京国際大学、創部5年で初優勝！

日体大は2回裏、4番・佐藤が左越二塁打。次打者の内野ゴロで三進し、6番のショートゴロで本塁へ突入するも憤死。チャンスが潰えたかに見えたが、7番・西藤がライトへ二塁打を放ち一塁走者が一気に生還。1点を先制した。

東京国際大はその直後、1番・碓が右翼線三塁

打で出塁すると、代打・原が期待に応じて左前適時打を放ちすかさず同点に追いついた。さらに二死後、5番・宇田川が左中間へ三塁打を放ち逆転に成功した。勢いづいた東京国際大は6回表、一死満塁の好機に、1番・裕右が中間を破るランニングホームランを放つなど、5本の長短打を集中、

大量6点を加えた。先発・金井も3回以降は要所を抑えて追加点を許さず、東京国際大が6回ワールド勝ちで新鋭が古豪を押さえ込み、北京オリンピックの金メダリスト・三科真澄監督の指揮のもと、創部5年目で「頂点」に登り詰め、歓喜の初優勝を成し遂げた。

全日本大学(女子)選手権大会入賞校・入賞回数

大学名	優勝回数	2位回数	3位回数	大学名	優勝回数	2位回数	3位回数
日本体育大学	18	13	6	東海女子大学	1		1
東京女子体育大学	15	15	8	東海学園大学	1		1
園田学園女子大学	6	4	9	鈴鹿国際大学	1		1
東北福祉大学	3		2	九州女子大学			2
日本女子体育大学	1	5	8	仙台大学			2
大阪成蹊女子短大	1	4	5	関西外国語大学			1
中京大学	1		11	神戸親和女子大学			1
淑徳大学	1		2	龍谷大学			1
大阪大谷大学	1		2	愛媛女子短期大学			1
中京女子大学	1		1	龍谷大学			1
早稲田大学	1		1	清和大学			1
東京国際大学	1			福岡大学			1
武庫川女子大学		2	6	立命館大学			1
大阪国際大学		2	2	環太平洋大学			1
大阪体育大学		1	1	東京富士大学			1

※旧校名分を含む

※第39回の優勝は2校

※49回連続出場校：日本体育大学・東京女子体育大学

女子大会投手成績ベスト10（規定投球イニング数11以上）

順位	選手名	大学名	投球回数	打者数	打数	被安打	失点	自责点	被犠打	与四球	与死球	奪三振	被本塁打	暴投	不正投	投球数	防御率	勝試合	負試合	試合数
1	常盤 柴文	早稲田	11	41	37	6	0	0	1	2	1	10	0	0	0	183	0.00	1	0	2
2	尾崎 千裕	武庫川	13.2/3	50	45	6	1	1	3	8	0	2	0	0	0	209	0.51	2	1	3
3	池田 美樹	園田学園	24.1/3	98	87	18	3	2	5	4	1	15	0	0	0	354	0.58	3	1	4
4	金井 里奈	東京国際	36	136	123	26	4	3	8	3	2	24	0	0	0	551	0.58	5	0	5
5	江渡 祐希	東京富士	29.2/3	114	96	18	7	4	10	7	3	18	2	1	0	425	0.94	3	1	4
6	石田紗也佳	大阪国際	11	49	42	13	4	2	3	3	1	2	0	0	0	202	1.27	1	1	2
6	清水 琴乃	山梨学院	11	40	39	7	2	2	1	0	0	9	0	0	0	115	1.27	1	1	2
8	岡村 奈々	日本体育	30.1/3	117	104	19	9	7	4	6	3	24	1	1	0	442	1.62	4	1	5
9	加藤あずさ	立命館	21	90	76	22	8	7	5	8	1	16	1	1	0	365	2.33	2	1	3
10	猪井 玲那	関東学園	12.1/3	48	43	11	5	5	2	3	0	5	0	0	0	195	2.84	1	1	2

女子大会打撃ベスト20（規定打席数12以上）

順位	位	選 手 名	大 学 名	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出 本 三 二	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盜 残 打 出
----	---	-------	-------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------

大学日本一になるまで

東京国際大学女子ソフトボール部主将 降 矢 香

東京国際大学女子ソフトボール部は今年で創部5年目を迎えました。「愛されて勝つ」というチーム理念のもと、宇津木総監督、三科監督、城戸コーチ、高木トレーナーと毎日ソフトボールと真剣に向き合い活動しています。「愛されて勝つ」というのは、ソフトボールの技術向上はもちろんですが、それ以上に目配り、気配り、心配りなど人として当たり前の礼儀や人間性を磨いていくと

ということです。全国には強いチームがたくさんありますが、その中でもどこよりも応援していただけるチームを目指しています。

本学のソフトボール部はエリートの集まりではありません。高校時代は全国大会に出ることを目標としており、全国優勝を目指していた子は一握りでした。そんな全国大会も知らないような私たちに宇津木総監督をはじめ、三科監督、城戸コー

チは一からご指導くださいました。入学当初はキャッチボールもまともにすることが出来ませんでした。勝つ上で必要なゴロ捕球や送りバントといった基本すら出来ず、すべてゼロからのスタートでした。試合をすれば下手で馬鹿にされ、笑われ、悔しい思いもしてきました。そんな時、三科監督からある言葉を頂きました。「下手なのだから馬鹿にされて当然、笑われて当然。ただ相手には同じことするな。でも、あなたたちが全力でやった結果笑われたのかな？60%でやって笑われたなら悔しがら価値もない。いつかは優勝できるかもしれない。しかし、いま勝ちたいなら、自分が下手くそだと受け入れられる心があるなら、他のチームの10倍やりなさい。」という言葉でした。そのとき私たちは気づかされました。頑張っている自分に満足しているだけで、愛されて勝つための本質が分かっていたいなかったのだと。その日から生活は一変しました。自主練習をする人が増え、ソフトボールに真剣に打ち込むために自分の欲を1つ我慢し、その時間をソフトボールにあてる人など、向き合い方は様々でしたが全員が同じ方向を向いていきました。また城戸コーチからは「負け癖のあるチームはトーナメントでは勝てない。ソフトボールに限らずなんでも日本一になる癖をつけた

さい。その結果ソフトボールで日本一になることが最高。妥協をしない、負けず嫌いになりなさい。」という言葉頂きました。その言葉をもとに、道具を大切に使うこと、グラウンド整備、挨拶、行進・・・ソフトボール以外のことにも「日本一」にこだわりはじめました。

そして迎えた第49回全日本大学選手権大会では5試合を勝ち抜き優勝という結果を残すことが出来ました。すべて強豪校との対戦ではありましたが、日々の積み重ねを試合で徹底してできた結果と、自分たちはやってきたという自信があったからこそその結果だと思います。また、試合に入るにあたり何不自由ない環境を作り、役割を理解し行動してくれたレギュラー外の選手が日本一のベンチワークをしてくれた結果でもあります。

これからは追われる立場となりますが、まだまだ追われるようなチームではありません。常に挑戦、成長し続けていきたいと思っています。

そして、どんなときも応援に駆け付けてくださる理事長先生をはじめ学校関係者の皆様に支えられ今があります。ご尽力くださるすべての方々への感謝の気持ちを忘れずこれからも日々精進して参ります。



Facebook 始めました。

全日本大学ソフトボール連盟広報記録部会では、インカレ直前からFacebookを始めました。速報はツイッターで、ある程度まとまった新鮮な情報はFacebookで、詳しい記録はHPでとそれぞれの特性を活かして情報を発信していきたいと考えたからです。

インカレ大会期間中には20回更新し、試合結果と写真を主に掲載しました。当初は1日あたり1千名程度のリーチでしたが、最終日には6千名を超えるリーチでした。大会期間中の合計リーチは2万7千を超えました。

今後とも、共催大会・後援大会を含めて新鮮な情報を発信していきますので、「いいね！」ばかりでなく、コメントやシェアもよろしくお願いいたします。

第29回東日本大学(男子)ソフトボール選手権大会

会期：平成26年8月7日(木)～8月11(月)

会場：東京都八王子市／滝が原グラウンド

	8 日	9 日	11 日	
1. 早 稲 田 大 学	14			
2. 盛 岡 大 学	1	2		
3. 日 本 大 学	12		0	
4. 城 西 大 学	28	4		国士舘大学
5. 成 蹊 大 学	1		0	
6. 山 梨 学 院 大 学	7	0		
7. 桜 美 林 大 学	5		8	
8. 東 京 理 科 大 学	0	9		
9. 国 士 舘 大 学	3			国際武道大学
10. 日 本 大 学 工 学 部	19			0
11. 帝 京 大 学	18	2		
12. 福 島 大 学	9	19	3	
13. 東 京 大 学	15			
14. 東 北 大 学	2	1	2	
15. 東 京 学 芸 大 学	10	13		
16. 国 際 武 道 大 学	16	6		
17. 明 星 大 学	0			
18. 千 葉 大 学	13	0		
19. 立 教 大 学	3	7		
20. 高 崎 経 済 大 学	5	9		
21. 東 京 都 市 大 学	0			東海大学
22. 宮 城 教 育 大 学	6	1	0	
23. 学 習 院 大 学	13	9		
24. 東 海 大 学	10	9		
25. 明 治 大 学	3			
26. 筑 波 大 学	0	1		
27. 慶 應 義 塾 大 学	7		0	
28. 埼 玉 大 学	0	9		
29. 中 央 大 学	3		6	
30. 関 東 学 園 大 学	8	0		
31. 専 修 大 学	1	4		
32. 仙 台 大 学	0	7		
33. 日 本 体 育 大 学	7			

優勝 日本体育大学(5年ぶり12回目)

第29回東日本大学(女子)ソフトボール選手権大会

会期：平成26年 8 月 7 日(木)～11日(月)

会場：東京都八王子市／滝が原グラウンド

	8 日	9 日	11 日
1. 山 梨 学 院 大 学		0	
2. 淑 徳 大 学	0	3	3
3. 日 本 体 育 大 学	7	3	
4. 松 本 大 学	14	1	8
5. 日 本 大 学	4	0	
6. 城 西 大 学	3	7	
7. 国 士 館 大 学	5		
8. 仙 台 大 学	15	0	5
9. 桜 美 林 大 学	2		
10. 清 和 大 学	1	6	6
11. 東京女子体育大学	8	6	2
12. 筑 波 大 学	1	0	東女体大
13. 学 習 院 大 学	9	2	
14. 東京国際大学	0	11	優勝
15. 早 稲 田 大 学	1		日本体育大学
16. 金 沢 学 院 大 学		0	(3年ぶり16回目)
17. 東京学芸大学	1	5	5
18. 東 海 大 学	8		東海大学
19. 専 修 大 学	4	1	0
20. 順 天 堂 大 学	9	0	
21. 日本女子体育大学	11	11	
22. 盛 岡 大 学	0		
23. 慶 應 義 塾 大 学	0	2	1
24. 関 東 学 園 大 学	8	1	東京富士大学
25. 中 央 大 学	3	1	
26. 富 士 大 学	10	9	
27. 城西国際大学	0	3	
28. 東北福祉大学	11	2	
29. 東京富士大学		4	

第46回西日本大学(男子)ソフトボール選手権大会

会期：平成26年8月8日(金)～11日(月)

会場：山口県宇部市／東部体育広場 他

	8月9日	8月10日	8月11日	
1. 環太平洋大学	11	8		
2. 九州産業大学	4		13	
3. 龍谷大学	4	1		
4. 高知工科大学	3		9	
5. 岐阜聖徳学園大学	3	11		
6. 広島工業大学	1		8	
7. 大阪産業大学	4	1		
8. 福岡大学	3			14
9. 南山大学	9	0		
10. 崇城大学	8		3	
11. 神戸大学	3	12		
12. 広島大学	9		4	
13. 中京大学	7	8		
14. 長崎国際大学	0		11	
15. 大阪経済大学	11	1		
16. 九州共立大学	8			優勝 環太平洋大学 (2年連続4回目)
17. 常葉大学	12	2		
18. 香川大学	2		5	
19. 関西大学	9	8		
20. 岡山大学	1		4	
21. 京都産業大学	8	12		
22. 鹿児島国際大学	3		4	
23. 愛知大学	4	0		
24. 沖縄国際大学	7			12
25. 大阪体育大学	6	5		
26. 広島修道大学	7		1	
27. 同志社大学	8	13		
28. 熊本学園大学	9		5	
29. 徳島大学	0	12		
30. 立命館大学	12		9	
31. 神戸学院大学	8	6		
32. 中京学院大学	2			

第46回西日本大学(女子)ソフトボール選手権大会

会期：平成26年8月8日(金)～11日(月)

会場：山口県宇部市／東部体育広場 他

	8月9日	8月10日	8月11日	
1. 園田学園女子大学		11		
2. 美作大学	1	4	4	
3. 太成学院大学	13	4		
4. 日本福祉大学	2	2	4	
5. 環太平洋大学短期大学部	6	3		
6. 武庫川女子大学		5		
7. IPU・環太平洋大学		5		
8. 常葉大学	0	4	4	
9. 大阪国際大学	4		2	
10. 熊本学園大学	3	0		
11. 神戸親和女子大学	5	1		
12. 東海学園大学		7		優勝
13. 九州共立大学		3		園田学園女子大
14. 奈良学園大学奈良文化女子短	13	4		(3年連続15回目)
15. 鳥取短期大学	0	4		
16. 鈴鹿国際大学	1	7	1	
17. 関西大学	3	3		
18. 広島大学		0		
19. 四国大学		3	2	
20. 大阪大谷大学	2	22	5	
21. 中京大学	4		4	
22. 天理大学	6	0		
23. 岐阜経済大学	2	2		
24. 立命館大学		12		

第13回 大学ソフトボール東海オープン（女子）大会結果

会期：平成26年3月19日（水）・21日（金）

会場：愛知県安城市／安城市総合運動公園ソフトボール球場A・B・野球場C

予選リーグ戦（3月19日）

Eグループ	関 学	日 福	常 葉	順位
関東学園	—	● 3－4	○ 6－2	2
日本福祉	○ 4－3	—	○ 10－0	1
常 葉	● 2－6	● 0－10	—	3

Fグループ	福 岡	山 梨	東園B	順位
福 岡	—	● 0－4	○ 7－0	2
山梨学院	○ 4－0	—	○ 10－0	1
東海学園B	● 0－7	● 0－10	—	3

Gグループ	東園A	東 国	至学館	順位
東海学園A	—	● 1－6	○ 6－1	2
東京国際	○	—	○	1
至 学 館	● 1－6	● 0－5	—	3

Hグループ	中 京	同志社	中 院	順位
中 京	—	○ 6－0	○ 5－0	1
同 志 社	● 0－6	—	○ 8－1	2
中京学院	● 0－5	● 1－8	—	3

順位決定戦（3月21日）

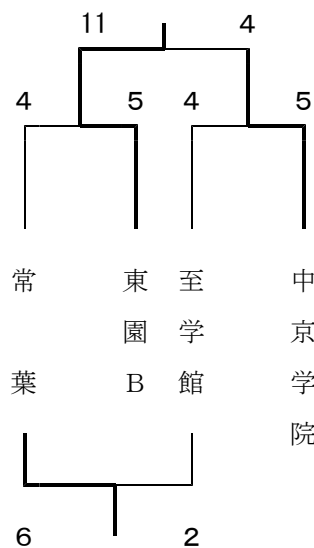
1～3位決定戦

日本福祉 7－0 山梨学院
中 京 0－7 山梨学院
中 京 19－8 日本福祉

4～6位決定戦

東海学園A 14－2 同 志 社
関 東 学 園 6－4 同 志 社
関 東 学 園 0－7 東海学園A

7～10位決定戦



最終順位

優勝：山梨学院大学・日本福祉大学・中京大学（3校同率優勝）

（中京大は3年連続7回目、日本福祉大と山梨学院大は初）

4位：東海学園大学A、5位：関東学園大学、6位：同志社大学
7位：東海学園大学B、8位：中京学院大学、9位：常葉大学
10位：至学館大学

※東京国際大学と福岡大学は順位決定戦を棄権

第13回 大学ソフトボール東海オープン（男子）大会結果

会期：平成26年3月25日（火）・27日（木）

会場：愛知県豊田市／豊田市運動公園ソフトボール場・多目的広場

予選リーグ戦（3月25日）

Aグループ	同志社	関学	愛知	順位
同志社		○ 8-1	○ 5-2	1
関東学園	● 1-7		○ 10-7	2
愛知	● 2-5	● 7-10		3

Bグループ	中院	京都	日福	順位
中京学院		○ 7-1	○ 10-1	1
京都	● 7-1		○ 9-2	2
日本福祉	● 1-10	● 2-9		3

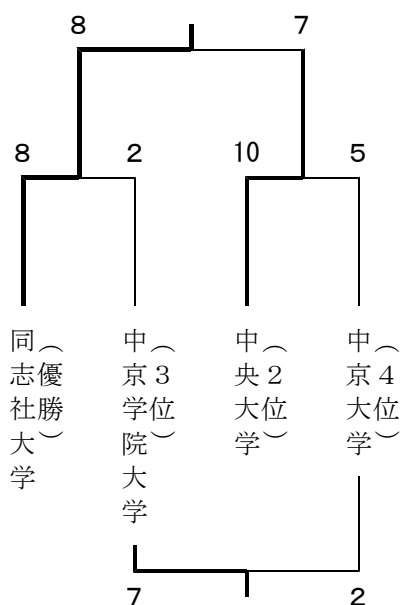
Cグループ	中央	聖徳	常葉	順位
中央		○ 9-0	△ 2-2	1
岐阜聖徳	● 0-9		○ 16-7	2
常葉	△ 2-2	● 7-16		3

Dグループ	中京	広島	愛院	順位
中京		○ 5-4	△ 6-6	1
広島	● 4-5		● 8-12	3
愛知学院	△ 6-6	○ 12-8		2

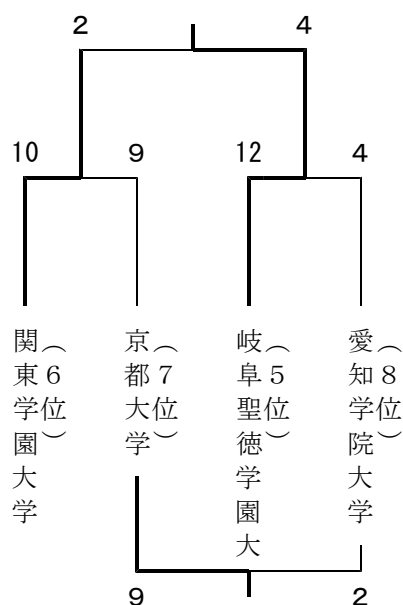
※1～2位は失点率による。

順位決定戦（3月27日）

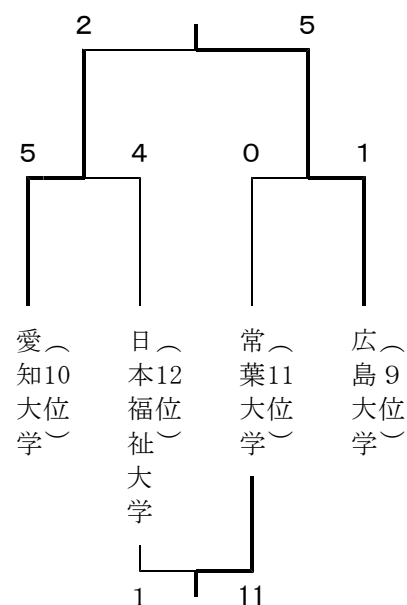
1～4位決定戦



5～8位決定戦



9～12位決定戦



第15回 「峠のまち」 Matsuida Cup 男・女大学ソフトボール強化大会

会期：平成26年4月19日(土)～20日(日)

会場：群馬県安中市／五料運動場・坂本スポーツ広場・久芳スポーツ広場

横川LEAG	高経A	城高B	都留文	山 梨	順
高崎経済 A		● 2-3	○ 11-1	○ 9-4	2
城西高経 B	○ 3-2		○ 6-0	○ 8-2	1
都留文科	● 1-11	● 0-6		● 2-15	4
山梨学院	● 4-9	● 2-8	○ 15-2		3

※城西大学は1日目のみ参加。

碓氷LEAG	関 学	千 葉	東 海	信 州	順
関東学園		○ 6-0	○ 4-2	○ 21-1	1
千 葉	● 0-6		○ 12-2	● 8-17	3
東 海	● 2-4	● 2-12		○ 11-3	2
信 州	● 1-21	○ 17-8	● 3-11		4

※2～4位は大会規定による。

順位決定戦

◇1～2位：高崎経済大学B 5-1 関東学園大学

◇3～4位：東海大学8-2 高崎経済大学A

◆5～6位：千 葉 大 学 8-4 山梨学院大学

◆7～8位：都留文科大学9-9 信州大学

【女子】

BLEAG	新 島	東 福	富 士	城 西	順
新島短期		● 3-4	● 2-8	● 0-10	4
東北福祉	○ 4-3		○ 2-0	○ 4-3	1
富 士	○ 8-2	● 0-2		● 2-4	3
城 西	○ 10-0	● 3-4	○ 4-2		2

順位決定戦

◇1～2位：関東学園大学5-3 東北福祉大学

◇3～4位：城西大学6-2 東海大学

◆5～6位：富士大学9-0 国際武道大学

◆7～8位：新島短期大学7-6 松本大学

DLEAG	国 武	松 本	関 学	東 海	順
国際武道		○ 9-5	● 3-13	● 6-17	3
松 本	● 5-9		● 0-2	● 3-6	4
関東学園	○ 13-3	○ 2-0		○ 7-4	1
東 海	○ 17-6	○ 6-3	● 4-7		2

【最終結果】(男子／女子)

優 勝：高崎経済大学B／関東学園大学

第5位：千 葉 大 学／富 士 大 学

準優勝：関東学園大学／東北福祉大学

第6位：山梨学院大学／国 際 武 道 大 学

第3位：東 海 大 学／城 西 大 学

第7位：信 州 大 学／新島学園短期大学

第4位：高崎経済大学A／東 海 大 学

第8位：都留文科大学／松 本 大 学

※男子7～8位は大会規定による。

第11回 北信越大学オープンソフトボール大会

会期：平成26年7月12日(土)

会場：福井県あわら市／坂井グラウンド 他

【男子】

1. 兵庫教育大学	4		7月13日は雨天中止 順位の決定はできず
2. 富山大学 B	2		
3. 富山大学 A	9		
4. 信州大学	4		
5. 高崎経済大学	11		
6. 福井大学	3		
7. 愛知学院大学	12		
8. 福井県立大学			

【女子】

1. 大阪国際大学	16		7月13日は雨天中止 順位の決定はできず
2. 金沢大学	2		
3. 東京国際大学	4		
4. 関西大学	3		
5. 兵庫教育大学	1		
6. 松本大学	8		
7. 金沢学院大学	0		
8. 東海大学	3		

2014 HAKUBA CUP 大学女子ソフトボール大会

会期：平成26年8月19日(火)～21日(木)

会場：長野県白馬村／村営北部グラウンド他

予選リーグ戦

予選A	大阪国際	国際武道	岐阜経済	順
大阪国際		○ 7 - 0	○ 3 - 2	1
国際武道	● 0 - 7		● 2 - 10	3
岐阜経済	● 2 - 3	○ 10 - 2		2

予選B	金沢学院	新島学園	至学館	順
金沢学院		○ 5 - 3	● 3 - 4	2
新島学園	● 3 - 5		● 2 - 3	3
至学館	○ 4 - 3	○ 3 - 2		1

予選C	城 西	大阪青山	東京富士	順
城 西		○ 9 - 2	● 1 - 3	2
大阪青山	● 2 - 9		● 1 - 6	3
東京富士	○ 6 - 1	○ 3 - 1		1

予選D	大阪体育	日本福祉	清 和	順
大阪体育		○ 5 - 1	● 4 - 7	2
日本福祉	● 1 - 5		○ 5 - 0	1
清 和	○ 7 - 4	● 0 - 5		3

予選E	東京国際	東海学園	松 本	順
東京国際		○ 6 - 0	○ 5 - 1	1
東海学園	● 0 - 6		○ 8 - 3	2
松 本	● 1 - 5	● 3 - 8		3

※順位は失点率（総失点÷総守備回数）による。

決勝リーグ戦

1位L.	大阪国際	至 学 館	東京富士	日本福祉	東京国際	勝	分	敗	失率点	順位
大阪国際		○ 7 - 0	● 0 - 6	○ 5 - 2	● 1 - 2	2	0	2		3位
至 学 館	● 0 - 7		● 1 - 8	△ 3 - 3	● 0 - 6	0	1	3	1.000	5位
東京富士	○ 6 - 0	○ 8 - 1		○ 2 - 0	△ 2 - 2	3	1	0	0.111	2位
日本福祉	● 2 - 5	△ 3 - 3	● 0 - 2		● 0 - 3	0	1	3	0.464	4位
東京国際	○ 2 - 1	○ 6 - 0	△ 2 - 2	○ 3 - 0		3	1	0	0.103	優勝

※東京国際大学は2年連続2回目の優勝

2位L.	岐阜経済	金沢学院	城 西	大阪体育	東海学園	勝	分	敗	失点率	順位
岐阜経済		● 2 - 4	● 0 - 2	○ 3 - 2	○ 7 - 0	2	0	2	0.286	7位
金沢学院	○ 4 - 2		● 3 - 10	○ 2 - 0	● 0 - 4	2	0	2	0.615	9位
城 西	○ 2 - 0	○ 10 - 3		● 1 - 3	○ 8 - 5	3	0	1		6位
大阪体育	● 2 - 3	● 0 - 2	○ 3 - 1		● 1 - 6	1	0	3		10位
東海学園	● 0 - 7	○ 4 - 0	● 5 - 8	○ 6 - 1		2	0	2	0.571	8位

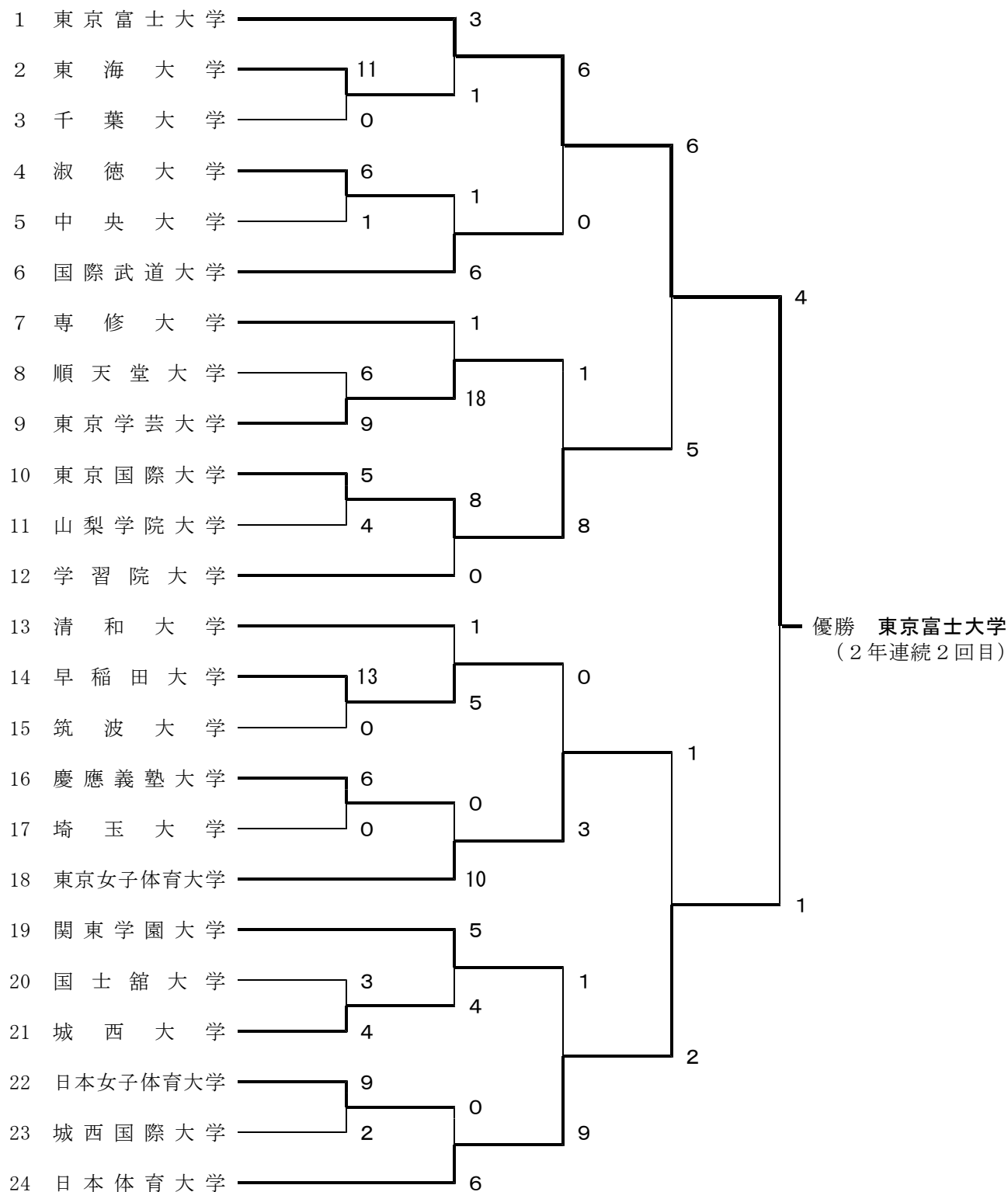
3位L.	国際武道	新島学園	大阪青山	清 和	松 本	勝	分	敗	失点点	順位
国際武道		● 6 - 9	● 0 - 4	● 5 - 9	● 0 - 9	0	0	4		15位
新島学園	○ 9 - 6		○ 6 - 3	● 2 - 3	● 0 - 6	2	0	2	0.642	14位
大阪青山	○ 4 - 0	● 3 - 6		○ 6 - 5	● 0 - 4	2	0	2	0.535	12位
清 和	○ 9 - 5	○ 3 - 2	● 5 - 6		● 3 - 5	2	0	2	0.642	13位
松 本	○ 9 - 0	○ 6 - 0	○ 4 - 0	○ 5 - 3		3	0	1		11位

第45回 関東大学男女ソフトボール選手権大会

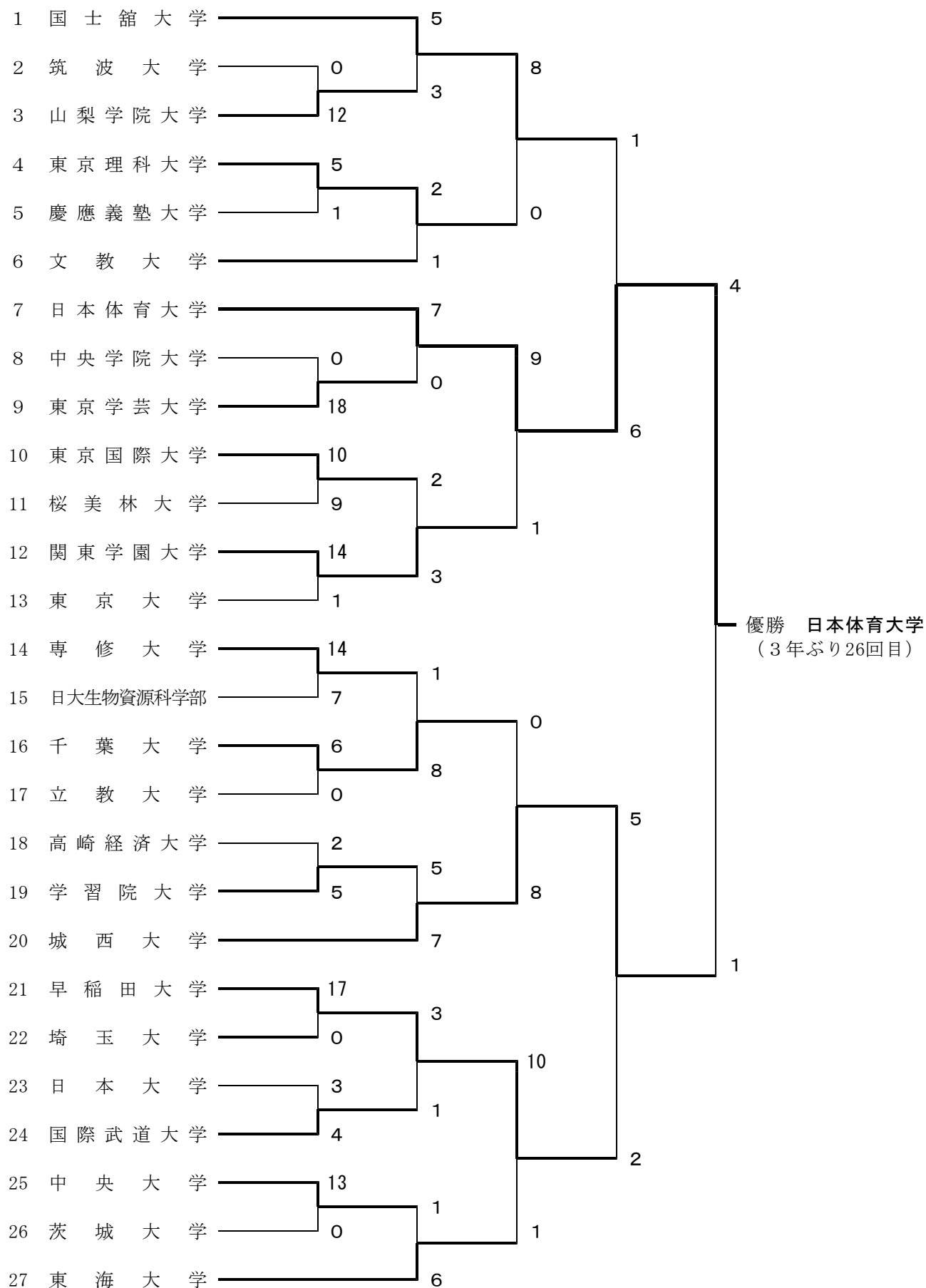
会期：平成26年11月14日(金)～17日(月)

会場：千葉県成田市／大谷津運動公園多目的広場他(女子)・下総運動公園野球場他(男子)

【女子】



【男子】



藤原初男杯第6回全国大学・実業団対抗ソフトボール選抜大会

会期：平成26年11月22日～24日

会場：愛知県豊田市／豊田市運動公園ソフトボール場・多目的広場

Aグループ	トヨタ	東 富	大 谷	中 京	理 化	富 士	園 田	東 学	勝	分	敗	順
トヨタ		● 1-2	○ 7-0			○ 12-0	○ 11-4		3	0	1	-
東京富士	○ 2-1			△ 1-1	○ 5-0			● 1-9	2	1	1	-
大阪大谷	● 0-7			● 1-6	● 4-5			● 0-1	0	0	4	-
中 京		△ 1-1	○ 6-1			○ 10-1	○ 7-3		3	0	1	-
東海理化		● 0-5	○ 5-4			○ 5-1	● 3-6		2	0	2	-
富 士	● 0-12			● 1-10	● 1-5			● 4-7	0	0	4	-
園田学園	● 4-11			● 3-7	○ 6-3			● 1-15	1	0	3	-
東海学園		○ 9-1	○ 1-0			○ 7-4	○ 15-1		4	0	0	2

Bグループ	織 機	松 本	I P U	鈴 国	DENSO	国 際	東 福	日 福	勝	分	敗	順
豊田織機		○ 7-0	○ 8-0			○ 10-0	○ 4-0		4	0	0	1
松 本	● 0-7			● 0-4	● 1-8			● 4-5	0	0	4	-
環太平洋	● 0-8			● 10-11	○ 4-2			○ 0-4	2	0	0	-
鈴鹿国際		○ 4-0	○ 11-10			○ 8-1	○ 7-5		4	0	0	3
デンソー		○ 8-1	● 2-4			○ 6-0	○ 9-1		3	0	1	-
大阪国際	● 0-10			● 1-8	● 0-6			○ 6-4	1	0	3	-
東北福祉	● 0-4			● 5-7	● 1-9			○ 6-2	1	0	3	-
日本福祉		○ 5-4	○ 4-0			● 4-6	● 2-6		2	0	2	-

優勝：豊田自動織機(0.00) 準優勝：東海学園大学(1.68) 3位：鈴鹿国際大学(4.31)

※優勝～3位は上記()内の失点率による。4位以下については順位を決定しない。

第60回全日本総合男子選手権大会

会期：平成26年9月20日(土)～22日(月)

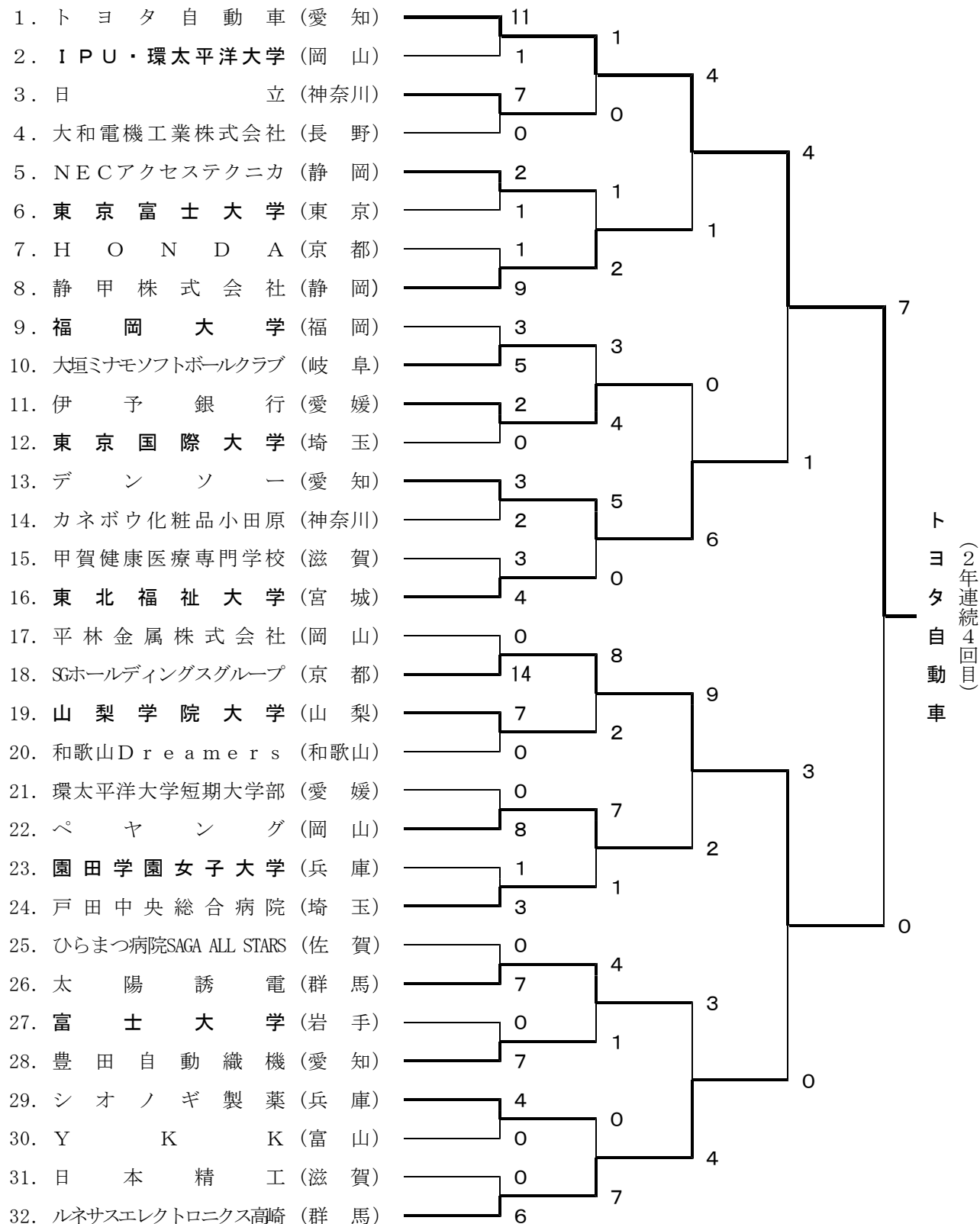
会場：愛知県刈谷市／刈谷球場 他

1. 甲斐ソフトボールクラブ (山 梨) 0
2. 日 新 製 鋼 (広 島) 12
3. ニューバッファロー (北海道) 0
4. N e o 長 崎 (長 崎) 10
5. 株 デ ン ソ ー (愛 知) 2
6. ウエダバッファロー (広 島) 3
7. 沖縄ファーストメディカル (沖 縄) 0
8. 福島ソフトボールクラブ (福 島) 1
9. 国 際 武 道 大 学 (千 葉) 3
10. 大 阪 桃 次 郎 (大 阪) 10
11. 金沢教員ソフトボールクラブ (石 川) 3
12. ジェイテクト (徳 島) 5
13. 岐阜エコデンSC (岐 阜) 8
14. 大阪サンタフェクラブ (大 阪) 3
15. 旭 化 成 (宮 崎) 5
16. 原 翼 ジャ ガ ー ズ (埼 玉) 4
17. ホンダエンジニアリング (栃 木) 8
18. 上中産業S・B・C (和歌山) 1
19. 中 京 大 学 (愛 知) 4
20. S・Tオール大阪 (大 分) 3
21. 豊 田 自 動 織 機 (愛 知) 9
22. 環 太 平 洋 大 学 (岡 山) 1
23. ダイワアクト (佐 賀) 9
24. 取手インディアンズ (茨 城) 0
25. YAMAGATA CLUB (山 形) 3
26. 神 戸 学 院 大 学 (兵 庫) 10
27. トヨタ自動車株 (愛 知) 8
28. 丸 山 物 産 S B C (鹿 児 島) 1
29. 三菱重工名古屋 (愛 知) 0
30. 平林金属男子SBC (岡 山) 2
31. 愛 媛 ウ エ ス ト (愛 媛) 7
32. 高 崎 市 役 所 (群 馬) 3

第66回全日本総合女子選手権大会

会期：平成26年9月13日(金)～15日(月)

会場：和歌山県紀の川市／粉河運動場・橋本市南馬場緑地広場 他



【北海道東北地区】

平成26年度北海道・東北地区大学ソフトボール春季大会（男子）

会期：平成26年4月19日（土）・20日（日）、5月3日（土）・4日（日）

会場：岩手県一関市／一関総合運動公園、宮城県柴田町／阿武隈川運動場

チーム	北海道	八戸工	弘 前	盛 岡	東 北	宮 教	仙 台	福 島	日大工	勝	負	順
北 海 道		*	*	*	○ 14-4	*	○ 12-5	○ 12-4	*	3	0	-
八戸工業	*		● 6-25	● 9-13	*	● 2-15	*	*	*	0	3	-
弘 前	*	○ 25-6		○ 19-10	● 11-16	● 5-8	*	● 8-11	● 3-8	2	4	5
盛 岡	*	○ 13-9	● 10-19		*	● 14-19	● 3-12	● 5-6	● 1-15	1	5	7
東 北	● 4-14	*	○ 16-11			○ 11-3	● 4-9	● 6-8	● 5-6	2	4	6
宮城教育	*	○ 15-2	○ 8-5	○ 19-14	● 3-11		● 2-5		○ 11-9	4	2	2
仙 台	● 5-12	*	*	○ 12-3	○ 9-4	○ 5-2		○ 9-3	● 13-17	4	2	3
福 島	● 4-12	*	○ 11-8	○ 6-5	○ 8-6	*	● 3-9		○ 19-9	4	2	4
日大工学	*	*	○ 8-3	○ 15-1	○ 6-5	● 9-11	○ 17-13	● 9-19		4	2	1

※シードの関係で6試合以上を対象に順位付けする。勝率が同じ場合は、総得点の多い順、総失点の少ない順で順位をつける。

平成26年度北海道・東北地区大学ソフトボール春季大会（女子）

会期：平成26年4月26日（土）・27日（日）

会場：岩手県八幡平市／松尾総合運動公園多目的運動広場

チーム	弘 前	盛 岡	富 士	東北福祉	仙 台	勝	分	敗	順位
弘 前		○12-11	●0-13	●1-13	●0-8	1	0	3	4
盛 岡	●11-12		●0-25	●0-7	●5-6	0	0	5	5
富 士	○13-0	○25-0		○2-1	○11-1	4	0	0	1
東北福祉	○13-1	○7-0	●1-2		○14-1	3	0	1	2
仙 台	○8-0	○6-5	●1-11	●1-14		2	0	2	3

第35回北海道・東北地区大学ソフトボール選手権大会 兼、第49回全日本大学ソフトボール選手権大会北海道・東北地区予選会

会期：平成26年 5 月 17 日（土）～18 日（日）

会場：青森県青森市／市スポーツ広場（男子）、矢島町／多目的運動広場他（女子）

男子				女子			
1. 日本大学工学部	9			1. 富士大学	7		
2. 福島大学	8	10	0	2. 宮城学院女子大学	0	19	
3. 仙台大学	6		15	3. 仙台大学	16	3	
4. 北海道大学	27	16		4. 盛岡大学	6		
5. 八戸工業大学	0		2	5. 弘前大学	9	1	
6. 東北大学	8	2		6. 宮城教育大学	5		
7. 盛岡大学	15		2	7. 北翔大学	0	19	
8. 弘前大学	1	9		8. 東北福祉大学	17		
9. 宮城教育大学	23						
				仙台大学	8		
				弘前大学	1		

男子インカレ出場は、北海道大学（3年ぶり2回目）と宮城教育大学（15年ぶり2回目）

女子インカレ出場は、東北福祉大学（12年連続12回目）、富士大学（5年連続10回目）、仙台大学（2年連続17回目）

2014年度 北海道・東北地区大学ソフトボール秋季大会

会期：平成26年10月11日・12日（男子）、18日・19日（女子）

会場：岩手県／八幡平市松尾総合運動公園

【男子】
〈予選リーグ戦〉

Aブロック	北海道	福島	仙台	東北	順	Bブロック	宮教	盛岡	日大工	弘前	順
北海道		● 2-6	● 1-11	○ 6-3	3	宮城教育		○ 19-3	● 13-17	○ 13-9	1
福島	○ 6-2		● 4-11	○ 14-5	2	盛岡	● 3-19		○ 9-8	● 12-14	4
仙台	○ 11-1	○ 21-4		○ 14-8	1	日大工学	○ 17-13	● 8-9		● 4-13	3
東北	● 3-6	● 5-14	● 8-14		4	弘前	● 9-13	○ 14-12	○ 13-4		2

※1～2、3～4位は得失点差による。

〈順位決定戦〉

1・2位決定戦	仙台大学 18－0 宮城教育大学
3・4位決定戦	弘前大学 4－2 福島大学
5・6位決定戦	北海道大学 8－1 日本大学工学部
7・8位決定戦	東北大学部 12－9 盛岡大学

〈最終順位〉

優勝：仙台大学	2位：宮城教育大学
3位：弘前大学	4位：福島大学
5位：北海道大学	6位：日本大学工学部
7位：東北大学	8位：盛岡大学

【女子】

チーム	盛岡	富士	東北福祉	宮城教育	仙台	勝	分	敗	順位
盛岡		● 0－16	● 0－19	○ 4－3	● 0－5	1	0	3	4位
富士	○ 16－0		● 2－4	○ 10－1	○ 12－0	3	0	1	2位
東北福祉	○ 19－0	○ 4－2		○ 9－0	○ 6－3	4	0	0	優勝
宮城教育	● 3－4		● 1－10		● 3－8	0	0	4	5位
仙台	○ 5－0	● 0－12	● 3－6	○ 6－3		2	0	2	3位

【関東地区】

第9回関東学生男子ソフトボール春季リーグ戦

会期：平成26年5月3日・4日・5日

会場：埼玉県坂戸市／坂戸市民総合運動公園野球場、毛呂山町／西戸グラウンド

I部リーグ

チーム	城西	東京理科	国際武道	関東学園	東海	都留文科	勝	分	敗	順位
城西		○ 4－2	○ 3－0	○ 9－6	○ 6－1	○ 10－3	5	0	0	優勝
東京理科	● 2－4		● 2－8	○ 8－3	● 9－18	○ 4－3	2	0	3	5位
国際武道	● 0－3	○ 8－2		○ 10－1	○ 7－4	○ 9－0	4	0	1	2位
関東学園	● 6－9	● 3－8	● 1－10		○ 8－0	○ 9－1	2	0	3	3位
東海	● 1－6	○ 18－9	● 4－7	● 0－8		○ 12－6	2	0	3	4位
都留文科	● 3－10	● 3－4	● 0－9	● 1－9	● 6－12		0	0	5	6位

※勝ち点同数の順位はリーグ戦規定に基づき決定。

Ⅱ部リーグ

チー ム	千 葉	高崎経済	茨 城	東京国際	中央学院	山梨学院	勝	分	敗	順 位
茨 城		○ 8 - 4	○ 7 - 6	○ 20 - 3	○ 13 - 2	△ 8 - 8	4	1	0	1 位
高崎経済	● 4 - 8		○ 18 - 10	○ 22 - 6	○ 25 - 3	○ 6 - 4	4	0	1	2 位
茨 城	● 6 - 7	● 10 - 18		○ 24 - 6	○ 8 - 6	△ 7 - 7	2	1	2	4 位
東京国際	● 3 - 20	● 6 - 22	● 6 - 24		○ 20 - 2	● 3 - 14	1	0	4	5 位
中央学院	● 2 - 13	● 3 - 25	● 6 - 8	● 2 - 20		● 8 - 15	0	0	5	6 位
山梨学院	△ 8 - 8	● 4 - 6	△ 7 - 7	○ 14 - 3	○ 15 - 8		2	2	1	3 位

Ⅲ部リーグ

チーム	埼 玉	日大生資	文 教	筑 波	日大生産	勝	分	敗	順 位
埼 玉		○17－8	○11－3	○9－5	○27－11	4	0	0	1 位
日大生資	●8－17		●4－27	●12－15	○16－11	1	0	3	4 位
文 教	●3－11	○27－4		○11－3	○28－7	3	0	1	2 位
筑 波	●5－9	○15－12	●3－11		○18－9	2	0	2	3 位
日大生産	●11－27	●11－16	●7－28	●9－18		0	0	4	5 位

Ⅰ部Ⅱ部入替戦 都留文科大学(Ⅰ部6位) 0 - 8 千葉大学(Ⅱ部1位) ※千葉大学はⅠ部昇格

Ⅱ部Ⅲ部入替戦 中央学院大学(Ⅱ部6位) 1 - 28 埼玉大学(Ⅲ部1位) ※埼玉大学はⅡ部昇格

第9回 関東学生女子ソフトボール春季リーグ戦

会期：平成26年5月3日・4日・5日

会場：埼玉県毛呂山町／大類ソフトボールパーク、鶴ヶ島市／運動公園

Ⅰ部リーグ

チーム	城 西	東京国際	関東学園	山梨学院	淑 徳	東 海	勝	分	敗	順 位
城 西		○ 4 - 3	○ 5 - 3	○ 8 - 1	○ 7 - 0	○ 10 - 3	5	0	0	優勝
東京国際	● 3 - 4		○ 6 - 3	● 0 - 1	○ 4 - 1	△ 5 - 5	2	1	2	3 位
関東学園	● 3 - 5	● 3 - 6		● 1 - 5	○ 5 - 2	△ 2 - 2	1	1	3	4 位
山梨学院	● 1 - 8	○ 1 - 0	○ 5 - 1		○ 8 - 1	○ 4 - 2	4	0	1	2 位
淑 徳	● 0 - 7	● 1 - 4	● 2 - 5	● 1 - 8		○ 8 - 6	1	0	4	5 位
東 海	● 3 - 10	△ 5 - 5	△ 2 - 2	● 2 - 4	● 6 - 8		0	2	3	6 位

チ-ム	清 和	国際武道	新島学園	城西国際	筑 波	文 教	勝	分	敗	順 位
清 和		○ 2 - 0	● 1 - 3	○ 4 - 2	○ 9 - 2	○ 6 - 5	4	0	1	2 位
国際武道	● 0 - 2		● 1 - 2	● 2 - 6	○ 9 - 1	● 10 - 12	1	0	4	4 位
新島学園	○ 3 - 1	○ 2 - 1		○ 4 - 2	○ 15 - 4	○ 2 - 1	5	0	0	1 位
城西国際	● 2 - 4	○ 6 - 2	● 2 - 4		○ 11 - 8	○ 4 - 0	3	0	2	3 位
筑 波	● 2 - 9	● 1 - 9	● 4 - 15	● 8 - 11		○ 3 - 2	1	0	4	6 位
文 教	● 5 - 6	○ 12 - 10	● 1 - 2	● 0 - 4	● 3 - 2		1	0	4	5 位

Ⅲ部リーグ

Ⅰ部Ⅱ部入替戦 東海大学(Ⅰ部6位) 2-3 新島学園短大(Ⅱ部1位) ※新島学園短期大学はⅠ部昇格
Ⅱ部Ⅲ部入替戦 筑波大学(Ⅱ部6位) 9-10 千葉大学(Ⅲ部1位) ※千葉大学はⅡ部昇格

会場：栃木県足利市／渡良瀬運動場、岩井分水路緑 他

男子90kg

1 城 西 大 学 3

2 東京理科大学 11

3 筑 波 大 学 1

4 中央学院大学 0

5 東京国際大学 15

6 茨 城 大 学 0

7 東 海 大 学 10

8 関東学園大学 10

9 文 教 大 学 3

10 都留文科大学 7

11 千 葉 大 学 10

12 高崎経済大学 13

13 山梨学院大学 3

14 埼 玉 大 学 3

15 国際武道大学 9

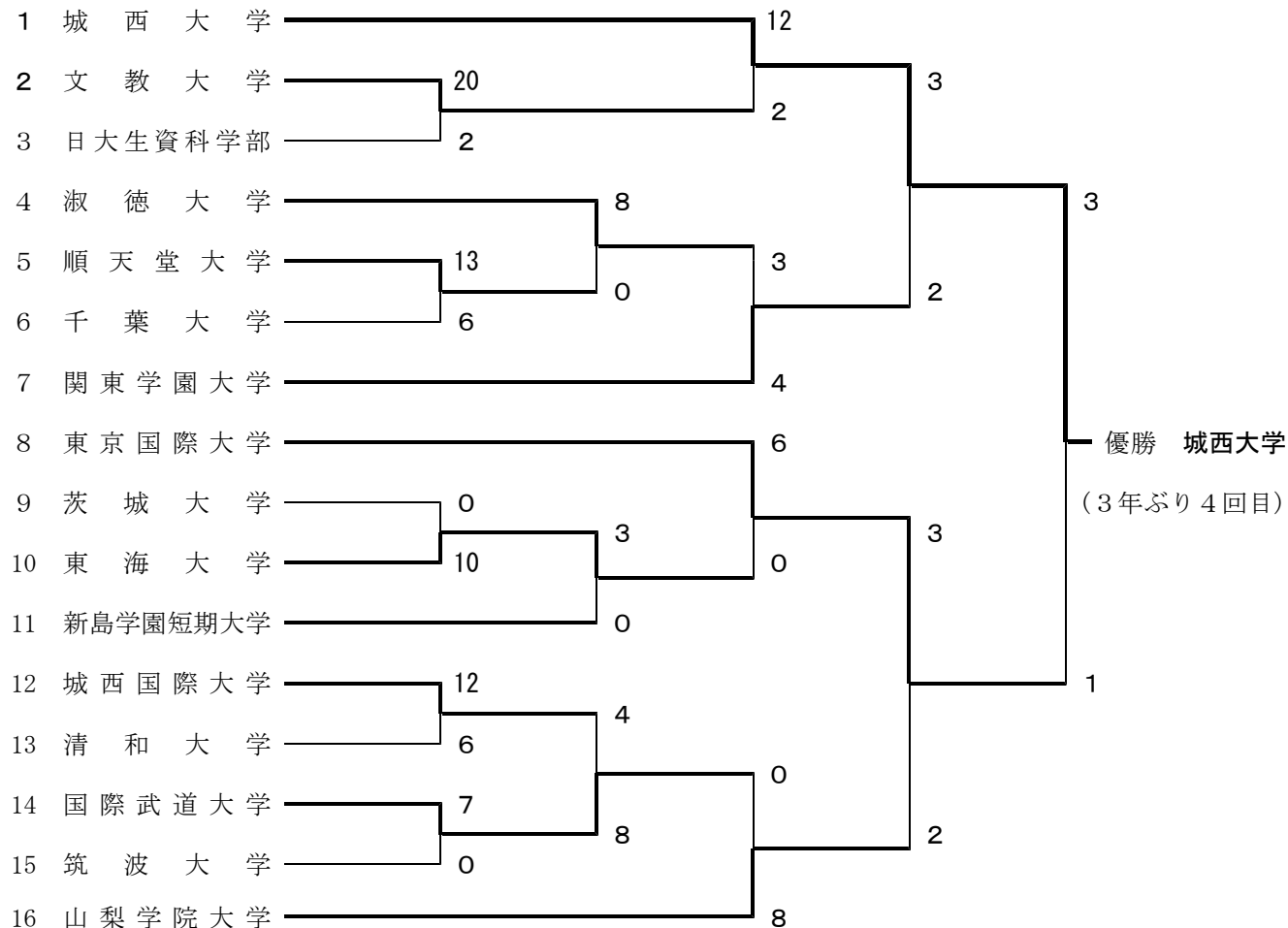
東海大学

インカレ出場権獲得校

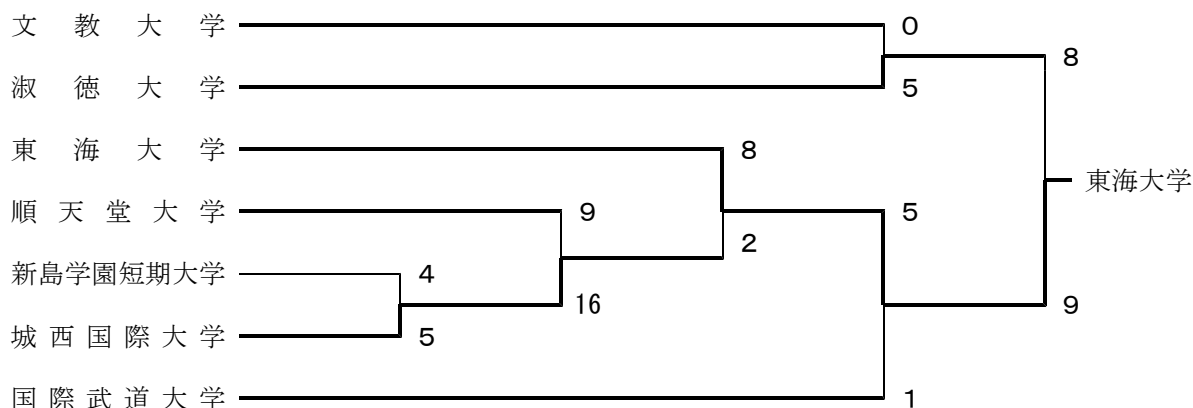
東海大学（13年ぶり5回目の優勝、4年連続40回目）、国際武道大学（15年連続21回目）

城西大学（2年連続20回目）、千葉大学（3年ぶり5回目）

女子の部



敗者復活第5代表決定戦



インカレ出場権獲得校

城西大学（12年連続12回目）、東京国際大学（4年連続4回目）、関東学園大学（3年連続4回目）、山梨学院大学（6年連続6回目）、東海大学（2年連続27回目）

第14回 関東学生男子ソフトボール秋季リーグ戦

会期：Ⅰ部 平成26年10月4日・5日・12日、Ⅱ部 10月11日～13日、Ⅲ部 10月11日～13日

会場：高崎市／群馬総合グラウンド（Ⅰ部）、藤岡市／烏川緑地グラウンド（ⅠⅡⅢ部）

Ⅰ部リーグ

チーム	城西	国際武道	関東学園	東海	東京理科	千葉	勝	分	敗	順位
城西		●1-2	○7-0	○9-2	○7-4	○5-1	4	0	1	優勝
国際武道	○2-1		○2-0	△2-2	●5-7	○14-13	3	1	1	2位
関東学園	●0-7	●0-2		●6-8	●7-9	△6-6	0	1	4	6位
東海	●2-9	△2-2	○8-6		△0-0	○9-2	2	2	1	3位
東京理科	●4-7	○7-5	○9-7	△0-0		●1-7	2	1	2	4位
千葉	●1-5	●13-14	△6-6	●2-9	○7-1		1	1	3	5位

Ⅱ部リーグ

チーム	都留文科	高崎経済	山梨学院	茨城	東京国際	埼玉	勝	分	敗	順位
都留文科		●6-13	●7-9	○4-3	●3-4	●5-9	1	0	4	5位
高崎経済	○13-6		○10-3	○11-10	○13-7	△6-6	3	1	1	優勝
山梨学院	○9-7	●2-0		○9-5	○9-8	●1-2	3	0	2	2位
茨城	●3-4	●10-11	●5-9		●7-10	○10-7	1	0	4	6位
東京国際	○4-3	●7-13	●8-9	○10-7		○9-5	3	0	2	3位
埼玉	○9-5	△6-6	○2-1	●7-10	●5-9		2	1	2	4位

※2～3位、5～6位は同じ勝ち点で並んだため、大会規約により順位を決定。

Ⅲ部リーグ

チーム	中央学院	文教	筑波	日大生資	日大生産	勝	分	敗	順位
中央学院		●3-10	●7-20	●6-17	●4-8	0	0	4	5位
文教	○10-3		○10-3	○15-3	○11-7	4	0	0	優勝
筑波	○20-7	●3-10		●11-16	●7-9	1	0	3	4位
日大生資	○17-6	●3-5	○16-11		○27-2	3	0	1	2位
日大生産	○8-4	●7-11	○9-7	●2-27		2	0	2	3位

入替戦 10月26日(日) 高崎経済大学グラウンド

Ⅰ部～Ⅱ部 関東学園大学(Ⅰ部6位) 1-5 高崎経済大学(Ⅱ部1位) ※高崎経済大学はⅠ部昇格

Ⅱ部～Ⅲ部 茨城大学(Ⅱ部6位) 5-17 文教大学(Ⅲ部1位) ※文教大学はⅡ部昇格

第14回 関東学生女子ソフトボール秋季リーグ戦

会期：平成26年10月11日、12日、18日

会場：毛呂山町／大類ソフトボールパーク・駒形公園ソフトボール場 他

I 部リーグ

チーム	城 西	山梨学院	東京国際	関東学園	淑 徳	新島学園	勝	分	敗	順 位
城 西		● 3-12	● 3-4	○ 2-0	○ 6-1	○ 7-0	3	0	2	3 位
山梨学院	○ 12-3		○ 1-0	○ 6-0	○ 7-0	○ 19-1	5	0	0	優勝
東京国際	○ 4-3	● 0-1		△ 0-0	○ 12-0	○ 5-3	3	1	1	2 位
関東学園	● 0-2	● 0-6	△ 0-0		○ 6-1	○ 5-0	2	1	2	4 位
淑 徳	● 1-6	● 0-7	● 0-12	● 1-6		○ 3-2	1	0	4	5 位
新島学園	● 0-7	● 1-19	● 3-5	● 0-5	● 2-3		0	0	5	6 位

II 部リーグ

チーム	東 海	清 和	城西国際	国際武道	文 教	千 葉	勝	分	敗	順 位
東 海		● 0-2	○ 7-0	○ 3-0	○ 8-1	○ 14-0	4	0	1	1 位
清 和	○ 2-0		△ 6-6	○ 4-1	○ 6-1	△ 4-4	3	2	0	2 位
城西国際	● 0-7	△ 6-6		● 1-3	○ 8-5	○ 15-0	2	1	2	4 位
国際武道	● 0-3	● 1-4	○ 3-1		○ 5-2	○ 9-2	3	0	2	3 位
文 教	● 1-8	● 1-6	● 5-8	● 2-5		○ 9-0	1	0	4	5 位
千 葉	● 0-14	△ 4-4	● 0-15	● 2-9	● 0-9		0	1	4	6 位

III 部リーグ

チーム	筑 波	順 天 堂	茨 城	埼 玉	日大生物	勝	分	敗	順 位
筑 波		● 2-3	○ 1-0	○ 19-0	○ 12-0	3	0	1	2 位
順 天 堂	○ 3-2		○ 12-11	○ 8-0	○ 8-2	4	0	0	1 位
茨 城	● 0-1	● 11-12		○ 20-0	○ 11-0	2	0	2	3 位
埼 玉	● 0-19	● 0-8	● 0-20		○ 9-8	1	0	3	4 位
日大生物	● 0-12	● 2-8	● 0-11	● 8-9		0	0	4	5 位

入替戦 10月19日 毛呂山町／西戸グラウンド

I 部II 部入替戦 新島学園短大(I 部 6 位) 3-6 東 海 大 学(II 部 1 位) ※東海大学は I 部昇格

II 部III 部入替戦 千 葉 大 学(II 部 6 位) 5-18 順天堂大学(III 部 1 位) ※順天堂大学は II 部昇格

【北信越地区】

第20回北信越地区大学男子・女子ソフトボール選手権大会 (兼、文部科学大臣杯第49回全日本大学ソフトボール選手権大会予選会)

会 期：平成26年5月19日(土)・20日(日)

会 場：長野県上田市／古戦場公園多目的グラウンド・運動公園グラウンド

男子	富 山	福 井	福井県立	信 州	金 沢	勝	分	敗	順 位
富 山		○18－3	●7－10	○15－5	●7－16	2	0	2	3位
福 井	●3－18		●0－15	●4－14	●11－12	0	0	4	5位
福井県立	○10－7	○15－0		○12－6	○5－3	4	0	0	1位
信 州	●5－15	○14－4	●6－12		●7－9	1	0	4	4位
金 沢	○16－7	○12－11	●3－5	○9－7		3	0	1	2位

※インカレ出場権獲得校：福井県立大学（2年ぶり4回目）

女子	信 州	金沢学院	富 山	松 本	金 沢	勝	分	敗	順 位
信 州		●0－8	○15－3	●0－12	○9－4	2	0	2	3位
金沢学院	○8－0		○33－0	●0－10	○16－0	3	0	1	2位
富 山	●3－15	●0－33		●3－17	●7－14	0	0	4	5位
松 本	○12－0	○10－0	○17－3		○11－0	4	0	0	1位
金 沢	●4－9	●0－16	○14－7	●0－11		1	0	3	4位

※インカレ出場権獲得校：松本大学（9年連続9回目）、金沢学院大学（5年連続5回目）

第21回 北信越大学男女新人ソフトボール選手権大会

会期：平成26年10月18日(土)・19日(日)

会場：富山県富山市／岩瀬スポーツ公園ソフトボール場

男子

チーム	金 沢	福井県立	信 州	富 山	勝	分	敗	失点率	順 位
金 沢		●12－16	●2－17	●8－18	0	0	3	4.636	4位
福井県立	○16－12		○9－2	●2－18	2	0	1	2.462	3位
信 州	○17－2	●2－9		○9－7	2	0	1	1.385	優勝
富 山	○18－8	○18－2	●7－9		2	0	1	1.583	2位

※1～3位は失点率による。

女子

チーム	金 沢	金沢学院	松 本	信 州	富 山	勝	分	敗	失点率	順位
金 沢		● 0 - 11	● 0 - 24	● 5 - 15	● 2 - 6	0	0	4	2.947	5 位
金沢学院	○ 11 - 0		△ 0 - 0	○ 10 - 0	○ 18 - 0	3	1	0	0.000	優勝
松 本	○ 24 - 0	△ 0 - 0		○ 9 - 2	○ 17 - 0	3	1	0	0.111	2 位
信 州	○ 15 - 5	● 0 - 10	● 2 - 9		○ 16 - 0	2	0	2	1.333	3 位
富 山	○ 6 - 2	● 0 - 18	● 0 - 17	● 0 - 16		1	0	3	3.313	4 位

※ 1～2位は失点率による。

【東京地区】 平成26年度 第46回東京都大学ソフトボール春季リーグ戦

会期：平成26年 4 月 26 日～ 5 月 11 日

会場：国士舘大学・早稲田大学 他

男子 1 部

チーム	日本体育	中 央	国 士 舘	早 稲 田	学 習 院	東京学芸	勝	分	敗	順 位
日本体育		○ 6 - 0	● 4 - 6	● 6 - 13	○ 10 - 0	○ 15 - 0	3	0	2	3 位
中 央	● 0 - 6		● 3 - 4	● 0 - 10	○ 15 - 3	○ 14 - 2	2	0	3	4 位
国 士 舘	○ 6 - 4	○ 4 - 3		○ 8 - 1	○ 11 - 2	○ 14 - 2	5	0	0	1 位
早 稲 田	○ 13 - 6	○ 10 - 0	● 1 - 8		○ 16 - 2	○ 12 - 0	4	0	1	2 位
学 習 院	● 0 - 10	● 3 - 15	● 2 - 11	● 2 - 16		● 7 - 9	0	0	5	6 位
東京学芸	● 0 - 15	● 2 - 14	● 2 - 14	● 0 - 12	○ 9 - 7		1	0	4	5 位

男子 2 部

チーム	明 治	慶應義塾	東京都市	専 修	桜 美 林	日 本	勝	分	敗	順 位
慶應義塾		● 1 - 6	● 12 - 13	● 7 - 10	○ 7 - 6	● 1 - 10	1	0	4	6 位
慶應義塾	○ 6 - 1		○ 9 - 3	○ 5 - 3	● 13 - 14	● 5 - 8	3	0	2	2 位
東京都市	○ 13 - 12	● 3 - 9		● 9 - 12	○ 12 - 2	● 2 - 6	2	0	3	3 位
専 修	○ 10 - 7	● 3 - 5	○ 12 - 9		● 3 - 4	● 1 - 11	2	0	3	4 位
桜 美 林	● 6 - 7	○ 14 - 13	● 2 - 12	○ 4 - 3		● 2 - 14	2	0	3	5 位
日 本	○ 10 - 1	○ 8 - 5	○ 6 - 2	○ 11 - 1	○ 14 - 2		5	0	0	1 位

※ 3 位～4 位は失点率による。

男子3部 A セレクション

チーム	立 教	成 蹊	東 京	東京農業	勝	分	敗	順 位
立 教		○14-9	●2-6	○11-3	2	0	1	2位
成 蹊	●9-14		●5-16	●8-9	0	0	3	4位
東 京	○6-2	○16-5		○10-0	3	0	0	1位
東京農業	●3-11	○9-8	●0-10		1	0	2	3位

男子3部 B セレクション

チーム	東 洋	帝 京	明 星	文教湘南	勝	分	敗	順 位
東 洋		●8-17	●8-10	○24-6	1	0	2	3位
帝 京	○17-8		●0-8	○15-4	2	0	1	2位
明 星	○10-8	○8-0		○16-1	3	0	0	1位
文教湘南	●6-24	●4-15	●1-16		0	0	3	4位

男子3部 A B セレクション 優勝決定戦 明星大学 5-2 東京大学

男子入れ替え戦

1部-2部

学習院大学(6位) 9-8 日本大学(1位)

※学習院大学は1部残留

2部-3部

明治大学(6位) 16-5 明星大学(1位)

※明治大学は2部残留

女子1部

チーム	東京女体	国 士 館	日本体育	早 稲 田	東京富士	日本女体	勝	分	敗	順 位
東京女体		○4-1	●6-7	●2-3	○2-1	○6-0	3	0	2	3位
国 士 館	●1-4		●1-8	●0-5	●1-7	○10-8	1	0	4	5位
日本体育	○7-6	○8-1		○8-4	○6-4	○13-0	5	0	0	1位
早 稲 田	○3-2	○5-0	●4-8		●0-5	○5-0	3	0	2	4位
東京富士	●1-2	○7-1	●4-6	○5-0		○7-0	3	0	2	2位
日本女体	●0-6	●8-10	●0-13	●0-5	●0-7		0	0	5	6位

※2~4位は失点率による。

女子2部

チーム	専 修	桜 美 林	東京学芸	学 習 院	中 央	慶應義塾	勝	分	敗	順 位
専 修		○10-9	●1-8	●9-10	●7-9	●2-6	1	0	4	6位
桜 美 林	●9-10		●0-10	○7-0	●2-15	○8-2	2	0	3	4位
東京学芸	○8-1	○10-0		○8-0	○12-1	○7-3	5	0	0	1位
学 習 院	○10-9	●0-7	●0-8		○11-10	○10-2	3	0	2	2位
中 央	○9-7	○15-2	●1-12	●10-11		○20-4	3	0	2	3位
慶應義塾	○6-2	●2-8	●3-7	●2-10	●4-20		1	0	4	5位

※2~3位、5~6位は、直接対戦の結果による。

女子 3 部

チーム	成 蹊	明 治	東 洋	日 本	文京湘南	実践女子	勝	分	敗	順 位
成 蹊		● 0 - 36	● 1 - 21	● 4 - 23	● 8 - 14	○ 10 - 6	1	0	4	5 位
明 治	○ 36 - 0		● 3 - 16	○ 9 - 4	● 5 - 17	○ 15 - 0	3	0	2	3 位
東 洋	○ 21 - 1	○ 16 - 3		○ 7 - 6	○ 14 - 6	○ 36 - 2	5	0	0	1 位
日 本	○ 23 - 4	● 4 - 9	● 6 - 7		△ 6 - 6	○ 21 - 0	2	1	2	4 位
文京湘南	○ 14 - 8	○ 17 - 5	● 6 - 14	△ 6 - 6		○ 30 - 0	3	1	1	2 位
実践女子	● 6 - 10	● 0 - 15	● 2 - 36	● 0 - 21	● 0 - 30		0	0	5	6 位

女子入れ替え戦

1 部 - 2 部 日本女子体育大学 (6 位) 3 - 1 東京学芸大学 (1 位) ※日本女子体育大学は 1 部残留

2 部 - 3 部 専修大学 (6 位) 6 - 5 東洋大学 (1 位) ※専修大学は 2 部残留

全日本大学選手権大会東京都第 2 次予選

男子

1. 中央大学	8			
2. 明星大学	0			
3. 日本大学	12			
4. 東京都市大学	4			
5. 東京学芸大学	10			
6. 慶應義塾大学	5			
7. 学習院大学	18			
8. 専修大学	17			
		7	中央大	
		0		
		10	学芸大	
		5		

女子

1. 国士舘大学	18			
2. 東洋大学	0			
3. 学習院大学	11			
4. 慶應義塾大学	4			
5. 日女体大学	11			
6. 中央大学	0			
7. 東京学芸大学	3			
8. 桜美林大学	0			
		20	国士舘大	
		0		
		4	日女体大	
		1		

第49回全日本大学選手権大会の東京地区代表校

男子：国士舘大学(49年連続49回目)、早稲田大学(49年連続49回目)、日本体育大学(49年連続49回目)、中央大学(3年連続25回目)、東京学芸大学(26年ぶり6回目)

女子：日本体育大学(49年連続49回目)、東京富士大学(3年連続3回目)、東京女子体育大学(49年連続49回目)、早稲田大学(10年連続11回目)、国士舘大学(4年連続20回目)、日本女子体育大学(2年連続45回目)

平成26年度第46回東京都大学ソフトボール秋季リーグ戦

会期：平成26年9月28日～11月8日

会場：国士舘大学・早稲田大学・東京富士大学 他

男子1部

チーム	国士舘	早稲田	日本体育	中央	東京学芸	学習院	勝	分	敗	順位
国士舘		●5-8	●2-6	○4-3	○8-5	○16-5	3	0	2	3位
早稲田	○8-5		●1-10	○12-6	○10-2	○12-0	4	0	1	2位
日本体育	○6-2	○10-1		○7-0	○14-0	○10-0	5	0	0	1位
中央	●3-4	●6-12	●0-7		○4-0	○12-5	2	0	3	4位
東京学芸	●5-8	●2-10	●0-14	●0-4		●2-5	0	0	5	6位
学習院	●5-16	●0-12	●0-10	●5-12	○5-2		1	0	4	5位

男子2部

チーム	日本	慶應義塾	東京都市	専修	桜美林	明治	勝	分	敗	順位
日本		○8-6	○12-7	○8-7	○9-5	●2-13	4	0	1	2位
慶應義塾	●6-8		●8-9	○4-3	●7-10	●1-5	1	0	4	6位
東京都市	●7-12	○9-8		●6-9	○12-5	●5-6	2	0	3	4位
専修	●7-8	●3-4	○9-6		○8-6	○5-2	3	0	2	3位
桜美林	●5-9	○10-7	●5-12	●6-8		●1-8	1	0	4	5位
明治	○13-2	○5-1	○6-5	●2-5	○8-1		4	0	1	1位

※1位～2位は直接対戦の結果による。

男子3部 A セレクション

チーム	明星	立教	東洋	成蹊	勝	分	敗	順位
明星		●4-9	○18-8	●6-12	1	0	2	3位
立教	○9-4		○16-7	●7-19	2	0	1	2位
東洋	●8-18	●7-16		●5-12	0	0	3	4位
成蹊	○12-6	○19-7	○12-5		3	0	0	1位

男子3部 B セレクション

チーム	東京	帝京	東京農業	文教湘南	勝	分	敗	順位
東京		△6-6	○21-10	○13-2	2	1	0	1位
帝京	△6-6		○11-4	○18-10	2	1	0	2位
東京農業	●10-21	●4-11		●8-22	0	0	3	4位
文教湘南	●2-13	●10-18	○22-8		0	0	3	4位

※1位～2位は失点率による。

男子3部ABセクション優勝決定戦 成蹊大学 15-8 東京大学

男子入れ替え戦

1部-2部 東京学芸大学(6位) 7-6 明治大学(1位) ※東京学芸大学は1部残留

2部-3部 慶應義塾大学(6位) 4-3 成蹊大学(1位) ※慶應義塾大学は2部残留

女子1部

チーム	日本体育	東京富士	東京女体	早稲田	国士舘	日本女体	勝	分	敗	順位
日本体育		○2-0	○4-0	○5-4	○6-2	○1-0	5	0	0	1位
東京富士	●0-2		○5-3	○1-0	○2-0	○8-1	4	0	1	2位
東京女体	●0-4	●3-5		●0-1	○4-3	○6-2	2	0	3	4位
早稲田	●4-5	●0-1	○1-0		○5-0	○9-2	3	0	2	3位
国士舘	●2-6	●0-2	●3-4	●0-5		○9-3	1	0	4	5位
日本女体	●0-1	●1-8	●2-6	●2-9	●3-9		0	0	5	6位

女子2部

チーム	東京学芸	学習院	中央	桜美林	慶應義塾	専修	勝	分	敗	順位
東京学芸		○11-1	●7-8	○7-3	○8-1	○12-5	4	0	1	1位
学習院	●1-11		○8-6	○8-1	●3-7	△9-9	2	1	2	3位
中央	○8-7	●6-8		●1-10	○4-3	○8-7	3	0	2	2位
桜美林	●3-7	●1-8	○10-1		○5-1	●2-8	2	0	3	4位
慶應義塾	●1-8	○7-3	●3-4	●1-5		○3-2	2	0	3	5位
専修	●5-12	△9-9	●7-8	○8-2	●2-3		1	1	3	6位

※4位～5位は直接対戦の結果による。

女子3部

チーム	東洋	文教湘南	明治	日本	成蹊	実践女子	勝	分	敗	順位
東洋		○7-1	●5-10	●2-4	●4-9	○15-0	2	0	3	5位
文教湘南	●1-7		○11-3	●4-14	○9-6	○9-2	3	0	2	2位
明治	○10-5	●3-11		●1-8	●4-13	○23-0	2	0	3	4位
日本	○4-2	○14-4	○8-1		○9-1	○15-0	5	0	0	1位
成蹊	○9-4	●6-9	○13-4	●1-9		○12-9	3	0	2	3位
実践女子	●0-15	●2-9	●0-23	●0-15	●9-12		0	0	5	6位

※2位と3位4位と5位は直接対決の勝敗による。

女子入れ替え戦

1部-2部 東京学芸大学(6位) 7-6 明治大学(1位) ※東京学芸大学は1部残留

2部-3部 専修大学(6位) 9-0 日本大学(1位) ※専修大学は2部残留

【東海地区】

東海テレビ杯

平成26年度春季第74回 東海地区大学(男子)ソフトボールリーグ戦

ー兼、第49回全日本大学ソフトボール選手権大会一次予選ー

ー兼、第46回西日本大学ソフトボール選手権大会予選ー

会期：平成26年4月26日、5月6・10・11日

会場：愛知県刈谷市／亀城公園運動場

一部リーグ戦

チーム	中 京	中京学院	岐阜聖徳	愛 知	常 葉	愛知学院	勝分敗	失点率	順
中 京		○ 5 - 3	○ 2 - 1	○ 17 - 6	● 0 - 1	○ 6 - 4	4 1	2.76	2
中京学院	● 3 - 5		● 5 - 8	○ 10 - 0	△ 6 - 6	○ 16 - 8	2 1 2	5.25	4
岐阜聖徳	● 1 - 2	○ 8 - 5		○ 12 - 7	● 4 - 5	○ 7 - 0	3 2	4.03	3
愛 知	● 6 - 17	● 0 - 10	● 7 - 12		● 2 - 7	● 8 - 11	0 5	18.42	6
常 葉	○ 1 - 0	△ 6 - 6	○ 5 - 4	○ 7 - 2		○ 6 - 1	4 1 0	2.48	1
愛知学院	● 4 - 6	● 8 - 16	● 0 - 7	○ 11 - 8	● 1 - 6		1 4	9.71	5

二部リーグ戦

予選A L	日本福祉	愛知教育	名 古 屋	名 商	東海学園	勝分敗	失点率	順
日本福祉		● 9 - 21	○ 11 - 4	○ 18 - 3	○ 10 - 3	3 1	8.35	3
愛知教育	○ 21 - 9		● 3 - 6	○ 13 - 3	○ 17 - 6	3 1	6.00	2
名 古 屋	● 4 - 11	○ 6 - 3		○ 10 - 3	○ 12 - 2	3 1	5.32	1
名古屋商	● 3 - 18	● 3 - 13	● 3 - 10		● 8 - 15	0 5	-	5
東海学園	● 3 - 10	● 6 - 17	● 2 - 12	○ 15 - 8		1 3	-	4

※1～3位はリーグ戦規定の失点率による。

予選B L	南 山	中 部	静 岡	名 城	勝	敗	失点率	順
南 山		● 0 - 15	○ 7 - 0	○ 9 - 1	2	1	-	2
中 部	○ 15 - 0		○ 8 - 0	○ 14 - 6	3	0	-	1
静 岡	● 0 - 7	● 0 - 8		● 0 - 10	0	3	-	4
名 城	● 1 - 9	● 6 - 14	○ 10 - 0		1	2	-	3

順位決定予備戦

南山9 - 2 愛知教育

静岡11 - 1 東海学園

日本福祉7 - 1 名城

順位決定戦

1 位 決 定 戦 中部大学8 - 2 名古屋大学

2・3位決定戦 南山大学9 - 3 名古屋大学

4・5位決定戦 日本福祉大学8 - 3 愛知教育大学

6・7位決定戦 静岡大学10 - 3 名城大学

8・9位決定戦 東海学園大10 - 3 名古屋商科大

一部×二部入れ替え戦

愛知学院大学(5位)1－7 南山大学(2位)

※愛知学院大学二部降格、南山大学一部昇格

愛知大学(6位)9－7 中部大学(1位)

※両大学は原部に残留

代表

第11回東海地域大学ソフトボール選手権大会(第49回インカレ最終予選)：

常葉大学・中京大学・岐阜聖徳学園大学・

中京学院大学・南山大学・愛知大学・中部大学

・愛知学院大学

第46回西日本大学ソフトボール選手権大会：

常葉大学・中京大学・岐阜聖徳学園大学・

中京学院大学・南山大学・愛知大学

個人表彰選手

最優秀選手賞：田村 幸也(常葉大学)

一部首位打者賞：西里 博樹(中京学院大学)

記録5割6分3厘

一部打点賞：山下 治(中京学院大学)

記録10

本塁打点賞：勝見 京介(常葉大学)

記録4

盗塁賞：佐藤 圭亮(常葉大学)

記録5

一部最優秀防御率賞：田村 幸也(常葉大学)

記録1.84

二部優秀選手賞：柳生 豪士(中部大学)

川地 洋輔(名古屋大学)

二部首位打者賞：美濃島 捷(中部大学)

和久田圭輝(中部大学)

記録6割0分0厘

二部最優秀防御率賞：柳生 豪士(中部大学)

記録1.05

ベストマネジメント賞：該当チームなし

ベストスコアラー賞：該当者なし

ベスト放送員賞：乾 翔太(常葉大学)

ベストナイン

投手 田村 幸也(常葉大学 2年)

捕手 西里 博樹(中京学院大学3年)

一塁手：高尾 健(中京学院大学4年)

二塁手：吉川 大貴(愛知学院大学2年)

三塁手：荒木 大(常葉大学 2年)

遊撃手：奥村彰秀(岐阜聖徳学園大学4年)

外野手：勝見 京介(常葉大学 2年)

外野手：黒田 涼介(中京大学 3年)

外野手：上原一真(岐阜聖徳学園大学4年)

D P F P：花岡 大輝(中京大学 3年)

講評 今季のリーグ戦は、好天に恵まれ予定通りの日程終了することができました。主管いただいた刈谷市連盟をはじめとして開催にご尽力いただきました関係機関の皆さまに、まずもって御礼申し上げます。

今季注目されたのは、これまでリーグを牽引してきた中京大学と中京学院大学の両エースが卒業して「2強体制」が崩れるのかという点と、二部・三部制を廃し二部2ブロック制にしてすべてのチームにインカレ出場権を獲得できる可能性を持たせた制度による二部活性化である。

はたして、終わってみれば、一時は三部まで落ちて廃部の危機があった古豪常葉大学が「2強」に対していずれもタイブレーカーで負けることなく見事復活、14季ぶりに7度目の一部優勝に輝いたことは賞賛に値する。また、二部は、予選リーグ戦最終試合まで順位が確定せず、試合日程を変更せざるを得なかったという課題を残したが、それだけの混戦であった。その中で、Bグループ2位だった南山大学は、順位決定予備戦と2・3位決定戦を勝ち抜きさらには入れ替え戦にも勝利するという健闘を見せた。

ところで、今季はこれまで行ってきた閉会式の個人表彰ができなかった。日程変更によることもあるが、その大きな原因はスコアカードが正確に記入できなかったところにある。「試合ができればいい」という意識を改め、「競技会」というものの本質を原点に立ち帰って考えてもらいたい。そして、学連は学生が主体であることを自覚してもらいたい。(東海学連事務局長 水谷 博)

東海テレビ杯 平成26年度春季第63回 東海地区大学(女子)ソフトボールリーグ戦
 ー兼、第49回全日本大学ソフトボール選手権大会一次予選ー
 ー兼、第46回西日本大学ソフトボール選手権大会予選ー

会期：平成26年4月19・20・26日、5月3・4・5・6日

会場：愛知県東海市／新宝緑地運動公園、豊田市／運動公園ソフトボール場

一部リーグ戦結果

チーム	東海学園	鈴鹿国際	中 京	岐阜経済	日本福祉	常 葉	勝分敗	失点率	順
東海学園	—	○4-2 ●7-9	●2-3 △3-3	○7-1 ●4-5	○7-0 ○6-0	○5-2 ○3-2	6 1 3	3.32	2位
鈴鹿国際	●2-4 ○9-7	—	●1-8 ●0-7	△5-5 ●1-3	○10-0 ●2-3	○5-4 ○4-0	4 1 5	4.26	4位
中 京	○3-2 △3-3	○8-1 ○7-0	—	○8-2 ○10-0	○10-5 ○5-1	○12-1 ○2-0	9 1 0	1.69	優勝
岐阜経済	●1-7 ○5-4	△5-5 ○3-1	●2-8 ●0-10	—	○5-0 ○5-3	○8-2 ●1-3	5 1 4	4.33	3位
日本福祉	●0-7 ●0-6	●0-10 ○3-2	●5-10 ●1-5	●0-5 ●3-5	—	○3-0 ○10-2	3 0 7	5.87	5位
常 葉	●2-5 ●2-3	●4-5 ●0-4	●1-12 ●0-2	●2-8 ○3-1	●0-3 ●0-10	—	1 0 9	6.42	6位

二部リーグ戦結果

チーム	至学館	中京学院	愛知教育	岐阜聖徳	名古屋	勝	分	敗	順位
至学館	—	●3-7	○4-2	○4-3	○9-2	3	0	1	2
中京学院	○7-3	—	○7-2	○6-4	○11-1	4	0	0	1
愛知教育	●2-4	●4-6	—	●1-2	○9-1	1	0	3	4
岐阜聖徳	●3-4	●4-6	○2-1	—	○10-0	2	0	2	3
名古屋	●2-9	●1-11	●1-9	●0-10	—	0	0	4	5

一部×二部入れ替え戦

日本福祉大学(5位) 6-2 至学館大学(2位)

※日本福祉大学一部残留、至学館大学二部残留

常葉大学(6位) 7-0 中京学院大学(1位)

※常葉大学一部残留、中京学院大学二部残留

中京大学・東海学園大学・岐阜経済大学・

鈴鹿国際大学・日本福祉大学・常葉大学・

中京学院大学・至学館大学

第46回西日本大学ソフトボール選手権大会：

中京大学・東海学園大学・岐阜経済大学・

鈴鹿国際大学・日本福祉大学・常葉大学

代表

第11回東海地域大学選手権大会（第49回インカレ
最終予選）：

個人表彰選手

最優秀選手賞：塚本 智名（中京大学）

一部首位打者賞：塚本 智名（中京大学）
 記録5割6分7厘

一部打点賞：下山みさき（中京大）
 記録12

本塁打点賞：塚本 智名（中京大学）
 記録5

盗塁賞：塚本 智名（中京大学）
 記録6

一部最優秀防御率賞：木村麻利亜（東海学園大学）
 記録0.42

二部優秀選手賞：城岡 京美（中京学院大学）

二部首位打者賞：布村 彩花（中京学院大学）
 渡辺恵（岐阜聖徳学園大学）
 大畑 茜（愛知教育大学）
 記録5割0分0厘

二部最優秀防御率賞：山崎 詩織（中京学院大学）
 記録1.27

ベストマネジメント賞：該当チームなし

ベストスコアラー賞：岡元美津希（岐阜経済大学）

ベスト放送員賞：栗田 晴圭（常葉大学）

ベストナイン

投手 森 あすか（中京大学）

捕手 大塚 友紀（岐阜経済大学）

一塁手：大畑 成美（岐阜経済大学）

二塁手：戸村 美紅（東海学園大学）

三塁手：木村 彩乃（鈴鹿国際大学）

遊撃手：下山 実咲（中京大学）

外野手：塚本 智名（中京大学）

外野手：倉田 実沙（中京大学）

外野手：黒柳 優里（常葉大学）

D P F P：石川 千夏（東海学園大学）

講評 今大会が二回目となる、女子一部リーグ戦総当たり2試合制を含む、春季リーグは好天に恵まれて予定どおりに開催された。

4月19・20・26日の三日間は、愛知県東海市協会のご尽力のもと、新宝緑地公園で一部総当たり全15試合が行われた。順調に全日程終了したことに感謝申し上げます。5月3・4・5・6日の四日間は、同県豊田市協会のご尽力のもと、豊田市

運動公園において残りの一部・二部全25試合が行われた。昨年に引き続き、多大なるご協力とご尽力をいただいたことに感謝申し上げます。

一部リーグ戦では、9勝1分けて中京大が無敗のまま優勝を果たした。特に失点率の1.69は顕著で、ベストナインにも選ばれた中京大のエース、森あすかの活躍と54回1/3と抜きん出た投球回数は特筆される。また打撃では打率、本塁打、盗塁の三冠を達成し、最優秀選手賞とベストナインにも選ばれた中京大・塚本智名の活躍は圧巻であった。準優勝の東海学園大は持ち前の投手力に誤算が見られ、まさかの3敗。実績ある投手陣の巻き返しに期待したい。3位には昨秋から勢いに乗る岐阜経済大が5勝4敗1分けの成績で、近年続いていた三強の一角を崩し、競争激化の幕をこじ開けた。また残念ながら4位に後退した鈴鹿国際大は、最終戦でようやく持ち前の打線が奮起、インカレ連続出場に向けて弾みをつけた。5位の日本福祉大は、昨秋から順位を上げることができなかったが、選手層が厚いだけに潜在的な力に期待したい。6位の常葉大は試合を追う毎に力を付け、上位とも互角の試合を展開。前向きな選手達の戦う姿勢は観客を魅了した。

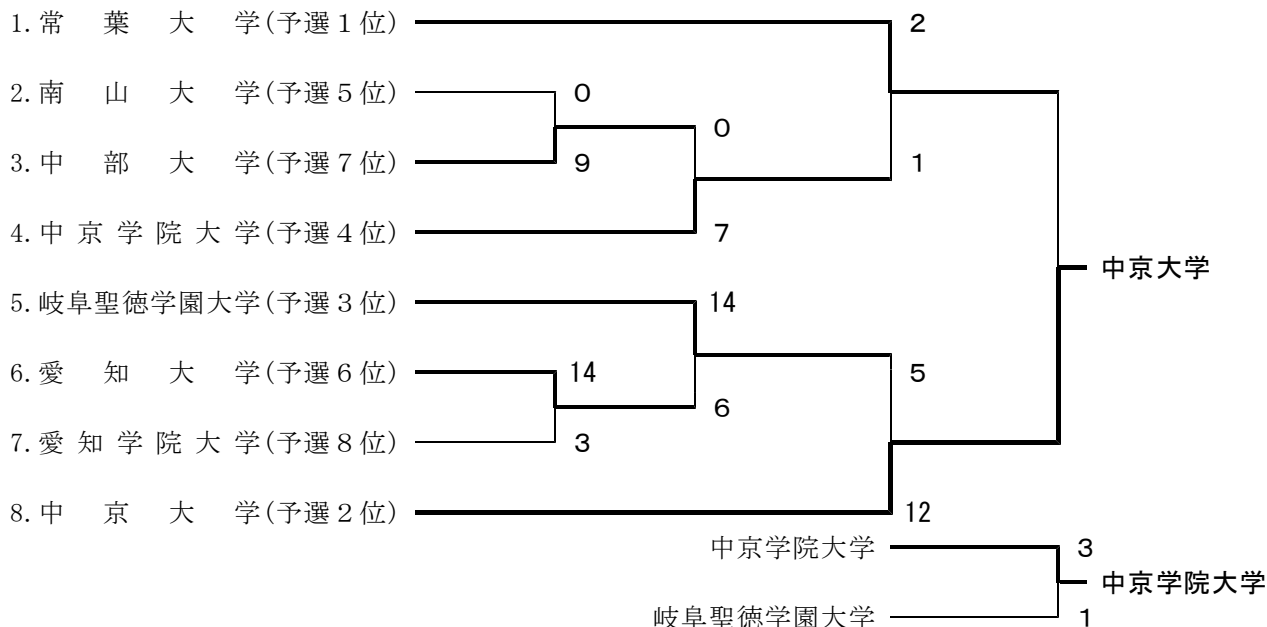
二部では中京学院大が4戦全勝で優勝を決めた。特に、一試合平均得点7.8は、攻撃力の高さをうかがわせた。2位には昨秋、二部降格をした至学館大が入り、入れ替え戦に望みをつなげた。入れ替え戦では、一部5位の日本福祉大に二部2位の至学館大が挑んだが、壁は厚くそれぞれの残留が決定。一部6位の常葉大と二部1位の中京学院大の試合では、常葉大が中京学院大の打線を封じ、7対0と圧勝し残留を決めた。

今大会では近年続いていた三強が崩れ、リーグ競争の激化が幕を開けた。中京大の初優勝によりもたらされた全日本の文部科学大臣杯と優勝旗を第49回大会でもこの東海地区に持ち帰るため、この激化がさらなるチーム力向上に寄与することだろう。5月24・25日に岐阜県郡上市で開催されるインカレ最終予選会に注目が集まる。（東海地区大学ソフトボール連盟理事長 二瓶雄樹）

郡上市合併・市制施行10周年記念
第11回東海地域大学男女ソフトボール選手権大会
—兼、第49回全日本大学(男・女)ソフトボール選手権大会東海地区最終予選会—

会期 5月24日(土)、25日(日)
会場 岐阜県郡上市／郡上市合併記念公園総合運動広場 他

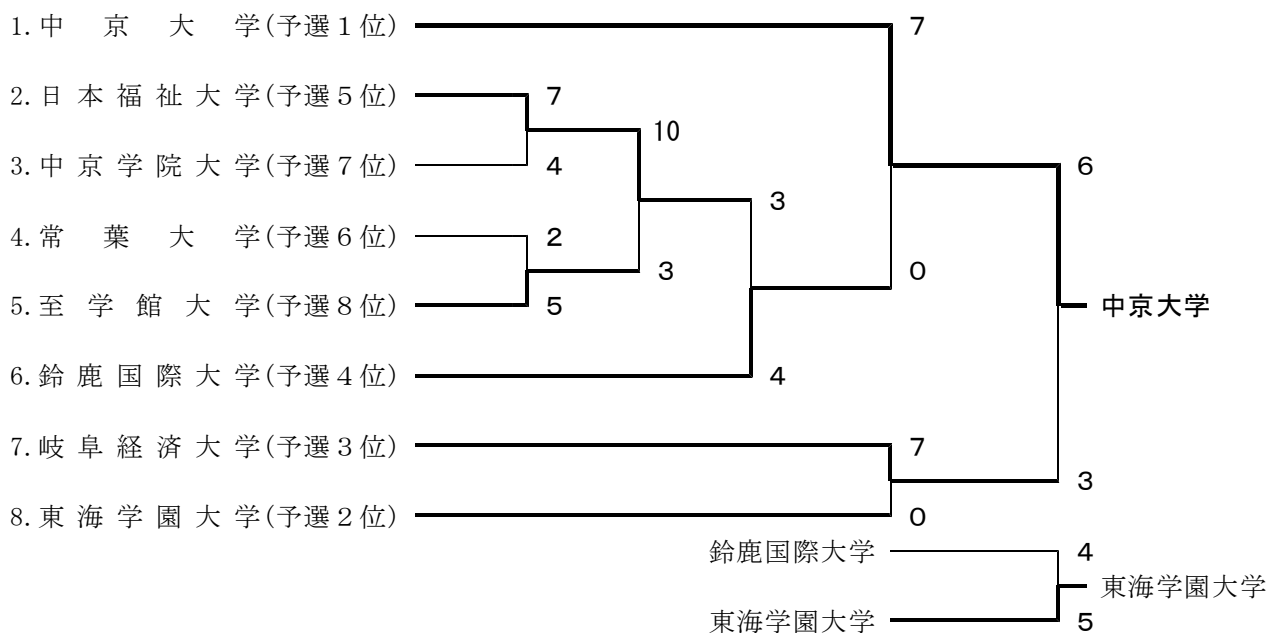
●男子大会結果



●男子大会成績及びインカレ出場権獲得校

優勝: 中京大学(7年連続44回目) 2位: 常葉大学(2年連続17回目)
3位: 中京学院大学(10回連続11回目) 4位: 岐阜聖徳学園大学(2年連続10回目)

●女子大会結果結果



●女子大会成績及びインカレ出場権獲得校

中京大学(30年連続39回目)、岐阜経済大学(初)、
東海学園大学(7年連続13回目)、鈴鹿国際大学(6年連続6回目)

東海テレビ杯 平成26年度秋季第75回 東海地区大学(男子)ソフトボールリーグ戦

会期：平成26年10月18・19・25・26日

会場：静岡県静岡市／田町緑地ソフトボール場・山崎新田グラウンド

一部リーグ戦

チーム	常 葉	中 京	岐阜聖徳	中京学院	南 山	愛 知	勝	分	敗	順 位
常 葉		○ 7 - 0	○ 9 - 3	● 0 - 5	○ 11 - 3	○ 8 - 1	4	0	1	2 位
中 京	● 0 - 7		○ 10 - 6	● 0 - 3	○ 13 - 6	○ 14 - 0	3	0	2	3 位
岐阜聖徳	● 3 - 9	● 6 - 10		● 1 - 10	○ 11 - 4	● 6 - 7	1	0	4	5 位
中京学院	○ 5 - 0	○ 3 - 0	○ 10 - 1		○ 20 - 0	○ 13 - 6	5	0	0	優勝
南 山	● 3 - 11	● 6 - 13	● 4 - 11	● 0 - 20		● 2 - 3	0	0	5	6 位
愛 知	● 1 - 8	● 0 - 14	○ 7 - 6	● 6 - 13	○ 3 - 2		2	0	3	4 位

二部リーグ戦

予選A g	中 部	日本福祉	愛知教育	東海学園	名 商	勝	分	敗	順位
中 部		● 1 - 9	○ 12 - 9	○ 12 - 5	○ 13 - 3	3	0	1	2 位
日本福祉	○ 9 - 1		○ 9 - 4	○ 20 - 2	○ 18 - 1	4	0	0	1 位
愛知教育	● 9 - 12	● 4 - 9		○ 15 - 11	○ 13 - 3	2	0	2	3 位
東海学園	● 5 - 12	● 2 - 20	● 11 - 15		● 12 - 14	0	0	4	5 位
名古屋商	● 3 - 13	● 1 - 18	● 3 - 13	○ 14 - 12		1	0	3	4 位

予選B g	愛知学院	名 古 屋	静 岡	名 城	大 同	勝	分	敗	順位
愛知学院		○ 11 - 0	○ 14 - 4	○ 20 - 5	○ 13 - 0	4	0	0	1 位
名 古 屋	● 0 - 11		● 6 - 11	● 6 - 11	○ 12 - 0	1	0	4	4 位
静 岡	● 4 - 14	○ 11 - 6		○ 6 - 1	○ 12 - 0	3	0	1	2 位
名 城	● 5 - 20	○ 11 - 6	● 1 - 6		○ 2 - 0	2	0	2	3 位
大 同	● 0 - 13	● 0 - 12	● 2 - 12	● 0 - 2		0	0	4	5 位

順位決定予備戦

中 部 大 学(予選A 2位) 4 - 3 静 岡 大 学(予選B 2位)

名 城 大 学(予選B 3位) 11 - 4 愛知教育大学(予選A 3位)

名 古 屋 大 学(予選B 4位) 10 - 4 名古屋商科大学(予選A 4位)

順位決定戦

1 位 決 定 戦：愛知学院大学(予選B 1位) 7 - 4 日本福祉大学(予選A 1位)

- 2・3位決定戦：中部大学(予備戦勝者) 9－2 日本福祉大学(1位決定戦敗者)
4・5位決定戦：名城大学(予備戦勝者) 10－7 静岡大学(予備戦勝者)
6・7位決定戦：名古屋大学(予備戦勝者) 5－0 愛知教育大学(予備戦勝者)
8・9位決定戦：名古屋商科大学(予備戦勝者) 9－5 大同大学(10位決定戦勝者)
10位決定戦：大同大学(予選B 5位) 15－13 東海学園大学(予選A 5位)

※大同大学はオープン参加のため順位決定戦結果の如何にかかわらず順位はなし。東海学園大学が9位

一・二部入れ替え戦

岐阜聖徳学園大学(一部5位) 7－1 中部大学(二部2位) ※両大とも現部に残留

南山大学(一部6位) 3－11 愛知学院大学(二部1位) ※愛知学院大は一部昇格、南山大は二部降格

個人表彰選手

最優秀選手賞：竹本 流星(中京学院大学)

一部首位打者賞：藤原 雄歩(中京学院大学)

記録：7割2分7厘

一部打点賞：鈴木 康平(岐阜聖徳大学)

記録：9

本塁打賞：該当者なし

盗塁賞：該当者なし

一部最優秀防御率賞：竹本 流星(中京学院大学)

記録：0.00

二部優秀選手賞：梅村 俊輔(愛知学院大学)

小竹 景介(中部大学)

二部首位打者賞：松浦 琢弥(愛知学院大学)

記録：7割6分90厘

二部最優秀防御率賞：梅村 俊輔(愛知学院大学)

記録：2.44

ベストマネジメント賞：名古屋大学

ベストスコアラー賞：河村 晴香(岐阜聖徳大学)

ベスト放送員賞：設定なし

ベストナイン

投手：竹本 流星(中京学院大学)

捕手：神谷 俊徳(愛知大学)

一塁手：鈴木 友也(中京大学)

二塁手：藤原 雄歩(中京学院大学)

三塁手：荒木 大(常葉大学)

遊撃手：田中 琢也(中京学院大学)

外野手：金城 春紀(中京学院大学)

外野手：酒井健志郎(常葉大学)

外野手：鈴木 康平(岐阜聖徳学園大学)

D P F P：田中 翔太(南山大学)

講評 本リーグ戦は、1986年以来実に56季28年ぶり2回目の静岡市での開催となった。直前の二つの台風で会場の河川敷が水没して開催が危ぶまれたが、静岡市と同市ソフトボール協会の献身的なご尽力により球場が整備され、予定通り霊峰富士を仰いでのリーグ戦となった。関係各位に対しまして、まずもって御礼申し上げます。

一部リーグ戦は、盤石の強さを誇る中京大学に対して春季に復活を遂げた古豪常葉大学をはじめとする5チームがどのように挑むかが注目されていた。しかし、初日に中京大学は中京学院大学に完敗して一気に混戦模様の展開になるかと思われた。常葉大学は初日に2連勝したものの、2日目に中京学院大学に敗れ、中京学院大学は最終日を待たずに早々と優勝を決めた。これは、防御率0.00のエース竹本を中心に、打撃ベスト10の123を占める藤原・田中・金城各選手の打撃ばかりでなく、5試合で2失策という守備の堅さ(守備率0.982)の成せるものであり、正に完全優勝であった。また、二部リーグ戦は、愛知学院大学が格の違いを見せ、入れ替え戦も制して無敗で一部復帰を1季で果たした。順位決定予備戦の導入で「おもしろさ」は増したが、10点を争う試合ではなく5点までで緊張感のある試合を望みたい。なお、参考記録ながら、入れ替え戦で愛知学院大学は、満塁から4直－3－5のトリプルプレイを完成させたことを付記する。(事務局長 水谷 博)

東海テレビ杯

平成26年度秋季第64回 東海地区大学(女子)ソフトボールリーグ戦

会期：平成26年9月27・28日、10月4・11日

会場：愛知県高浜市／碧海グラウンド・流作グラウンド

一部リーグ戦

チーム	中 京	東海学園	岐阜経済	鈴鹿国際	日本福祉	常 葉	勝	分	敗	順 位
中 京		● 1 - 2	○ 5 - 0	○ 12 - 2	○ 3 - 0	○ 19 - 0	4	0	1	優勝
東海学園	○ 2 - 1		○ 4 - 3	○ 3 - 2	● 0 - 2	○ 8 - 1	4	0	1	3位
岐阜経済	● 0 - 5	● 3 - 4		● 0 - 10	● 0 - 7	● 1 - 3	0	0	5	6位
鈴鹿国際	● 2 - 12	● 2 - 3	○ 10 - 0		● 1 - 4	○ 6 - 0	2	0	3	4位
日本福祉	● 0 - 3	○ 2 - 0	○ 7 - 0	○ 4 - 1		○ 10 - 0	4	0	1	2位
常 葉	● 19 - 0	● 1 - 8	○ 3 - 1	● 0 - 6	● 0 - 10		1	0	4	5位

※優勝～3位は、リーグ戦規定の失点率による。

二部リーグ戦

チーム	中京学院	至 学 館	岐阜聖徳	愛知教育	名 古 屋	静 岡	勝	分	敗	順 位
中京学院		○ 7 - 2	○ 6 - 1	○ 5 - 4	○ 11 - 1	○ 21 - 0	5	0	0	優勝
至 学 館	● 2 - 7		○ 7 - 4	○ 7 - 3	○ 15 - 0	○ 8 - 3	4	0	1	2位
岐阜聖徳	● 1 - 6	● 4 - 7		○ 9 - 2	○ 7 - 0	○ 5 - 3	3	0	2	3位
愛知教育	● 4 - 5	● 3 - 7	● 2 - 9		○ 11 - 7	○ 8 - 1	2	0	3	4位
名 古 屋	● 1 - 11	● 0 - 15	● 0 - 7	● 7 - 11		○ 11 - 4	1	0	4	5位
静 岡	● 0 - 21	● 3 - 8	● 3 - 5	● 1 - 8	● 4 - 11		0	0	5	6位

一・二部入れ替え戦

常葉大学(一部5位) 3 - 1 至学館大学(二部2位) ※常葉大は一部残留、至学館大は二部残留

岐阜経済大学(一部6位) 4 - 5 中京学院大学(二部1位) ※中院大は一部昇格、岐経大は二部降格

個人表彰選手

最 優 秀 選 手 賞：森 あすか(中京大)

盗 塁 賞：天野 佑香(日本福祉大)

一 部 首 位 打 者 賞：西井 春菜(鈴鹿国際大)

記録5

記録6割0分0厘

一部最優秀防御率賞：宇野かな(日本福祉大)

一 部 打 点 賞：西口 三晴(鈴鹿国際大)

記録0.37

記録8

二 部 優 秀 選 手 賞：布村 彩花(中京学院大)

本 塁 打 点 賞：該当者なし

二 部 首 位 打 者 賞：桐山カンナ(中京学院大)

記録7割5分0厘

二部最優秀防御率賞：山下 栞奈（至学館大）

記録1.09

ベストマネジメント賞：東海学園大学

ベストスコアラー賞：田中 麻鈴（岐阜経済大）

ベスト放送員賞：後藤 成美（至学館大）

ベストナイン：

投手 木村麻利亜（東海学園大学2年）

捕手 平川 穂波（中京大学 2年）

一塁手：香山紗貴子（中京大学 3年）

二塁手：戸村 美紅（東海学園大学2年）

三塁手：木村 彩乃（鈴鹿国際大学3年）

遊撃手：田中 唯（日本福祉大学3年）

外野手：長谷 瑞希（中京大学 3年）

外野手：岡本 知奈（中京大学 1年）

外野手：天野 佑香（日本福祉大学2年）

DPPF：西井 春菜（鈴鹿国際大学3年）

講評

9月27・28日、10月4・11日の四日間、愛知県高浜市において開催された本リーグ戦は、高浜市連盟の皆様のご尽力により、台風の影響で順延を余儀なくされたものの、全日程を終えることができました。記して感謝申し上げます。

今回のリーグ戦では、戦国時代へと突入した混戦のリーグ戦が予想された。その予想通り、上位3チームが4勝1敗で並ぶ大混戦となった。失点率による順位決定となった中で、投手陣の安定感を見せた中京大学が2季連続36回目の優勝を飾った。課題となっていた攻撃力も5試合で40得点の得点力を見せ、総合力の高さを示した。準優勝には、創部以来初めての快挙となった日本福祉大学が入った。大学をあげ強化に乗り出しているだけに、初優勝も時間の問題といえる。第3位には東海学園大。優勝した中京大学に唯一黒星をつけ、最後に意地をみせた。戦力は充実しているだけに来季への巻き返しが期待される。4位には下位2チームを取りこぼさず2勝をあげた鈴鹿国際大学、5位には下位争いを制した常葉大学、6位は前季上位を脅かした岐阜経済大学が入るという結果となった。

最優秀選手賞には、優勝した中京大から投手の森あすかが選ばれた。5戦全試合に先発し、4勝1敗とフル回転の活躍であったが、絶対的な力がないだけにこれからの成長に期待したい。最優秀防御率は日本福祉大の宇野かんな（記録0.37）が初受賞、首位打者賞にはケガから復帰した鈴鹿国際大の西井春菜（0.600）が獲得した。

二部では、4戦全勝対決を制した中京学院大学が5戦全勝で優勝、準優勝には返り咲きを狙う至学館大学が入った。中京学院大学はその勢いを入れ替え戦にもつなげ、同県対決となった岐阜経済大学戦を逆点で制し、見事一部復帰を果たした。一方、至学館大学は常葉大学に破れ一部昇格はならなかった。

今大会では、目まぐるしく変わる戦力図を描いた、まさに戦国時代の東海地区大学ソフトボールリーグ戦の結果となったと言える。「一部上位3チームが4勝1敗の同率」、「創部以来初の準優勝チームの誕生」、「前季上位を脅かしたチームがまさかの最下位」、そして「返り咲きの一部昇格」と大混戦の話題が豊富な大会となった。これは、本リーグが掲げる「競争力の激化」・「リーグ全体の底上げ」をまさに実践できた結果と言えるのではないだろうか。

リーグ戦後、10月25日には強化リーグと題して、投手、捕手、クリーンナップを対象としたソフトボールクリニックが開催された（トヨタスポーツセンター）。来年、第50回全日本インカレ三重県大会制覇に向けて、東海地区大学の「競争力の激化」と「リーグ全体の底上げ」をより一層図っていかねばならない。（理事長 二瓶雄樹）



【近畿地区】

平成26年度 第46回春季関西学生ソフトボールリーグ戦（男子）

会期：4月5日～5月25日

会場：大阪府吹田市／万博公園スポーツ広場

1部リーグ戦

チーム	立 命 館	神戸学院	同 志 社	京都産業	関 西	神 戸	勝	分	敗	順 位
立 命 館		○ 5 - 3	○ 5 - 4	○ 5 - 2	○ 5 - 1	● 4 - 5	4	0	1	1 位
神戸学院	● 3 - 5		○ 6 - 1	○ 4 - 3	○ 10 - 5	○ 10 - 0	4	0	1	2 位
同 志 社	● 4 - 5	● 1 - 6		○ 5 - 0	○ 5 - 4	○ 8 - 1	3	0	2	3 位
京都産業	● 2 - 5	● 3 - 4	● 0 - 5		○ 8 - 3	○ 10 - 0	2	0	3	4 位
関 西	● 1 - 5	● 5 - 10	● 4 - 5	● 3 - 8		○ 10 - 0	1	0	4	5 位
神 戸	○ 5 - 4	● 0 - 10	● 1 - 8	● 0 - 10	● 0 - 10		1	0	4	6 位

☆立命館大学は3年ぶり14回目の優勝！ 神戸大学は2部に自動降格
※1～2位、5～6位は当該チーム間勝ち点規定により決定

2部リーグ戦

A	大阪産業	大阪経済	兵庫教育	大 阪	佛 教	勝	分	敗	点	順 位
大阪産業		○ 5 - 3	○ 10 - 1	○ 7 - 2	○ 14 - 0	4	0	0	12	1 位
大阪経済	● 3 - 5		△ 7 - 7	○ 8 - 5	○ 4 - 0	2	1	1	7	2 位
兵庫教育	● 1 - 10	△ 7 - 7		△ 3 - 3	○ 8 - 5	1	2	1	5	3 位
大 阪	● 2 - 7	● 5 - 3	△ 3 - 3		○ 7 - 5	1	1	2	4	4 位
佛 教	● 0 - 14	● 0 - 4	● 5 - 8	● 5 - 7		0	0	4	0	5 位

B	龍 谷	大阪体育	四天王寺	兵庫県立	京 都	勝	分	敗	点	順 位
龍 谷		○ 5 - 3	○ 4 - 3	○ 2 - 0	○ 4 - 0	4	0	0	12	1 位
大阪体育	● 3 - 5		△ 3 - 3	○ 12 - 9	○ 9 - 4	2	1	1	7	2 位
四天王寺	● 3 - 4	△ 3 - 3		○ 6 - 5	● 10 - 14	1	1	2	4	3 位
兵庫県立	● 0 - 2	● 9 - 12	● 5 - 6		○ 6 - 3	1	0	3	3	4 位
京 都	● 0 - 4	● 4 - 9	○ 14 - 10	● 3 - 6		1	0	3	3	5 位

※4～5位は当該チーム間勝ち点規定により決定

◎ 2部ブロック決勝 大阪産業大学 2 - 4 龍谷大学 ☆龍谷大学は1部に自動昇格

◎ 2部最下位決定戦 佛教大学 1 - 6 京都大学 ★佛教大学は3部に自動降格

3部リーグ戦

A	奈良教育	流通科学	近 畿	大阪工業	摂 南	勝	分	敗	点	順 位
奈良教育		○10-3	○7-6	○12-2	○7-1	4	0	0	12	1位
流通科学	●3-10		○11-7	○13-2	○11-1	3	0	1	9	2位
近 畿	●6-7	●7-11		●5-10	○14-0	1	0	3	9	3位
大阪工業	●2-12	●2-13	○10-5		●5-6	1	0	3	3	4位
摂 南	●1-7	●1-11	●0-14	○6-5		1	0	3	3	5位

※3～5位は得点差規定により決定

B	大阪府立	京都学園	大阪市立	和 歌 山	勝	分	敗	点	順 位
大阪府立		○7-3	○8-1	○10-4	3	0	0	9	1位
京都学園	●3-7		○11-1	○10-0	2	0	1	6	2位
大阪市立	●1-8	●1-11		○12-1	1	0	2	3	3位
和 歌 山	●4-10	●0-10	●1-12		0	0	3	0	4位

C	大阪教育	甲 南	関西学院	大阪経法	勝	分	敗	点	順 位
大阪教育		○14-2	○15-0	○12-4	3	0	0	9	1位
甲 南	●2-14		○13-5	○8-3	2	0	1	6	2位
関西学院	●0-15	●5-13		○10-0	1	0	2	3	3位
大阪経法	●4-12	●3-8	●0-10		0	0	3	0	4位

◎3部ブロック決勝 奈良教育大学2-4大阪府立大学 ☆大阪府立大学は2部に自動昇格

◎入れ替え戦

1部・2部 関西大学4-1大阪産業大学 ☆両大学とも原部残留

2部・3部 京都大学5-0奈良教育大学 ☆両大学とも原部残留

◇西日本インカレ出場チーム（リーグ戦結果の上位10大学）

立命館大学、神戸学院大学、同志社大学、京都産業大学、関西大学、神戸大学、
龍谷大学、大阪産業大学、大阪経済大学、大阪体育大学

◇全日本インカレ出場チーム（7大学）

立命館大学、神戸学院大学、同志社大学、京都産業大学、関西大学、大阪体育大学、京都大学

【総評】 全日本インカレの代表権もかかっている春季リーグ戦。

1部は、投手力が計算できる、立命館大学と神戸学院大学が安定した試合運びをみせたが、最終

的には直接対決を制した「立命館大学」が3年ぶりの優勝となった。また、2部から昇格してきた神戸大学だったが、躍進の柱であった西岡投手の抜けた穴は大きく、1季での降格となった。

一方、2部は岩田投手を擁する大阪産業大学と、戸梶投手を擁する龍谷大学がそれぞれ全勝でブロック優勝を飾った。ブロック決勝では接戦となったが、総合力で勝る「龍谷大学」が優位に試合を進めて勝利し、1部への自動昇格を果たした。また、3部は奈良教育大学、大阪府立大学、大阪教育大学が全勝でブロックを制したが、代表決定戦で勝利した大阪府立大学が2部への自動昇

格を果たした。

今回の結果を見渡すと、勝利数も含めて試合を有意に進めるためには、一にも二にも「投手」だと改めて痛感した。西日本大会や全日本大会に出場するチームは、新一年生の起用も含めて、ベストなチームを作って関西を代表して戦ってきてほしい。（理事長 森田啓之）

平成26年度第46回春季関西学生ソフトボールリーグ戦（女子）

会期：平成26年4月19・20・27、5月3・4・5・6日

会場：園田学園女子大学・武庫川女子大学・四天王寺大学・摂南大学

1部リーグ戦成績

チーム	園田学園	関西	武庫川	大阪国際	奈良文化	立命館	神戸親和	大阪大谷
園田学園		○11-0	○8-4	○5-0	○4-0	○4-1	○10-0	○6-5
関西	●0-11		○2-1	○1-0	○5-1	●0-4	●2-3	○3-1
武庫川	●4-8	●1-2		○1-0	○4-0	○5-4	○3-0	●2-6
大阪国際	●0-5	●0-1	●0-1		○2-0	○1-0	○4-1	○1-0
奈良文化	●0-4	●1-5	●0-4	●0-2		○1-0	○3-2	○2-1
立命館	●1-4	○4-0	●4-5	●0-1	●0-1		○6-0	○2-0
神戸親和	●0-10	○3-2	●0-3	●1-4	●2-3	●0-6		○3-0
大阪大谷	●5-6	●1-3	○6-2	●0-1	●1-2	●0-2	●0-	

※2～4位、5～6位は、当該チーム間の直接対戦の勝敗による。

1部最終成績

優勝	園田学園女子大学	(7勝0分0敗)
2位	関西大学	(4勝0分3敗)
3位	武庫川女子大学	(4勝0分3敗)
4位	大阪国際大学	(4勝0分3敗)
5位	奈良文化女子短大部	(3勝0分4敗)
6位	立命館大学	(3勝0分4敗)
7位	神戸親和女子大学	(2勝0分5敗)
8位	大阪大谷大学	(1勝0分6敗)

1部個人表彰

打撃成績

順位	氏名	大学	打率
1位	山澤 葵	立命館大学	0.589
2位	堤 加菜子	園田学園女子大学	0.55
3位	田井亜加音	園田学園女子大学	0.5
4位	古澤 春菜	園田学園女子大学	0.473
5位	仁科 芽惟	大阪大谷大学	0.467
6位	井上 奈那	神戸親和女子大学	0.45
7位	森田 歩	立命館大学	0.412
8位	児島 優	園田学園女子大学	0.385
9位	明楽佳那子	武庫川女子大学	0.375
9位	竹内 夢	立命館大学	0.375

投手成績

順位	氏名	大学	防御率
1位	石田紗也佳	大阪国際大学	0.3
2位	加藤あずさ	立命館大学	0.56
3位	尾崎 千裕	武庫川女子大学	0.87
4位	宮原 那奈	関西大学	0.89
5位	池田 美樹	園田学園女子大学	1.07

ベストプレイ賞

大学	氏名	守備位置
園田学園女子大学	池田 美樹	投手
関西大学	宮原 那奈	投手
武庫川所女子大学	尾崎 千裕	投手

大阪国際大学	豊村 未来	内野手
奈良文化女子短大	森本 叶恵	投手
立命館大学	山澤 葵	捕手
神戸親和女子大学	井上 那奈	右翼手
大阪国際大学	石田紗也佳	投手

ホームラン賞：岩本 玲奈	園田学園女子大学
記録 3 中川 なおみ	園田学園女子大学
古澤 春菜	園田学園女子大学
川口 藍	武庫川女子大学

盗塁賞：古澤 春菜	園田学園女子大学
記録 7	

2部リーグ戦対戦成績

チーム	天理	太成学院	龍谷	大阪体育	同志社	びわこ	勝	分	敗	順位
天理		○3-2	○4-3	○9-2	○12-0	○7-0	5	0	0	1位
太成学院	●2-3		○6-3	○12-2	△2-2	○10-0	3	1	1	2位
龍谷	●3-4	●3-6		○2-0	○5-2	○11-4	3	0	2	3位
大阪体育	●2-9	●2-12	●0-2		○9-5	○11-2	2	0	3	4位
同志社	●0-12	△2-2	●2-5	●5-9		○6-3	1	1	3	5位
びわこ	●0-7	●0-10	●4-11	●2-11	●3-6		0	0	5	6位

2部個人表彰

打撃成績

順位	氏名	大学	打率
1位	植野 甲子	天理大学	0.667
2位	谷口みなみ	太成学院大学	0.615
2位	清水 藍子	太成学院大学	0.615
4位	山田 歩美	大阪体育大学	0.600
5位	名古屋由貴	同志社大学	0.589
6位	嶋本 鈴佳	天理大学	0.500
6位	久禮 葉月	天理大学	0.500
8位	梅本 貴美	龍谷大学	0.467
8位	吉田 香代	太成学院大学	0.467
9位	田中 千晴	大阪体育大学	0.462
9位	山ノ内実里	大阪体育大学	0.462

投手成績

順位	氏名	大学	防御率
1位	神野まどか	天理大学	2.33
2位	始澤 菜摘	龍谷大学	2.50
3位	宮原 那奈	関西大学	2.94

ベストプレイ賞

大学	氏名	守備位置
天理大学	佐藤 倫	一塁手
太成学院大学	谷口みなみ	一塁手
龍谷大学	始澤 菜摘	投手
大阪体育大学	田中 千晴	一塁手
同志社大学	稲岡 桃香	内野手
びわこ成蹊スポーツ大学	横山 千裕	三塁手

盗塁賞：清水 藍子 太成学院大学
嶋本 鈴佳 天理大学

長澤 由里 龍谷大学
記録 3

3 部対戦成績表

チーム	大阪青山	兵庫教育	四天王寺	佛 教	京都女子	摂 南	大阪府立
大阪青山		○ 9 - 2	○ 45 - 1	○ 12 - 0	○ 24 - 0	○ 16 - 0	○ 7 - 0
兵庫教育	● 2 - 9		○ 11 - 0	○ 15 - 4	○ 9 - 2	○ 13 - 0	○ 12 - 2
四天王寺	● 1 - 45	● 0 - 11		○ 12 - 0	○ 16 - 8	○ 14 - 6	○ 16 - 4
佛 教	● 0 - 12	● 4 - 15	● 0 - 12		○ 17 - 7	○ 20 - 7	○ 23 - 7
京都女子	● 0 - 24	● 2 - 9	● 8 - 16	● 7 - 17		○ 11 - 1	○ 21 - 11
摂 南	● 0 - 16	● 0 - 13	● 6 - 14	● 7 - 20	● 1 - 11		○ 16 - 4
大阪府立	● 0 - 7	● 2 - 12	● 4 - 16	● 7 - 23	● 11 - 21	● 4 - 16	

3 部最終成績

優勝 大阪青山大学 (6勝0分0敗)
2位 兵庫教育大学 (5勝0分1敗)
3位 四天王寺大学 (4勝0分2敗)
4位 佛 教 大 学 (3勝0分3敗)
5位 京都女子大学 (2勝0分4敗)
6位 摂 南 大 学 (1勝0分5敗)
7位 大阪府立大学 (0勝0分6敗)

3 部個人表彰

打撃成績

順位	氏 名	大 学	打 率
1 位	勝部 彩菜	大阪青山大学	0.777
2 位	横井 春菜	兵庫教育大学	0.636
3 位	川井美沙季	大阪青山大学	0.625
4 位	井関 玲奈	大阪青山大学	0.600
5 位	香川 彩香	摂南大学	0.562
6 位	黒岩 美里	大阪青山大学	0.545
7 位	大谷 美里	大阪青山大学	0.533
8 位	恩田 知華	四天王寺大学	0.500
9 位	前田 琴美	京都女子大学	0.471
10位	土肥 礼奈	大阪青山大学	0.444
10位	浦口 真綾	大阪府立大学	0.444
10位	塩路みのり	四天王寺大学	0.444

投手成績

順位	氏 名	大 学	防御率
1 位	荒木 舞	京都女子大学	8.62

ベストプレイ賞

大 学	氏 名	守備位置
大阪青山大学	中島智奈津	投 手
兵庫教育大学	田中 優衣	遊撃手
四天王寺大学	塩路みのり	遊撃手
佛教大学	南 七彩	内野手
京都女子大学	西村 理沙	二塁手
摂南大学	香川 彩香	捕 手
大阪府立大学	丸橋 佳奈	投 手

盗塁賞：土肥 礼奈 大阪青山大学 記録 7



平成26年度 第46回秋季関西学生ソフトボールリーグ戦（男子）

会期：9月13日～11月15日

会場：大阪府吹田市／万博公園スポーツ広場

1部リーグ戦

チーム	関西	京都産業	神戸学院	同志社	立命館	龍谷	勝	分	敗	順位
関西		○7-5	○4-3	○3-2	○3-1	○10-0	5	0	0	1位
京都産業	●5-7		○7-6	●0-1	○4-2	○10-0	3	0	2	2位
神戸学院	●3-4	●6-7		△5-5	○9-2	○3-2	2	1	2	3位
同志社	●2-3	○1-0	△5-5		●5-14	○14-1	2	1	2	4位
立命館	●1-3	●2-4	●2-9	○14-5		○10-0	2	0	3	5位
龍谷	●0-10	●0-10	●2-3	●1-14	●0-10		0	0	5	6位

☆関西大学は2年ぶり18度目の優勝！ 龍谷大学は2部に自動降格 ※3～4位は得点差規定により決定

2部リーグ戦

A	大阪体育	京都	大阪	大阪経済	兵庫県立	勝	分	敗	点	順位
大阪体育		○17-4	○9-0	○8-4	△7-7	3	1	0	10	1位
京都	●4-17		○3-1	○9-8	○9-2	3	0	1	9	2位
大阪	●0-9	●1-3		○7-6	○6-4	2	0	2	6	3位
大阪経済	●4-8	●8-9	●6-7		○10-1	1	0	3	3	4位
兵庫県立	△7-7	●2-9	●4-6	●1-10		0	1	3	1	5位

※3～4位は当該チーム間勝ち点規定により決定

B	大阪府立	兵庫教育	大阪産業	四天王寺	神戸	勝	分	敗	点	順位
大阪府立		○8-3	○6-3	△2-2	○1-0	3	1	0	7	1位
兵庫教育	●3-8		○2-1	●1-4	○8-7	2	0	2	6	2位
大阪産業	●3-6	●1-2		○1-0	○3-2	2	0	2	6	3位
四天王寺	△2-2	○4-1	●0-1		●2-9	1	1	2	4	4位
神戸	●0-1	●7-8	●2-3	○9-2		1	0	3	3	5位

◎2部ブロック決勝 大阪体育大学4-0大阪府立大学 ☆大阪体育大学は1部に自動昇格

◎2部最下位決定戦 兵庫県立大学0-12神戸大学 ★兵庫県立大学は3部に自動降格

3部リーグ戦

A	京都学園	近 畿	関西学院	大阪市立	和 歌 山	勝	分	敗	点	順 位
京都学園		○ 7 - 2	○ 8 - 2	○ 5 - 3	○ 6 - 0	4	0	0	12	1 位
近 畿	● 2 - 7		○ 13 - 12	△ 8 - 8	○ 1 - 0	2	1	1	7	2 位
関西学院	● 2 - 8	● 12 - 13		○ 13 - 7	○ 17 - 3	2	0	2	6	3 位
大阪市立	● 3 - 5	△ 8 - 8	● 7 - 13		○ 6 - 2	1	1	2	4	4 位
和 歌 山	● 0 - 6	● 0 - 1	● 3 - 17	● 2 - 6		0	0	4	0	5 位

B	佛 教	奈良教育	大阪経法	大阪工業	勝	分	敗	点	順 位
佛 教		○ 9 - 2	○ 11 - 5	○ 12 - 0	3	0	0	9	1 位
奈良教育	● 2 - 9		○ 9 - 7	△ 5 - 5	1	1	1	4	2 位
大阪経法	● 5 - 11	● 7 - 9		○ 13 - 3	1	0	2	3	3 位
大阪工業	● 0 - 12	△ 5 - 5	● 3 - 13		0	1	2	1	4 位

C	大阪教育	流通科学	摂 南	甲 南	勝	分	敗	点	順 位
大阪教育		○ 10 - 4	○ 11 - 1	△ 5 - 5	2	1	0	7	1 位
流通科学	● 4 - 10		○ 13 - 3	○ 10 - 6	2	0	1	6	2 位
摂 南	● 1 - 11	● 3 - 13		○ 6 - 2	1	0	2	3	3 位
甲 南	△ 5 - 5	● 6 - 10	● 2 - 6		0	1	2	1	4 位

◎3部ブロック決勝 京都学園大学 3 - 0 佛教大学 佛教大学 0 - 2 大阪教育大学
大阪教育大学 5 - 1 京都学園大学 ☆大阪教育大学は2部に自動昇格

◎入れ替え戦

1部・2部 立命館大学 16 - 3 大阪府立大学 ☆両者とも原部に残留
2部・3部 神戸大学 1 - 2 京都学園大学 ☆京都学園大学は2部昇格、神戸大学は3部降格

【総評】 1部は多くのチームが新しい態勢で臨む秋季。その中で安定した試合運びを見せて優勝したのが、関西大学であった。全日本インカレで大活躍した一年生の松田投手をはじめとした投手の充実がその要因であろう。なお、2位から5位までは、互いに決め手を欠く中での団子状態であった。また、2部から昇格してきた龍谷大学も新チームになって1部との力の差が歴然と表れた結果となった。

続いて、2部Aブロックは攻撃力に勝る大阪体育大学が一步抜きん出て、1位となった。一方でBブロックは3部からの昇格の勢いそのまま大阪府立大学が1位通過となった。投手を中心にまとまった良い戦いぶりであった。ブロック決勝戦では、大阪体育大学が実力差を見せつけて、2年ぶりの1部への振り返りを果たした。

ここ数シーズンは、2部から1部への昇格チームがいずれも1季で降格を繰り返している。大阪

体育大学には、ややマンネリ感のある1部勢を慌てさせる戦いぶりを来季期待したい。また、残念なことに春に1部だった神戸大学は入れ替え戦にも破れ、3部降格となってしまった。伝統のあるチームゆえに、来季での巻き返しを願っている。

最後に、3部であるが、ブロックをそれぞれ制した京都学園大学、佛教大学、大阪教育大学が三つ巴の3部決勝を行った。その結果、大阪教育大学が見事に勝利し、2部への自動昇格を果たした。昨年秋にリーグ加盟して以来、3季連続でブロック戦にまでコマを進めていたが、やっと念願かなったの2部である。新しい風を2部に吹き込んでほしい。さらに、京都学園大学も入れ替え戦

で勝利して、3部チームがともに昇格となった。

関西リーグは現在29チームで、大所帯となっている。これ自体は大変喜ばしいことである。しかしながら、いくつか課題もある。一つは、全国的規模での大会における関西勢の元気のなさである。来年度こそは打倒早稲田を目指して、このシーズオフに力を蓄えてほしい。あと、一つは従来から主に万博グラウンドを借用して実施しているが、他団体との関係含めて、再検討すべき時期にきている感を持っている。その意味では、来年度は所属チーム全体でこれからの在り方を考える一年にしなければならないと考えている。

(理事長 森田啓之)

平成26年度第46回秋季関西学生ソフトボールリーグ戦（女子）

会期：平成26年9月20・21・23・27・28日、10月4・5・11・12日

会場：園田学園女子大学・武庫川女子大学・大阪大谷大学・四天王寺大学・摂南大学

1部リーグ戦成績

チーム	園田学園	立命館	大阪大谷	武庫川	大阪国際	太成学院	神戸親和	関西
園田学園		○3-2	○7-0	○6-3	○11-1	○3-2	○8-5	△3-3
立命館	●2-3		○6-5	○6-0	○2-0	○9-2	○8-0	○4-1
大阪大谷	●0-7	●5-6		○2-1	○4-3	○6-3	○3-2	○11-4
武庫川	●3-6	●0-6	●1-2		○2-0	●1-3	○9-2	○8-1
大阪国際	●1-11	●0-2	●3-4	●0-2		△1-1	○3-2	○4-0
太成学院	●2-3	●2-9	●3-6	○3-1	△1-1		○2-1	●2-3
神戸親和	●5-8	●0-8	●2-3	●2-9	●2-3	●1-2		○1-0
関西	△3-3	●1-4	●4-11	●1-8	●0-4	○3-2	●0-1	

1部最終成績

優勝 園田学園女子大学（6勝1分0敗）
 2位 立命館大学（6勝0分1敗）
 3位 大阪大谷大学（5勝0分2敗）
 4位 武庫川女子大学（3勝0分4敗）

5位 大阪国際大学（2勝1分4敗）
 6位 太成学院大学（2勝1分4敗）
 7位 神戸親和女子大学（1勝0分6敗）
 8位 関西大学（1勝1分5敗）

※5～6位は、当該チームの総得失点差による。

1 部個人表彰

打撃成績

順位	氏 名	大 学	打 率
1 位	馬場 春菜	大阪国際大学	0.600
2 位	畠田 奈美	武庫川女子大学	0.579
3 位	安平 泉	関西大学	0.526
4 位	川口 藍	武庫川女子大学	0.500
4 位	二宮 はな	園田学園女子大学	0.500
6 位	山澤 葵	立命館大学	0.435
7 位	田中 瑠莉	武庫川女子大学	0.434
8 位	中川なおみ	園田学園女子大学	0.421
9 位	大下 沙織	大阪大谷大学	0.409
9 位	古澤 春菜	園田学園女子大学	0.409

投手成績

順位	氏 名	大 学	防御率
1 位	本荘 遥	立命館大学	0.00
2 位	池田 美樹	園田学園女子大学	0.25
3 位	竹次 史織	神戸親和女子大学	0.72
4 位	吉田 優姫	太成学院大学	1.33
5 位	田中明日香	武庫川女子大	1.41

ベストプレイ賞

大 学	氏 名	守備位置
園田学園女子大学	野上 綾香	左翼手
立命館大学	山澤 葵	捕 手
大阪大谷大学	松永 栞	遊撃手
武庫川女子大学	田中明日香	投 手
大阪国際大学	石田紗也佳	投 手
太成学院大学	園田 里紗	遊撃手
神戸親和女子大学	竹次 史織	投 手
関西大学	田中 紗季	二塁手

盗 塁 賞：山澤 葵 立命館大学

記録 4 二宮 はな 園田学園女子大学
穂山 奈央 園田学園女子大学

ホームラン賞：川口 藍 武庫川女子大学
記録 2

2 部リーグ戦対戦成績

チー ム	天 理	奈良文化	同 志 社	大阪体育	龍 谷	大阪青山	勝	分	敗	順 位
天 理		○ 8 - 0	● 1 - 2	○ 2 - 0	○ 5 - 2	○ 7 - 0	4	0	1	1 位
奈良文化	● 0 - 8		○ 3 - 1	○ 5 - 3	○ 5 - 4	○ 4 - 2	4	0	1	2 位
同 志 社	○ 2 - 1	● 1 - 3		● 2 - 3	○ 3 - 2	○ 3 - 1	3	0	2	3 位
大阪体育	● 0 - 2	● 3 - 5	○ 3 - 2		○ 3 - 0	● 3 - 8	2	0	3	4 位
龍 谷	● 2 - 5	● 4 - 5	● 2 - 3	● 0 - 3		○ 4 - 1	1	0	4	5 位
大阪青山	● 0 - 7	● 2 - 4	● 1 - 3	○ 8 - 3	● 4 - 1		1	0	4	6 位

※ 1～2 位、5～6 位は、当該チームの直接対戦の勝敗による。

2 部個人表彰

打撃成績

順位	氏 名	大 学	打 率
1 位	岸田 涼	大阪青山大学	0.636
2 位	小山 亜紗	天理大学	0.545
3 位	丘 珠里	龍谷大学	0.500

3 位	宮原 葵	奈良文化女子短大部	0.500
5 位	稲岡 桃花	同志社大学	0.466
6 位	嶋本 鈴佳	天理大学	0.444
7 位	片山 理子	大阪体育大学	0.429
8 位	藤原 淑子	奈良文化女子短大部	0.417
9 位	松本 瞳	天理大学	0.385
10 位	角山 瞳	奈良文化女子短大部	0.368

投手成績

順位	氏名	大学	防御率
1位	神野まどか	天理大学	0.54
2位	木村 真悠	天理大学	0.84
3位	尾崎 彩花	同志社大学	0.97

ベストプレイ賞

大学	氏名	守備位置
天理大学	松本 早紀	内野手
奈良文化女子短大部	藤原 淑子	三塁手
同志社大学	稲岡 桃花	遊撃手
大阪体育大学	山ノ内実里	遊撃手
龍谷大学	丘 珠里	三塁手
大阪青山大学	岸田 涼	捕 手

盗塁賞： 嶋本 鈴佳 天理大学 記録5

3部対戦成績表

チーム	兵庫教育	びわこ	佛 教	摂 南	大阪府立	大阪産業	四天王寺	京都女子
兵庫教育		○5-1	-----	○13-1	-----	○7-0	○15-0	-----
びわこ	●1-5		○12-10	-----	○15-0	-----	-----	○15-0
佛 教	-----	●10-12		○17-2	○23-6	-----	-----	○17-6
摂 南	●1-13	-----	●2-17		-----	○11-5	○14-7	-----
大阪府立	-----	●0-15	●6-23	-----		○17-5	-----	○25-16
大阪産業	●0-17	-----	-----	●5-11	●5-17		○22-0	-----
四天王寺	●0-15	-----	-----	●7-14	-----	●9-22		△14-14
京都女子	-----	●0-15	●6-17	-----	○25-16	-----	△14-14	

3部最終成績

優勝 兵庫教育大学	(4勝0分0敗)	5位 大阪府立大学	(1勝0分3敗)
2位 びわこ成蹊スポーツ大学	(3勝0分1敗)	6位 大阪産業大学	(1勝0分3敗)
3位 佛 教 大 学	(3勝0分1敗)	7位 四天王寺大学	(0勝1分3敗)
4位 摂 南 大 学	(2勝0分2敗)	8位 京都女子大学	(0勝1分3敗)

※2～3位、5～6位は、当該チームの直接対戦の勝敗、7～8位は、当該チームの総得失点差による。

3部個人表彰

打撃成績

順位	氏名	大学	打率
1位	横井 春奈	兵庫教育大学	0.667
2位	西沢 梨奈	佛教大学	0.637
3位	高重 由麻	びわこ成蹊スポーツ大学	0.636
4位	西村 理沙	京都女子大学	0.600
5位	田中 優衣	兵庫教育大学	0.545
6位	南 七彩	佛教大学	0.539
7位	吉田麻須美	びわこ成蹊スポーツ大学	0.400

8位 萩原 萌 兵庫教育大学 0.533

9位 尾上 文菜 大阪府立大学 0.500

9位 横山 千裕 兵庫教育大学 0.500

投手成績

順位	氏名	大学	防御率
1位	由川芽成実	びわこ成蹊スポーツ大学	0.00

ベストプレイ賞

大 学	氏 名	守備位置
兵庫教育大学	尾松 真衣	投 手
びわこ成蹊スポーツ大学	由川芽成実	投 手
佛教大学	南 七彩	内野手
摂南大学	香川 彩香	捕 手
大阪府立大学	浦口 真綾	内野手

大阪産業大学	北山 果奈	内・外野手
四天王寺大学	北田 美緒	投 手
京都女子大学	西村 理沙	遊撃手

盗塁賞：清水 美里 摂南大学 記録 7

【中国地区】

第49回全日本大学・第46回西日本大学ソフトボール選手権大会中国地区予選会

会期：平成26年 5 月17日(土)・18日(日)

会場：広島県東広島市／中核工業団地グラウンド (男子)

広島県竹原市／バンブージョイハイランドグラウンド (女子)

男子Aゾーン

岡 山 大 学	1	
広島国際学院大学	4	
環太平洋大学	17	
広島経済大学	7	
広島修道大学	13	
		26環太平洋大

全日本大学選手権大会第三代表決定戦
(A・Bゾーン決勝戦敗退チーム)

広島修道大学	5	
広島工業大学	6	
		広島工業大

男子Bゾーン

広島工業大学	27	
鳥 取 大 学	3	
広島 大 学	16	
近畿大学工学部	0	
岡山理科大学	3	
		17
		8
		広島大

西日本大学選手権大会第5代表決定戦
(A・Bゾーン準決勝戦敗退チーム)

岡 山 大 学	24	
広島経済大学	0	
鳥 取 大 学	9	
岡山理科大学	6	
		25
		3
		岡山大

全日本大学選手権大会出場権獲得大学：環太平洋大学(8年連続8回目)・広島大学(3年ぶり14回目)
・広島工業大学(4年ぶり7回目)

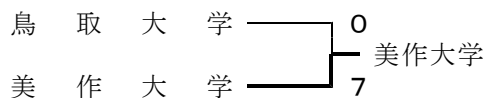
西日本大学選手権大会出場権獲得大学：環太平洋大学・広島大学・広島工業大学・広島修道大学・
岡山大学

女子

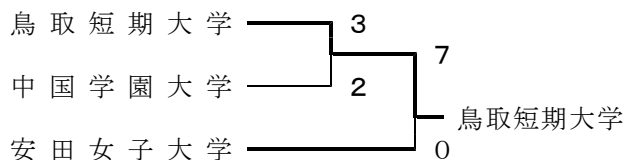
鳥 取 大 学	3	
安田女子大学	3	
広島 大 学	11	
		17
		広島大

鳥取短期大学	0	
IPU環太平洋大学	10	
中国学園大学	3	
美 作 大 学	4	
		9
		環太平洋大学

全日本大学選手権大会第3代表決定戦



西日本大学選手権大会第4代表決定戦



全日本大学選手権大会出場権獲得大学：広島大学(初)・環太平洋大学(8年連続8回目)・

美作大学(初)

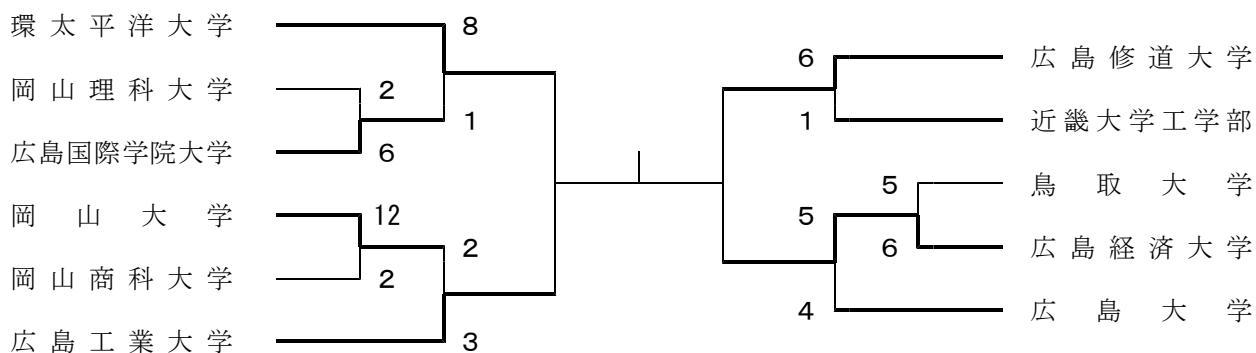
西日本大学選手権大会出場権獲得大学：広島大学・環太平洋大学・美作大学・鳥取短期大学

第14回 中国地区大学ソフトボール選手権大会

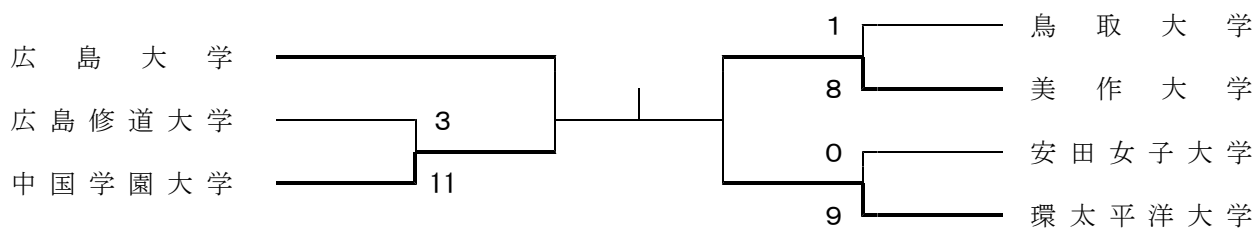
会期：平成26年11月 8 日・ 9 日

会場：広島市／広島修道大学ソフトボール場A B・野球場

【男子】



【女子】



※2日目は雨天のためグラウンドコンディションが悪く中止



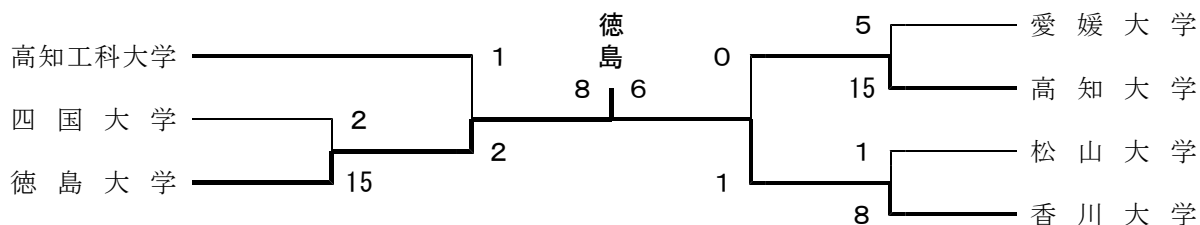
【四国地区】

第49回全日本大学(男・女)ソフトボール選手権大会四国予選会 一兼、第45回西日本大学ソフトボール選手権大会四国予選会一

会期：平成26年 5 月24日(土)・25日(日)

会場：香川県坂出市／総社グラウンド

【男子】



全日本大学選手権出場権獲得校：徳島大学（16年ぶり7回目）・香川大学（3年連続13回目）

西日本大学選手権出場権獲得校：徳島大学・香川大学・高知工科大学

【女子】

チ ャ ム	香 川	四 国	環太平洋短	勝	分	敗	得点	失点	差	順位
香 川 大 学		● 7－12	● 0－28	0	0	2	7	40	－33	3 位
四 国 大 学	○ 12－7		● 2－19	1	0	1	14	26	－12	2 位
環太平洋大学短大	○ 28－0	○ 19－2		2	0	0	47	2	45	優勝

全日本大学選手権出場権獲得校：環太平洋大学短期大学部（17年連続17回目）

西日本大学選手権出場権獲得校：環太平洋大学短期大学部

平成26年度四国地区大学（男子）ソフトボール春季・秋季大会

会期：4 月19・20日、10月11日

会場：坂出市総社グラウンド・丸亀市土器川公園グラウンド

チ ャ ム	高知工科	香 川	愛 媛	徳 島	松 山	高 知	四 国	最終順位
高知工科		○ 6－1	○ 9－2	○ 7－1	● 5－7	○ 8－3	○ 7－0	2 位
香 川	● 1－6		○ 10－1	○ 9－2	● 6－7	○ 11－2	○ 7－0	3 位
愛 媛	● 2－9	● 1－10		● 0－8	● 4－5	● 1－8	○ 15－13	6 位
徳 島	● 1－7	● 2－9	○ 8－0		● 4－6	○ 7－0	○ 7－0	4 位
松 山	○ 7－5	○ 7－6	○ 5－4	○ 6－4		○ 6－5	△ 7－7	優勝
高 知	● 3－8	● 2－11	○ 8－1	● 0－7	● 5－6		○ 14－8	5 位
四 国	● 0－7	● 0－7	● 13－15	● 0－7	△ 7－7	● 8－14		7 位

※今年度は春季（4 月）秋季（10 月）総当たりリーグ戦 ※春季の結果は明朝体、秋季の結果はゴシック体
※四国大学は秋季を棄権し、0－7の敗戦とした。

平成26年度四国地区大学（女子）ソフトボール秋季大会

会期：10月11日

会場：丸亀市土器川公園グランド

決勝戦 環太平洋大学短期大学部 15-0 香川大学

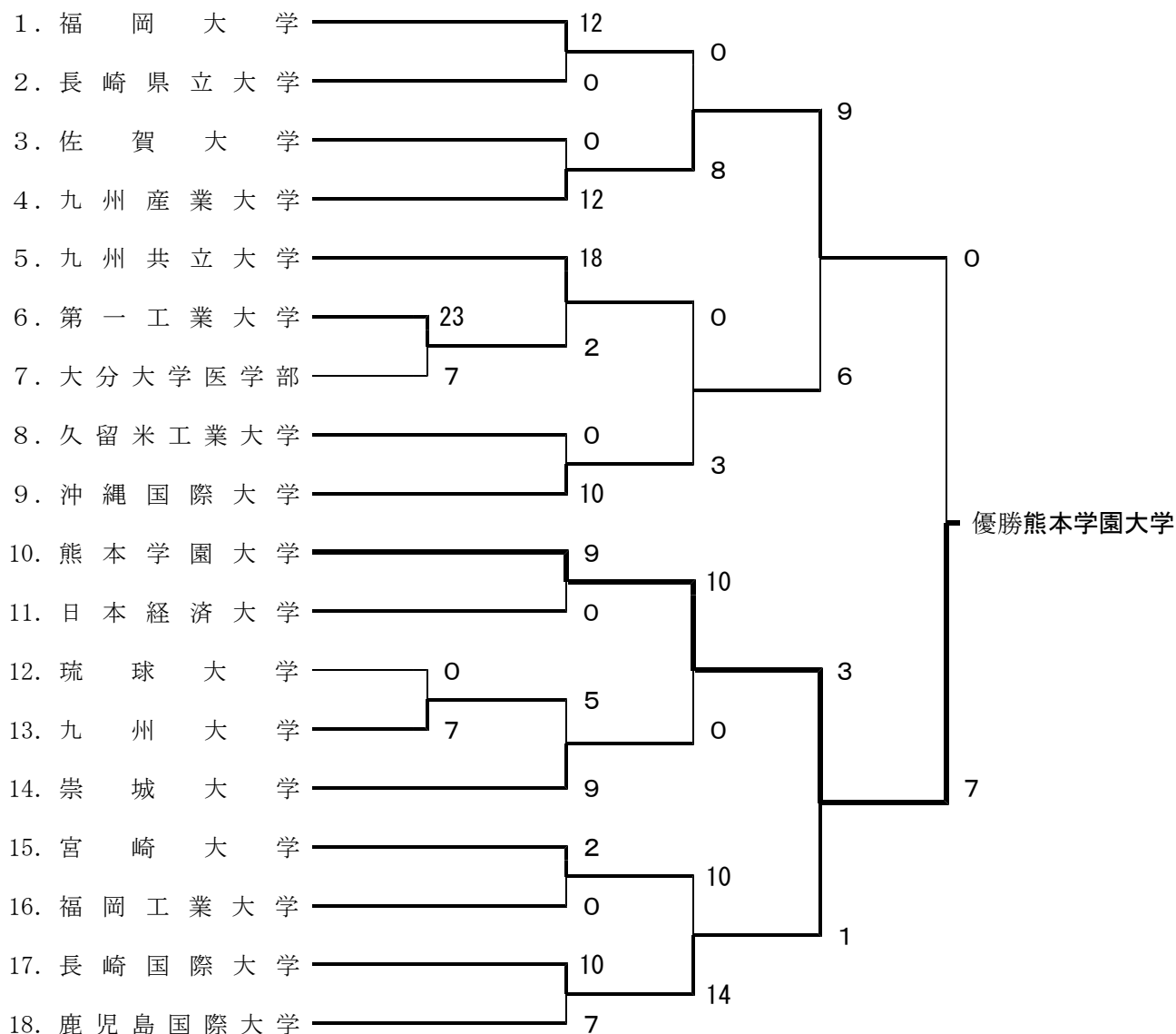
【九州地区】

第33回九州地区大学（男子・女子）ソフトボール春季大会
(兼、第49回全日本大学(男子・女子)ソフトボール選手権大会予選会)

会期：平成26年5月17日(土)～18日(日)

会場：鹿児島県南九州市知覧町／平和公園多目的球場 他

【男子】



※第49回全日本大学(男子)選手権大会出場権獲得校：熊本学園大学・九州産業大学・長崎国際大学・沖縄国際大学
※第46回西日本大学(男子)選手権大会出場権獲得校：熊本学園大学・九州産業大学・長崎国際大学・沖縄国際大学・
崇城大学・福岡大学・九州共立大学・鹿児島国際大学

【女子】

チーム	九州共立	熊本学園	日本文理	福岡	勝	分	敗	順位
九州共立		● 0 - 1	○ 8 - 1	○ 8 - 4	2	0	1	2位
熊本学園	○ 1 - 0		○ 4 - 3	● 0 - 2	2	0	1	優勝
日本文理	● 1 - 8	● 3 - 4		● 3 - 8	0	0	3	4位
福岡	● 4 - 8	○ 2 - 0	○ 8 - 3		2	0	1	3位

※順位は失点数による。

※全日本大学選手権の出場権獲得校：熊本学園大学

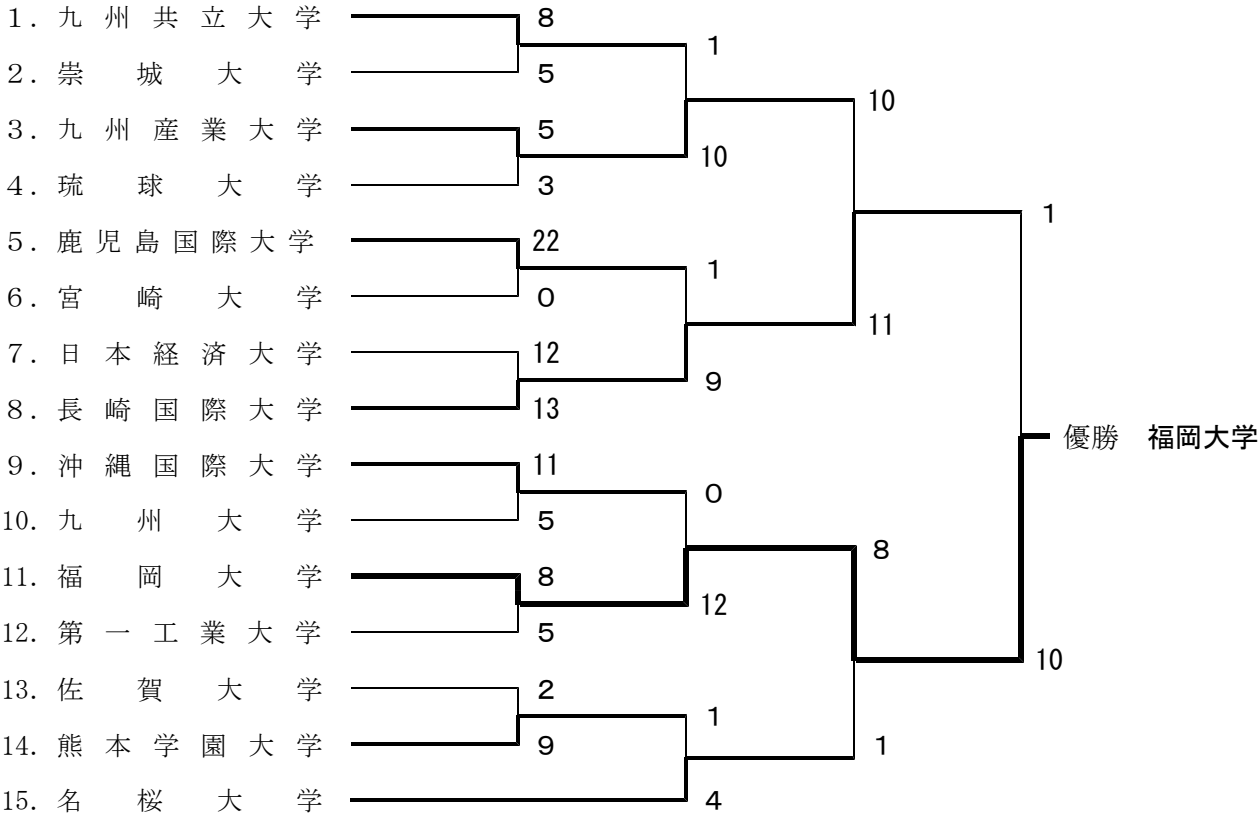
※西日本大学選手権の出場権獲得校：熊本学園大学・九州共立大学

第14回九州地区大学男子ソフトボール秋季大会

会期：平成26年11月8日(土)～9日(日)

会場：沖縄県南読谷村／平和の森球場、嘉手納町／兼久海浜公園ソフトボール場 他

【男子】



【女子】

1. 九州共立大学		4		
2. 崇城大学		3		4
3. 九州産業大学	0			
4. 琉球大学	13	1		優勝 九州共立大学
5. 鹿児島国際大学		3	3	

【調査研究部会】

－平成26年度－

大学連盟加盟チームによるソフトボール普及活動の実績報告《新規のみ》

事務局長・森 田 啓 之

大学連盟の所属するチームは、全国で様々なソフトボール普及活動や地域貢献を行っています。以下に掲載したものは、今年新規にスタートさせた事業で、地区または大学から大学連盟事務局に報告があったものです。

その1

- 1) 大学名：東京国際大学
- 2) 事業名：地域交流
- 3) 日 程：平成26年1月12日(日)
- 4) 会 場：東京国際大学
- 5) 対象者：小・中学生、大人
- 6) 人 数：100名
- 7) 内 容：2004年アテネオリンピック、2008年北京オリンピックの講話を交え、オリンピック競技への復活を願い、ソフトボールの楽しさを伝えようとした。

その2

- 1) 大学名：美作大学
- 2) 事業名：ソフトボール教室inみまさか
- 3) 日 程：平成26年11月23日(日)
- 4) 会 場：美作大学

- 5) 対象者：中学生・高校生

- 6) 人 数：400人

- 7) 内 容：講師にトップアスリートを招き、夢に挑戦する地域を中心とした中学・高校生の飛躍と健全なる心身の育成をねらいとした。また、地域おこしの一環でもある。講師から直接指導を受けたり、対戦をしたりした。大学ソフトボール部員は、準講師として参加した。

その3-1

- 1) 大学名：環太平洋大学
- 2) 事業名：平成26年度加西市教育委員会主催ソフトボール教室
- 3) 日 程：26年12月23日(火)13:00～17:00
- 4) 会 場：兵庫県加西市アラジンスタジアム(加西球場)

- 5) 対象者：小・中・高校生ソフトボール部員
 6) 人 数：男女100名
 7) 内 容：ソフトボールが上手くなるためのトレーニングおよび技術指導（守備・打撃）

その3-2

- 1) 大学名：環太平洋大学
 2) 事業名：平成26年度倉敷市中学生ソフトボール合同練習会
 3) 日 程：平成27年1月18日(日)9:00～16:00
 平成27年1月25日(日)9:00～16:00
 4) 会 場：倉敷市立福田南中学校グラウンド
 5) 対象者：倉敷市内の女子中学生ソフトボール部員

- 6) 人 数：100名
 7) 内 容：ソフトボールが上手くなるためのトレーニングおよび技術指導（守備・打撃）

その3-3

- 1) 大学名：環太平洋大学
 2) 事業名：平成26年度岡山県中体連ソフトボール部強化練習会
 3) 日 程：平成27年2月7日(土)10:00～16:30
 4) 会 場：玉野スポーツセンター
 5) 対象者：女子中学生
 6) 人 数：150名
 7) 内 容：ソフトボールが上手くなるためのトレーニングおよび技術指導（守備・打撃）

原稿並びに研究企画などの募集

来年度以降も、内容をいっそう充実・発展させていくために、どしどし原稿をお願いします。論説、提言から研究報告、あるいは情報の提供に至るまで、多様なものを期待しています。とともに、こんな研究内容や企画をしてほしい！というようなものがあれば、併せて連絡をくださいますようお願いいたします。特に学生の皆さんから。なお、毎年10月末日が原稿の〆切となりますが、随時受付しておりますので、下記までお問い合わせください。

森 田 啓 之

〒673-1494 兵庫県加東郡社町下久米942-1 兵庫教育大学

TEL & FAX：(0795)44-2227

E-mail: hmorita@hyogo-u.ac.jp

投 稿 規 程

平成11年7月30日交付

1. 投稿資格

原稿を投稿できる者は、全日本大学ソフトボール連盟に登録された者（理事、監督、コーチ、選手等）に限る。調査・研究委員会が特に必要と認めた者については、この限りではない。

2. 投稿内容

内容はソフトボールに関したものとし、巻頭言、提言、総説、論文（含、抄録）、実践研究、事例報告、卒・修論、その他などとする。原稿は、原則として一編につき本誌4ページ以内（巻

頭言、提言の場合は1ページ以内)とするが、調査・研究委員会が必要と認めた場合はこの限りではない。なお、未刊行のものが望ましいが、既刊のものであってもよい。

3. 投稿原稿の審査

原則として投稿されたものはすべて受理・採択する。

なお、書式等に問題がある場合は、調査・研究委員会名で修正を求める場合がある。

4. 原稿の提出

原稿は所定の執筆要項に準拠して作成し、総説、論文などの別を指定して、調査・研究委員会へ書留郵便で送付する。投稿の締め切りは特に設けないが、毎年11月30日で区切るものとする。

執 筆 要 項

原稿の執筆にあたっては、以下の事項を厳守されたい。

投稿原稿をそのままオフセット印刷するので、原稿を作成する場合は、A4版縦置き横書き、本文は全角22字×40行の2段組(上下余白20mm・左

右余白20mm・段間10mm)、文字サイズは10ポイント・和文フォントは明朝体を基本とする。ワープロソフトは、「Word」もしくは「一太郎」とし(「Excel」は認められない。)、CD-Rなどのメディアとともに提出すること。

【広報記録部会】

全日本大学ソフトボール連盟表彰

全日本大学ソフトボール連盟は、大和田寛元常任理事(仙台大学)と太田貴久男前評議員(佛教大学)に対し、永年にわたり連盟の役員として運営にご尽力を賜りましたので、「功労表彰」を平成26年3月9日の総合役員会において贈呈しました。ここの記してお知らせいたします。

齋藤元副会長の叙勲について

本連盟元副会長の齋藤滋雄先生が、学習院大学での研究や教育、さらにはソフトボール界への貢献などにより、この昨秋の叙勲で「瑞宝章中綬章」を受けられました。記してお慶び申し上げます。

第12回全国国公立大学〈男・女〉ソフトボールオープン大会出場チーム募集!!

第14回 大学ソフトボール東海オープン出場チーム募集

上記2大会の出場申込は、学連HP <http://www9.ocn.ne.jp/~softball/index.html> 上からのE-mailのみで受け付けています。「大会要項」を熟読してからお願いいたします。申込mailに対して数日以内にその受信連絡がない場合は、別のPCから再度送信してください。

全日本大学ソフトボール連盟公式HPのURLは2015年3月1日から次のように変更になります。

<http://www001.upp.so-net.ne.jp/ajc-softball/>

平成26・27年度
全日本大学ソフトボール連盟役員

職 名	氏 名	所 属	氏 名	所 属
会 長	一 谷 宣 宏	園田学園女子大学	—	
副 会 長	中 野 元	熊本学園大学	丸 山 悟	日本福祉大学
	小 嶋 高 良	八戸工業大学	—	
顧 問	坂 井 正 郎	国土舘大学名誉教授	角 田 真一郎	早稲田大学名誉教授
	水 野 信 義	WSM教育研究所	斎 藤 滋 雄	学習院大学名誉教授
	大 内 敬 哉	中京大学名誉教授	中 野 紀 明	国土舘大学名誉教授
	末 井 健 作	兵庫県立大学名誉教授	武 藤 政 幸	城西大学名誉教授
	吉 野 みねこ	東京女子体育大学名誉教授	—	
理 事 長	高 橋 伸 次	高崎経済大学	—	
副理事長	岩 間 英 明	松本大学	久保田 豊 司	大阪国際大学
常任理事	森 田 啓 之	兵庫教育大学（事務局長）hmorita@hyogo-u.ac.jp		
	大 塚 健 樹	盛岡大学	清 水 正	山梨学院大学
	筒 井 崇 護	日本体育大学	二 瓶 雄 樹	中京大学
	逢 坂 秀 樹	鳥取短期大学	宮 尾 直 海	愛媛女子短期大学
	濱 貴 一	熊本学園大学	—	
理 事	舟 山 健 一	東北福祉大学	高 橋 和 美	富士大学
	大 塚 隆	東海大学	長 澤 俊 恵	城西大学
	三 科 真 澄	東京国際大学	高 橋 光 平	城西国際大学
	森 田 一 雄	金沢学院大学	藤 原 徹	東京富士大学
	高 橋 流 星	日本体育大学	川 崎 千 明	岐阜経済大学
	大 矢 隆 二	常葉大学	水 谷 博	至学舘大学名誉教授

理 事	石 井 賀一郎	日本福祉大学	板 谷 昭 彦	園田学園女子大学
	平 野 義 明	関西大学	鈴 木 正 明	四天王寺大学
	吉 末 和 也	関西大学	山 本 孔 一	環太平洋大学
	富 田 国 興	(広島修道大学)	新 垣 實	沖縄国際大学
評 議 員	飯 島 隆	盛岡大学	天 野 勝 弘	関東学園大学
	柳 田 信 也	東京理科大学	會 澤 宣 一	富山大学
	佐 藤 理 恵	東京女子体育大学	谷 口 佳津宏	南山大学
	菅 野 貴 広	静岡大学	東 美 幸	東海学園大学
	和 田 正 志	中京学院大学	大 島 新 司	大阪工業大学
	但 尾 哲 哉	神戸親和女子大学	児 玉 公 正	大阪大谷大学
	河 内 満	広島修道大学	伊 勢 幸 広	高知工科大学
	山 中 卓	鹿児島国際大学	嶋 田 奈々恵	日本文理大学
	井 上 博 司	熊本学園大学	—	
監 事	細 田 きみ子	東京女子体育大学	秋 澤 俊 史	摂南大学
事 務 局	〒370-0801 高崎市上並榎町1300 高崎経済大学 高橋伸次			
	F A X : (0 2 7) 3 4 3 - 4 8 4 0		E-mail : takahas@tcue.ac.jp	
学 生 委 員 長	内 藤 一 貴	東京学芸大学	※学生委員は26年度のみ	
学 生 副 委 員 長	深 井 彩 代	日本大学	石 神 達 也	関西大学
学 生 委 員	小 島 正 旭	東京理科大学	柏 原 みなみ	山梨学院大学
	伊 藤 亜里佳	松本大学	森 口 隆 弘	東京大学
	小 林 雄 一	慶應義塾大学	山 内 亜 美	日本体育大学
	吉 川 大 智	名古屋商科大学	石 澤 翔	関西大学
	野 上 綾 香	園田学園女子大学	直 野 奈 々	園田学園女子大学

平成26年度 男子加盟大学一覧			全日本大学ソフトボール連盟
地 区	数	加 盟 大 学 名	
北海道・東北	9	仙台大学 東北大学 日本大学工学部 八戸工業大学 弘前大学 福島大学 北海道大学 宮城教育大学 盛岡大学	
関 東	19	茨城大学 関東学園大学 国際武道大学 埼玉大学 芝浦工業大学 城西大学 高崎経済大学 千葉大学 筑波大学 中央学院大学 都留文科大学 東海大学 東京国際大学 東京理科大学 獨協大学 日本大学生物資源科学部 日本大学生産工学部 文教大学 山梨学院大学	
北 信 越	5	金沢大学 信州大学 富山大学 福井大学 福井県立大学	
東 京	21	桜美林大学 学習院大学 慶應義塾大学 国際基督教大学 国士舘大学 専修大学 成蹊大学 中央大学 帝京大学 東京大学 東京学芸大学 東京農業大学 東洋大学 日本大学 日本体育大学 文教大学湘南 東京都市大学 明治大学 明星大学 立教大学 早稲田大学	
東 海	15	愛知大学 愛知学院大学 愛知教育大学 岐阜聖徳学園大学 静岡大学 中京大学 中京学院大学 中部大学 東海学園大学 常葉大学 名古屋大学 名古屋商科大学 南山大学 日本福祉大学 名城大学	
近 畿	29	大阪大学 大阪経済大学 大阪経済法科大学 大阪工業大学 大阪産業大学 大阪市立大学 大阪教育大学 大阪体育大学 大阪府立大学 関西大学 関西学院大学 京都大学 京都学園大学 京都産業大学 近畿大学 神戸大学 神戸学院大学甲南大学 四天王寺大学 摂南大学 同志社大学 奈良教育大学 兵庫教育大学 兵庫県立大学 佛教大学 立命館大学 龍谷大学 流通科学大学 和歌山大学	
中 国	11	岡山大学 岡山理科大学 川崎医科大学 環太平洋大学 近畿大学工学部 鳥取大学 広島大学 広島経済大学 広島工業大学 広島修道大学 広島国際学院大学	
四 国	7	愛媛大学 香川大学 高知大学 高知工科大学 四国大学 徳島大学 松山大学	
九 州	18	大分大学医学部 沖縄国際大学 鹿児島国際大学 九州大学 九州共立大学 九州産業大学 熊本学園大学 久留米工業大学 佐賀大学 崇城大学 第一工業大学 長崎県立大学 長崎国際大学 日本経済大学 福岡大学 福岡工業大学 宮崎大学 琉球大学	

平成26年度 女子加盟大学一覧			全日本大学ソフトボール連盟
地 区	数	加 盟 大 学 名	
北海道・東北	8	仙台大学 東北福祉大学 弘前大学 富士大学 北翔大学 宮城教育大学 宮城学院女子大学 盛岡大学	
関 東	18	茨城大学 関東学園大学 国際武道大学 埼玉大学 相模女子大学 淑徳大学 順天堂大学 城西大学 城西国際大学 清和大学 千葉大学 筑波大学 東海大学 東京国際大学 日本大学生物資源科学部 新島学園短期大学 文教大学 山梨学院大学	
北 信 越	5	金沢大学 金沢学院大学 信州大学 富山大学 松本大学	
東 京	18	桜美林大学 学習院大学 慶應義塾大学 国士舘大学 実践女子大学 専修大学 成蹊大学 中央大学 東京学芸大学 東京女子体育大学 東京富士大学 東洋大学 日本大学 日本女子体育大学 日本体育大学 文教大学湘南 明治大学 早稲田大学	
東 海	13	愛知教育大学 至学館大学 岐阜経済大学 岐阜聖徳学園大学 静岡大学 鈴鹿国際大学 中京大学 中京学院大学 東海学院大学 東海学園大学 常葉大学 名古屋大学 日本福祉大学	
近 畿	22	大阪青山大学 大阪大谷大学 大阪国際大学 大阪産業大学 大阪体育大学 大阪府立大学 関西大学 京都女子大学 神戸親和女子大学 四天王寺大学 摂南大学 園田学園女子大学 太成学院大学 天理大学 同志社大学 奈良文化女子短期大学 兵庫教育大学 びわこ成蹊スポーツ大学 佛教大学 武庫川女子大学 立命館大学 龍谷大学	
中 国	10	岡山大学 川崎医療福祉大学 環太平洋大学 中国学園大学 鳥取大学 鳥取短期大学 広島大学 広島修道大学 美作大学 安田女子大学	
四 国	3	環太平洋大学短期大学 香川大学 四国大学	
九 州	4	九州共立大学 熊本学園大学 日本文理大学 福岡大学	
男 子	134大学		
女 子	101大学		
合 計	235大学	平成26年12月1日現在	

編集後記

この1年間のソフトボール界を振り返って最も大きな出来事は、ソフトボールのオリンピック種目への復帰の可能性が出てきたということではないでしょうか。正式には、本年7月にクアラルンプールで開催される国際オリンピック委員会総会で決定されます。しかし、2020年は東京開催だからと大丈夫と安心はできません。現に、国際的な通信社の調査では、追加すべき種目のトップは調査対象者の半数以上の支持を得てスカッシュになっています。野球・ソフトボールは2位に甘んじているのです。そして、もっと重要なことは、仮に東京で復活してもその次のオリンピックでの実施は保証されていないということです。一度きりの復活では意味がありません。その後も継続的に実施されてこそグローバルスポーツとしての評価が得られたことになります。そのためには当面、7月に向けての活動に全力を注ぐべきですが、その後も見据えて地道な活動を強力に推進していく必要があります。ソフトボールをする楽しさ・ソフトボールを観るおもしろさ・ソフトボールを支えるやりがいを伝え発信して世界中で共有してもらわなければなりません。本誌がその一助にでもなればこんな慶ばしいことはありません。読者の皆様におかれましてもプライドと自信を持ってできる範囲でのそのようなご尽力をお願い申し上げます。

最後になりましたが、本誌に原稿や情報をお寄せいただいた方々に御礼と感謝を申し上げますとともに、本年から以下のように全日本学連の広報記録担当者が交代したことをお伝えし、編集後記といたします。

広報記録部会：水谷 博（部長）・大塚健樹（盛岡大学）・柳田信也（東京理科大学）

表紙デザイン：川北卓史（画家、長野県安曇野市）

全日本大学ソフトボール連盟機関誌 **ウインドミル** 第18号

2015年1月15日発行

発 行 者 全日本大学ソフトボール連盟会長 一谷 宣宏

編集責任者 広報記録部長 水谷 博

E-mail mztn@xd6.so-net.ne.jp

発 行 所 全日本大学ソフトボール連盟

〒370-0801 高崎市上並榎町1300 高崎経済大学

F A X (0 2 7) 3 4 3 - 4 8 4 0

U R L <http://www001.upp.so-net.ne.jp/ajc-softball/>

E-mail takahas@tcue.ac.jp

印 刷 西濃印刷(株)

〒500-8074 岐阜市七軒町15番地

T E L (0 5 8) 2 6 3 - 4 1 0 1

I S S N 1 3 4 3 - 4 3 9 X



明日は、きっと、できる。

新しい一撃は、 ワイドに効く。

ボール2個分のスイートエリアで、
弾くチカラがもっとワイドに。

壁面の多層化・薄肉化が生み出す高反発力。あのバットテクノロジーが
スイートエリアの拡大で、さらなる飛びの性能を身につけた。ソフトボールの
すべての飛びは、もはや過去のものになる。ニューAX4、誕生。

〈ミズノプロ〉AX4(エーエックスフォー)

[3号/革・ゴムボール用] ¥39,900(本体¥38,000) ●カーボン+グラス ●φ57mm ●中国製



2TP-52640 (84cm・平均740g) ●トップバランス ●ネイビー×ブラック



2TP-52740 (84cm・平均690g) ●トップバランス ●ブルー×ピンク



2TP-52650 (85cm・平均750g) ●ミドルバランス ●レッド×ブラック



2TP-52740 (84cm・平均700g) ●ミドルバランス ●レッド×オレンジ



2TP-52660 (86cm・平均760g) ●ミドルバランス ●ブラック×シルバー

ミズノは、全日本女子ソフトボールチームのオフィシャルサプライヤーです。

mizuno.jp ☎0120-320-799

GOLDSTAGE

限りない高みを目指す者たちへ。

最高のフィールドで、
最高のパフォーマンスを求める者たちが必要とするもの、
それは、心から信頼できるギア。

ASICS は最も厳しい戦いの場を多くのアスリートたちと、
共にくぐり抜けることによって、
信頼にこたえる確かな技術力を培ってきた。

その高い技術力を結集して生み出されたのが、
最上級モデル「GOLDSTAGE」。

最も厳しいステージは、
最も輝かしいステージへと続いている。
さあ、共に勝利の瞬間へ。

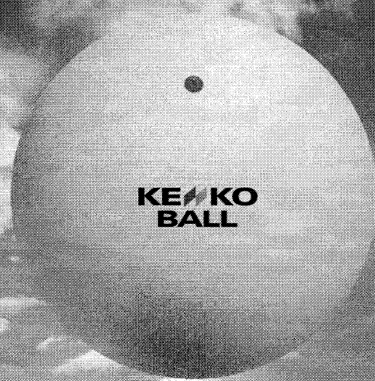

asics BASEBALL



感動！ サプライヤー ケンコーボール



(公財)全日本軟式野球連盟公認球
ケンコーボール



(公財)日本ソフトテニス連盟公認球
ケンコーソフトテニスボール



(公財)日本ソフトボール協会検定球
ケンコーソフトボール

一九三四年創業以来七〇年以上にわたり 一心にボールを作り続けてまいりました
これからもスポーツライフに相応しい自信作をお届けしていきます

「ボールのロゴマークカラーはイメージ
実際の商品とは異なります」

KENKO BALL

ケンコーボール

ナガセケンコー株式会社 www.nagase-kenko.com

[東京本社] TEL(03)3614-3501(代) [大阪営業所] TEL(06)6531-0783(代) [九州営業所] TEL(092)471-5381(代) [名古屋営業所] TEL(052)734-8886

想いを込める一球がある。



NAIGAI SOFTBALL

(財)日本ソフトボール協会検定球 検定1号・2号・3号・皮製3号・14インチ



NAIGAI BASEBALL

(財)全日本軟式野球連盟公認球 A号・B号・C号・D号・H号

内外ゴム株式会社

2013・2014全日本大学ソフトボール(インカレ)決勝DVD・FAX専用注文用紙
特別価格注文書 FAX番号042-507-1450 ※予備FAX042-571-5278

ご注文に当たっての注意事項

- ① 特別価格の適用は、本用紙でお申し込みされた方20名様限定です。(本用紙にご記入の上FAXで送信して下さい)
- ② お支払方法は、「代金引換」のみです。価格は送料込みですが代引き手数料一律320円がかかります。
- ③ 商品は受注生産のため、ご注文より2週間ほどで発送致します。
- ④ 配達日の指定はできませんのでご了承くださいませ。
- ⑤ クレジットカード決済をご希望の方は、ジェイネットTV公式サイトからお申込み下さい。(※定価での販売となります)

2013・2014インカレ決勝戦DVD限定特別価格ご注文内容

商品名	通常価格(税込)	特別価格(税込)	ご注文数	合計金額
① 2014男子決勝 環太平洋大学vs早稲田大学(104分)	—5,000円—	4,500円		円
② 2014女子決勝 日本体育大学vs東京国際大学(124分)	—5,000円—	4,500円		円
③ 2013男子決勝 早稲田大学vs同志社大学	—5,000円—	4,500円		円
④ 2013女子決勝 園田学園女子大学vs中京大学	—5,000円—	4,500円		円
代引き手数料(一律)				320 円

……太枠内を記入後、本用紙をそのままFAXして下さい

合計金額 円

メールアドレス(※必須)	@
お名前(※必須)	
ご住所(※必須)	〒
電話番号(必須)	

※ご注文者とお届け先が異なる場合、以下にご記入ください。

フリガナ	
お届け先お名前	
お届け先ご住所	〒
お届け先電話番号	

時間指定	指定なし	午前中	12時～14時	14時～16時	16時～18時	18時～20時	20時～21時
------	------	-----	---------	---------	---------	---------	---------

DVD販売に関するお問い合わせ

ジェイネットTVオンラインショップ(株式会社ジェイネットTV内)
〒186-0003 東京都国立市富士見台2-8-7-402
電話042-573-7842 FAX042-507-1450(※予備FAX 042-571-5278)
販売責任者: 藤田孝一

ジェイネットTVはこちら



備考欄 ※ご質問・ご要望がありましたらご記入ください。



ウインドミル NO. 18 (2014)

ISSN 1343-439X